

THE DOCUMENT OF 機動戦士ガンダム
鉄血のオルフェンズ 弐

MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS



THE DOCUMENT OF 機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 式

MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS



機動戦士鉄血のオルフェンズ
ガンダム

Interview

監督 長井龍雪 / シリーズ構成 岡田麿里

三日月・オーガ役 河西健吾 × オルガン役 細谷佳正 対談

マクギリス・ラッパ役 櫻井孝宏 × コーリン・ロード役 松風雅也 対談

Comment

キャスト25名＋スタッフ8名のコメント収録!

公式ガイドブック第2弾

「子供のころに自分が『カッコいい』と思ったガンダム像は、バルバトスにすべて焼きつけています」(長井龍雪)

THE DOCUMENT OF
機動戦士ガンダム
MOBILE SUIT GUNDAM
鉄血のオルフェンズ 弐
IRON-BLOODED ORPHANS 2



THE DOCUMENT OF

機動戦士
ガンダム

鉄血の

オルフェンズ 弐

THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

WORLD of ORPHANS



WORLD of ORPHANS 003

INTERVIEW

プロデューサー 小川正和 006

CHARACTERS 010

STORY GUIDE of second season 032

CROSS TALK

三日月・オーガス役 オルガ・イツカ役
河 西 健 吾 × 細 谷 佳 正 086

CAST COMMENT 092

CROSS TALK

ガエリオ・ボードウィン役 マクギリス・ファリド役
松 風 雅 也 × 櫻 井 孝 宏 106

MECHANICS 112

STAFF COMMENT 120

INTERVIEW

監督 長井龍雪 127

シリーズ構成 岡田麿里 132

エドモントンの戦い以後

鉄華団と世界の今

エドモントンの戦い後、アープラウ代表指名選挙にまつわる戦いで活躍した鉄華団は、入団希望者が後を絶たない、同業者もうらやむ急成長企業となっていた。アープラウ領内には地球支部を設立し、その軍事顧問にも就任。疎外される火星出身者の企業としては異例のことである。その背景にあるのは言うまでもなくアープラウ代表に返り咲いた蒔苗・東護ノ介とのパイプであり、さらに巨大企業ティワズの後ろ盾と、アドモス商会を立ち上げたクーデリア・藍那・パースタインとの経済的なつながりもあった。

大人たちに虐げられない家族の居場所をつくる——その一心でオルガ・イツカは鉄華団を拡大し、ここまで駆け上がってきた。三日月・オーガスも将来の夢である農場経営に向けて、戦いのない日は桜農園で農業を学び過



ティワズ直系の団体に

オルガはハーフメタル利権を手みやげに、マクマード・バリストンと親子の盃をかわす。これにより鉄華団はタービンスと肩を並べるティワズ直系の団体になった。木星航路最大の影響力をもち、独自のMSも運用する巨大企業ティワズの威光は大きく、鉄華団の前には開けた道しかないように思えた



鉄華団地球支部

アープラウの軍事顧問となった鉄華団がその領内に立ち上げた地球支部。チャド・チャダーン、タカキ・ウノ、アストン・アルトランドらが所属。アープラウの防衛任務を請け負っている。また、MSの配備を始めたアープラウ正規軍に操縦、整備の技術指導も行なっている



ハーフメタル採掘場

アープラウが管理していたハーフメタル採掘場はクーデリアに譲渡され、その後、マクマードとかわしていた「身に降りかかるいっさいの危険から守ってもらうことを条件」にの約款どおり、ティワズに事業を委託。クーデリアはアドモス商会社長として、その事業に参画している



アドモス商会

火星に帰還したクーデリアがみずから社長となり、立ち上げた会社。ティワズと協力し、アープラウ植民地域のハーフメタルの採掘、一次加工、輸送業務を行なう。火星に限らず、全植民地の経済的独立を掲げ、困窮にあえぐ人々に多くの仕事を生み出している



新団員

鉄華団は事業規模の拡大に伴い、人員も増加していた。団長オルガはこのとき、以前の自分たちと同じ境遇である行き場のない少年たち——スラム出身者やヒューマンデブリの少年たちを積極的に入団(入社)させ、新しい家族として迎え入れていった



ごしていた。

クリュセ・ガード・セキュリティ(以下CGS)
時代からは考えられない日々。

しかし、その存在を忌々しく思っている者たちもいた。世界の治安を預かるギャラルホルンもそのひとつである。エドモントンの戦いは、政治不介入としていた経済圏との癒着、阿頼耶識システムの研究という、ギャラルホルンの一大スキャンダルを露呈させた出来事でもあった。これを機に、ギャラルホルンの社会的信用は著しく低下。さまざまな紆余曲折、マクギリスの暗躍もあったものの、呼び水となったのは間違いなく鉄華団である。

鉄華団は企業としては民間警備会社だが、ガンダム・フレイム機を2機も擁し、そのほかにもMWを多数保持する陣容は、立派な武力組織と言えた。エドモントンではその鉄華団がギャラルホルンを退けたことで、世界には鉄華団のようにMSさえもてば、ギャラルホルンを恐れる必要はないという風潮が生まれ、宇宙海賊は行動を活発化。各地のコロニーではクーデターが続発するほどに、世界の治安は悪化の一途をたどっていた――。

力なき少年たちへの 搾取はいまだ続く――



圏外圏の治安悪化

ギャラルホルンに押さえつけられ、地球の経済圏に搾取されるままだったコロニーの労働者たちは、闇市場などからMSを手に入れ、クーデターを実行。成功するものではなかったが、たび重なる暴動や活動家に扇動されての市民運動は、確実に世界の治安悪化を招いていた



ギャラルホルンの威信失墜

蒔苗がアーブラウ代表になったことで、アーブラウとギャラルホルンのイズナリオ・ファリドとの癒着が公になり、さらに、阿頼耶識システムを研究していたことが露見。腐敗した内実が暴かれたことで、ギャラルホルンの社会的信用は失われ、各地の治安は悪化の一途をたどった



あふれるヒューマンデブリ

鉄華団の活躍は皮肉にもMSの重要性和阿頼耶識の有用性を再認識させる結果となった。各地で厄祭戦時の機体が復元、改修され、闇手術で阿頼耶識を施術された少年兵が戦場に大量投入されていく。ヒューマンデブリや誘拐された子供たちがあふれていった



団員たちの墓碑

桜農園を見渡せる丘には、過去の地球への道程やエドモントンの戦いで戦死した団員たちの名が刻まれた墓碑が立てられている。そこにはビスケット・グリフォンの名もあった。散っていった家族を忘れることなく、団員たちは誰ともなく手向けの花を供えている

小川 正 和

当初は鉄華団全滅も
エピソードも少なめに

——全50話の放送が終了しました。今のお気持ちはどのようなものでしょうか？

小川 きついお話をお見せしてしまったな、と（苦笑）。でも、誰がよくて誰が悪いという世界ではない。それが「ガンダム」であり、今回は物語の軸が鉄華団だったためこういう結末になりました。われわれとしては企画を始めたころから想定していた最後のので、そこに対してはプレることなく、やり遂げられたと思っています。

——鉄華団の勝ちはないというのは、途中から覚悟していたとおりでですが、突きつけられた最後は予想以上に重いものでした。

小川 それでもオルガが死んだ後の鉄華団は、本当はもっとひどい状態に追い込まれる可能性もありました。当初のプロットでは鉄華団は全員、場合によってはクーデリアでさえ亡くなってしまうところでしたが、残り5話というあたりでいったん協議を挟み、だいたい調整を入れることになりました。視聴者が見ていてつらい気持ちになったように、つくっている側も愛着があるキャラクターたちが亡くなっていくのは、決して楽

な気分ではなかったんです。

——それがラストの形につながるわけですね。長井（龍雪）監督、岡田麿里（シリーズ構成）さんの間では意見は合っていたのでしょうか？

小川 いえ、最終話については少々意見が異なり、だいたいすり合わせを行ないました。監督はバルバトスの首がはねられたところで幕引きし、エピソードも少なめにと。鉄華団は自分たち以外に対してはそれなりにひどいこともやってきた組織なんだから、それを清算する意味でも報いを受けて終わり、という描写での締めを意識していました。でも、鉄華団に感情移入するようにつくってきたなかで、そこに何の救いもないまま終わらせたくないというのが岡田さんの意見だったんです。生き残った者たちのことをていねいにすくい上げ、三日月やオルガ、鉄華団の少年たちが生き抜いたあかしを少しでも残してあげたいと。最終的に監督が岡田さんの気持ちをくみ取って、第50話のBパートができたわけです。

——ハッピーエンドではないが、世界にくさびは残したと感ずる描写でした。

小川 これでもきつかったという方はいると思いますが、だいたいソフトなランディングになったと思います。「ガンダム」は題材的にどうしても人の生死を扱うことになるので、どこ

までなら許容範囲なのかという判断は難しいところですね。今回、エピソードで救われているとはいえず、最後の戦闘は見え方としては完全な負け戦です。最後のスカッとしたカタルシスがないと言われるのは覚悟していました。

——視聴者からのそういう反応が多かったわけですか？

小川 何だかんだと勝利感があつたこれまでの「ガンダム」と違いますからね。われわれは「オルフェンズ」はそれでいいと思っていたんですが、「きつい」「苦しい」という声が想像以上に多かったのは確かです。

——第1期が上がって終わりだっただけに、見ているファンが抱いた第2期の不安感、反動は大きかったと思います。

小川 でも逆に、テレビを見ながら鉄華団たちといっしょに悲しみ、悔しがつたりしてもらえたということ、は、演出的には成功だったと思います。それよりも、もしみんながみんな、ハッピーエンドを求める気持ちだったんだとしたら、これからの「ガンダム」を考えなければいけないなと思いました。アニメーションのフィクション性に求めるものが楽しいものばかりだとしたら、むしろ今の世の中、どれだけつらいのかと思ってしまうですね。

——つらいものを見たくない現実、みたいな。

小川 長井監督と岡田麿里さんというネーミングにひかれて初めて「ガンダム」に来た方、特に女性ファンにとっては初めて見る世界だったかもしれない。逆に、だからこそお2人にやっていただいた意味があると思っています。ほかの「ガンダム」では描かないようなキャラクター同士の描写をストリートにほうり込んでくれましたから。

——小川さんから見た長井監督はどういうクリエイターですか？

小川 長井監督と岡田さんはともに心をえぐる描写が非常にうまいと感じます。それは人の生死を描く「ガンダム」にマッチする部分だし、「オルフェンズ」では十二分に発揮していただけだと思います。そのえぐりと生々しさが余計に痛みを生んだとも言えるわけですが。

——鉄華団の扱い以外で苦勞した点はありませんか？

小川 三日月が戦うラスボスはどうするかでしたね。ポジションで言えばラスタルが大ボスですが、三日月にラスタルは見えていないし、ラスタルと三日月で最後MS戦というのもおかしい感じがします。三日月は敵を、ただオルガや鉄華団にとって邪魔なものとしか認識していませんから。

ただ、監督には当初から最後は多数の一般兵たちに物量でやられるというビジョンがありましたから、形的にはそこに収まったとも言えます。その代わりではないんですが、マクギリスの前にはわかりやすい形でガエリオという存在がいてくれました。マクギリスはバエルに手を出してから空回っていると言われましたが、それもしかたがないことなんです。ガエリオが生きてラスタルのもとにいると察した時点で時間の猶予がなく、彼にはバエルの威光を利用する以外にすべはなかったんですよ。もしガエリオがいなかったらラスタルの勢力を第1期に見せた策謀や手腕でジワジワと削れたのかもしれませんが、あの時点ですでに對抗できるものがギャラルホルンの象徴しかなかったんです。

——ラスタルはマクギリスがバエルに向かったことを、手を誤ったと評しましたが。

小川 ラスタルにしてみればそうでしょうが、マクギリスの根本は、アグニカ・カイエルにあこがれ、悲惨な境遇から抜け出したいと願った少年なんです。はつきり言ってしまうと第1期でガエリオを殺しきれなかった時点でこうなるのは必然だったのかもしれない。タイトルどおりマ





事件が起きたMA戦と 最終話の絵コンテアップ

クギリスと三日月たちは孤児（オルフェンズ）という出自ですが、三日月たちには鉄華団という「家族」があり、マクギリスはどこまでいってもひとりだったことが、よりバエルという存在に走らせたともいえるでしょう。

——ラストシーンはもちろんだと思えますが、第2期のなかで小川さんの印象に残っているシーンはどこになりますか？

小川 いちばんはラフタが暗殺されたシーンですね。「ガンダム」を担当してもうずいぶん長くなりますが、MSパイロットが戦場でもない場所で普通に射殺されるというのは今まで見たことがなく、衝撃でした。シナリオからコンテ、アフレコと、シーンが明確になっていくにつれつらさが増し、映像を見た後にくる重い気持ちは想像以上のものでした。その次が、スーパードギャラクシーキャノン」のシーンですね。キャスト（村田太志）の芝居に引き込まれたこともあり、シノの最期はとても記憶に残っています。シノが最後特攻したことについてはいろいろな意見がありましたが、あの場面、彼の性格、悔しさを考えたらわかる行動だったと思います。

——メカシーンではどうでしょうか？

小川 鈍器の迫力を見せてくれたバルバトスの活躍シーン全般になりましたが、特に第38話のMA戦は印象深いです。視聴者からの反響が大きかったというのはもちろんですが、スタジオも大変な苦勞をしてつくったシーンです。MA戦の絵コンテは

岡徹（おきと）さんをお願いしましたが、カット数とり谷が想定より……というものが上がってきまして、現場が瞬間（きせき）然とした雰囲気になったのをよく覚えています。そのときは何とかやり遂げましたが、最終話で同様の事件が起きたんです。最終話は寺岡さん、小林寛（ひろ）さん、坂井監督の3人で絵コンテを描いてもらったんですが、内容もさることながら時間にして約400秒あまりも定尺をオーバーするものだったんです。アバンやオープニングをカットしてギリギリです。そのぶん、それだけのものをお見せできたと思うし、作画の皆さんには本当に最後まで頑張っていたいただきました。あの線の多さは本来週1のテレビスケジュールでやるには厳しいもので、スタッフにはただただ感謝しかありません。

——「オルフェンズ」は殴り合いの打撃戦がメインなので、戦闘シーンの作画は余計に大変だったと思います。

小川 そうですね。しかも「オルフェンズ」のモビルスーツは爆発して終わりではないので、ボコボコになっていく描写も描かなければいけないんですよ。改めてビーム兵器は偉人だなんて思いました（笑）。

——キャラクターではどうでしょう。小川さんが特に感情移入してしまっただというキャラはいましたか？

小川 ザックですね。彼は山親がいて、学校でしっかりした教育を受けてきた、言ってみれば普通の感覚をもった一般人です。鉄華団に対して、お前ら、もう少し考えてくれよーと思うことができる視聴者と同じ目線をもったキャラクターなので、後半、彼に感情移入して見ていた方も多いのではないのでしょうか。あきれつつ、でも鉄華団が嫌いかと聞かれればそうではない。気のいいヤツで、鉄華団の仲間が好きだからこそ、ああいう感情をストリートにぶつけていたんですよね。そういう意味ではハッシュ、デインといった3人の新団員のなかではいちばんキャラが立ったかなと思います。

——普通の感覚をもった人間というところ、クーデリアですが、第2期は鉄華団との絡みは少なかった印象です。

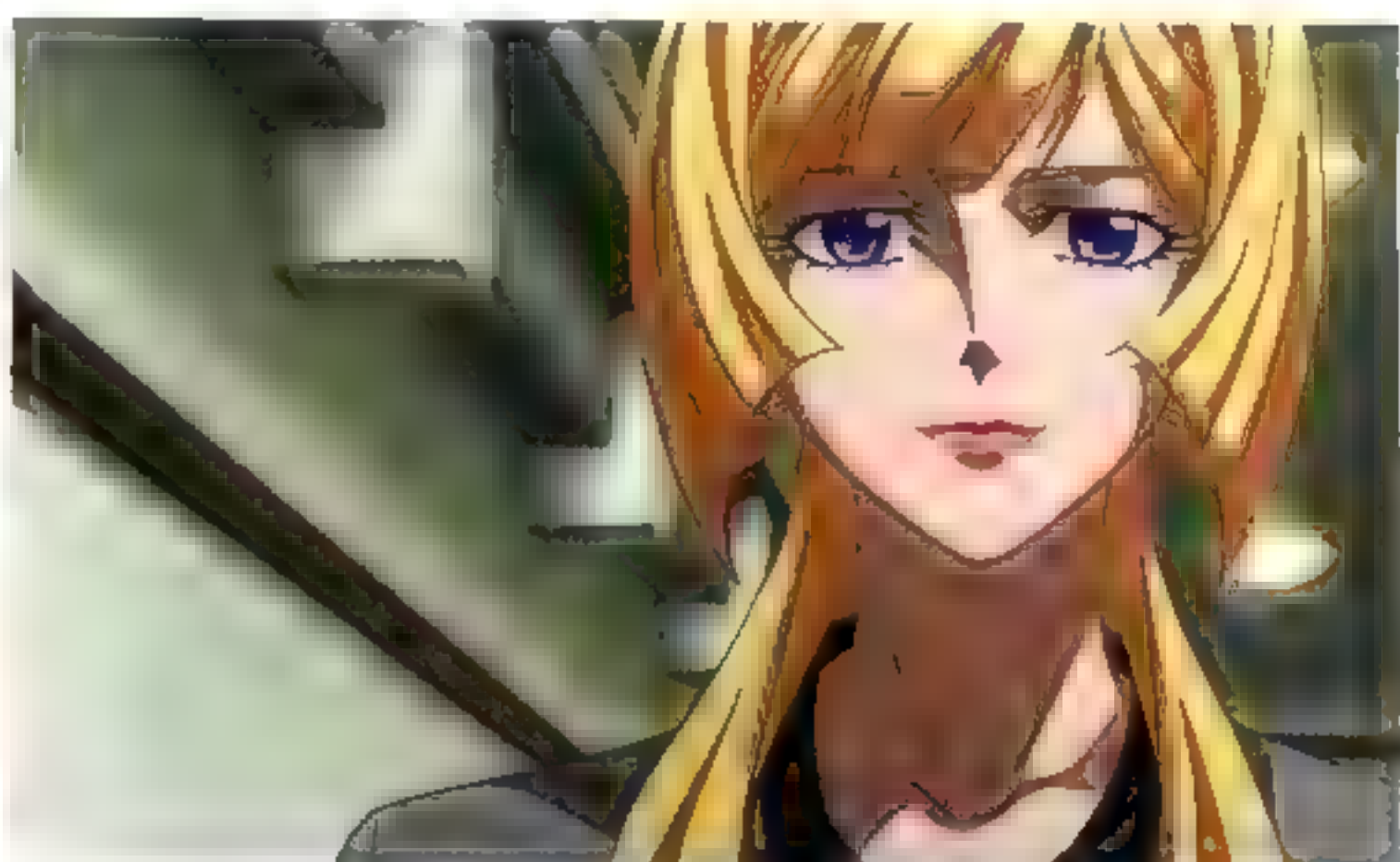
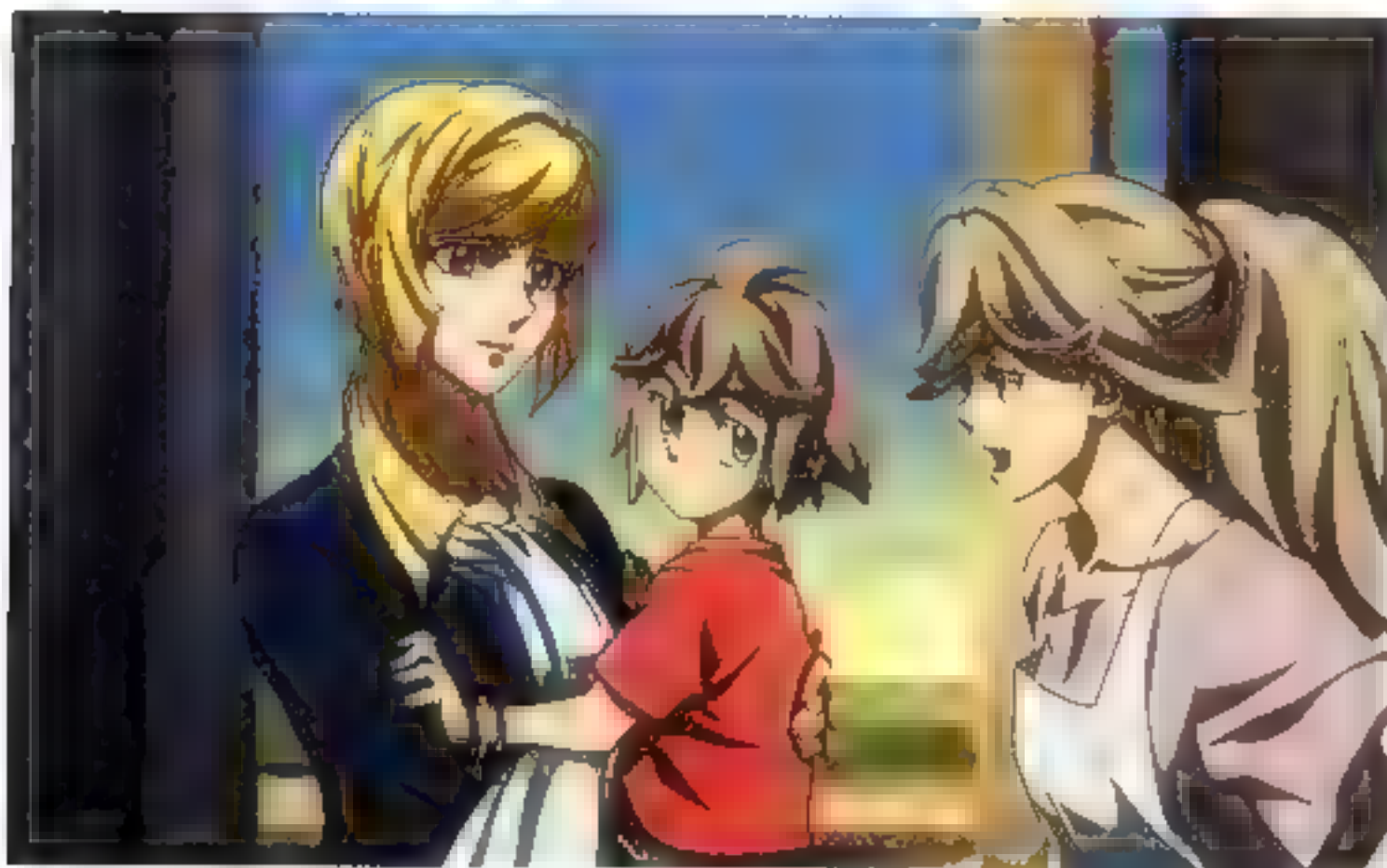
小川 それはしかたがなかったんです。クーデリアが鉄華団と同じ道を歩んだら、彼女自身の成長がないってことになってしまうので、第1期を通じ彼女は彼女なりの進む道を見つけていましたし、それは鉄華団についていくことではないんです。鉄華団が突き進んだ道にかかわらなかつたからこそ、クーデリアは政治的な立場を保ち、のちの火星の独立に寄与できたんです。そこは監督も意図的に距離を置かせるようにしていたと思います。

——三日月とオルガをはじめ鉄華団の団員が多数散っていましたが、彼らが生きたあかしをクーデリアたちが受け止めて未来につなげていくと思えるエンディングでした。

小川 そうなっただけとはいえないですね。テレビアニメはここであつたん幕引きとなりますが、鉄血のオルフェンズ”としては今後何かできないといいと思います。本編では厳しい物語をお見せしてしまったので、そのときはファンの皆さんが楽しめるものを中心にお届けしたいですね。こういう形になるかはわかりませんが、描ける余地はたっぷりある作品なので、気長にお待ちいただけるとうれしいです。ありがとうございます。

※1 寺岡巖……「ガンダム」だけでなくメカやアクションものの原画や絵コンテを数多く手がけている

※2 小林寛……「幼女戦記」「キズナイーバー」「キルラキル」など多くの作品で監督、絵コンテを手がける



THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

CHARACTERS







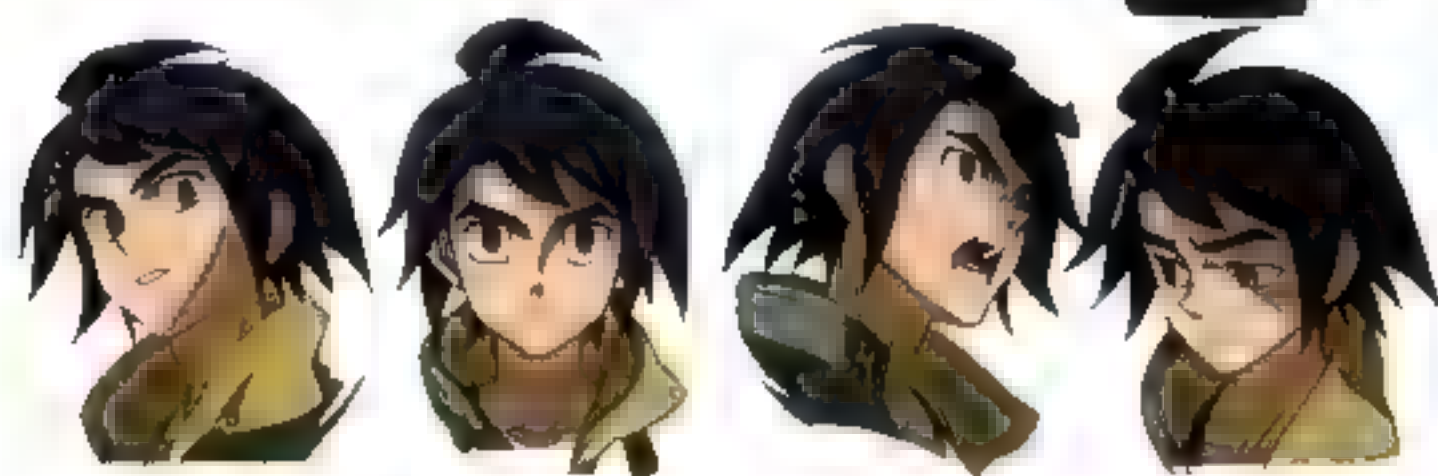
鉄華団

火星に咲いた決して枯れない鉄の華は、地球への旅を経て、その名を世に知らしめた。新たな戦いへと挑む鉄華団を待ち受けたのは、過酷すぎる命運だった。

三日月・オーガス

MIKAZUKI AUGUS

オルガのそばで常に戦いつづけている三日月。エドモントンでのグレイズ・アインとの戦いの際、阿頼耶識システムの過剰フィードバックを受け、右目の視力を失い、右腕が動かなくなるほどのダメージを負ってしまったが、その強さに陰りはいつさいない。エドモントン戦後、鉄華団の遊撃隊長としてバルバトスで前線に立ち、容赦なく敵のコックピットをつぶす戦いぶりから、世には“鉄華団の悪魔”として知れ渡っている。しかし、マイペースぶりは相変わらず。MAとの戦いで右半身の機能を失い、阿頼耶識の接続がなければ自力で動くことすらできない体になってしまったが、本人はこれで戦うことしかできない自分の役割が明確になったと割り切っていた。そんな三日月だが、家族への気持ちは変わらず強い。鉄華団を抜けることを決めたタカキには、三日月なりに彼を後押しすることばをかけていた。オルガが示すことばを信じ、家族のためだけに戦う姿は最後まで変わることはなく、クリュセに脱出するユージンたちを背に、昭弘とともに最後まで戦い抜いた。



鉄華団遊撃隊長

古参メンバーにはそれぞれ役職が与えられ、三日月は遊撃隊長に就いている。本人の判断で自在に戦場を駆け、敵を蹂躪していく。三日月の戦い方は格闘戦に偏るため、必然的に単機で最前線に飛び込むことが多い。



家族を守る強い意志

表情の変化が少ない三日月だが、家族、仲間と認めた相手に対しては苛烈なまでにこれを守ろうとする。また新米だったハッシュがアトフに当たったときも、その腕を容赦なく握り込み、離さなかった。悪魔と恐れられる戦いぶりは、そんな大切な家族を傷つけようとする者への当然の行為だった。



むしばまれていく体

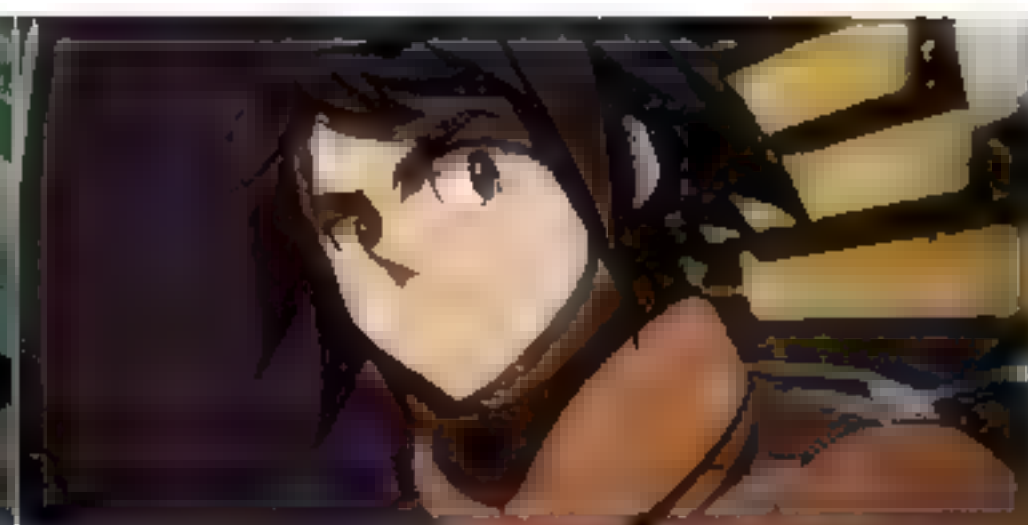
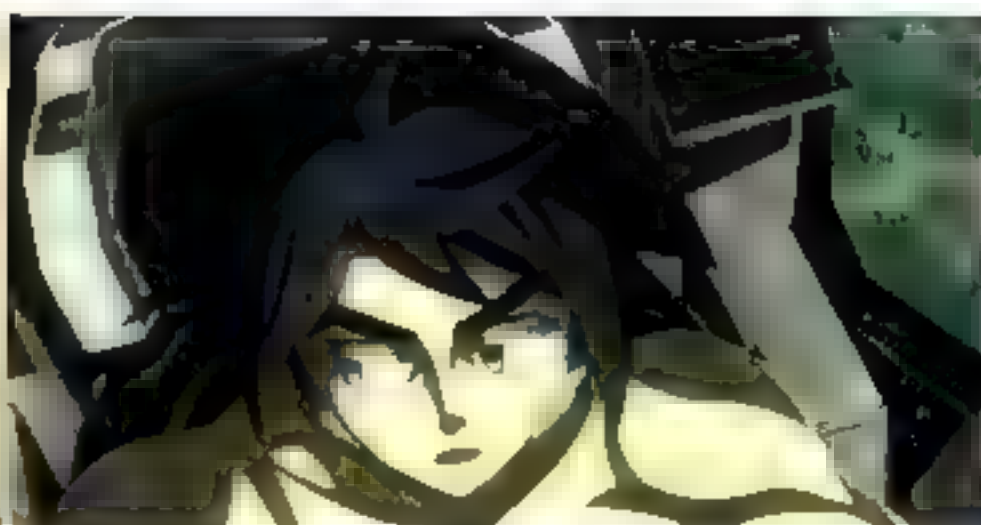
三日月たちの阿頼耶識システムには、情報の過負荷からパイロットの脳を守るため、リミッターがかけられている。MA戦で見たバルバトスのツインアイの赤い発光はリミッターをはずした対MAモードであり、その反動で右半身不随のダメージを負ってしまう。

Battle Pickup

対ハッシュマル戦

目覚めた厄災戦の負の遺産、MAハッシュマルとの戦い。おそらく、一対一では常に相手不足のような状態にあった三日月が初めて本気を出した戦いかもしれない。リミッターを解除したバルバトスの戦いぶりは居合わせた全員を心胆寒からしめた。





オルガとの強いきずなとあかし

三日月にとって、オルガは特別な存在である。時に叱咤し、時に頼り、お互いの存在にお互いを懸けて2人は戦いつづけてきた。三日月がもつ拳銃はオルガを守るためのものであり、幼少のころからずっと使いつづけていた



アトラとクーデリア

三日月に好意を寄せるアトラとクーデリア。三日月はアトラといるとほっとすると言い、自分で考え、行動するクーデリアのことも尊敬していた。心の部分では2人を受け入れており、彼女たちとの関係は、仲間を家族と呼ぶ鉄華団らしい姿だった



ハッシュという弟分

オルガといる以外、三日月はふだんひとりでいることが多い。みずから積極的にコミュニケーションを取ろうとする性格ではないからだが、そこにできた弟分がハッシュだった。最初は三日月にとって異物に近い存在だったが、彼の三日月を見る目の変化により、関係性も徐々に変化していった。MA戦後、三日月が動けなくなっからは、ハッシュが三日月を担いで移動することになった



インナー



紋付袴

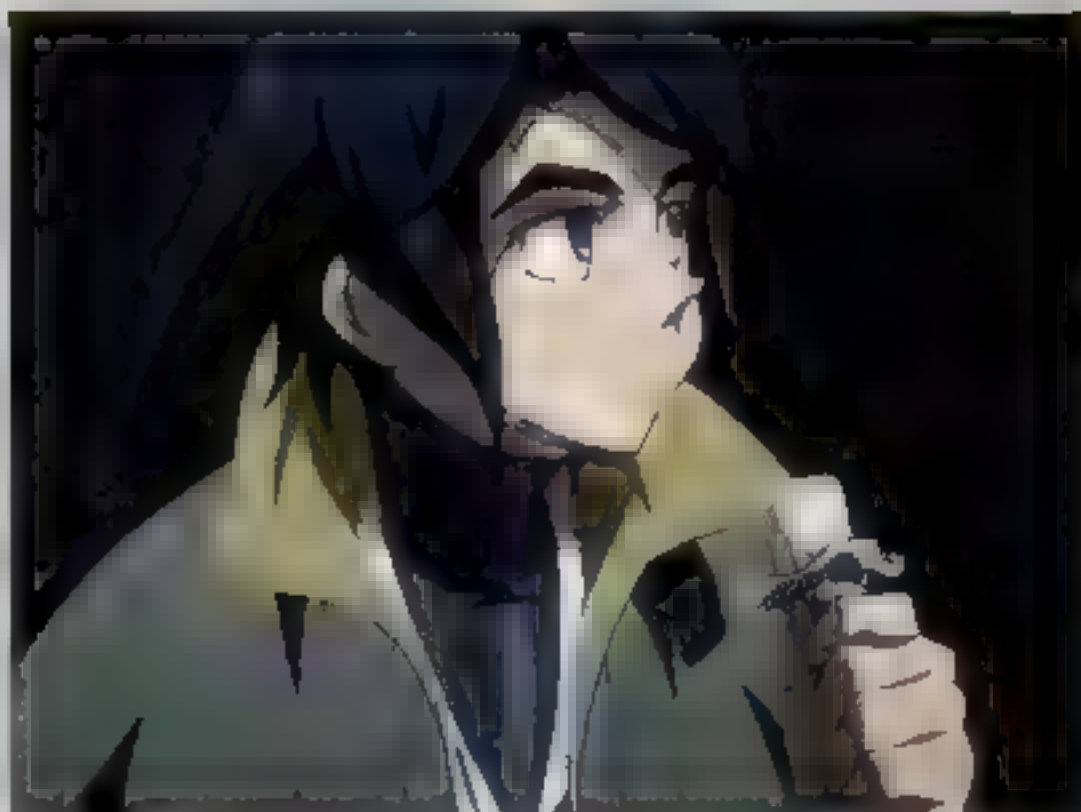
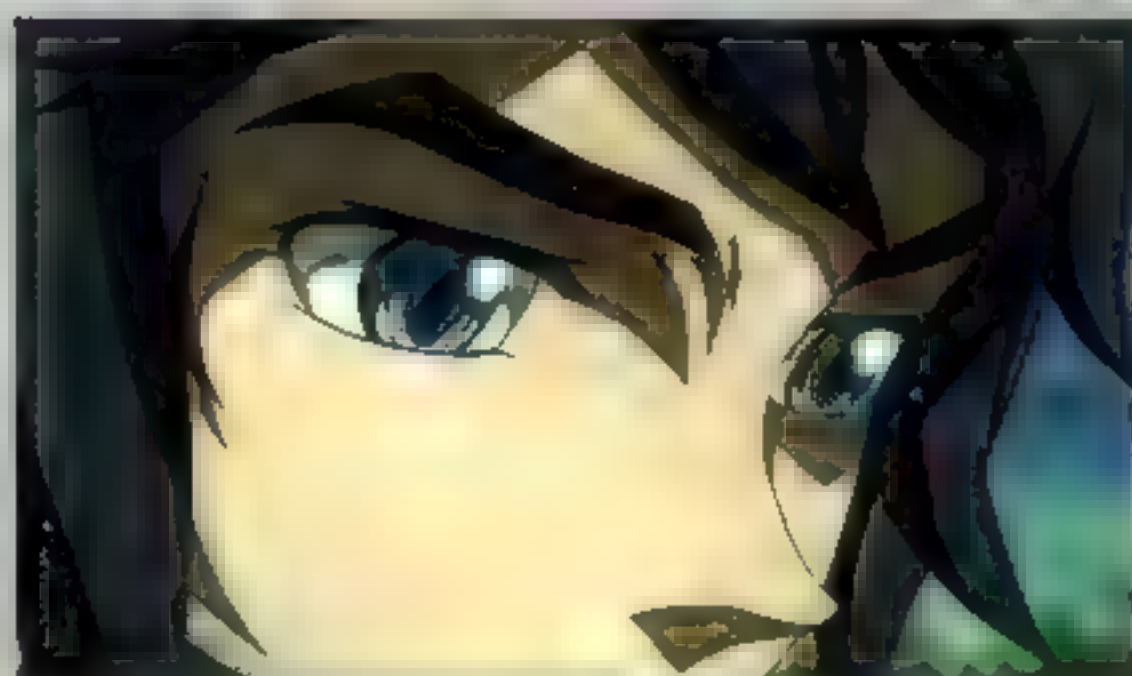


ハシュマル戦後の
無重力時の姿

Premium Topics

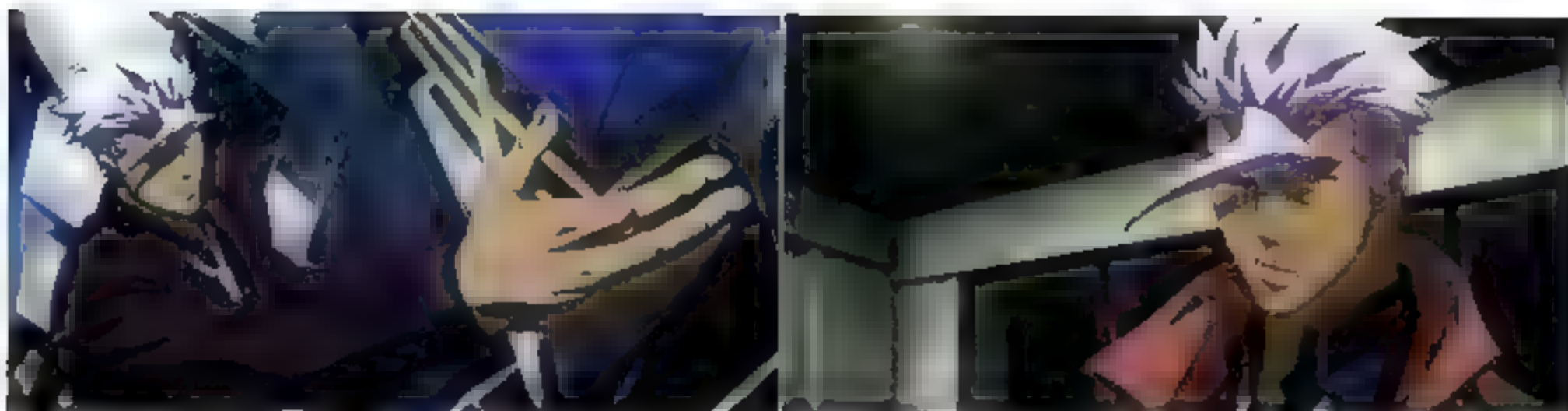
阿頼耶識で眼光輝く

ダメージを負った右半身は、阿頼耶識でバルバトスとつながっている状態だと機能が回復し、右目にも光が戻り、両目に鋭い眼光と意志の力が宿る。動けない体に本人も不便は感じているようで、常にバルバトスと接続した状態を好んでいる



独特の食への感性

赤ちゃんをどう思うかと聞かれた三日月は、「ハムみたい」と強烈な返答をしている。食に対する独特のこだわりも健在で、オルガが食べていた食事に栄養があるからと火星ヤシを入れたりも。チョコをもらって食べていたり、マクマード邸ではカンノーリを黙々と食べていたり、甘いものはお気に召したようすだった



鉄華団

オルガ・イツカ

ORGA ITSUKA

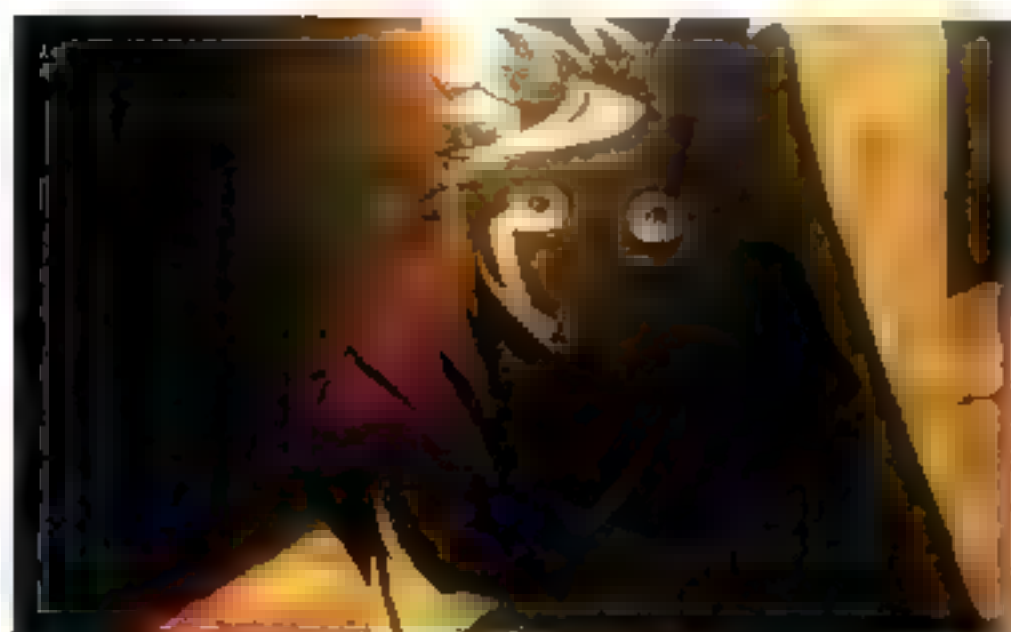
鉄華団を立ち上げ、クーデリアからの依頼をみごとに完遂したオルガ。晴れてテイワズの直系団体となり、内外からの評価も上昇。火星本部と地球支部に分かれた組織を、その腕でまとめ上げている。気負いからくる危うい面も見られるが、団員からの信頼は厚い。彼自身も鉄華団とその団員を何より大切にしており、それは新人たちに阿頼耶識手術を禁止していることからもうかがえる。鉄華団のため、「火星の王」となるためにマクギリスのクーデターに加勢するが、夢の実現はかなわなかった。

紋付袴



火星の王に

マクギリスは火星での利権を交渉材料に、その戦闘力と求心力を高く評価する鉄華団を自身のクーデターに誘う。火星の王となり、鉄華団をより盤石にするためにオルガはこれを承諾。ビジネスから始まり、友情に至らずとも実力を認め合う複雑な協力関係であった



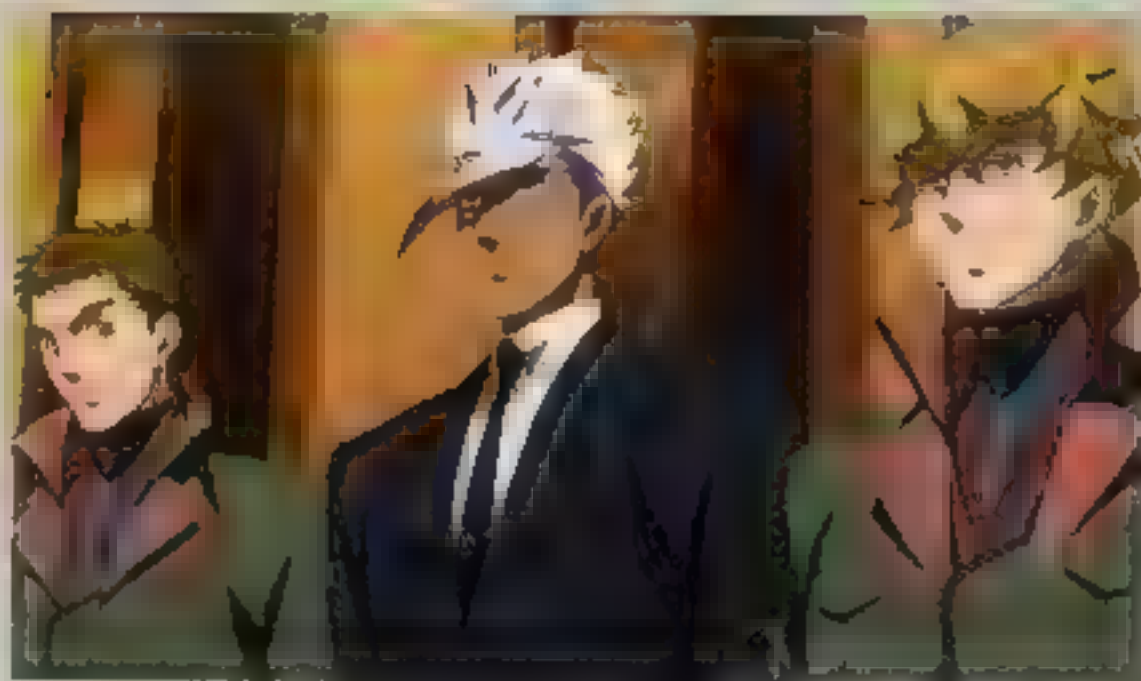
幼い三日月とオルガ

幼いころ、路上でひとり座り込んでいた三日月をオルガが見つけたことから、2人の関係は始まった。一見、主従のようにも見える関係だが、それは三日月が願う家族の幸せは、オルガの示す道であるからだ。ほかの団員以上に強いきずなで結ばれている、半身同士というほどの2人だった

Premium Topics

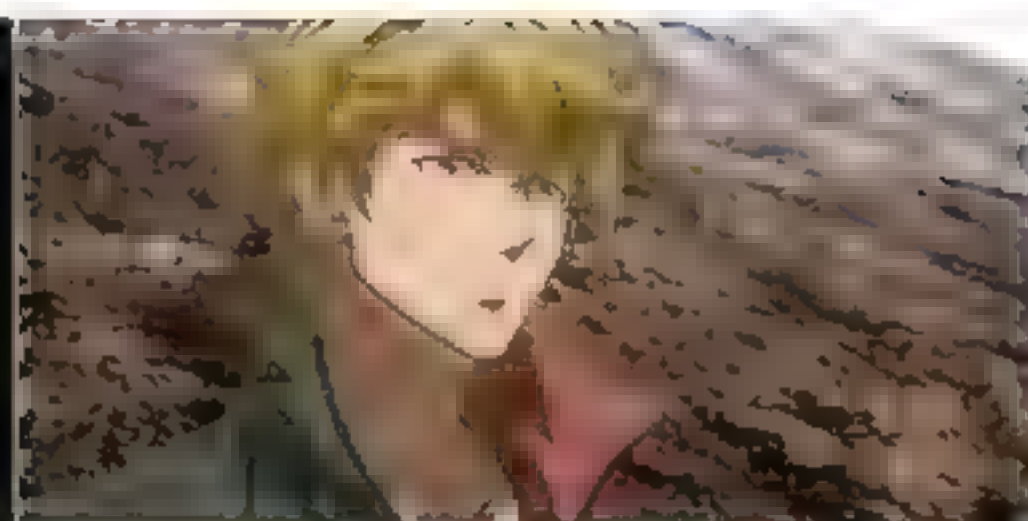
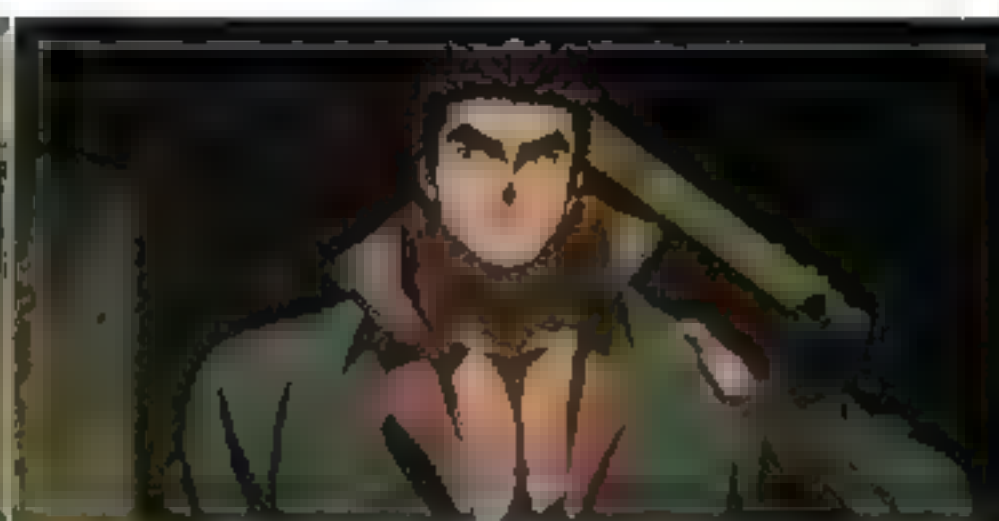
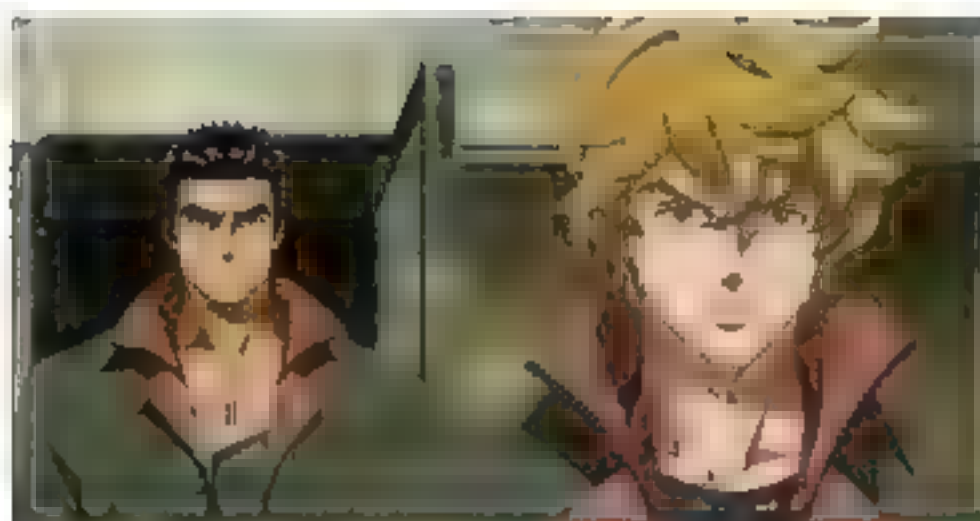
スーツは名瀬譲り?

テイワズ直系となってからは、いつもスーツを着ているオルガ。同じように兄貴分の名瀬もスーツを着こなしており、頭を張る人間としての身だしなみと言われたのかもしれない。その名瀬の葬儀には、ふだんと異なる黒いスーツで参列した



計算、根回し、退職金……

鉄華団は曲がりなりにも企業であり、オルガは社長だ。メリビット、デクスターがいるとはいえ、社員の給料やMS、MWの維持費など、お金回りを考えるのは大変。ろくに学もなかったオルガが、そんな業務をするまでになるには相当な勉強が必要だったろう



昭弘・アルトランド

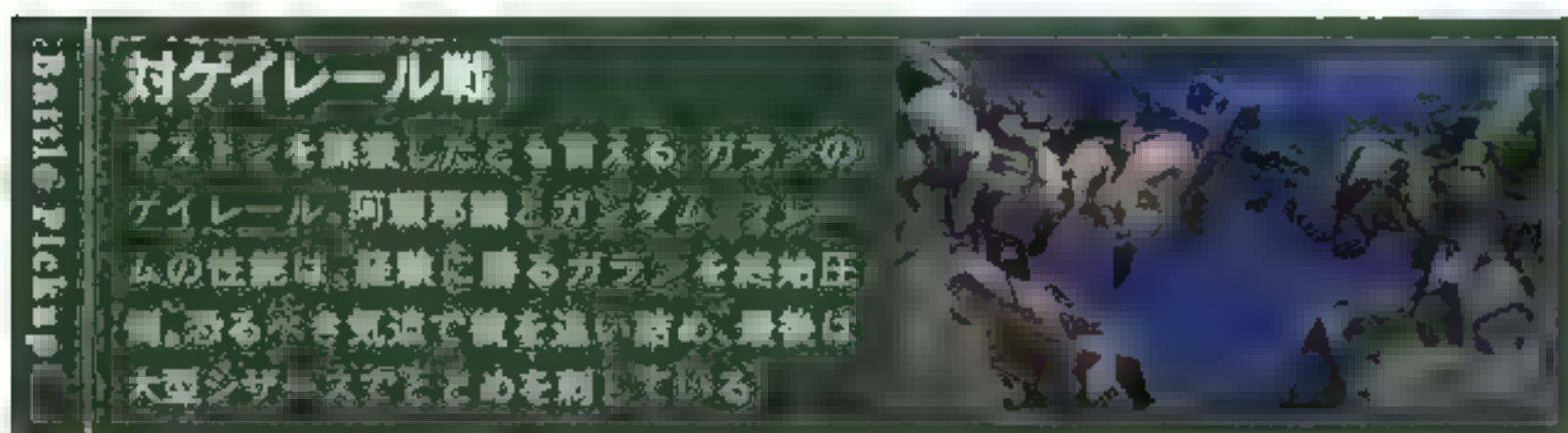
鍛え上げた体がトレードマーク。鉄華団実働二番隊の隊長だが、シノからは筋肉隊と呼ばれている。自身の研鑽に余念がない求道者のような性格。女性の気持ちには鈍感極まりない。ルビーマンデブリーのため、同じ境遇にある子供を救いたいと考えており、実際にブルワーズから解放したアストン、デルマらに、アルトランド外を与えている。戦場ではグシオンリベイクフルシティを駆け、あらゆるレンジをカバー。突出しがちな日月を的確にフォローする。火星での撤退戦では、日月とともに死の間際まで奮戦した。



ラフタとの関係

タービンスのラフタから好意を寄せられていた昭弘だが、彼女の気持ちにはユージンたちがあきれれるほどまったく気づかなかった。ラフタの凶報を聞いた昭弘はトレーニングルームを破壊するほど大荒れし、敵討ちを訴える目は怒りに燃えていた。彼にとって大切な人だったことは間違いない

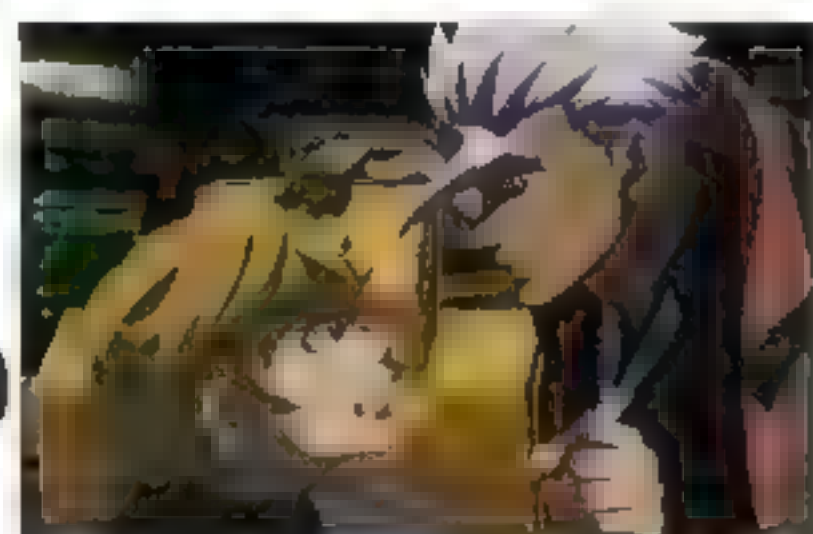
インナー着用(宇宙時)



ユージン・セブンスターク

EUGENE SEVENSTARK

エドモントンの戦い後、ユージンは副団長に、組織の拡大で多忙になったオルガは本部を空けることも多く、不在時はユージンが団員をまとめている。戦場では指揮を執ることも。阿頼耶識の手術を受けているが、MSよりも艦船の操縦のほうにたけ、イサリビの操艦を任されている。阿頼耶識を同調させてのホタルビとの2船同時操艦は、ユージンならではの技だ。最後の戦いでは亡きオルガに代わり、オルガ専用機である白い獅電に搭乗して戦闘に参加。撤退の指揮を執りながら、脱出組を導いた。



乗り越えたコンプレックス

かつてはオルガに対抗心を見せることもあったが、副団長としてオルガを支えるようになる。人心掌握や実力など、自身に足りないものを認めながらも、全力を尽くし、オルガを叱咤激励しながら戦う姿を見せた

Premium Topics

愛は金じゃ買えない

以前は女性の存在に色めき立っていたユージンだったが、現在は「愛は金じゃ買えない」とうそぶき、女遊びを控えているようだ。とはいえ、ルックスのわりにモテるようすはまったくなく、ただの強がりのようにも見える

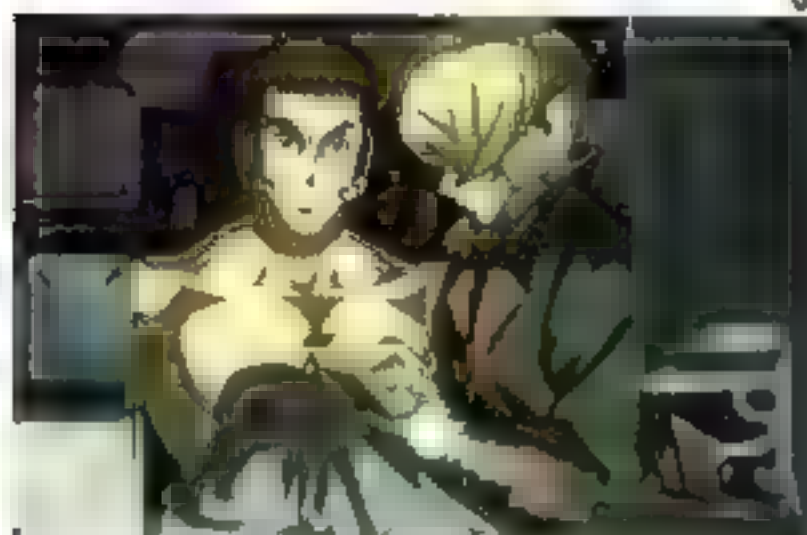




鉄華団

ヤマギ・ギルマトン YAMAGI GILMERTON

雪之丞の下で鉄華団の整備部門を担う。かつてブルワーズとの戦いで敵味方が多くの死者を出したとき、「氷の華」で葬送する方法を考え、実践した。シノが乗る流星号の整備を担っている。また、ティワズのMS整備士エーコとともに仕事をしていることも多く、より高い整備技術を吸収しようとしていた。ふだんは前髪で顔を隠し、伏し目がちで口数も少ないが、しっかりした意思をもち、シノを欠い、泣き言を言うオルガに、強いことばを発することもあった。

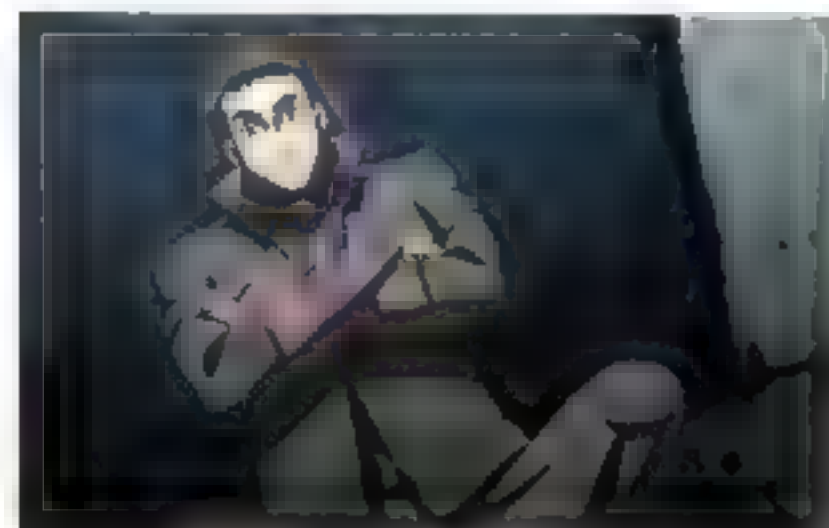


シノへの思い

シノには家族以上の気持ちを寄せており、フラウロスの初出撃の際には、射撃管制のために、非戦闘員ながらみずからシノとタンデムで出撃。作戦どおりに崖の崩落を成功させてみせた

ノルバ・シノ NORBA SHINO

三日月、昭弘と並ぶ、鉄華団の主力MSパイロット。鉄華団実働一番隊の隊長を務める。体躯が大きく陽気な性格。開けっ広げに見えるが、感情の機微をしっかりと読める男だ。自身の獅電改はこだわりのピンクに塗り替え、三代目流星号にカスタマイズ。部隊も「流星隊」とかつてに名のついていた。のちにガンダム・フラウロスに乗り換え、四代目流星号とした。アリアンロッド艦隊の包囲を突破して旗艦をダインスレイヴで狙い撃つものの、ジュリエッタの妨害でわずかに射軸をずらされてしまった。



気づいていた気持ち

シノは、常に自身のそばに来てその身を心配するヤマギの気持ちに気づいていたようだ。それにあえて触れず、拒否もしなかったのはシノの懐の深さであり、家族としての距離感だったのだろう

Premium Topics

採掘場からの発掘

火星のハーフメタル採掘場に埋まっていた厄祭戦当時の遺物。ヤマギら鉄華団火星本部の整備チームは、これらの発掘物への対処も行なっていたようで、報告と調査のため、たびたびティワズの歳星へと出向いていた



インナー着用(宇宙時)

鉄華団のメンバーは宇宙空間では、インナースーツの上に直接ジャケットを着る。戦闘時はジャケットを脱ぎ、パイロットスーツや整備スーツを着用する

対アリアンロッド艦隊

アリアンロッド艦隊に包囲されたイサリビを突破させるべく、ホタルビの艦首からラスタルのスキップジャケット級に特攻。狙撃を仕掛けたが、狙撃は失敗した。その一撃はラスタルを狼狽させるほど肉薄したものだ。





ハッシュ・ミディ

HASH MIDI

火星のスラム出身の新団員。かつてスラムの兄貴分、ビルスを阿頼耶識手術の失敗が原因で失っており、力に強い執着をもつ。そのためMSパイロットとして前線に出たがるものの、実力が伴わない自分に歯がゆい思いをしていた。三日月の実力を認めてからは彼の下へ押しかけ、かつてについて回る。いくたびの戦闘で実力をつけてからは、タービンスから譲り受けた辟邪に乗り込み戦った。その技量は三日月に遠く及ばないものの、最後の撤退戦でも勇戦し、いまわのきわには三日月からパイロットとして認められ、戦場を任された。



三日月についていく

三日月との圧倒的な実力差を見せつけられたハッシュは、彼についていくことを決める。どこにでもついてくるハッシュに三日月もうんざりさみで、アトフも苦笑いするほどだった。だが、その熱意は三日月に伝わったようで、ともに行動するうちに三日月もハッシュを気にかけるようになっていった。



阿頼耶識へのあこがれと怒り

スラムでの兄貴分ビルスは、CGSでの阿頼耶識手術で半身不随となり、自殺してしまった。ハッシュには三日月たちが阿頼耶識で成り上がった、特権階級に映っていた。ビルスを奪った阿頼耶識を憎み、同時に力を手にしたい複雑な感情が彼を突き動かす。



ザック・ロウ

ZACK LOWE

ハッシュと同じく、地球帰還後に増員された新団員。かつていい男になるために鉄華団に入ってきたという変わり者。鉄華団団員のなかでは珍しく高等教育を受けており、MA戦ではガンダム・フレーム機の不調原因をいち早く突き止めるなど、時にエンジニアとして雪之丞以上の資質を見せる。幾度も戦場に出るうちに、死と隣り合わせの現状に違和感を覚えはじめ、撤退戦直前に団を抜けるが、ギャラルホルンの包囲を見て戻ってきた。本人は逃げ場がないからと言っていたが、残った仲間を見捨てられないというようにも見えた。



デイン・ウハイ

DANE UHAI

ハッシュ、ザックと同じく新入りの鉄華団整備班員。話が合うのか、彼ら3人はよく固まって話している。物事をしっかり考える思慮深い性格で、ハッシュが三日月への複雑な感情を吐露しても、ことばを選び、的確にアドバイスをしていた。詳細は不明だが、過去に殺人を犯している犯罪者で、それにもかかわらず雇ってくれたオルガと鉄華団には、ひとかたならぬ恩義を感じている。





鉄華団

ライド・マッス

RIDE MASS

実働二番隊所属のパイロット。年は若い
がタカキと並ぶしっかり者で、ハッシュ
たち新人を怒鳴りつけることすらあ
る。地球支部に抜擢されたタカキに
少しだけ対抗心をもっている。
MSパイロットとしては成長途
中で、昭弘にフォローされるこ
とも多いが、火星本部でMSを任
されるだけの腕をもっている。鉄華団
への愛情は人一倍で、壊滅後はオルガ
の敵討ちにノブリスを追っていた。



チャド・チャダーン

CHAD CHADAN

まじめな性格で人当たりはいい
が、本質は意外にリアリスト。こ
れを買われてか、地球支部の設立
に伴い、その所属となる。テロか
ら時苗をかばって重傷を負った
が、幸いにも全快。地球から撤退
した後はランドマン・ロディのパ
イロットとして戦場を支えた。な
お、悩みである影の薄さは解消さ
れていないようだ。



デルマ・アルトランド

DERMA ALTLAND

アストンと同じく、昭弘からアルトランド
姓をもらった元ブルワーズのヒューマン
デブリ。パイロットとして実働一
番隊に配属されている。シノの性格にかなり振り回
されているようで、流星隊のネーミングに
は顔をしかめることも。アリアンロッド艦
隊との激戦のさなか片腕を失ってしまい、
パイロット任務から降りる無力を恥じて
いたが、昭弘のことはに救われる。

ダンテ・モグロ

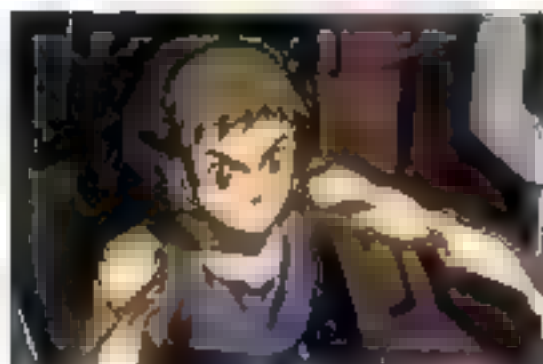
DANTE MOGRO

チャドと同じ、元ヒューマンデブリ。本来はコ
ンピュータに強くハッキングもこなす知性派
だが、人員増に伴う配置転換か、シノ率いる流
星隊の一員となった。チャド、ユージン、シノ
とともに、作戦立案や方針会議に居合わせる
ことも多い。基本、楽道家だが、戦場において
は甘さを捨てた厳しい一面も見せる。

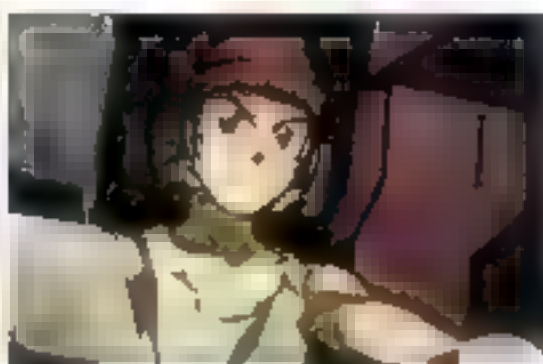


鉄華団年少組

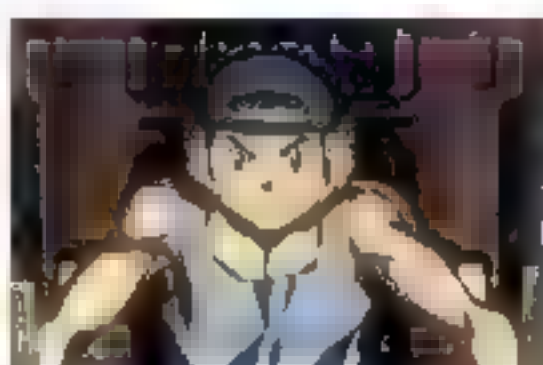
ライドやタカキより、さらにひと回り小
さい年少組の少年兵た
ち。火星脱出の際に
は、彼らもパイロット
として奮戦する姿が
あった



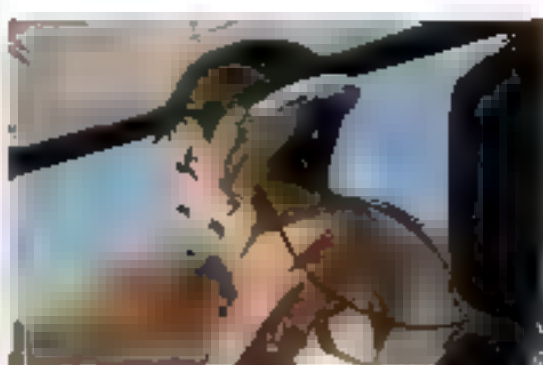
エルガー



エンビ

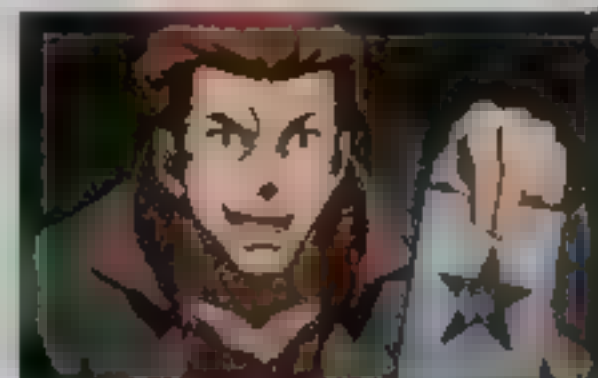


トロウ



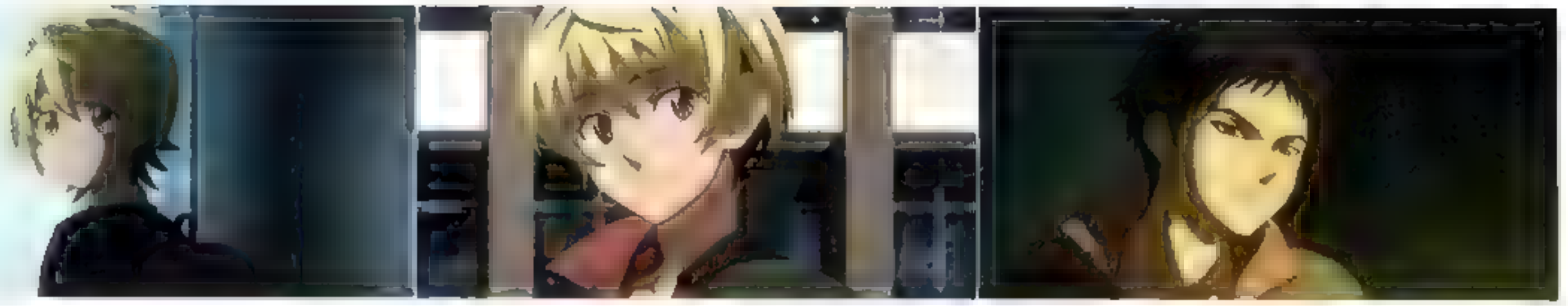
ヒルメ

Premium Topics



はしゃぐ男たち

撃墜数を機体につく
たいと型紙をつくつ
てエーゴに怒られる
ダンテ、メリビットと
雪之丞の仲を知り愕
然とするチャドなど、
鉄華団をかしましく
盛り上げていた



アストン・アルトランド ASTON ALTLAND

元ブルワーズのヒューマンデブリで、組織壊滅の際に鉄華団に入団。昭弘がアルトランド姓を与えている。無口で表情もあまり見せないが、大切な人には気を遣うことができ、同じくヒューマンデブリだったチャドの立派な姿に感動している。性格はまったく違いながらもタカキと仲がよく、ともに地球支部を支えている。阿頼耶識システムとブルワーズ時代の戦闘経験から、MSの操縦は地球支部随一の腕。SAU軍との戦いで、タカキをかばって身を投げ出した。



家族の幸せのために

ヒューマンデブリだったアストンにとって、自身を気遣ってくれるタカキやフウカ、昭弘、そして鉄華団は大切な存在だ。彼らの幸せのため人を殺すというアストンを、タカキは強く制した。家族の温かさ、幸せは彼が初めて感じるものだった。



タカキ・ウノ TAKAKI UNO

地球支部の設立に伴い、妹のフウカとともに地球に移り住んでいる。同じく地球支部に所属するチャドを事務だけでなく、現場のパイロットとしても支えている。チャドが倒れてからは、勃発したSAU軍との衝突を取るべく現場指揮に当たったが、任された重責と、ラディーチェの裏切り、ガランの策謀により次第に疲弊していく。火星本部の介入により問題が解決した後は、みずからラディーチェにけじめをつけ、妹のために鉄華団を去ることを選んだ。

逃げ場のない戦場

指揮を執るはずだったチャドがテロで倒れ、SAU軍との戦いは泥沼の状況に。優しいゆえ心根が少し気弱な部分があり、つい人に頼ってしまう性格が、ガラン、ラディーチェにつけ込まれ、アストンを失う結果を招いてしまった。



フウカ・ウノ FUKA UNO

地球でいっしょに暮らすタカキの妹。勉強が好きで料理も得意。利発な少女で、テロに倒れたチャドの見舞いに毎日通う、兄譲りの優しさをもつ。自身の恵まれた生活と、それを命がけでつくり出してくれている兄とアストンへの感謝と、不安を抱えている。



鉄華団を去って

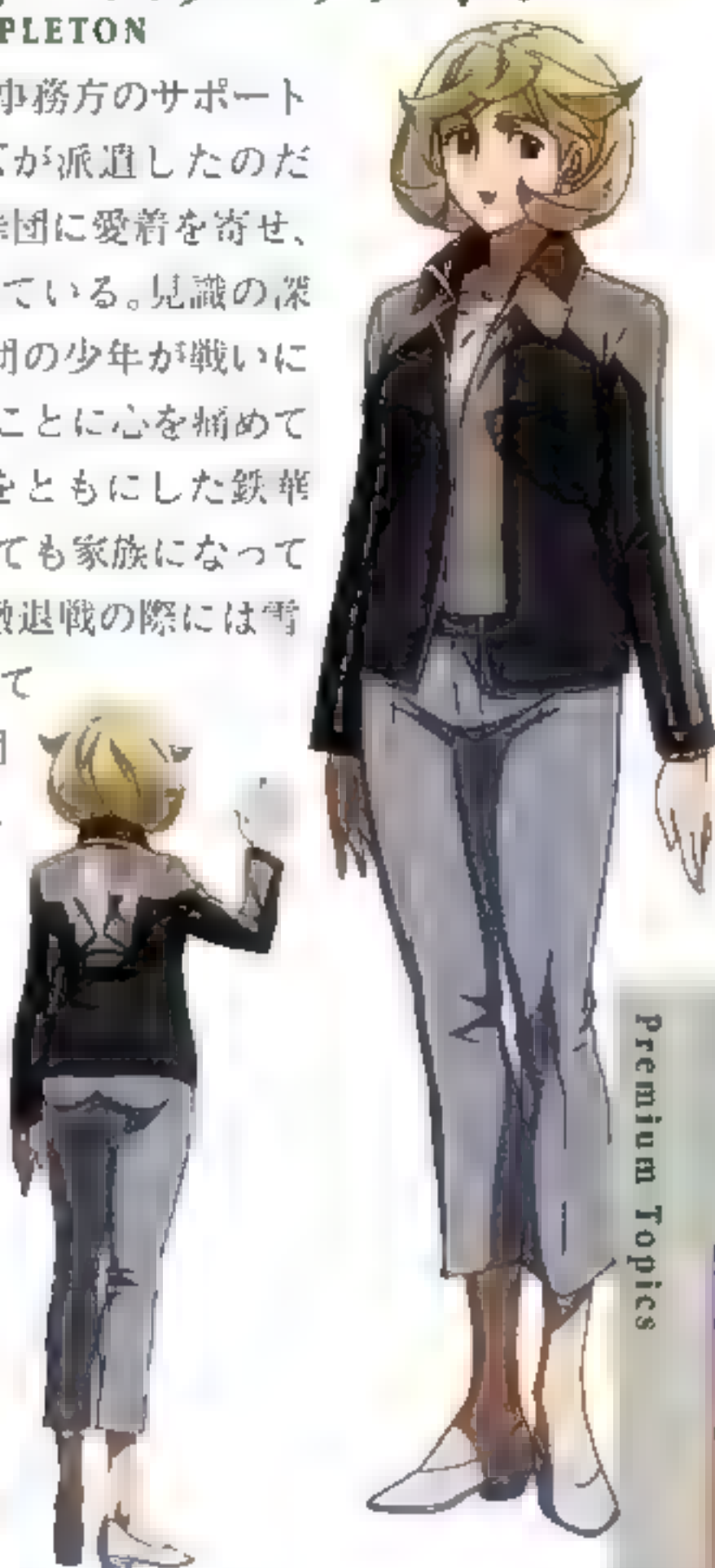
妹のフウカのことを考え、鉄華団を抜けた後は蒔苗の下で働いていた。政治方面に才覚があったようで、アーブラウ議員のアレジから実力を高く評価され、蒔苗の死後は彼の下で経験を積んでいた。



鉄華団

メリビット・ステーブルトン MERRIBIT STAPLETON

もともと経理や事務方のサポートとしてティフズが派遣したのだが、現在では鉄華団に愛着を寄せ、団の一員になっている。見識の深い女性で、鉄華団の少年が戦いに生きるしかないことに心を痛めていた。長く行動をともにした鉄華団は彼女にとっても家族になっており、火星での撤退戦の際には雪之丞に勧められても断固として団を抜けなかった。



ナディ・雪之丞・カッサパ NADI YUKINOJO KASSAPA

鉄華団の整備士。気がよく包容力のある人柄から「おやっさん」と呼ばれ、親しまれている。そのため、数少ない大人としていさかいを治め、助言をすることも。いつの間にかメリビットとつきあっていた。MSを中心に整備を担当しており、ハード面では一流の腕をもつが、ソフト面は若干苦手。火星脱出の際には地下トンネルの存在を示唆し、その年の功で団員を救った。



におわなくなった

年長者同士、大人のつきあいをしていたメリビットと雪之丞。雪之丞の生活にも影響を与えたようで、きつい体臭も「におわなくなった」と評判だった



Premium Topics

ラディーチェ・リロト RADICE RILOTO

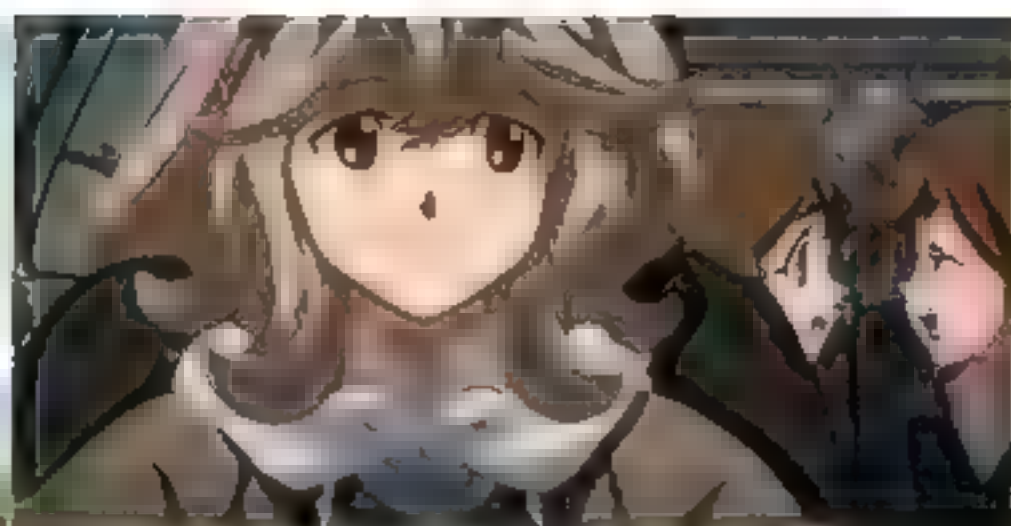
地球支部の会計や事務を担当する新団員。合理的な判断を重んじる男で、理屈ではなく情で動こうとする鉄華団の面々にあきれ、たびたび衝突している。鉄華団には何の愛着もないようで、報酬につられ団を裏切り、ガランを引き込んでアープラウとSAUの戦争の遅延工作に加担した。地球にたどり着いたユージンらに捕えられ、その命運は尽きた。



デクスター・キュラスター DEXTER CULASTOR

CGS時代から会計、経理を担当していた人物。オルガたちに偏見なく接していた数少ない大人のひとり。火星本部の経理や農場の引き継ぎなどの事務業務をメリビットとともに担っている。資金運用には慎重なようで、彼が別口座にプールしていた鉄華団の資金が撤退戦にあたっての最後の兵站となり、地球行きの重要な原資となった。





Premium Topics

アトラの料理

どんどんレパートリーが増えていくアトラの料理。オルガに出した夕食はボリュームもバランスも良好。三日月にはラブサンドを届けていた



アトラ・ミクスタ

ATRA MIXTA

鉄華団の炊事係。炊事洗濯を中心にあらゆる家事をこなす、クリュセの雑貨屋時代から少年兵たちと変わらず仲がいい。三日月には過去命を救われており、恋心を抱いている。同じく三日月を大切に思っているクーデリアとは、互いを大事な人として認め合っている。戦いが激化していくなか、三日月との子供を望むようになり、無器用ながらも結ばれていく。



三日月に救われて

街の裏路地で、飢えて倒れかけていた幼いアトラに手を差し伸べたのは、幼い三日月だった。雑貨屋の女将、ハバとの縁を結び、そしてCGS、鉄華団に彼女が繋がったのは三日月のおかげだ



結ばれた2人

クーデリアと出会ったことで三日月を改めて意識し、タービンの家族観を見て彼女なりの家族の形を見いだしていった。三日月と結ばれたが、同じく三日月を愛するクーデリアも、アトラの大切な人なのである



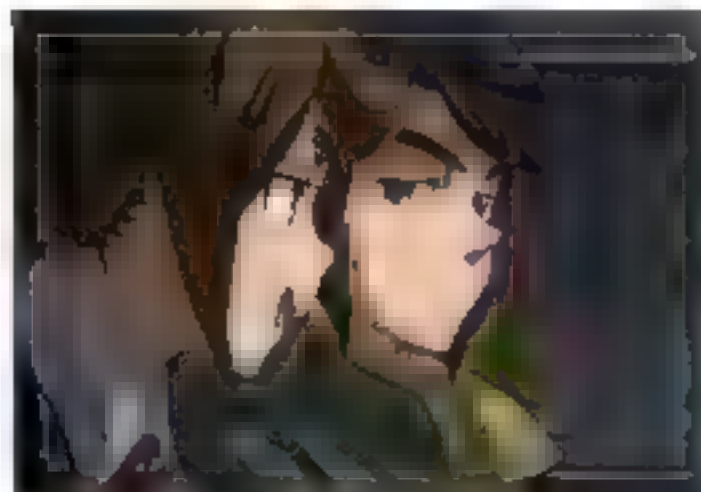
クッキー・グリフォン

COOKIE GRIFFON

クラッカ・グリフォン

CRACKER GRIFFON

戦死したビスケットの妹の双子、のんびり屋のクッキー(左)と、負けず嫌いのクラッカ(右)。鉄華団からの支援で、現在は就学して、勉強しながら祖母の手伝いをしている。兄を失った傷からか、戦場に向かう三日月を必死に引き留めることも。鉄華団がギャラルホルンから見せしめの扱いを受け、学校で白い目向けられても気丈に耐える強さがある。



桜・プレッツェル

SAKURA PRETZEL

孫のクッキー、クラッカとともに火星の農園で暮らすビスケットの祖母。三日月は「桜ちゃん」と呼ぶ。バイオ燃料に使用されるトウモロコシを生産する彼女の桜農園は、提携を経て、鉄華団からアドモス商会に運営が引き継がれている。また、敷地内には孤児院が設立された。

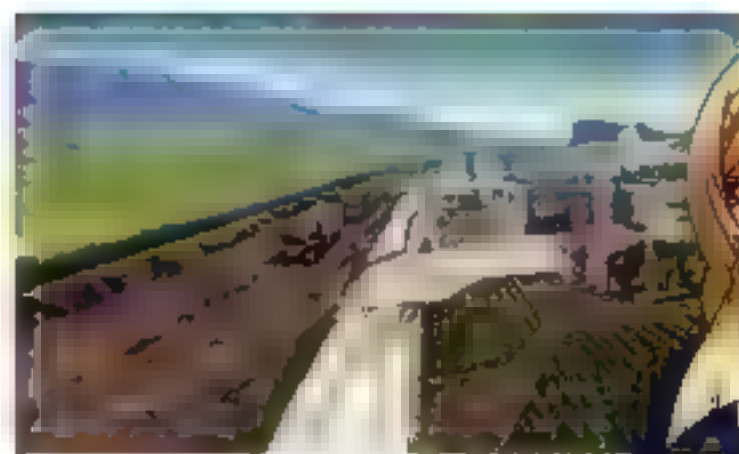




アドモス商会

農園という夢を預かって

アドモス商会が、鉄華団から預かっている桜農園。ここには孤児院も併設されており、「いつか農業をして暮らす」という三日月の夢ごとクーデリアが預かっていた。その夢は、クーデリアの夢でもあったろう



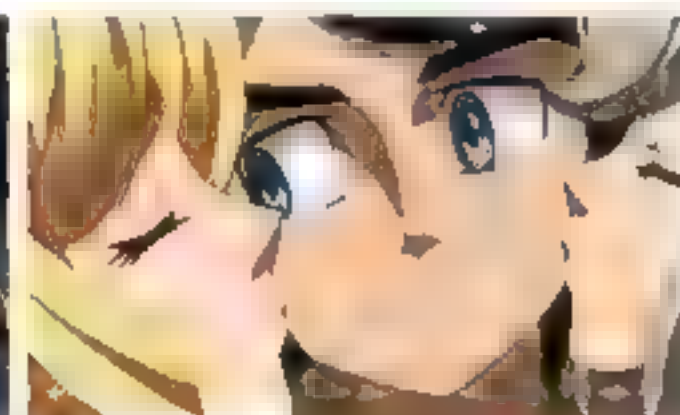
宇宙での服装



クーデリア・藍那・バーンスタイン

KUDELIA AINA BERNSTEIN

アブラウ政府と火星自治区の経済的独立調停を成し遂げ、ギャラルホルンの腐敗を暴いた革命の乙女。火星に戻ってのちはテイワズと提携、ハーフメタル産業を一手に担うアドモス商会を設立。孤児があふれる火星の環境改善にも邁進している。みずからと火星のため、過去に命を組まれたノブリスとすらタフな交渉を繰り返すほどに成長した。その手にはいつも、きずなのあかしである三日月、アトラとおそろいのプレスレットがある。



3人の愛の形

クーデリアにとって、おぼつかない自分を守りながら世界を見せてくれた三日月、そしてアトラはかけがえのない存在。だからこそ、彼女は三日月とアトラの子供を育ててほしいという約束を受け入れ、前に進むことを決意する

ククビータ・ウーグ

CUCUBITA HUGUES

アドモス商会でクーデリアの秘書と事務員を務める女性。まだわきの生え始めているところがあるクーデリアを全力で支えている。鉄華団の経理であるメリビットやデクスターとは密に連携を取っており、桜農園との提携などにも尽力した。クーデリアの理想をしっかり理解しており、鉄華団の少年兵のような戦争を糧とする子供たちに心を痛め、学べる場を用意したいと考えている。



Premium Topics



お金に詳しくそう

三日月やアトラ、鉄華団の一部メンバーの給料をクーデリアが管理している。三日月によると「金に詳しくそう」だからだが、これもひとつの信頼のあかしだ

アドモス商会の名の由来

アドモス商会の名前は、間諜でありながらクーデリアをかばって倒れた秘書、フミタン・アドモスの名前に由来している。彼女の名前は商会だけでなく、無償で教育を行ない給食も提供される小学校にもつけられている



若いころ



アミダ・アルカ

AMIDA ARCA

名瀬の第一夫人で、私生活では最も大事なパートナーとして名瀬の隣に立つ。名瀬とはタービンス設立以前からの相棒であり、もともとはピンクのスピナ・ロディを駆るフリーの傭兵だった。さまざまな事情から過酷で劣悪な長期航路の輸送業務に就かざるをえなかった女性たちを少しでも守ろうと、彼女たちの航路護衛の依頼を進んで引き受けていた。タービンスは彼女が傭兵時代にかかわった輸送業者たちを、名瀬がまとめ上げた組織がもとになっている。ちなみに、名瀬よりだいぶ背が高い。



名瀬・タービン

NAZE TURBINE

タービンスは女性を愛する名瀬が、女性のために作った会社であった。そこにはただ困うだけでなく、職の斡旋、責任ある役割を与えることで、搾取されるばかりの存在だった圏外圏の女性に自立と尊厳をもたせるためという思いがあった。そのため、タービンスの女性は男性に対して臆することなく、自分たちの意志を貫いている。鉄華団が大きくなった後も、彼らのめんどろを何かと見てくれており、オルガが強い信頼を寄せている大人でもある。名瀬にとってオルガは自身の若かりしときの姿にも重なるようで、イオク艦隊との戦闘前、アミダと語る姿はまるで息子を心配する父のようでもあった。



Premium Topics

スーツを着こなすだて男

だて男の名瀬。ふだんは白いスーツを粋に着こなしているが、時にはダークブラウンのスーツを着ることもある。テイズの幹部がそろそろ場などでは、派手にならない服装にしているのかもしれない。また、若いときは黒色のスーツを好んで着ていたようだ



思い出のウイスキー

名瀬は、酒もウイスキーのロックで決めている。タービンスの頭目となればいくらでも高級酒が手に入る立場だが、アミダいわく、普通の安酒らしい。しかし、これはアミダと出会ったバーで飲んでいた銘柄と同じもので、名瀬にとってはほかのどんな高級酒よりも特別なものだった

Battle Pickup

対レギンレイズ・ジュリア戦

卓越した操縦技術で、スペック的にはるか上をゆくレギンレイズ・ジュリアを終始圧倒したアミダの百戦。阿頼耶議に頼らない人の決意の力を見るかのような強さだった。この戦いは、敗れたジュリアを大きく成長させた





TS

タービンス

アジー・グルミン

AZEE GURUMIN

タービンスのMSパイロット。アミダはハンマーヘッドで戦闘指揮をすることも多いため、実質戦場でのエースを担っている。ラフタの親友で、同じく戦闘指南役として鉄華団と行動をともにしている。獅電の模擬戦で、ダンテはついにアジーから一本も取ることができなかった。エーコいわく、永遠に取れないほど腕に差があるらしい。無口だが、人の心の機微にはさとく、ラフタの昭弘に対する気持ちには早いころから気づいていたようだ。名瀬亡き後の新生タービンスを率い、自スーツ姿には彼女の決意が込められているようだった。



ラフタ・フランクランド

LAFTER FRANKLAND

アジーと肩を並べるタービンスのMSパイロット。過去、悪質な違法輸送船で働かされていたが、名瀬とアミダに救い出されたことで明るさを取り戻していったという。エドモントン戦後も鉄華団と行動をともにし、最近では鉄華団の新米パイロットに、MSの操縦訓練、戦闘指南を行なっている。その技量は高く、模擬戦ではダンテの獅電を軽くいなす。昭弘に対し、戦友という以上に心が傾きだしていた。

クロエ・タービン



エーコ・タービン

ECO TURBINE

ラフタ、アジーとともに鉄華団のバックアップをしてくれるメカニック担当。その技術力はティワズのなかでも高く認められている。同じ整備士として、ヤマギとともによく仕事をしていた。



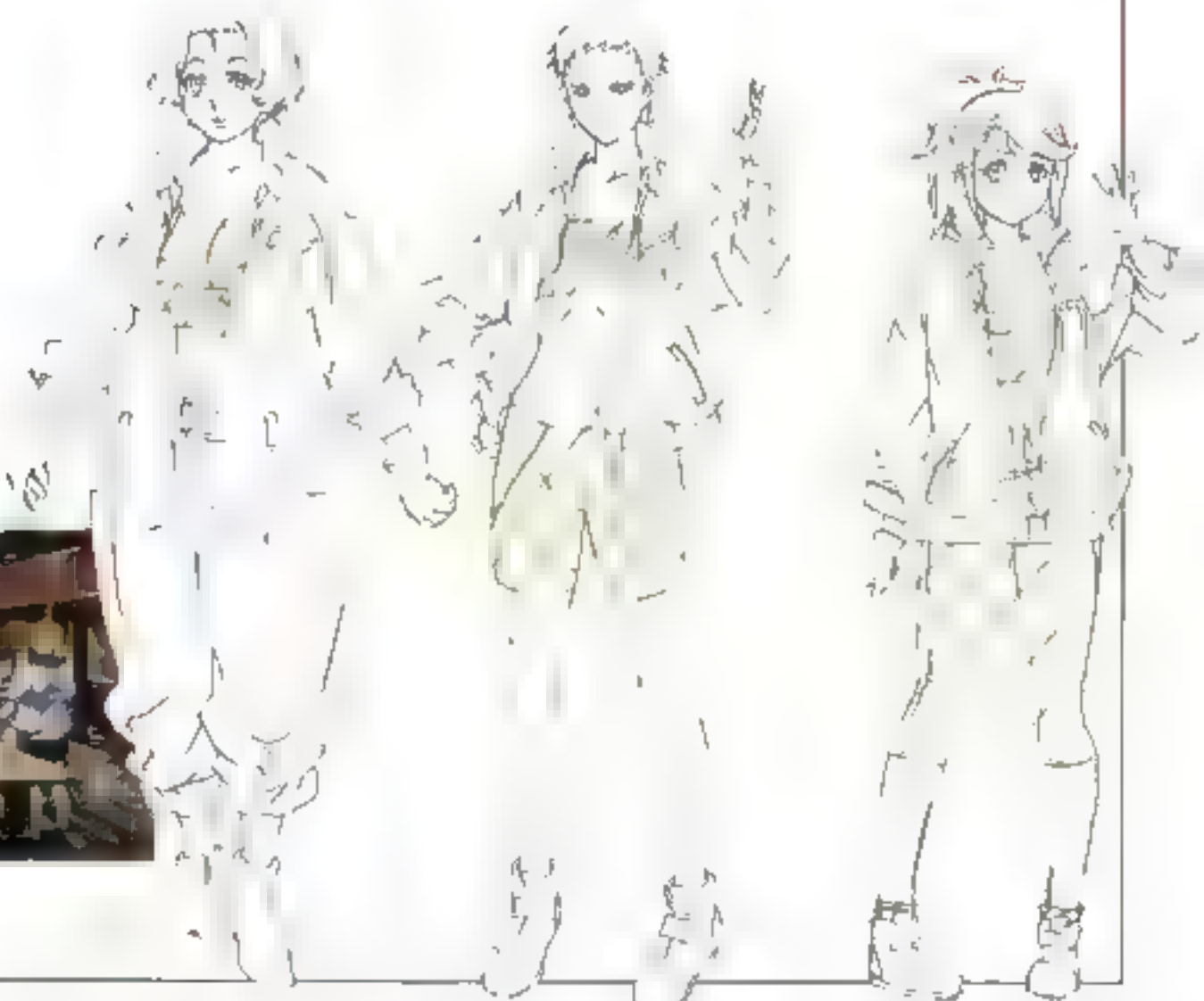
ハンマーヘッドブリッジクルー

名瀬が乗るハンマーヘッドのブリッジクルーたち。彼女たちもみな名瀬の恋人。名瀬の愛の広さがうかがえる

ビルト・タービン

タービンスの赤ちゃん

名瀬がタービンスを拡大することによって増えていった恋人たちと、その間に生まれた赤ちゃんたち





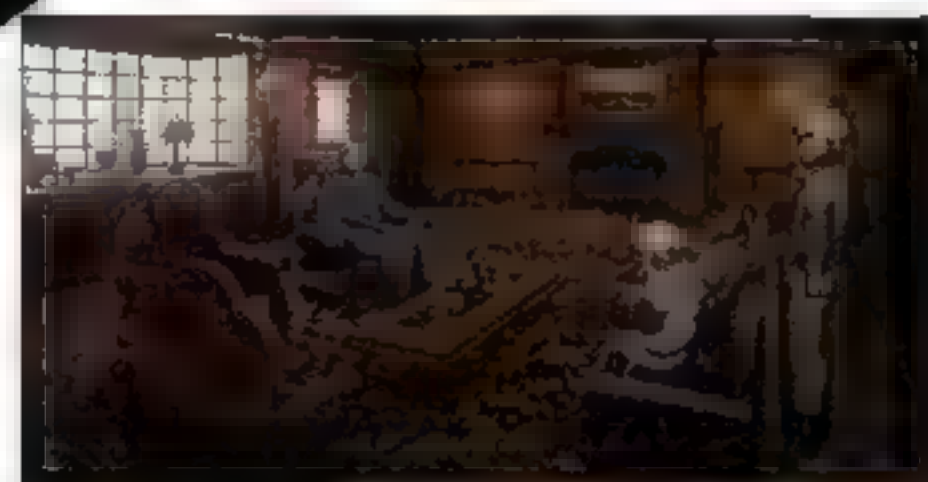
マクマード・バリストン MCMURDO BARRISTON

ティワズを束ねる代表で、義理人情に厚い男でもある。名瀬を高く買っており、名瀬に昇進させようという腹積もりであった。ただし、そこには名瀬に跳ねつ返りの鉄華団の手綱を握らせるという意図もあり、情だけではない、打算と非情の顔も確かにあった。そんな鉄華団について、当初はあまり関心を向けていなかったが、エドモントンでの時苗のアブラウ代表復帰という人仕事をやり遂げた後は、より強く関心を向けるようになる。ハーフメタル利権の手柄を認め、オルガと親子の盃をかわし、鉄華団をティワズ直系の企業として組み入れた。



名瀬への評価

名瀬がマクマードに心服しているように、マクマードも名瀬の手腕を買ひ、筋を通す人間的な部分でも気に入っていた。タービンスが違法組織に認定された際はやむなく切り捨てたが、幹部の反感を買うことを承知で名瀬の葬式を執り行なった



鉄華団への評価

ギャラルホルンにひと泡吹かせた武力を買ひ、MSの安価な供給や、歳星のMS工房の使用を許している。鉄華団が起こす向こう見ずな行動を気に入っているようだ。特に三日月に対しては、初めて会ったとき以降ずっと気にかけているようだ

Premium Topics

クリームたっぷりのカンノーリ

前回面会したときと同じように、2度目の訪問でもマクマードはお菓子を振る舞ってくれた。子供にはお菓子、というわけでもないだろうが、以前にも出してくれたクリームたっぷりのカンノーリ。三日月はとても気に入ったようで、遠慮なく食べまくっていた。こういった三日月の物おじしないふるまいも、マクマードの気に入るところだったのかもしれない



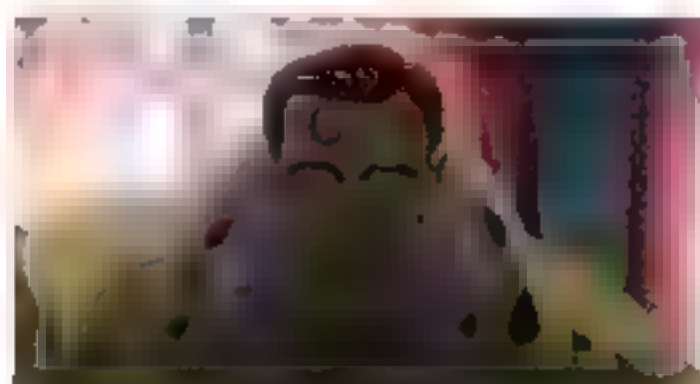
黄金のジャスレイ号

悪趣味に塗装されたジャスレイの搭乗艦。分厚い装甲で守られている



ジャスレイ・ドノミコルス JASLEY DONOMIKOLS

ティワズのNo.2。自身はJPTトラストという商社を営んでいる。名瀬がマクマードに気に入られて頭角を現わしているのが気に入らず、その敵視は鉄華団にも向けられる。名瀬をハメるために、タービンスの積み荷に違法武器のダインスレイヴを忍び込ませ、イオクにリーク。名瀬を亡き者とした後は、鉄華団を挑発するためにラフタを暗殺。さらに、マクマードをギャラルホルンに売ろうとする。しかし、肝心の鉄華団との戦いでイオクの援軍が現われず、野望はついに果たさなかった。





ギャラルホルン

マクギリス・ファリド

MCGILLIS FAREED

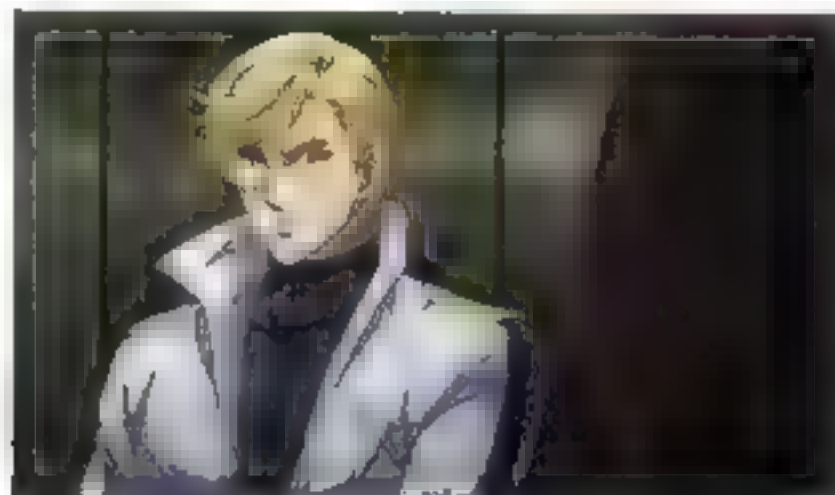
暗躍したエドモントンの戦いの後、マクギリスは失脚したイズナリオに代わり、ファリド家の当主となる。さらにアルミリアと婚姻を結び、ボードウィン家の地盤も手に入れる。階級は准将となり、カルタ亡き後の地球外縁軌道統制統合艦隊の司令に着任。セブンスターズとしても確固たる地位を築き、ギャラルホルン内を駆け上がっていった。目的は腐敗したギャラルホルンの改革。そのために革命軍を組織し、ギャラルホルンの象徴であるガンダム・バエルを奪取した。しかし、生き延びていたガエリオによる真相の暴露、ラスタル率いるアリアンロッド艦隊の前に戦況は不利な状況へ傾いていく。望んだのは生まれや所属などに関係なく、力ある者が正しく報われる世界。だが、あと少しというところまで近づいたその世界の扉を、開くことはかなわなかった。



私服



セブンスターズの制服



Premium Topics

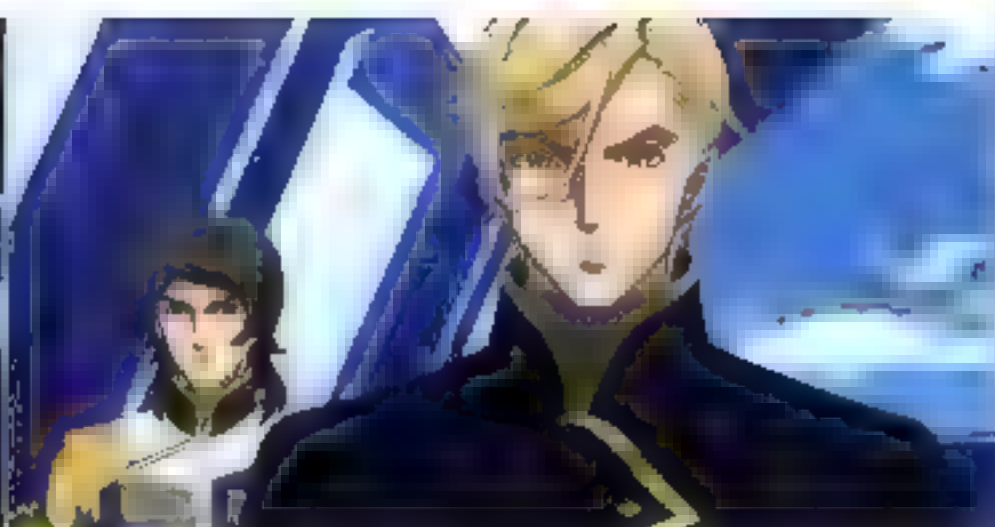
復活させた本来の阿頼耶識

脊髄に金属端子を埋め込む阿頼耶識システムの施術はナノマシンの定着に問題があり、成長期の子供にしか施せない。しかし、マクギリスはバエルを操縦するために阿頼耶識を埋め込んだ。これはアインを実験台にしたグレイズ・アインのデータをもとに、厄祭戦時代に行なわれていた本来の阿頼耶識の技術を復活させたからである。今まで子供たちに施されていたのは、中途半端な技術が流出した闇手術だった

幼少時、最下層出身だった過去

妾の子と言われていたマクギリスだが、実はイズナリオに拾われた最下層の少年だった。眉目秀麗な容姿からイズナリオの目に留まり、同じ境遇の少年たちが住まうファリド家の別邸で暮らすことに。しかし、そこも地獄だった。生き残るために力を示したマクギリスの才覚は再びイズナリオの目に留まり、正式な養子にされる。ギャラルホルンの中核を担うセブンスターズの一角、ファリド家の次期当主候補。だが、ここまでの日々はマクギリスから愛情、信頼という感情をそぎ、力だけを信じる人間をつくり出してしまった。ガエリオはそんなマクギリスの考えを真っ向から否定したが、マクギリスもまた腐敗した社会、大人たちに虐げられてきた子供だったのだ





石動・カミーチェ

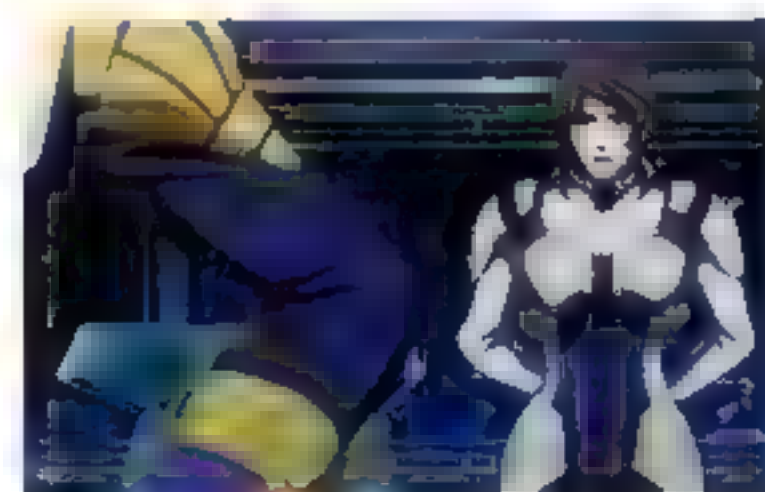
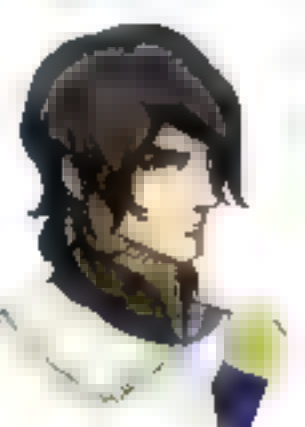
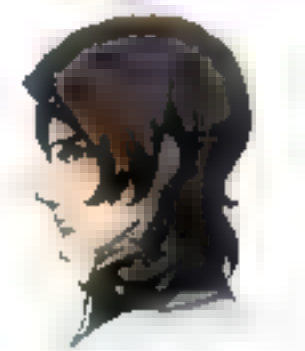
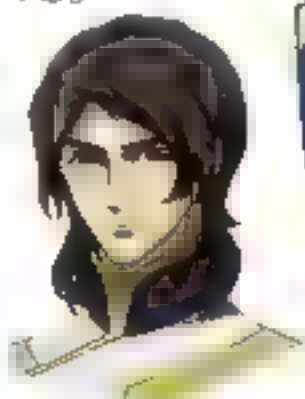
ISURUGI CAMICE

地球外縁軌道統制統合艦隊の司令に就いたマクギリスの副官。非常に寡黙で冷静。かつてアインがガエリオに言ったように、ギャラルホルンのなかでも地球外出身者は差別の対象になっており、行動もまたコロニー出身者のため、さまざまな辛酸を味わい、あすの夢も見られない境遇にいた。石動がマクギリスの腹心となり革命に参加したのは、自分のような者にも夢を見させてくれる、希望の光を与えてくれたからであった。

Premium Topics

チョコの人

マクギリスがバエル奪取に向かっているさなか、三日月はチョコを食べていた。「チョコは？」という三日月の問いに、石動がイコール、マクギリスとつなげたということは、三日月はまたマクギリスにチョコをもらったのだろう。感情を出すことのない石動も、このときはあきれたように「准将を变な名で呼ぶな」と苦言を呈していた



有能な副官

マクギリスとは監査局時代から面識があり、独自の情報網で圏外圏の情勢に通じている。MSの扱いにも優れる有能な副官だが、マクギリスの引き立てがなければ地方の監査局でくすぶっていたのだろう。たとえ駒に過ぎないと知っていても、未来のために付き従ったのは当然のことだった

私服



トド・ミルコネン

TODO MIRCONEN

鉄華団の前身であるCGSの元社員。鉄華団団員にとっては一応先輩だが、誰も尊敬していない。マクギリスに拾われてから、そのままモンターク商会で働いていたようだ。泥船はさっさと見限りそうだが、意外にも最後までマクギリスのそばにいたのは、このトドであった。

ライザ・エンザ

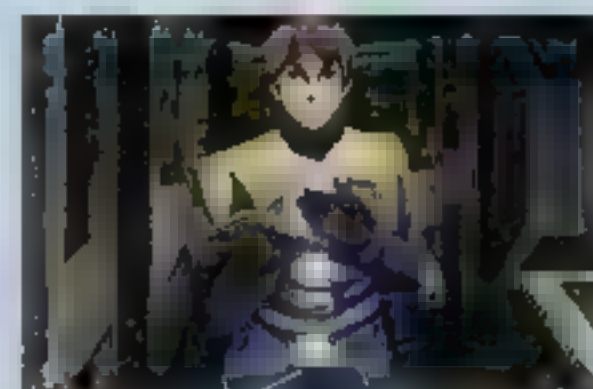
LIZA ENZA

マクギリスの革命軍に参加した青年将校たちのリーダー。革命軍の多くは石動のような境遇の兵士だが、将校たちは別。そもそも特別な事情がない限り、今のギャラルホルンで地球外出身者が将校になることはかなわない。ライザをはじめとする将校は、ギャラルホルンの現状を憂い、立ち上がった者たちだ。政治抗争に腐心し、民間人を虐殺してなお権力の座にありつづけようとする、腐敗したギャラルホルン中枢の一掃をめざしている。理想を胸に戦うライザたちだが、苦勞のない立場だから語れる青くさいその理想をマクギリスに利用されたとも言えるだろう。

Premium Topics

悪いやつじゃないが……

鉄華団にも素直に賛辞を贈るライザは決して悪い人間ではない。しかし無意識のうちに相手を下に見ているから出てくるとは態度、そしてオルガに握手を求めるその姿は、以前のクーデリアにも重なるものがあつた





ギャラルホルン

アルミア・ボードウィン

ALMIRIA BAUDUIN

ボードウィン家のひとり娘アルミアは、マクギリスと婚姻を結び、その妻となった。兄の死の悲しみをマクギリスが埋めてくれていたが、生きていたガエリオの演説で真実を知る。利用されていたと知ったアルミアは現われたマクギリスに刃を向けるが、どうしても彼への愛を捨て切ることができなかった。兄に似て、純粋で裏表のない性格。マクギリスが反乱分子とされた後でもマクギリスの妻であることをまっとうした。



ヴィダール

VIDAR

正体を隠すために仮面をかぶったガエリオの姿、マクギリスの真意がただ自分のためだけに力を求めていると見定めた後は仮面を脱ぎ、マクギリスを逆賊として討つ覚悟を決める。



Premium Topics

ヴィダールという名の意味

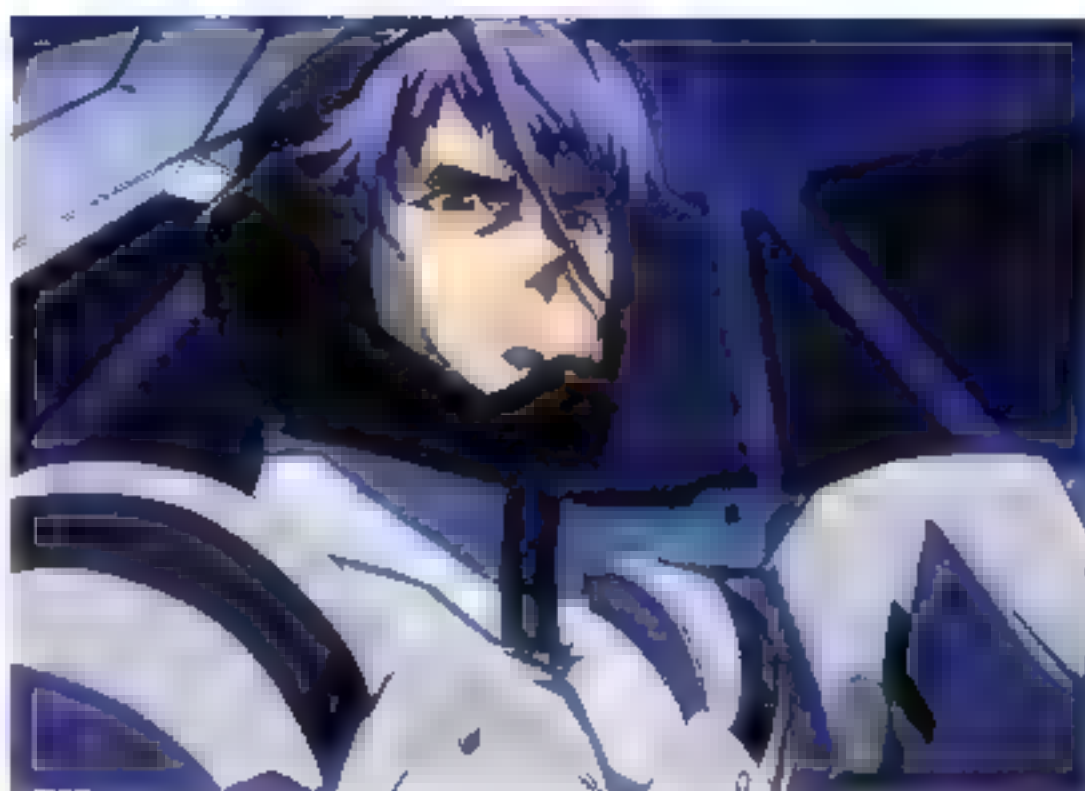
ヴィダールは北欧神話で語られるオーディンの息子。怪物フェンリルを討った神であり、フェンリルを家紋に掲げるファリド家に対する暗示として名のつたのかもしれない



ガエリオ・ボードウィン

GAELIO BAUDUIN

エドモントンの戦いで所属不明のMSに襲撃され戦死したと思われていたが、実はラスタルに保護され、その庇護下で生き延びていた。清廉潔白な青年だが、マクギリスに指摘されたように、ボードウィン家という特権階級に生まれたがゆえの視点で正義を語ってしまう人間でもあった。しかし、誠実で実直な性格であることに変わりはなく、裏切られてなおマクギリスの真意を確かめたいとしていたのは、どこかでかつての親友のことを信じていたのかもしれない。1月に圧倒され力を欲したジュリエッタには、力にとらわれたマクギリス、それに力で対抗するみずからの姿を鏡にし、人のままだに強くなれと説いた。



学生時代のガエリオとマクギリス

学問も武道も、何をさせてもマクギリスは優秀だった。ガエリオがかなうものではなく、いつしかマクギリスに追いつくことがガエリオの目標になっていたのだが



イオク・クジャン IOK KUJAN

セブンスターズの一角、クジャン家の当主。ラスタル麾下のアリアンロッド艦隊に所属し、艦隊の一部を任されている。家柄と血脈を重んじ、ファリド家当主とはいえ、妾の子であるマクギリスがセブンスターズの席にいることを快く思っていない。思慮が浅く、短絡的な行動が多いため、MAを目覚めさせ、ジャスレイに糸を引かれて行なったタービンス殲滅戦では禁止兵器ダインスレイヴをもち出すという暴挙に出た。しかし、そんなイオクだが部下からの人気は高く、イオク自身も部下に報いてあげようという熱い心をもっている。人をひきつける魅力は何物にも代え難い武器であり、ラスタルは戦士ではなく将としてそこを伸ばすよう期待したが、残念ながらその親心は届かなかった。



ヤマジン・トーカ YAMAZIN TOKA

アリアンロッド艦隊のMS整備主任。ラスタルからの信頼も厚く、ガンダム・ヴィダーのような機密性の高い機体も多く扱っている。レギンレイズ・ジュリアの完成も彼女による仕事で、グレイズ・アインからのデータ引き継ぎも行なっている。ギャラルホルンのなかでは珍しく阿頼耶識を否定せず、技術のひとつとしてとらえているようだ。

Premium Topics

イオクの攻撃は当たらない

やたら出撃したがるイオクだが、パイロットとしての技量はかなり低い。格闘戦で何かあったら困るため、部下たちはイオクに狙撃機体を用意した。その狙撃もへたに避けるほうが当たりそうなくらいの的外れな腕前だが、MA戦では奇跡的に命中。逆にその行為が鉄華団の作戦を邪魔することとなった



ジュリエッタ・ジュリス JULIETA JURIS

アリアンロッド艦隊のエースパイロット。ジュリエッタもまた家柄をもたない出自のため、ギャラルホルンのなかで差別を受ける対象だった。しかし、MSの操縦技術が飛び抜けて高く、それを見たラスタルに引き抜かれる形でアリアンロッド所属になった。崇拝するラスタルの剣であることがジュリエッタの存在意義だが、戦場ではイオクの補佐（お守り）を任されることが多く、イオクの暴走がラスタルの汚点になるのではないかと、苦々しく思っている。ルプスレクスに完敗したものの、その戦いのなかで逆に「日月の異質性に気づくこととなり、自分は人間らしく強くなると決意した。





ギャラルホルン



セブンスターズの制服

ラスタル・エリオン RUSTAL ELION

月外縁軌道統合艦隊アリアンロッドの総司令官であり、セブンスターズの一角、エリオン家の当主。豪放磊落な人物で、部下はもとより、同じセブンスターズのイオクも、ラスタルには全幅の信頼を置いている。ジュリエッタを重用しているように、出自にとらわれない能力優先での登用を行ない、一方でイオクのような人物を育てようという懐の深さをもつ。エドモントン戦でマクギリスに敗れ瀕死だったガエリオを救った。鋭い洞察力、先を読む力、そしてガエリオの助言も得て、ことごとくマクギリスの先手を打ち、鉄華団ともども追い詰めていった。

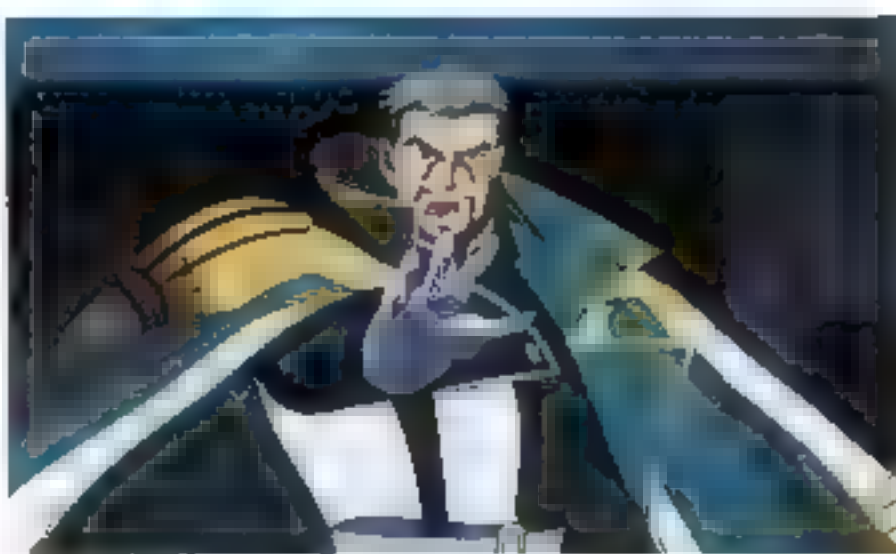


月外縁軌道統合艦隊アリアンロッド

9つの艦隊と40隻以上の戦艦、100機以上のMSを保有するギャラルホルン最大の艦隊部隊。圏外圏での敵性勢力の排除とコロニーの治安維持を受け持ち、実戦経験は豊富。ラスタルの統制の下、独自の行動権限をもっている

ギャラルホルンありきの正義

能力主義、古き慣習にとらわれない思考をもちながら、マクギリスの押し進める革命をよしとしない考えももつ。腐敗の一掃、改革は望むべきだが、あくまでギャラルホルンありきがラスタルの考え方と言える



セブンスターズ

ギャラルホルンの中枢を担う7つの家門。第1席のイシュー家は現在当主不在。初代当主は厄祭戦時代のガンダム・フレーム機のパイロットで、MAを撃破した数で席順が決定された



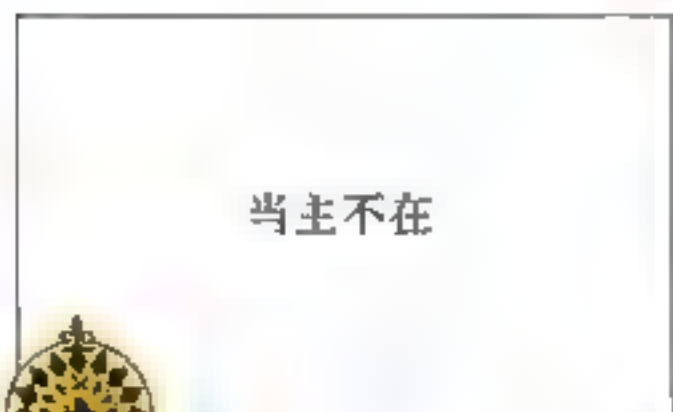
エリオン家



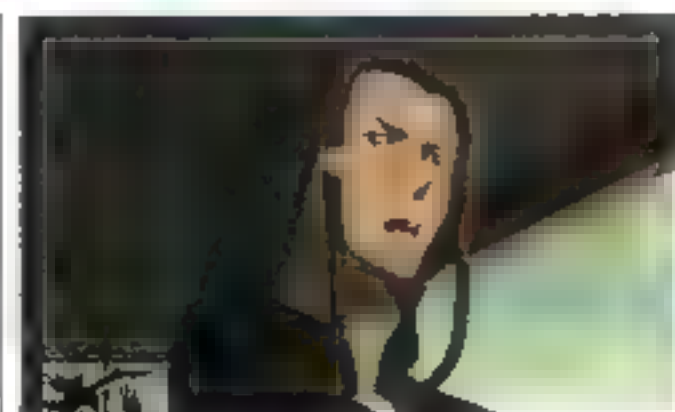
ファリド家



ファルク家



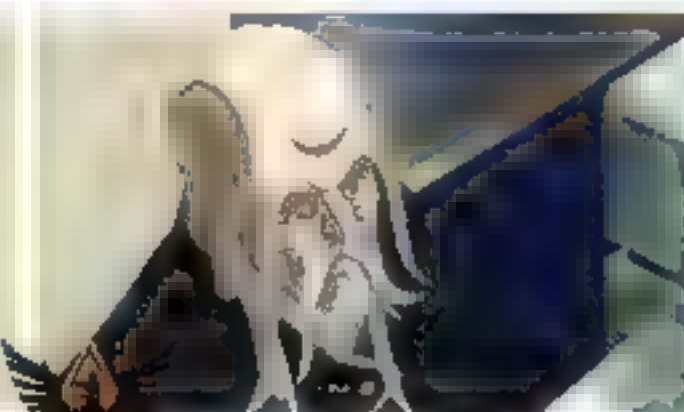
イシュー家



クジャン家



ボードウィン家



バクラザン家



その他の人物たち

ガラン・モッサ

GALAN MOSSA

熟練の傭兵。アーブラウに雇われ、SAUとの紛争に力を貸す。的確な戦術眼で鉄華団を助けるが、正体はラスタルが送り込んだ工員であり、アーブラウ軍事顧問となった鉄華団の妨害と、任務上介入してくるであろうマクギリスの暗殺が目的であった。ラスタルとはギャラルホルン訓練学校時代からの友人で、ジュリエッタに戦闘を教え込んだ“ひげのおじさま”である。



蒔苗・東護ノ介

MAKANAI TOGONOSUKE

アーブラウ代表に返り咲いた蒔苗は、鉄華団の働きに報いるため、彼らをアーブラウの軍事顧問として招聘した。また、クーデリアとの約束どおり火星ハーフメタル取り引きの規制開放も実行。クーデリアにとっては政治の師でもあり、体力の衰えを実感したのちはクーデリアを自身の後継者に指名した。鉄華団を抜けたタカキを秘書として雇っている。



アリウム・ギョウジャン

ALLIUM GYOJAN

活動家団体テラ・リベリオニス代表で、かつてクーデリアを「ノアキスの七月会議」に推薦した人物。火星やコロニーで自然勃発的に独立運動、反体制派への抗議活動が起こりだしたことで、アリウムのような活動家の扇動は必要なくなり、組織は弱体化。そこで、有名になったクーデリアに取り入ることでみずからの地位向上をはかるものの断われ、逆恨みの果てにクーデリアの殺害を夜明けの地平線団に依頼した。



サンドバル・ロイター

SANDOVAL REUTERS

宇宙海賊、夜明けの地平線団の団長。ナイフズも手を焼いていた武闘派集団で、最近急速に力をつけてきた鉄華団を疎ましく思っていた。アリウムからの依頼で鉄華団と戦端を開きみずからもMSユーゴーで出撃するが、バルバトスルプスの前に敗北した。



ノブリス・ゴルドン

NOBLISS GORDON

ギャラルホルンにも通じる武器商人。かつてはクーデリアの暗殺と、それで引き起こされる騒乱に乗じた武器需要の拡大を画策したこともある。現在ではクーデリアの支援者としてアドモス商会をバックアップしていたが、一方ではギャラルホルンとのつながりも保ち、ラスタルに協力。オルガの死の原因をつくった張本人でもある。

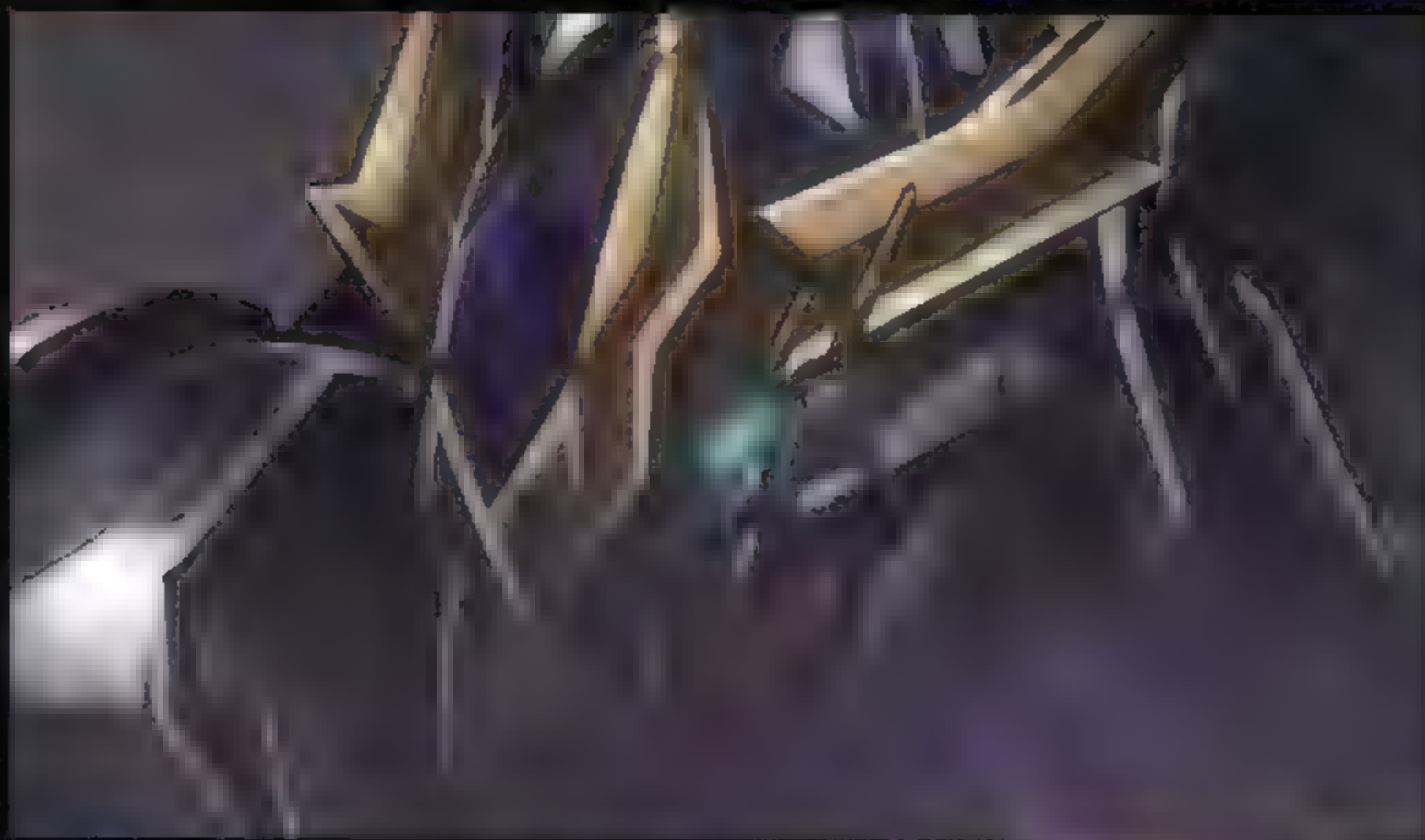


THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-ORPHANS

STORY GUIDE

of second season





私の今の活動に、特定の思想は必要ありません。
今は、口だけで動ける時代ではないのです (クーデリア)



STORY GUIDE

「ほかの人は鬼神とか悪魔とか言ってるけど……こんなの、ただの産廃だろ」

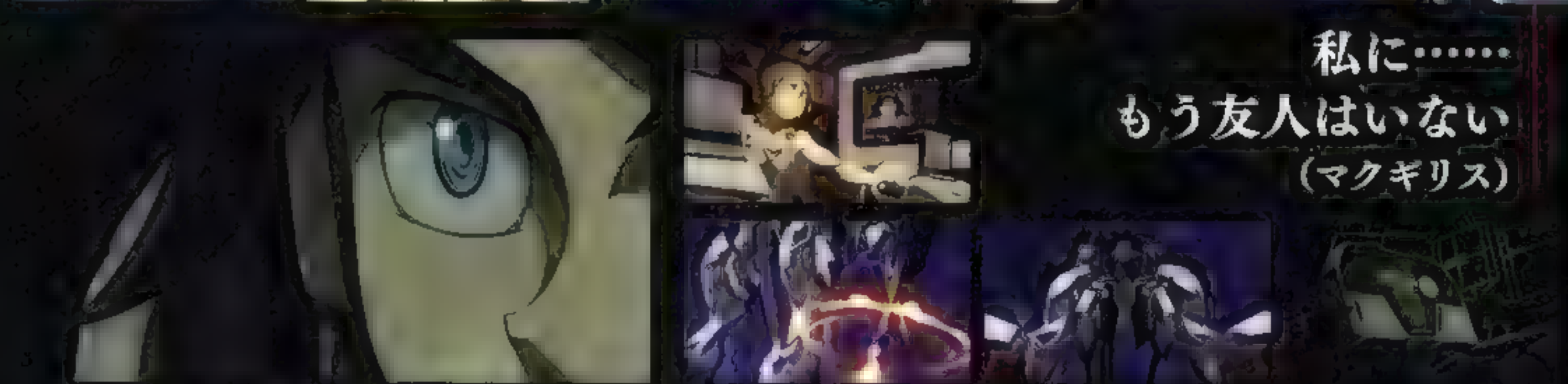
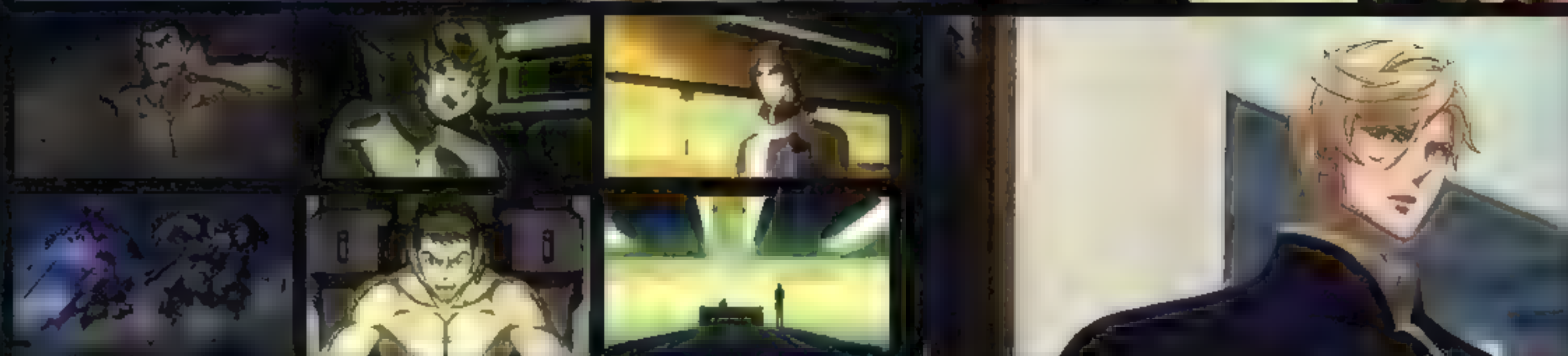
鉄華団新団員のハッシュ・ミディは居眠りばかりする三日月・オーガスを見ていらだっていた。新団員には戦いを知らない者も多い。ハッシュやザック・ロウが古参メンバーの背中に見える阿頼耶識をうらやむように、鉄華団にも新しい風が吹きはじめていた。

再興を急ぐギャラルホルンでは、マクギリス・ファリドがカルタ・イシュー亡き後の地球外縁軌道統制統合艦隊司令に就任。加えて、混乱が広がる火星支部への干渉許可も取りつけた。元来国外圏の治安管理を行なう立場の月外縁軌道統合艦隊司令のラスタル・エリオンは活発なマクギリスの動向に目を光らせる。

一方そのころ、鉄華団はクーデリア・藍那・バーンスタインからハーフメタル採掘現場の視察警護の依頼を受けた。着任から1週間、鉄華団の前に“夜明けの地平線団”が現われる。艦艇10隻、構成員2500のテイワズも手を焼く大海賊が襲撃してきたのだ。新団員にとっては初陣だ。ガラム・ロディで編成された敵MS隊の猛攻に、鉄華団のMS隊とMW隊が押されていた。

そのとき、上空からひと筋の光が戦場へと舞い降りる。ガンダム・バルバトスルプスを駆り、敵から悪魔と恐れられる三日月の帰還だった。空を見上げオルガ・イツカが笑う。

「よおミカ、おかえり」
「うん、ただいま」



私に……
もう友人はいない
(マクギリス)

土台のねえ俺らは、進みつつけることでしか、
自分たちの居場所を守ることにはできねえんだ (オルガ)

STORYGUIDE

“鉄華団の悪魔”——土煙を上げ敵MSを次々にほふるガンダム・バルバトスルプスにより、敵は撤退した。宇宙で指示を出していた夜明けの地平線団の団長サンドバルロイターは、その戦況を受け鉄華団に対し本格的な敵対行動に出ることを決める。依頼主である活動家アリウム・ギョウジャンの意見はもはや届かない。

敵の標的となったクーデリアは、保護されている鉄華団火星本部の中で三日月やアトラ・ミクスと久しぶりの再会を果たしていた。エドモントンでの死闘により、右手と右目に後遺症を負った三日月だが、ほかに変わりはないようだ。アトラは手作りのプレスレットをクーデリアに渡す。変わらない三日月とアトラのようすに思わずほほ笑みがこぼれるクーデリアだった。

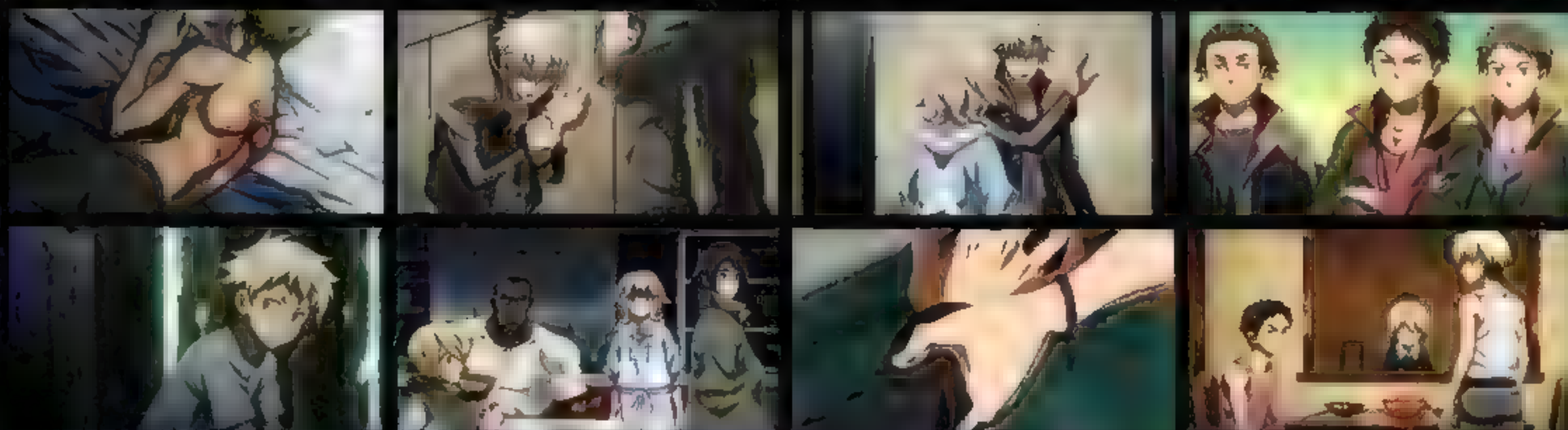
そのころ、オルガはマクギリスとの密談をかわしていた。マクギリスからの依頼内容は夜明けの地平線団の討伐。お互いの利益となる話だと、オルガは親組織であるテイワズに許可を得、交渉の成立を果たす。

ハッシュは過去の出来事から三日月を目の敵にしていた。自分もMSに早く乗りたい、阿頼耶識手術も受けたいとナディ・雪之丞・カッサバに談判するが、手術は年齢的に手遅れだと論されてしまう。一方、鉄華団地球支部ではまとめ役のチャド・チャダーンと監査役のラディーチェ・リロトの意見に食い違いが起こっていた。それは鉄華団全体を尊ぶチャドと、地球支部のみを見るラディーチェの視点の違いだった。それは、やがて起きる悲劇へと拡大していくこととなる――

鉄華団はやめるもやめないも自由だ。
生きるも死ぬも、自分で選んでいいんだ (昭弘)



3人おそろい。
これで、どこにいたっていつでもいっしょだよ (アトラ)





STORYGUIDE

夜明けの地平線団とのいさかいが落ち着くまで桜・プレッツェルの農園に身を隠すクーデリア。宇宙では鉄華団がマクギリスの部下石動・カミーチェと合流するが、やってきたのは艦艇たった一隻。心もとなさにオルガたちは首をかしげつつ、夜明けの地平線団旗艦撃破をめざし行動を開始する。石動の情報によると敵は分散して移動している。やがて感知されたエイハブウェーブは情報どおり、旗艦を含む3隻だった。だが――

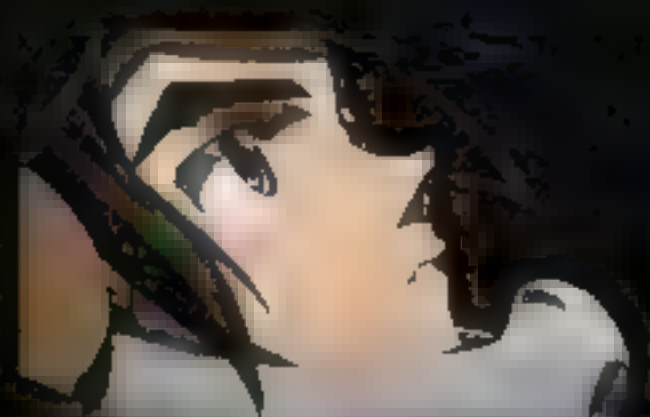
「おいおい、冗談さちいぜ……!」

偵察に出たノルバ・シノが驚きの声を上げる。エイハブ・リアクターを切った7隻を、3隻が曳航する形で襲撃してきたのだった。オルガはサンドバルからの降伏勧告を突っぱね、戦いの火ぶたは切って落とされた。敵MSを斬り裂くバルバトスルプス。ガンダム・グシオンリベイクフルシティの鉄鉄もうなり、ユージン・セブンスタークの指揮するイサリビが戦場をかき回す。戦闘と補給を繰り返す鉄華団。アトラは補給に戻った三日月の右手を見て息をのむ。動かないはずの右手が、バルバトスルプスと阿頼耶識でつながっているときだけ、確かに動いていた。

戦力差と持久戦で追い詰められていく鉄華団。そこに駆けつけたのはギャラルホルンの増援、ラスタル率いるアリアンロッド艦隊だった。マクギリスとの取り引きを成立させるためには、サンドバルの身柄をラスタルに引き渡すわけにはいかない。サンドバルのMSユーゴーに迫る三日月の前に、アリアンロッド艦隊のジュリエッタ・ジュリスが立ちはだかる。

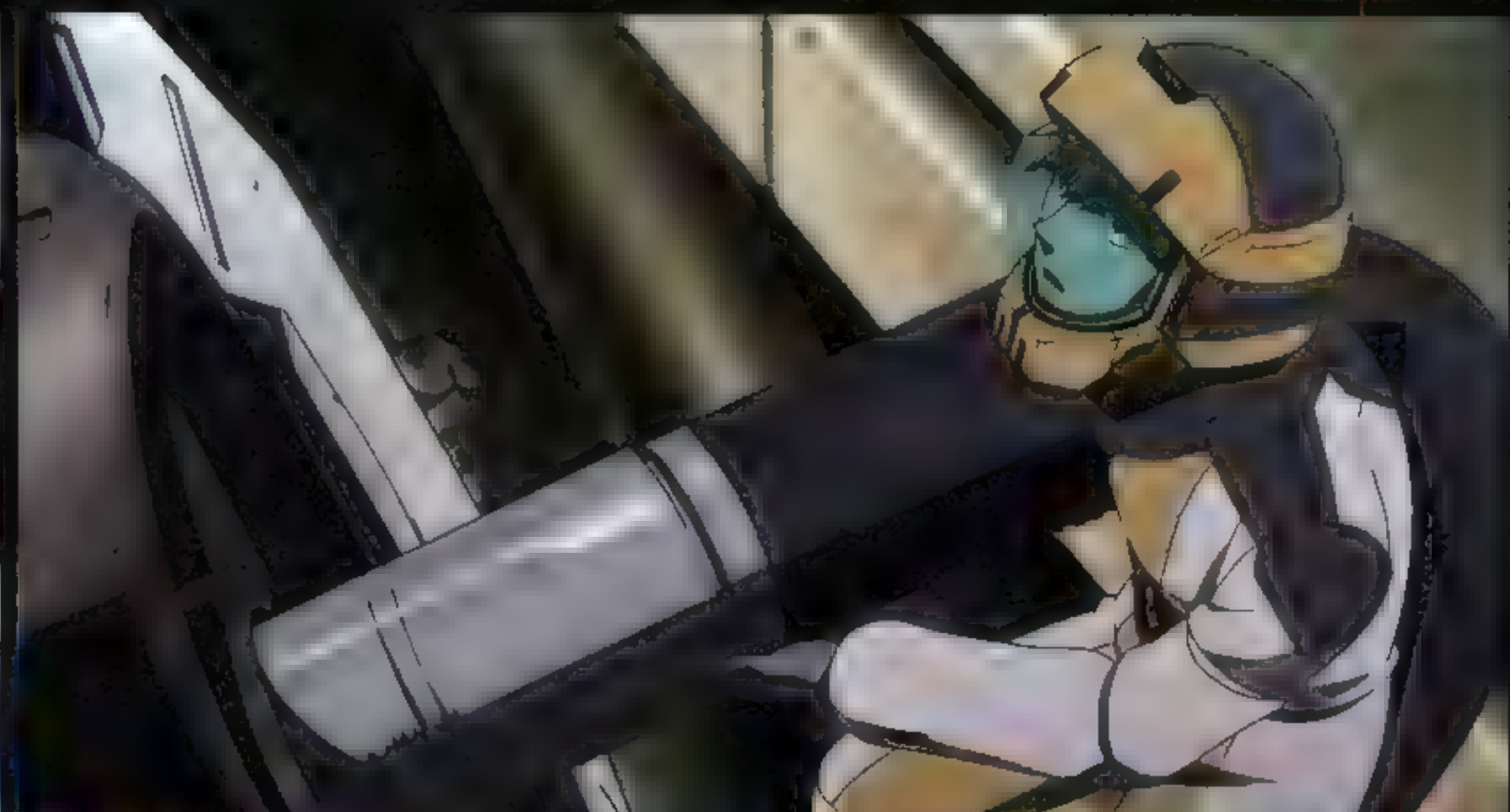
「これは……私の獲物です」

「邪魔だな、アンタ……」



この人がいちばん動いているはずなのに、
推進剤の減りがいちばん少ない。これが……くそ!

(ハッシュ)

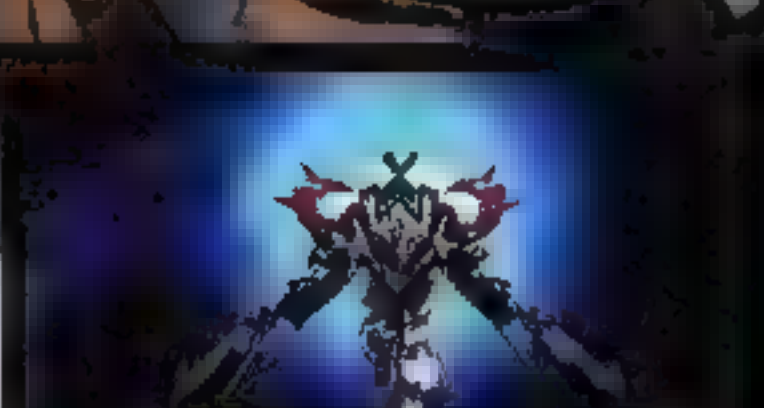


今度は温かいの、食べたいな

(三日月)



じゃあいっぱいいつくって待ってるね! (アトラ)





STORYGUIDE

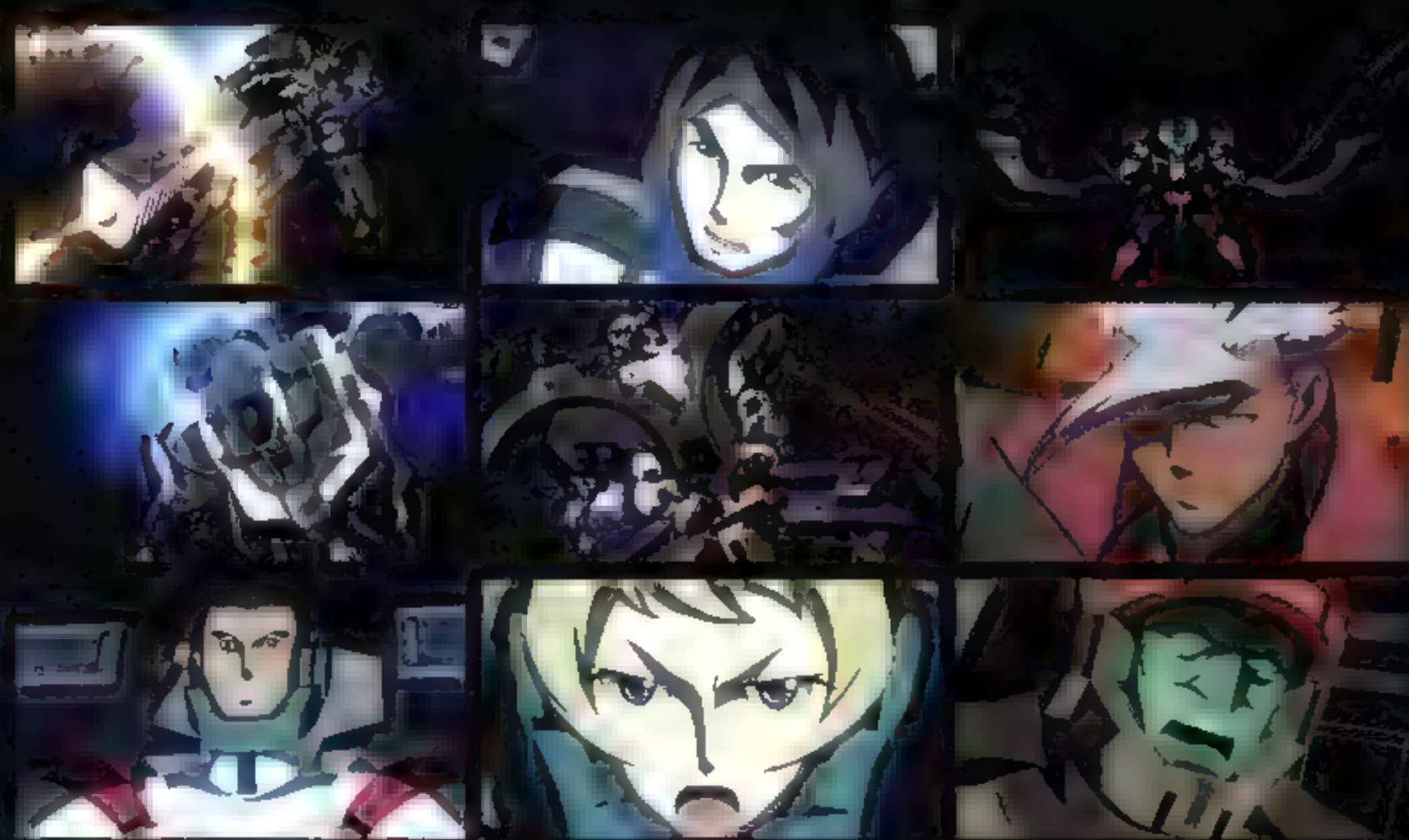
アリアンロッド艦隊のイオク・クジャンとジュリエッタが介入し戦場が混迷するなか、三日月はサンドバルの捕縛に成功する。頭首を失った海賊艦隊はアリアンロッド艦隊に降伏し、夜明けの地平線団は壊滅した。その成果を受けてティワズのマクマード・バリストンは鉄華団にクリュセ領最大級のハーフメタル採掘場を預けることを決めた。一方でティワズNo.2のジャスレイ・ドノミコルスが憎悪の火をくすぶらせ、その動きを名瀬・タービンは不安げに見ていた。

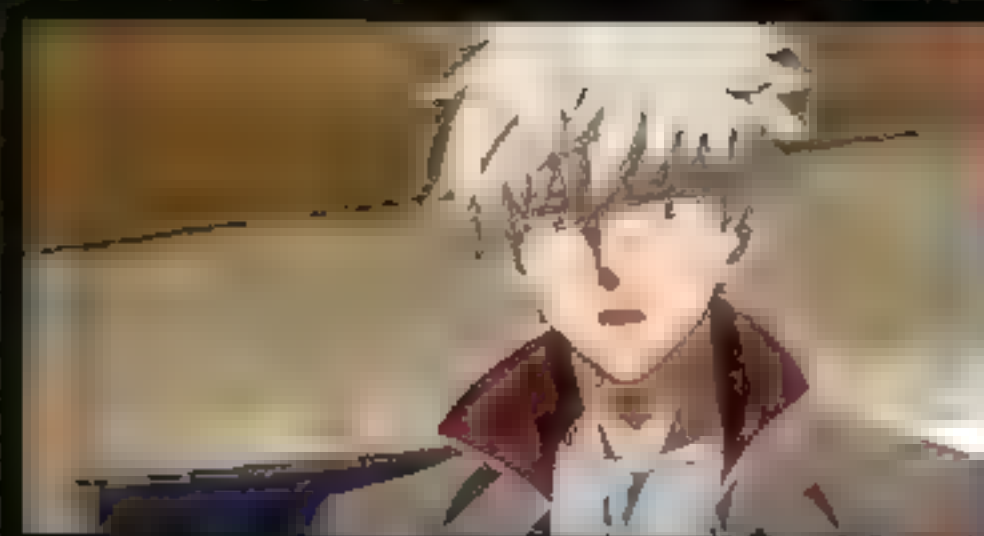
火星ではアリウムに対する、鉄華団の報復が始まった。オルガが三日月を伴い一連の事件の首謀者アリウムのもとへ現われたのだ。そしてオルガの声が重く響く。

「この落とし前……あんたはどうつけるつもりだ？」

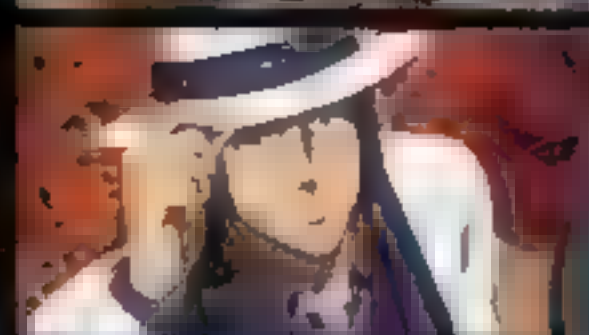
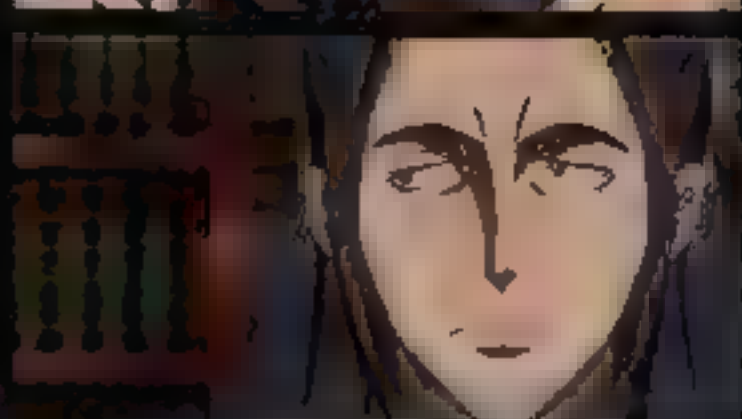
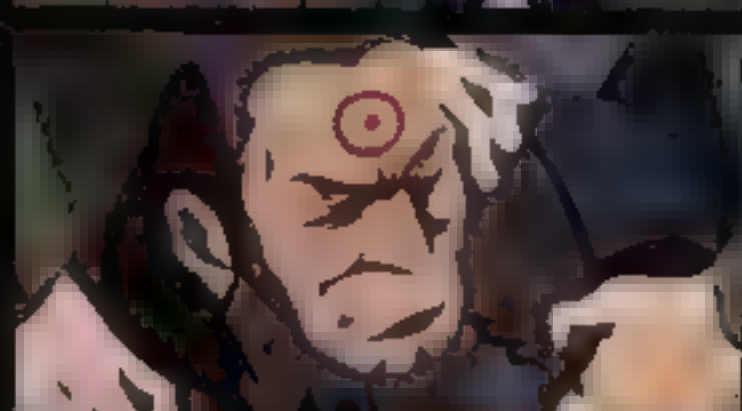
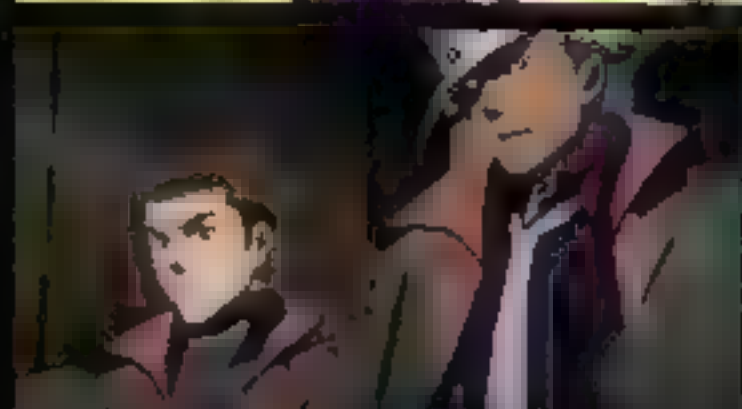
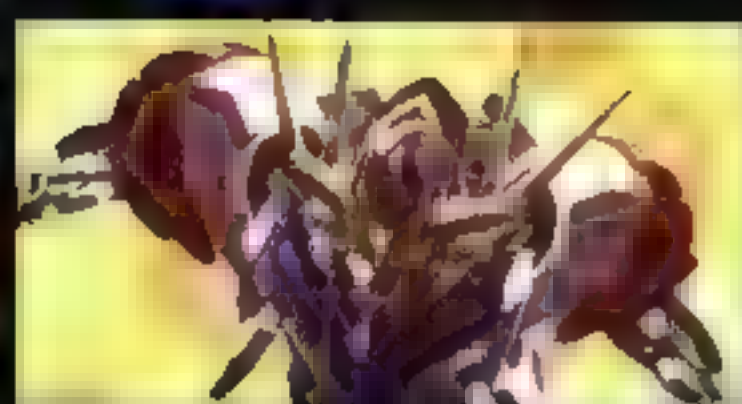
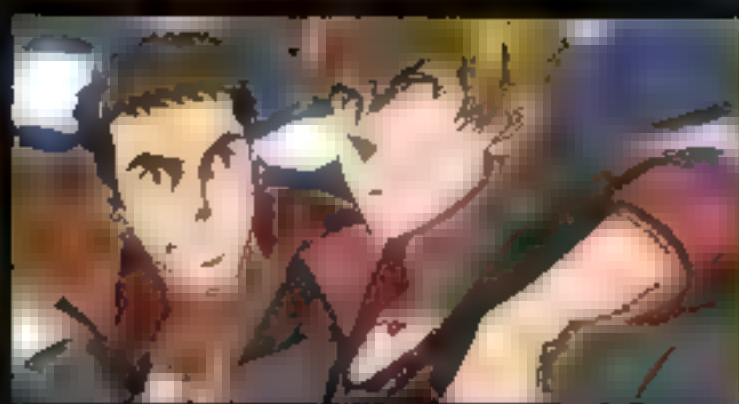
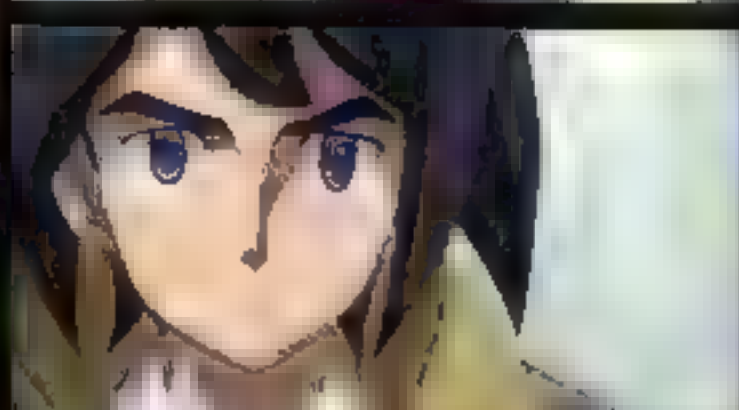
先の戦闘で鉄華団が被った被害総額の倍を要求するオルガ。アリウムはみずから四面楚歌であることにやっと気づく。銃を構える三日月。命乞いもむなしくアリウムは葬られ、クーデリアへの危険は去った。しかし、そのために鉄華団はまた手を血で染めてしまうことになった。彼らの幸せを願う自分がその一因となってしまったことをクーデリアは嘆き、思いを新たにす。

新しく任されたハーフメタル採掘場でガンダム・フレームと巨大な遺物が発掘されていた。オルガと三日月はギャラルホルン火星本部・静止軌道基地アーレスに招聘され、マクギリスと面会を果たす。ギャラルホルン再興のためラスタルより上の地位を狙うマクギリスは、鉄華団の協力が不可欠と判断し多大な利益提供を約束する。こうしてオルガとマクギリスの間で同盟が結ばれた。



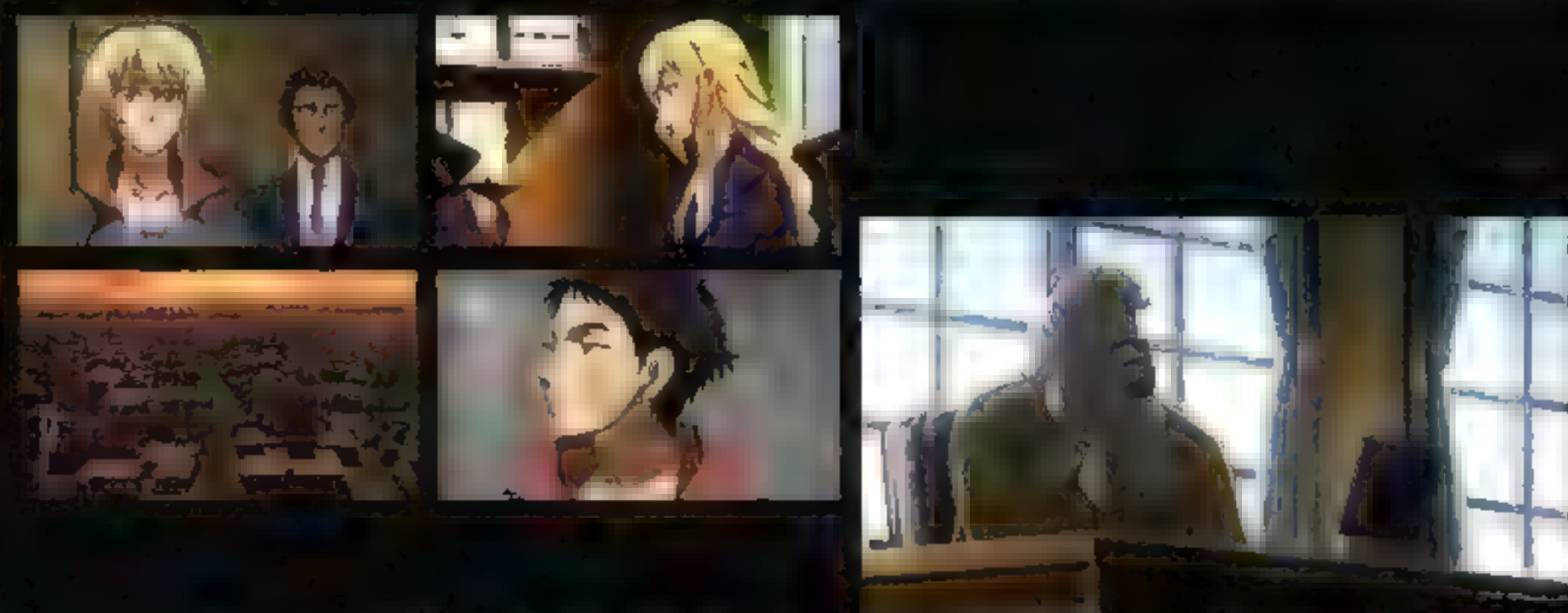


三日月さんより強くなります
(ハッシュ)

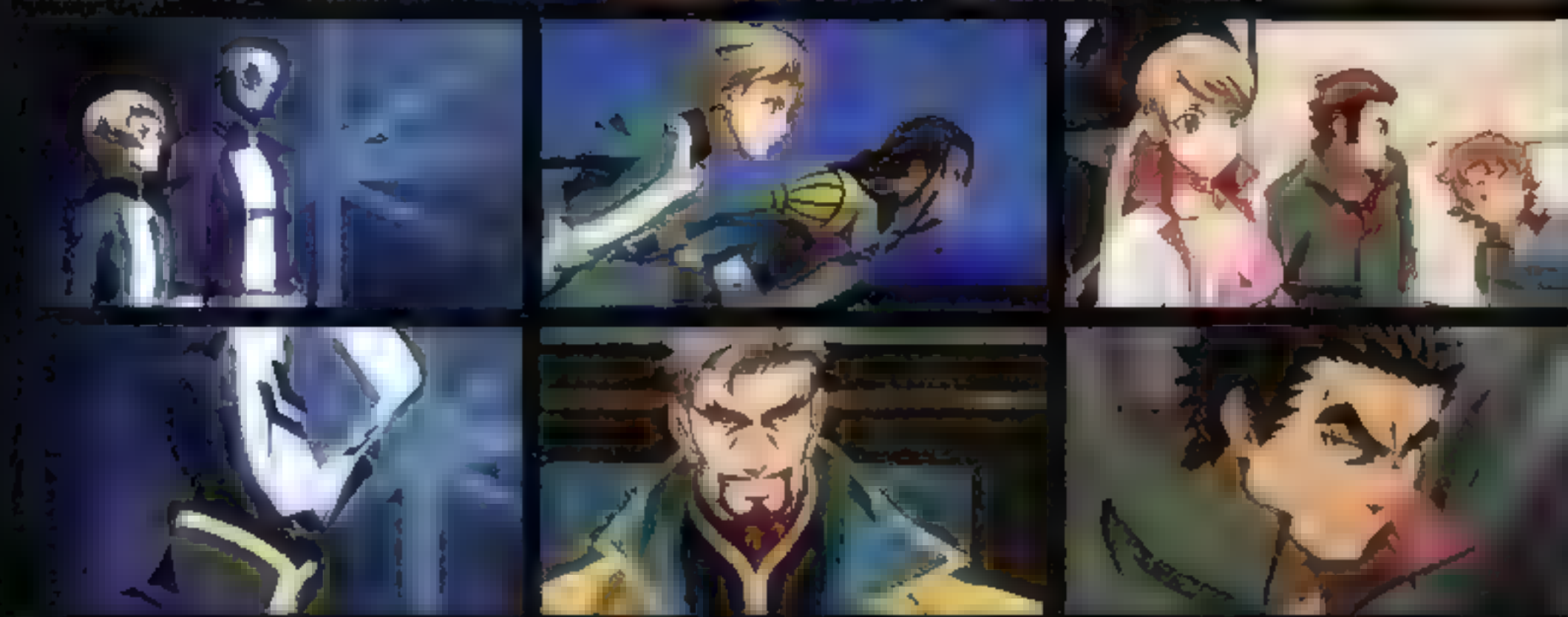


では、ともに駆け上がろうか?
(マクギリス)

アークブラウ防衛軍発足式典



目標へ到達するためには順序が必要だ。
最短を選ぼうとすると必ずしっぺ返しが来る
(蒔苗)



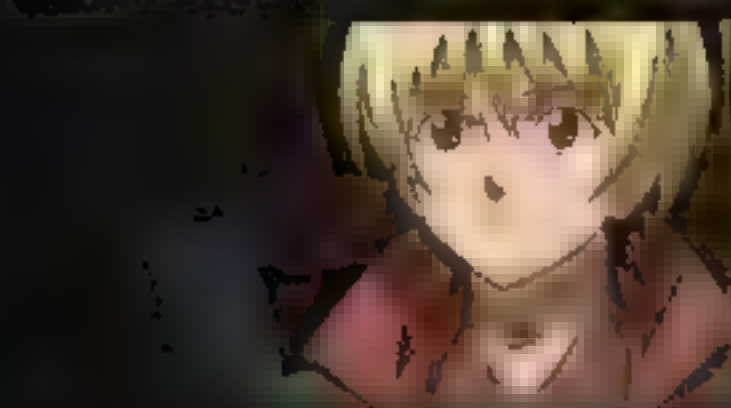
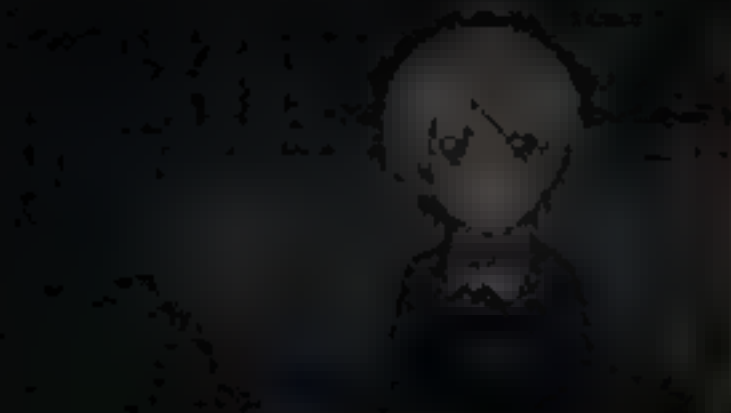
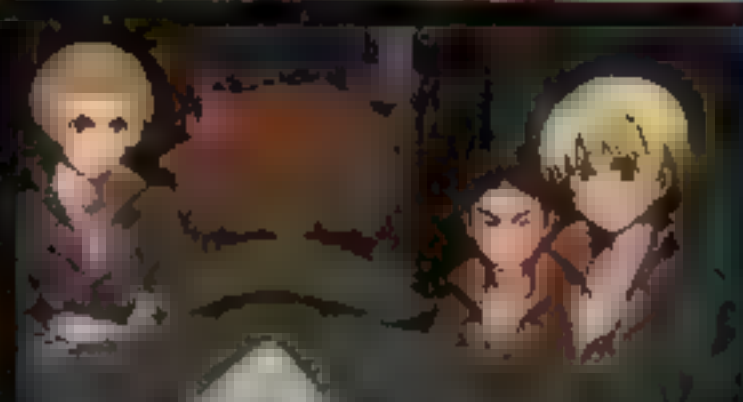
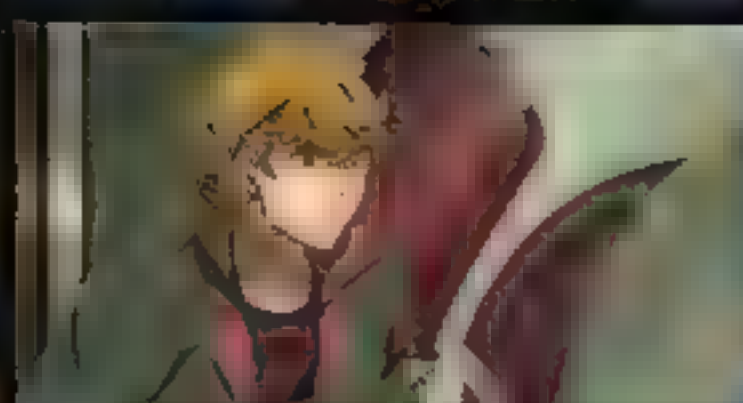
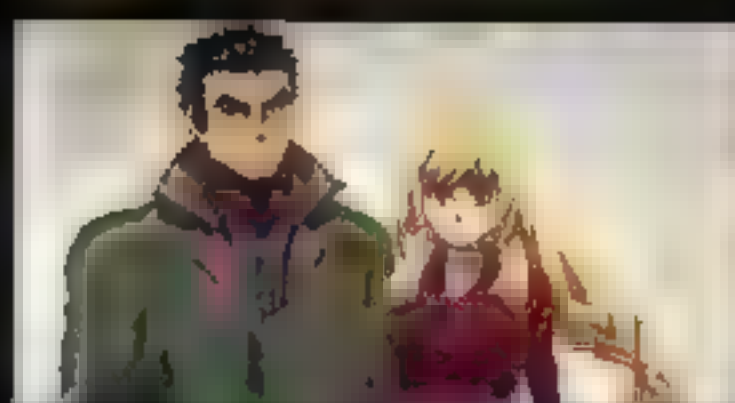
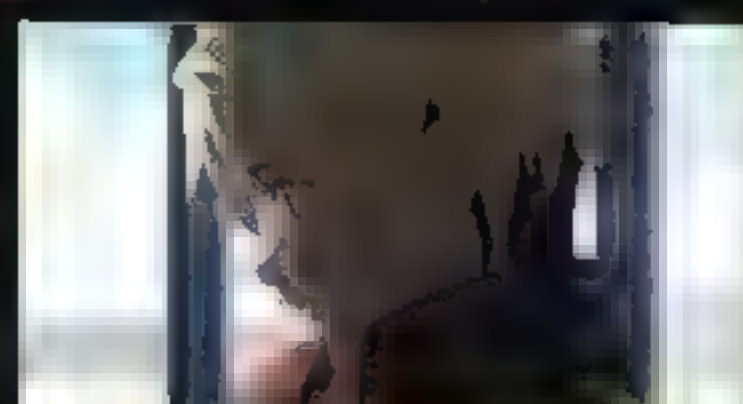
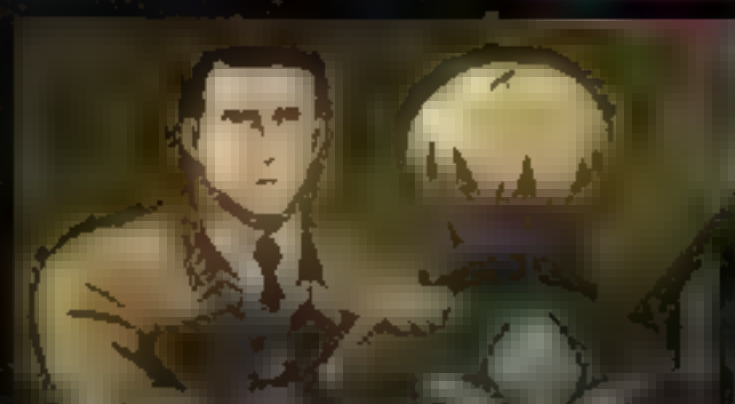
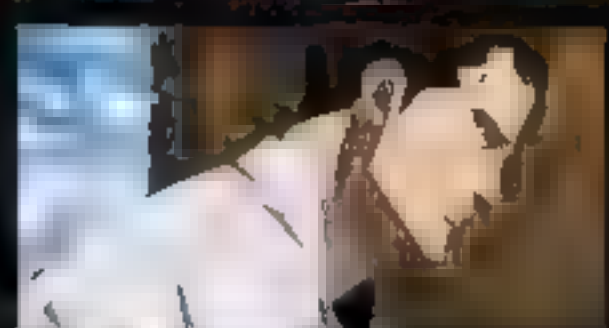
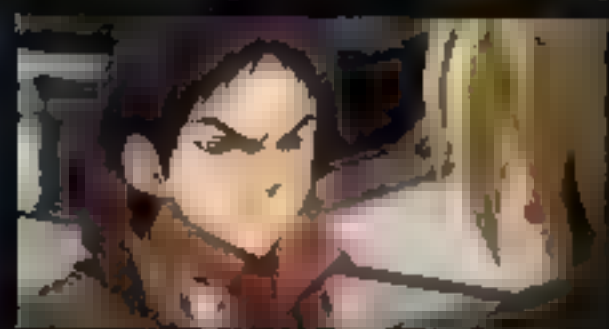
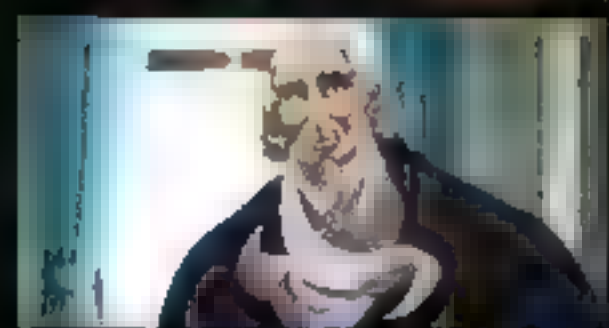
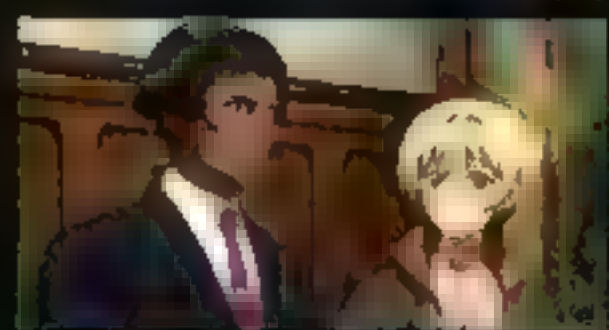
STORY GUIDE

地球のアークブラウ防衛軍発足式典。当日は蒔苗・東護ノ介の警護にチャドが就き、ほかの団員は会場の外で警備を行なうことになっていた。迎えた発足式典当日、それは起こった。会場の外を警備する鉄華団の目の前で、式典会場内から爆煙が上がったのだ。そこは蒔苗と警護のチャドがいた場所だった。

黒煙を眺めながらほくそ笑む2人の男——ガラン・モッサと鉄華団地球支部監査役のラディーチェは、地球支部を陥れんと謀略を練っていた。ガランは言う。開幕のろしだな、と。

チャドは一命を取り留めたが、意識不明のまま3日がたった。タカキ・ウノをはじめとする地球支部の団員は戸惑っていた。指揮を執る人間の不在。オルガの指示を仰ごうにも通信を一手に引き受けているラディーチェがなぜか取り次ごうとしない。団長と直接連絡を取りたいと申し出るタカキは、地球支部はあなたにかかっていると諭され、事情を把握できないまま流されていく。そのころ、ギャラルホルン地球外縁軌道統制統合艦隊のもとにSAUから調停要請が来ていた。アークブラウとの緊張感が高まっているなかで、マクギリスは手早く解決したいと考えていた。

ある日、タカキは鉄華団地球支部の応接室で、ラディーチェにガランを作戰参謀として参加する人物だと紹介された。笑みを浮かべながら強く握手をしてきたガランを、タカキは圧倒されながらも受け入れることになる。

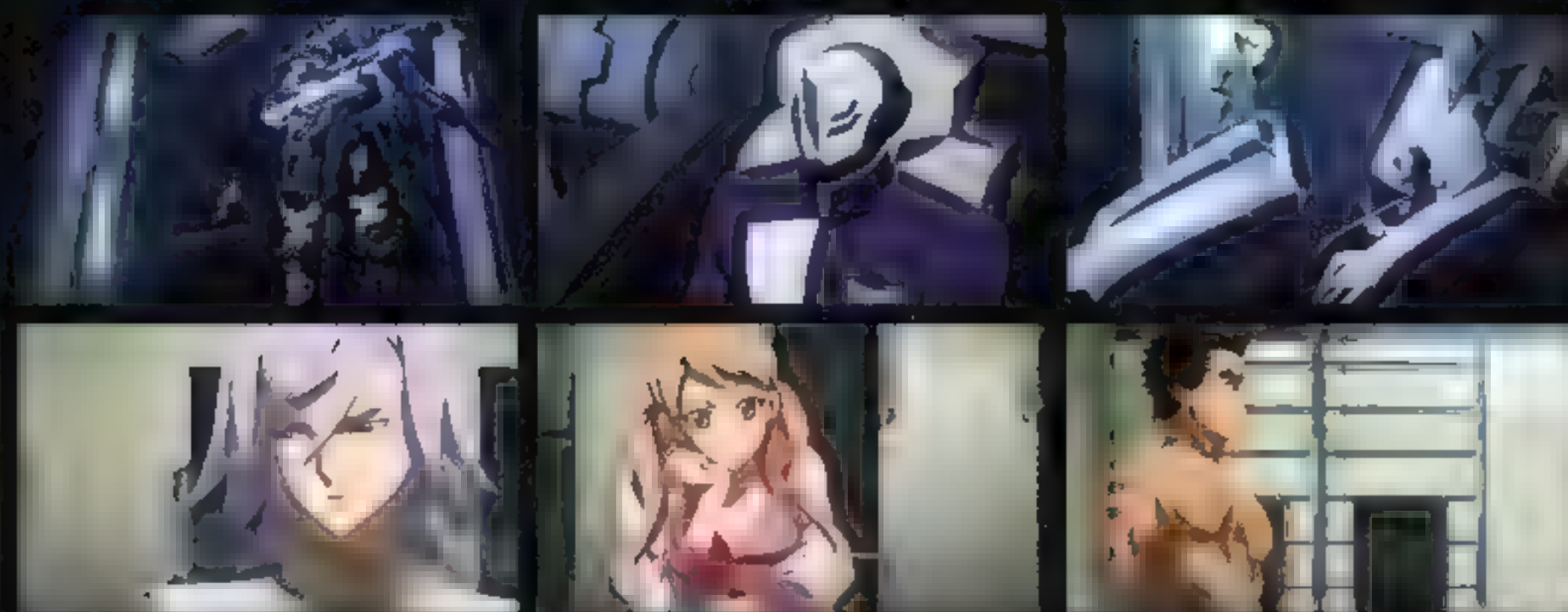
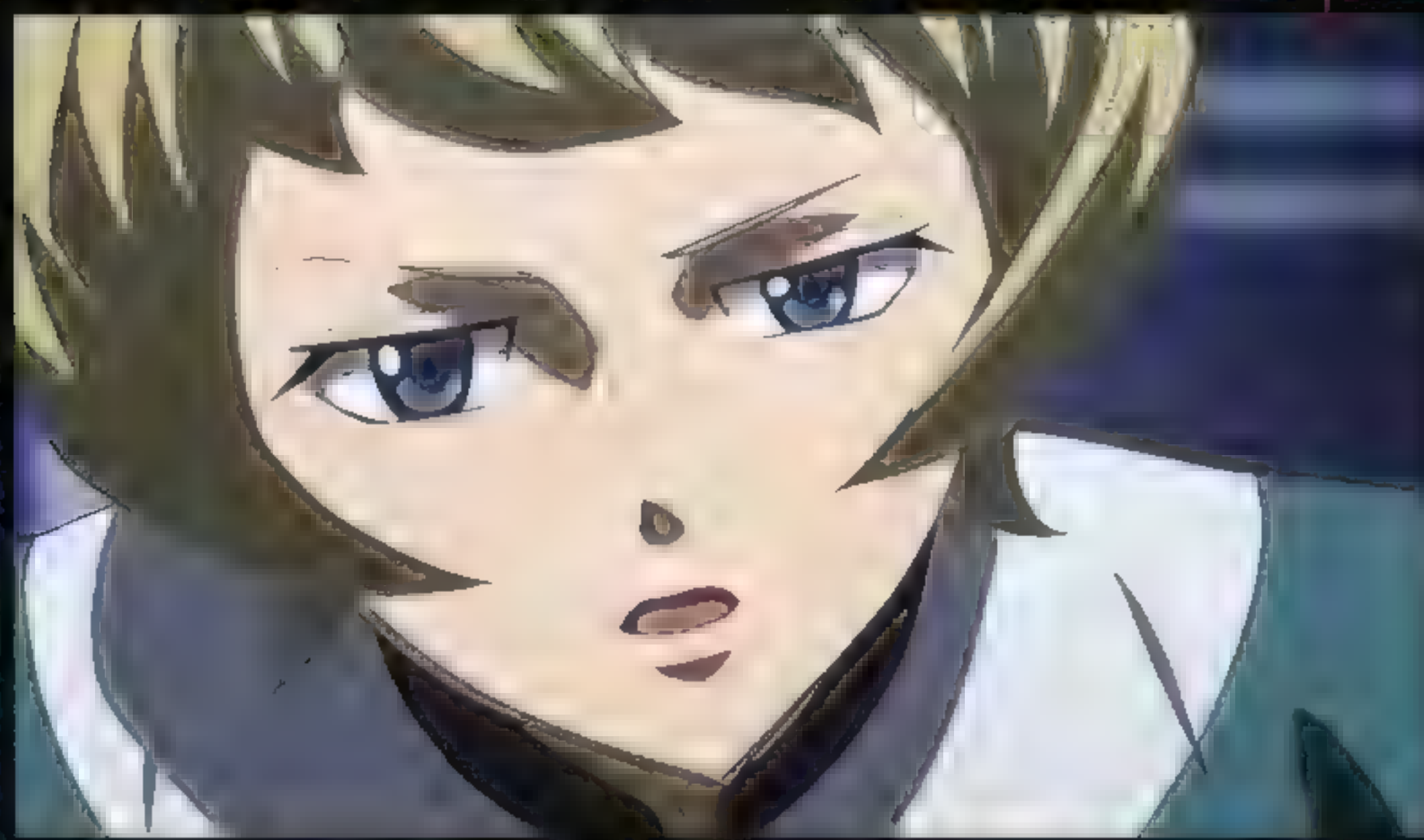


やめてくれ! 死ぬとか殺すとか、
そんな簡単に言っちゃダメだろ! (タカキ)





あなた……何者なのですか？（ジュリエッタ）



STORY GUIDE

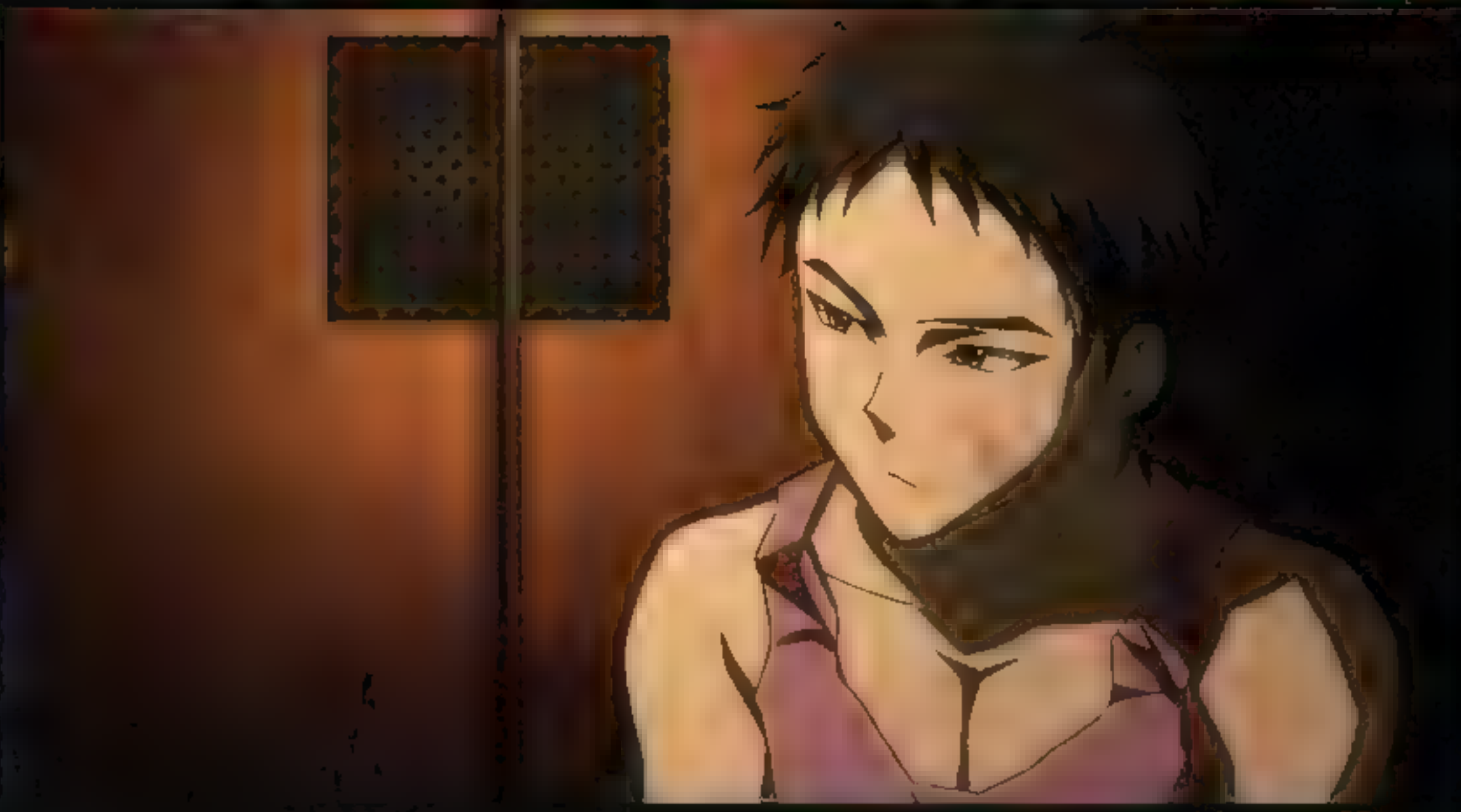
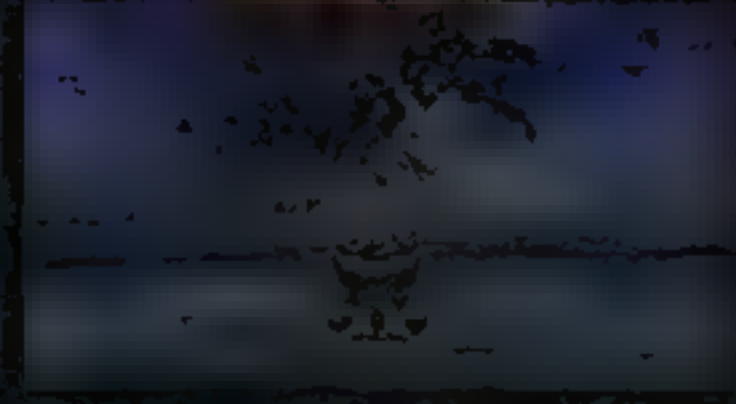
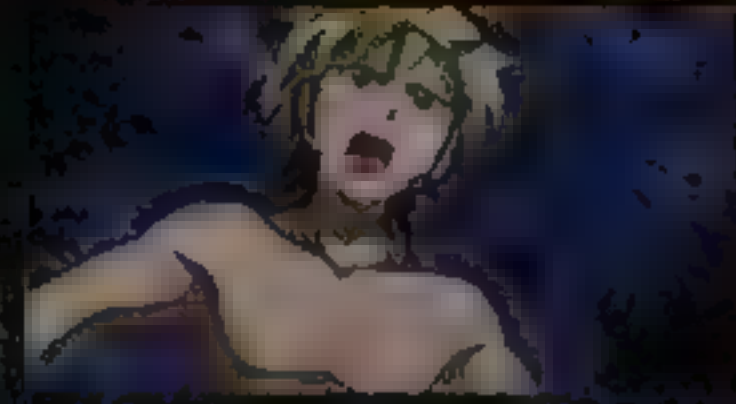
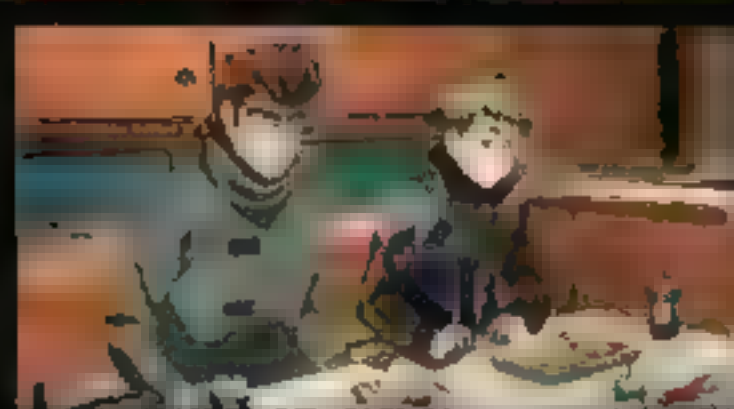
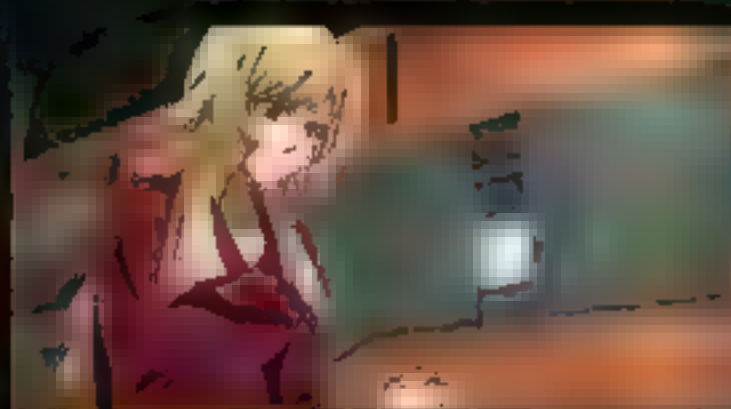
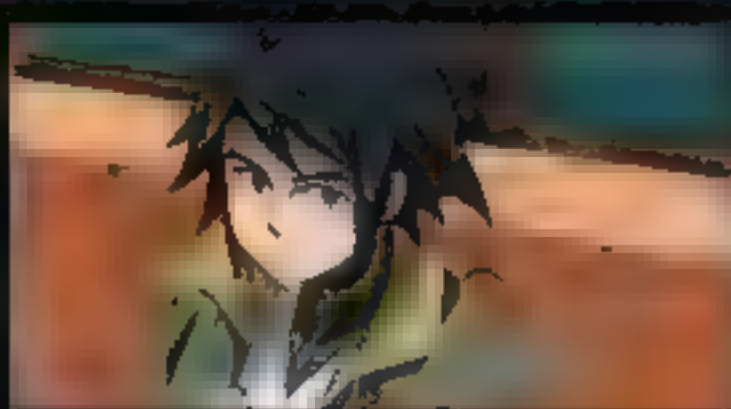
SAU防衛軍、ギャラルホルン、SAU駐屯部隊、地球外縁軌道統制統合艦隊の派遣部隊で混成されたSAU軍と、対するはアープラウ防衛軍、鉄華団、作戦参謀ガラン率いるMS部隊で混成されたアープラウ軍。両軍による戦闘は2つの経済圏がにらみ合う国境地帯・バルフォー平原で始まり半月がたった。タカキたち鉄華団地球支部は矛を収める方法を知らないまま消耗戦に身を投じていた。

ひとり、またひとりと散っていく鉄華団の仲間。戦力の中心となっていたタカキとアストン・アルトランドに、ガランは言う。「お前らを失ったらアープラウ全軍は総崩れだ」。進撃と撤退を繰り返し鉄華団を巧みに操る策士ガランのことばに、2人は懐柔されていく。一方でSAU側に立つマクギリスは、不自然な膠着状態の源に不穏な影を見いだしていた。

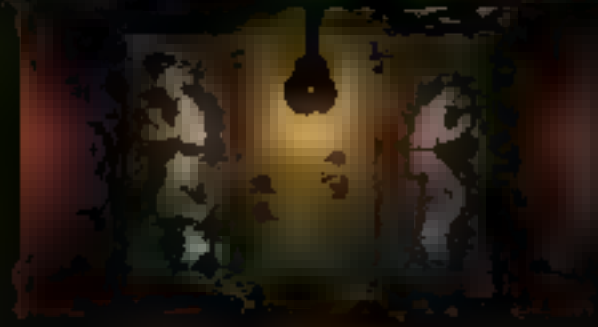
オルガが火星から派遣したホタルビが3週間を経て地球の宇宙港へ到達した。しかし、アープラウは非常事態宣言発令中のため、着港を認められないという。戦闘状態にある仲間を案じ、一刻も早い合流をめざすユージンは一計を講じる。

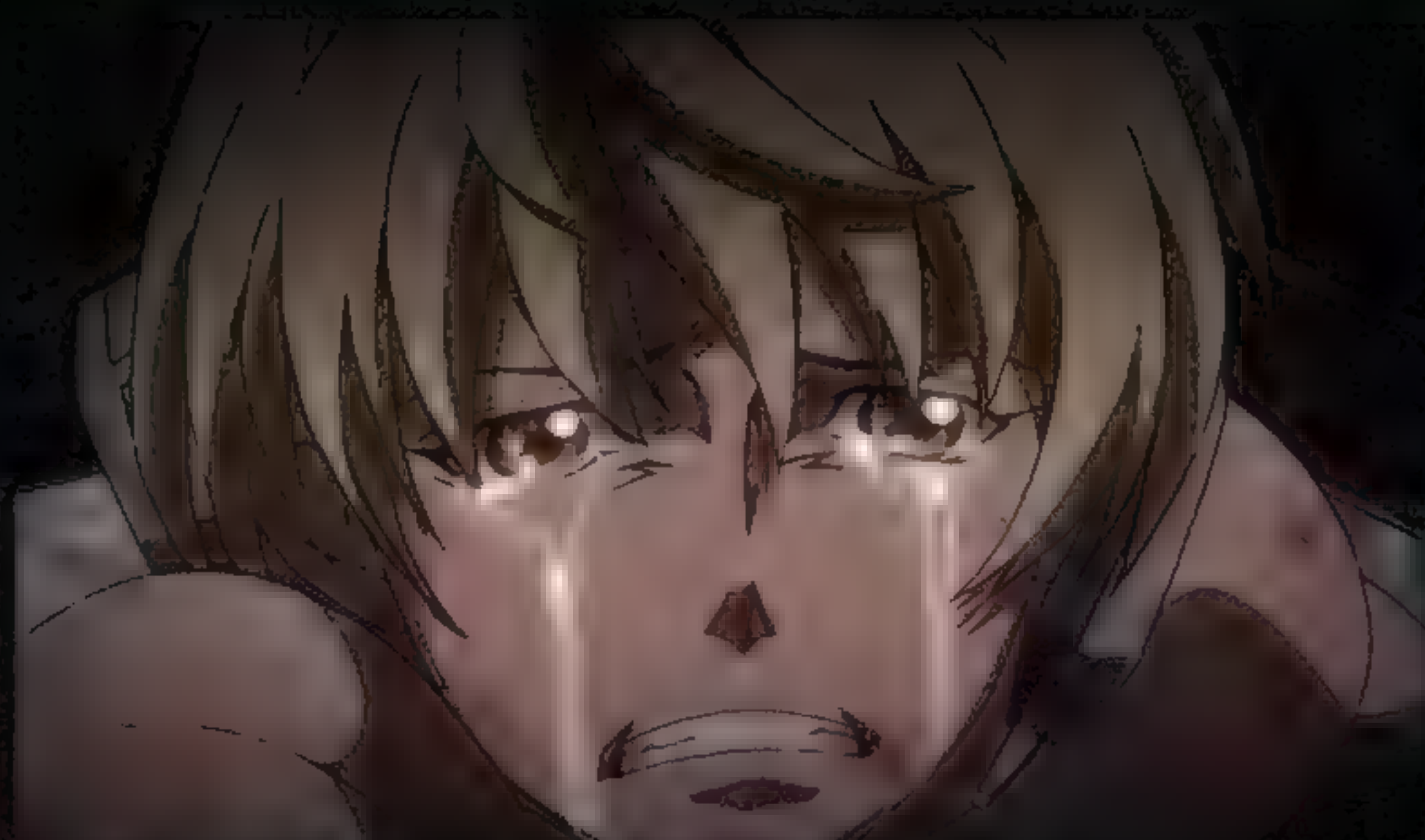
昼夜を問わず戦闘に駆り出される地球支部の鉄華団メンバーたちは消耗し、思考能力も奪われていた。彼らを手のひらの上で弄ぶかのように操るガランは、なおも追い込んでいく。その最中、ガランの耳に、敵軍のマクギリスがみずから戦場に躍り出たとの報が入る。ガランは号令する。

「鉄華団をたたき起こせ！ いいか、これが最後の戦いだ！」



ガランさんはすごい人だよ。
あの人だけにはこの戦いの全体が見えてる……
あの人に従ってれば、きっと勝てる (タカキ)





お前が、隣にいてくれたから……
友達になってくれたから！(タカキ)



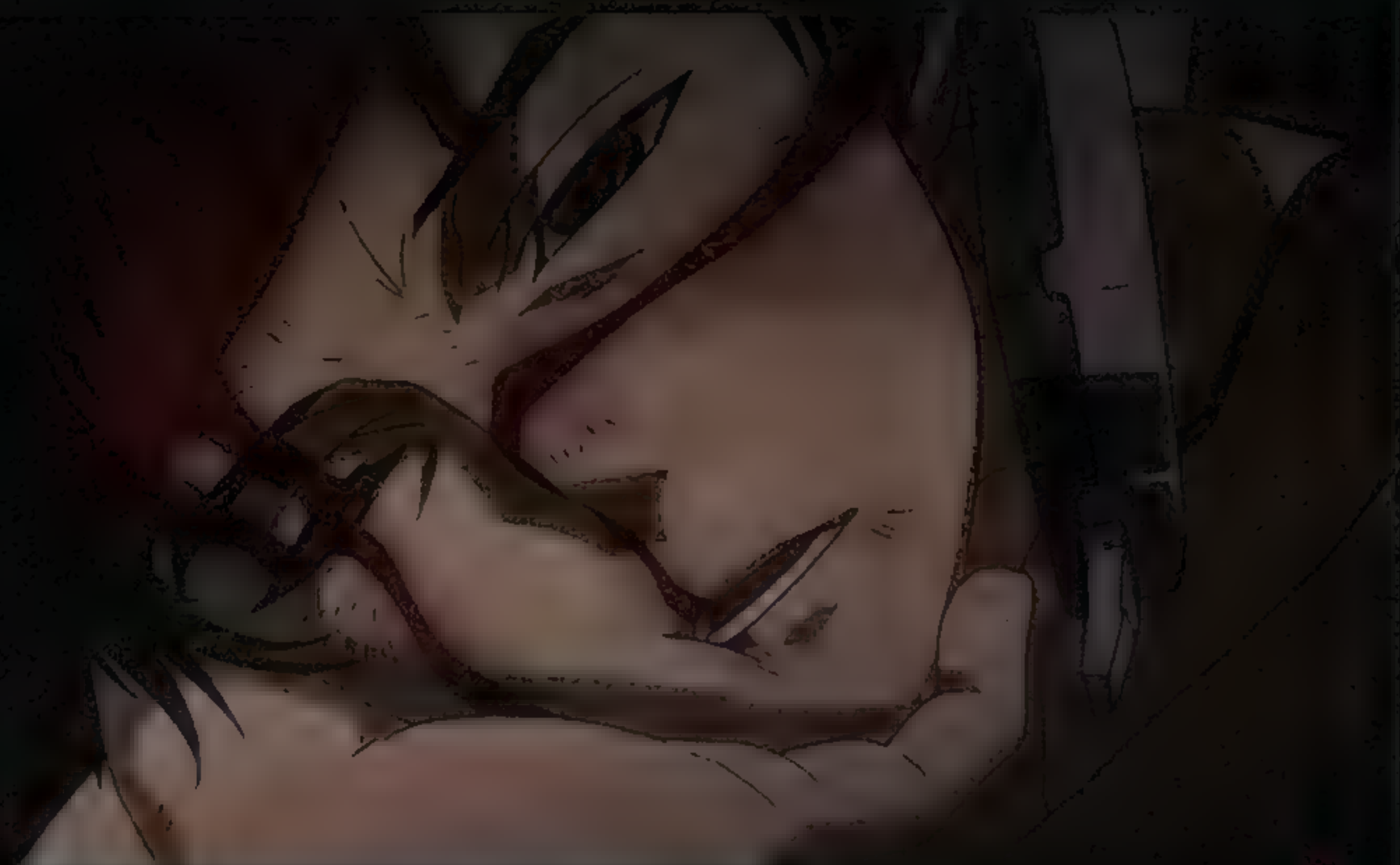
STORYGUIDE

SAU側に立つマクギリスは長引くアーブラウとの戦闘に疑念を抱き、グレイズリッターを駆り事態収束へ向かった。そこにガランの指示で出撃した鉄華団が現われる。タカキたちはマクギリスがオルガと共闘関係にあることすら知らない。対峙するマクギリスの呼びかけも、アストンの制止も聞かず単騎で躍り出るタカキ。マクギリスによる一撃が、タカキに襲いかかろうとしたそのとき、飛び出したアストンのランドマン・ロディに突き刺さる。アストンの捨て身の攻撃により、窮地に陥るマクギリス。しかし、駆けつけたガンダム・バルバトスルプスが場の混乱を鎮めた。タカキと、命尽きようとするアストンを残して――

「でも……ありがとう……」

感情を殺していたヒューマンデブリだったアストンは、鉄華団に入り、そしてタカキとその妹のフウカに出会い、人間として死んだ。それは幸福なことだったのかもしれない。それでも、タカキの悲しみは深く、戦場に響き渡る。

地球支部へ到着したユージン・昭弘、アルトランドら鉄華団はただちにガランを葬り、ラディーチェを尋問した。なぜこのような戦いが起きてしまったのか。鉄華団地球支部を混乱に陥れたラディーチェは弁明を続ける。タカキはその男に銃口を向け、引き金を引いた。それがタカキの選んだ答えだった。すべてを終え帰宅するタカキ。迎えるフウカは兄の表情にアストンの死を悟りおえつする。だが、タカキは血に汚れてしまったその手で妹の肩を抱くことができなかった。



死にたくない……って思いながら……
死ななくちゃいけないんだからな…… (アストン)





君たちは、火星の王になる
(マクギリス)



STORYGUIDE

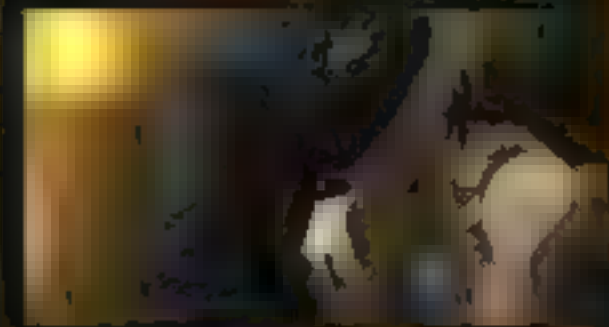
ラストとマクギリスの出会い
はマクギリスの少年時代にさかの
ぼる。退屈しのぎに欲しいものはあ
るかと言ったラストに少年
は「バエル」と答える。それは厄祭戦
を終わらせて、ギャラルホルンの象
徴となったMSの名だった。

“名もなき戦争”終結からひと月が
たった。SAUとアープラウは和平
調停を受け入れ、鉄華団も地球か
ら撤退することとなった。鉄華団地
球支部は撤退準備で忙しく、オルガ
やメリビット、ステーブルトンたちが
データ・書類の整理を進めていた。
一方でチャドやタカキの心に残る
傷痕も大きかった。意気消沈するタ
カキにクーデリアは言う。

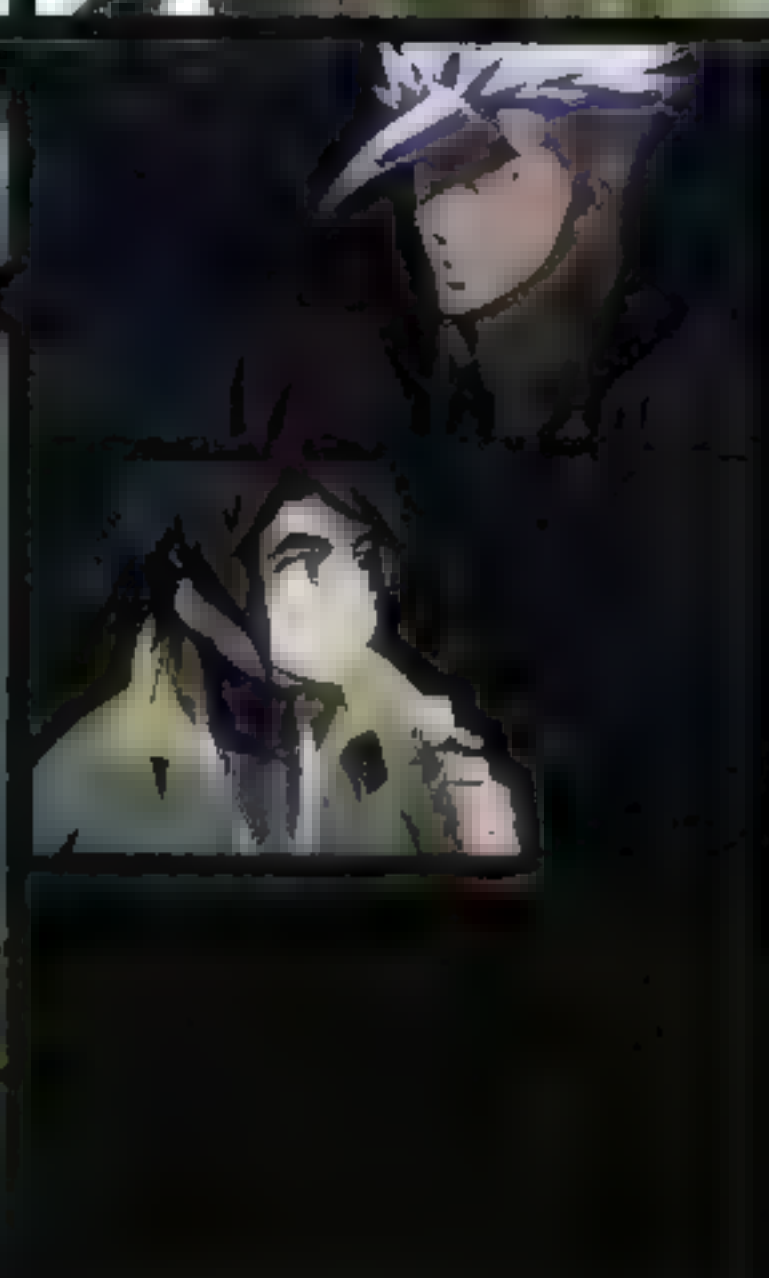
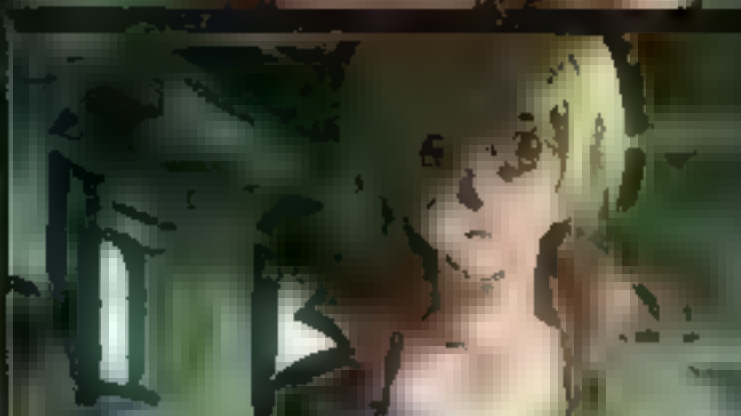
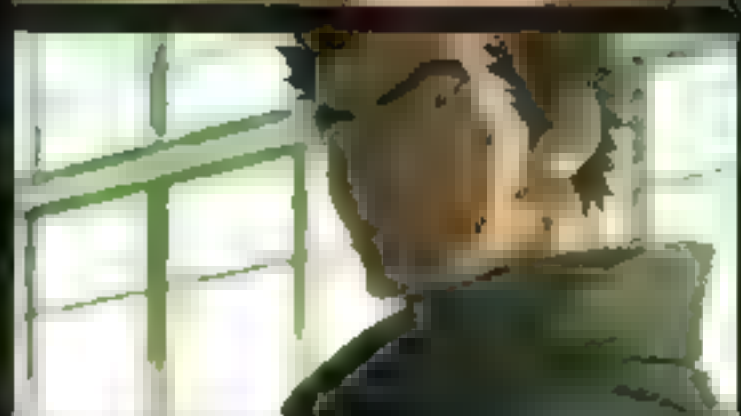
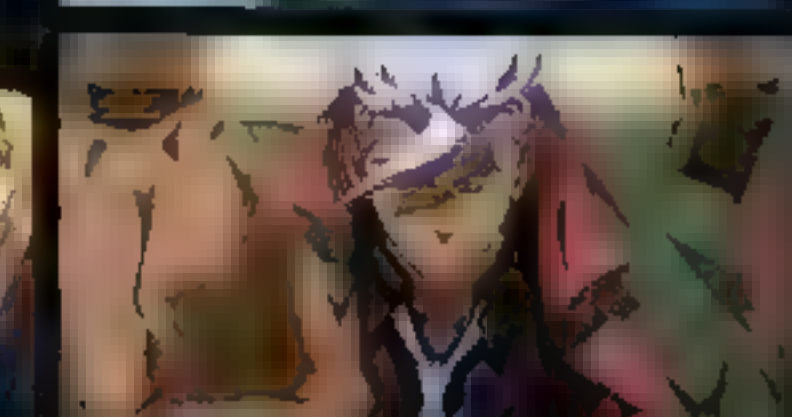
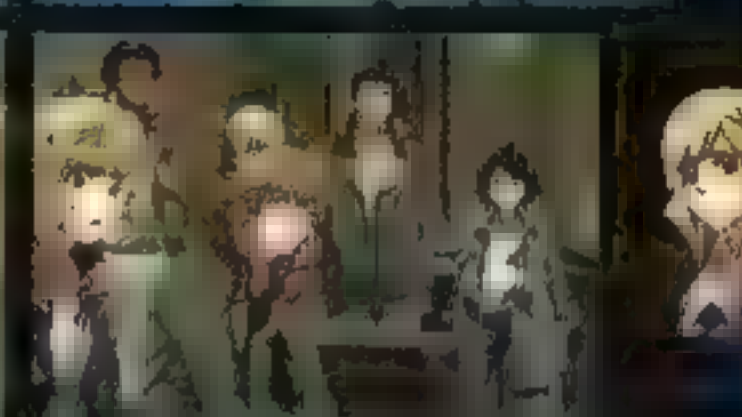
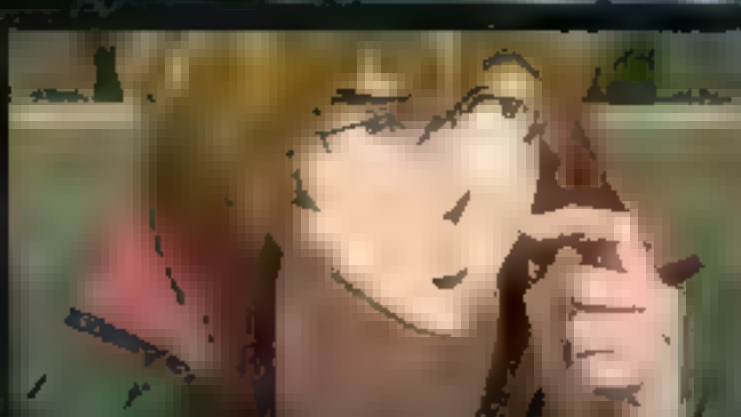
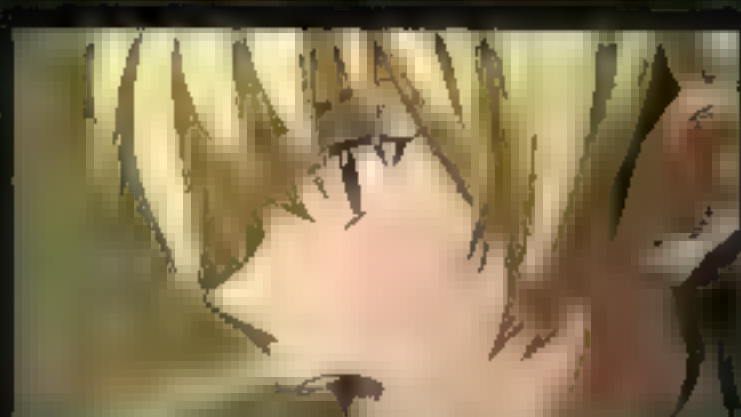
「多くのものを見て、知識を深めれ
ば、物事をきちんと判断し、選択する
力が生まれる。誰かの指示に頼ら
ずとも」。そのことばにタカキは考え
をめぐらせる。

一方、ガランが戦死したこと
にショックを覚えていたジュリエッタ
にヴィダールが声をかける。彼は恩
を忘れず、上官のために戦いつづ
ける彼女とある人物を重ね合わせ
ていた。

オルガのもとをマクギリスが訪
れた。先の戦争での鉄華団の働き
に対する礼と新しい提案を携えて。
その提案とは、自身がギャラルホ
ルンの頂点へ至るまでの継続的な
協力関係。その暁には鉄華団に火
星支部の全権限を移譲、鉄華団は
火星の王になるという。火星の
王——そのことばがオルガを奮
立たせ、そして彼は決断する。団員
たちも一蓮托生^{いちれんたくしょう}の思いだ。しかし
タカキはひとり退団の意を明かし
た。彼は妹・フウカと2人で生きる決
意を固めたのだ。鉄華団の団員に
見送られ、タカキはフウカの待つ
場所へ帰ったのだった。



帰ろう。俺たちの家へ
(タカキ)





STORYGUIDE

火星に戻ったオルガたち鉄華団は連日MSの整備を進めていた。地球支部のランドマン・ロディはチャド・ダンテ・モグロ・デルマ・アルトランドが引き継いだ。ハッシュは実戦で三日月の強さに心を打たれて以来、まじめに訓練に打ち込んでいる。

歳星では名瀬が幹部たちに、鉄華団とマクギリスが密約をかわしたことを報告した。マクマードへの報告・確認を怠ったことに幹部からは非難の声が上がる。ジャスレイは名瀬に「親父に迷惑がかかったときお前はどうか」と問いただす。名瀬は、みずからの腹を切ると宣言し場を黙らせた。幹部会から戻った名瀬は別室で控えていたオルガに、これ以上のしりぬぐいは難しいと釘をさす。オルガは頭を下げ、各地の要人たちとパイプをつくるために、ギャラルホルン火星本部・静止軌道基地アーレスへ向かった。

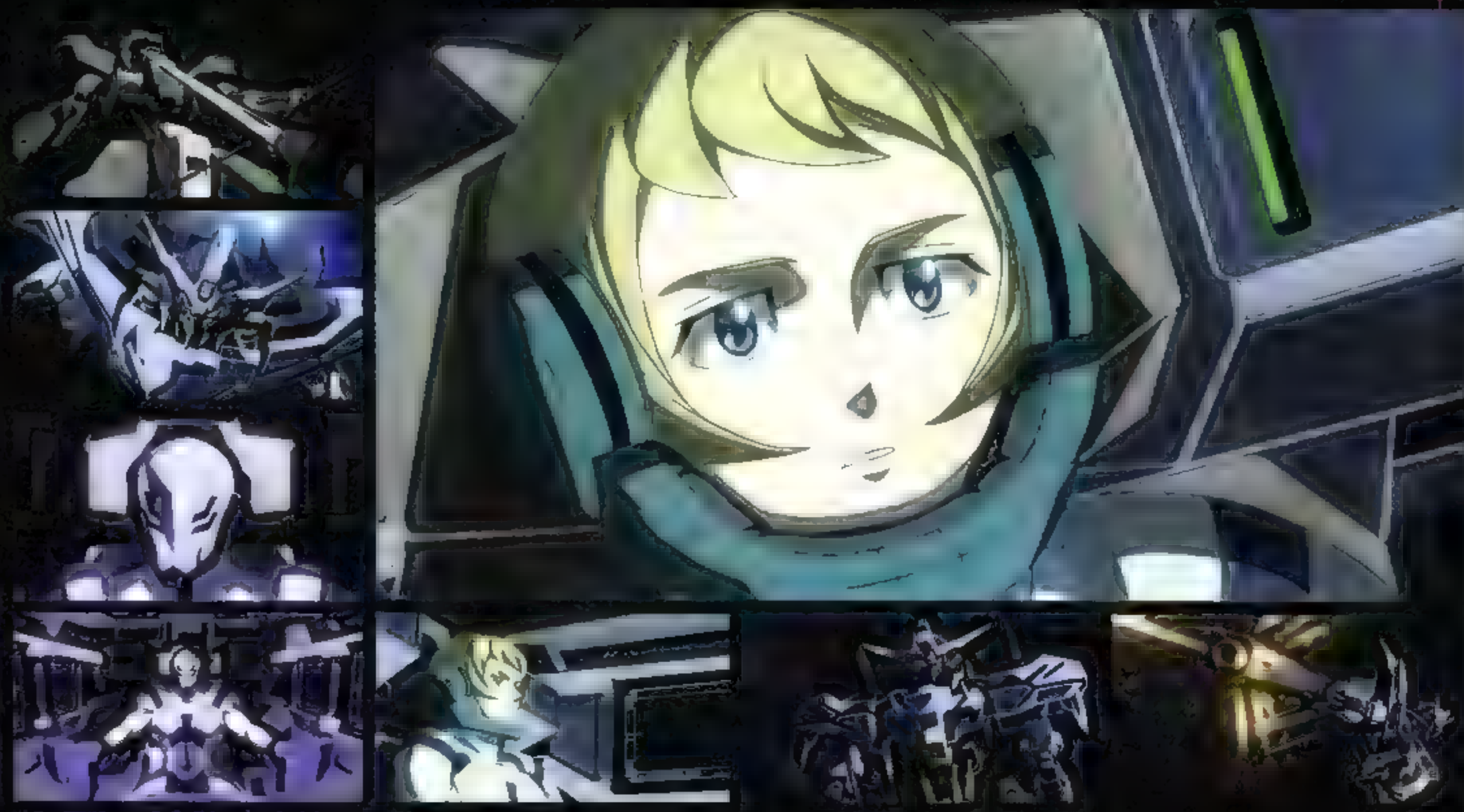
そのころ、アリアンロッド艦隊ではオセアニア連邦での戦場でヴィダールが初陣を飾っていた。自身の名を冠した新MSガンダム・ヴィダールは圧倒的な強さで戦場を駆け回る。

地球ではマクギリスが許嫁のアルミリア・ボードウィンに自身の信奉するアグニカ・カイエル話を聞かせていた。人が生まれや育ちに関係なく、等しく競い合い望むべきものを手に入れる世界。アグニカが——そしてマクギリスがめざす世界の話を。

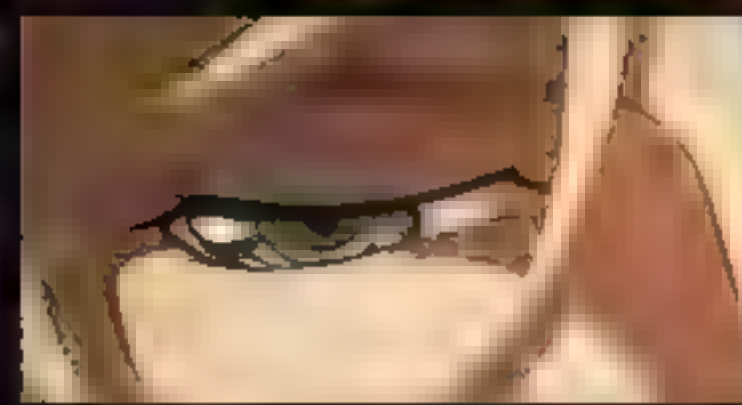
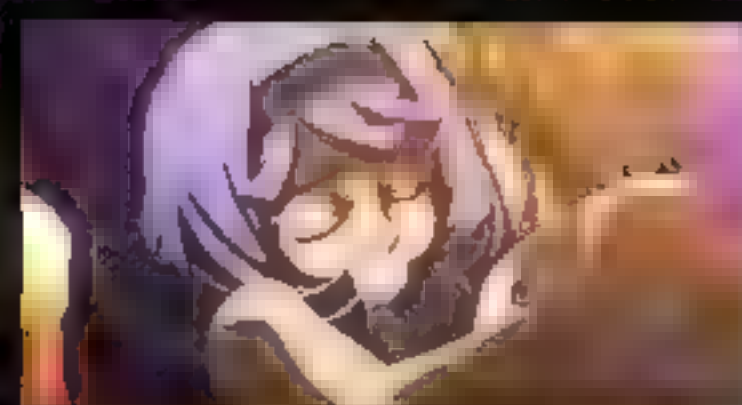
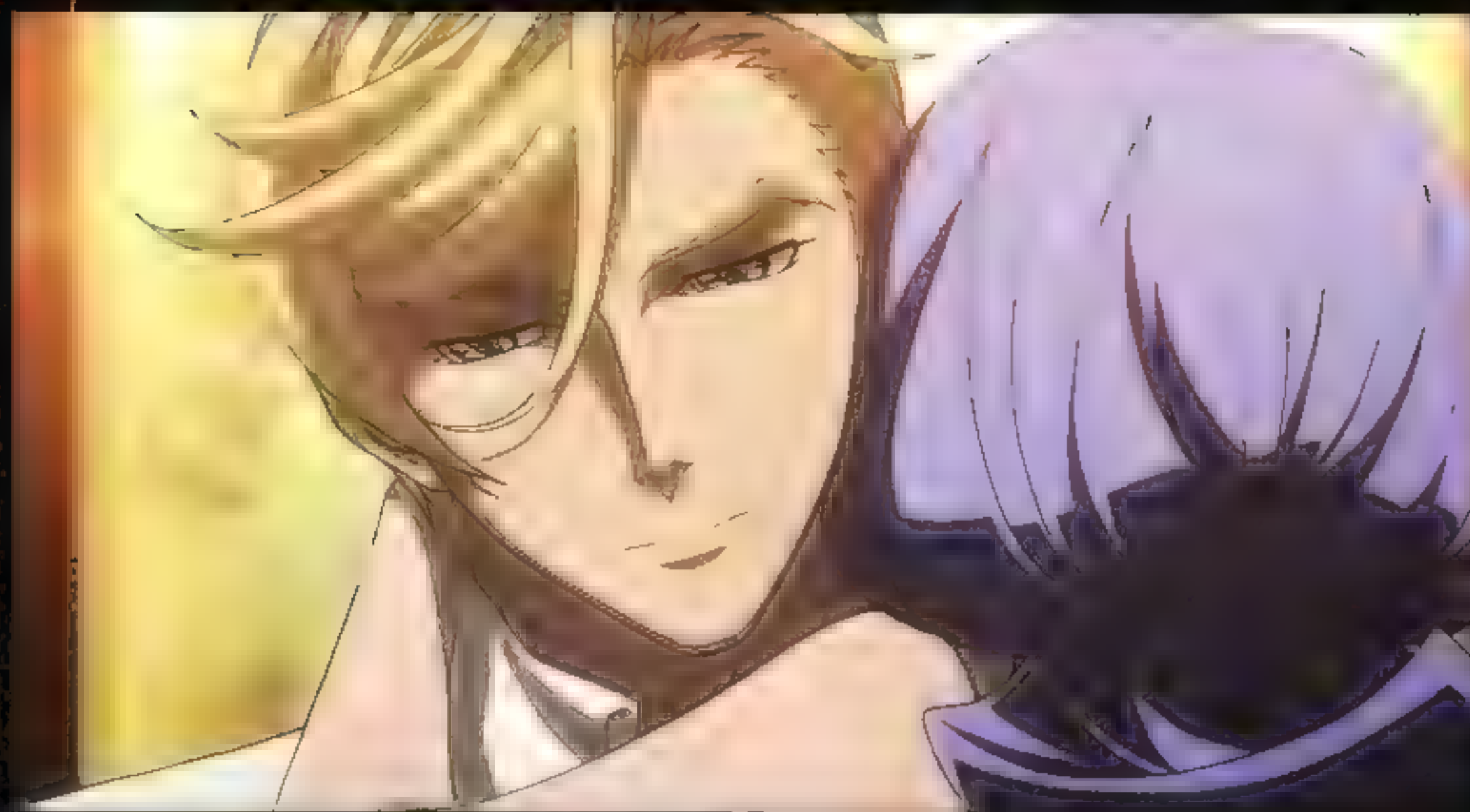
「私行きたい。そんな世界に」
「ああ、私が連れていってあげるよ、アルミリア」

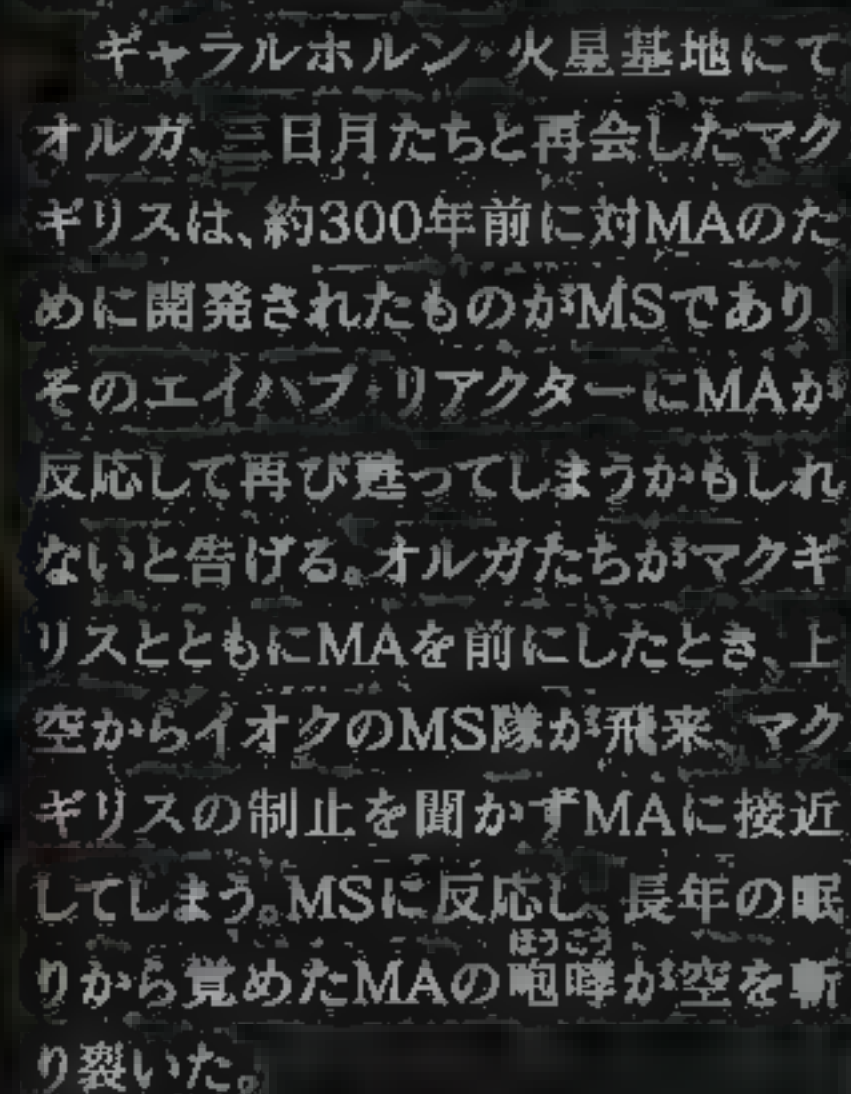


あなたの太刀筋は、
とても復讐を起因しているとは思えませんでした。
強く、とても美しい……
(ジュリエッタ)



その世界への扉を——
この手で開くときが、来たんだ (マクギリス)







やはり彼らはもっているのだ。
あの時代の風を、もう一度吹かせるという宿命を
(マクギリス)



STORYGUIDE

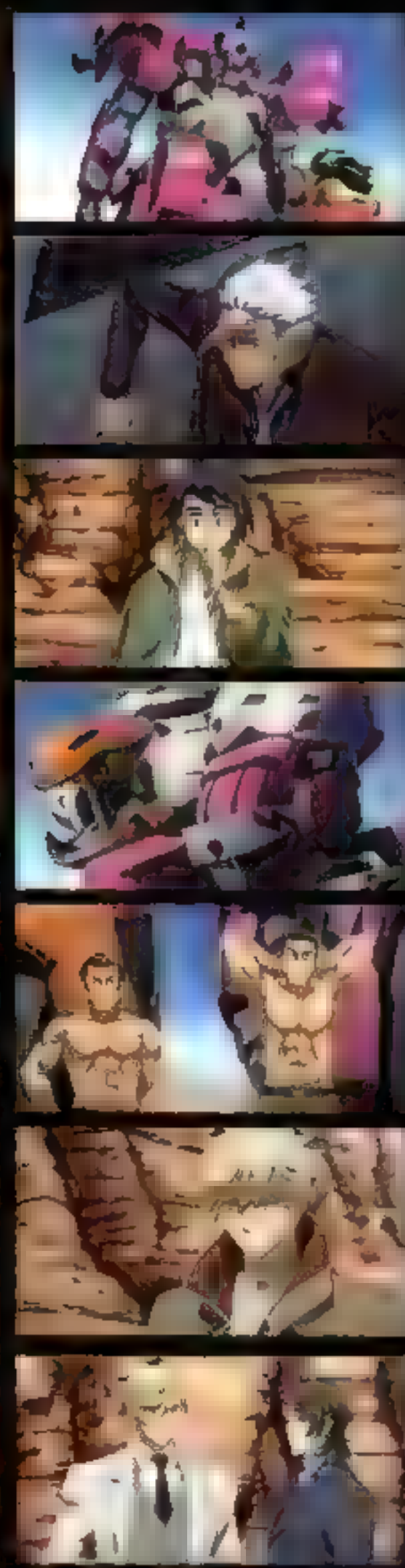
イオクのMSが「厄祭戦」の元凶たるMAを目覚めさせた。

天使の名を冠した、約300年前の遺物は圧倒的な破壊力でイオク隊をほふる。厄祭戦で世界人口の4分の1を殺戮したMAのひとつ、その名はハッシュマル。その姿を目にした三日月は、思わず見入っていた。マクギリスは、MAはギャラルホルンの始祖であるアグニカが戦った人類の敵であり、厄祭戦と呼ばれる人類の災禍は、あのMAたちによってもたらされたものと説明する。

マクギリスは鉄華団と協力し、MAを迎え撃つ計画を立てはじめる。まずはMAと周辺に群がる小型機「ブルーマ」の連携を断つ。ブルーマは増殖するうえにMA本体の修復機能をもつ。連携を断てば勝機は見えてくるはずだと。

人間を殺すという本能の赴くままMAは人口密集地をめざす。そして最短距離にあるのはクリュセだった。三日月とハッシュは急ぎクリュセのアドモス商会へ向かい、クーデリアに避難を呼びかけたが、クーデリアは市民全員が避難できなければ自分も避難するつもりはないという。クーデリアとともに避難を拒んだアトラを残し、三日月は迎撃準備に移った。固唾をのんでMAの侵攻を待つ鉄華団。しかし、MAはイオクの一撃により進路を変更。守備の想定外であった農業プラントへ向かってしまう。ガンダム・バルバトスルプスが駆けつけたとき、MAのビーム兵器を受けた農業プラントは炎上していた。

すごかったな。すごくきれいだった。
……地球で見た鳥みたいだ (三日月)



MA、人間を狩る天使たち。
そしてその天使を狩るために、
天使をまねてつくられた悪魔、モビルスーツ。
それを操るための阿頼耶識 (マクギリス)





大丈夫だよ。三日月は、
いつもちゃんと戻ってきってくれる (アトラ)

STORY GUIDE

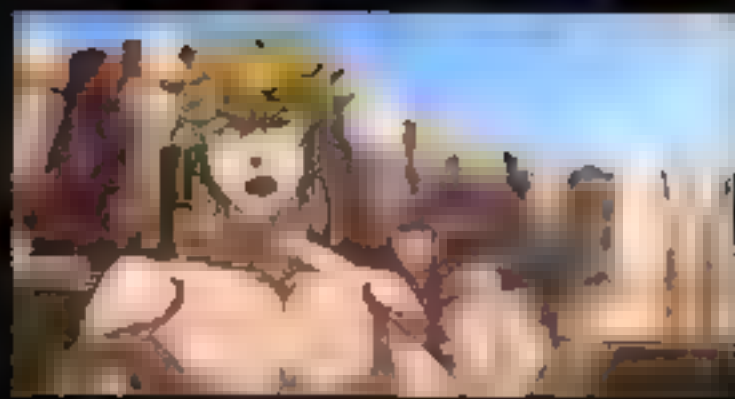
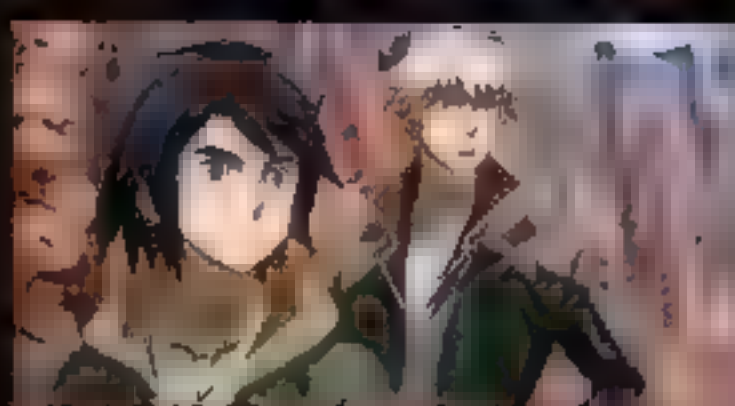
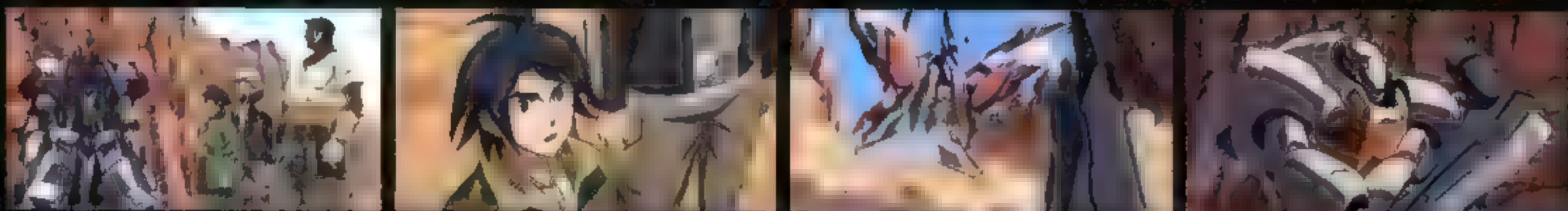
マクギリスは石動にモンターク商会所有の機体ヘルムヴィーゲリンカーを託し、自身はグレイズリッターでMA迎撃へ向かう。その途中でガンダム・ヴィダーと遭遇する。個別回線によりヴィダーの声がマクギリスへ届く。

「俺にはわからない。みずからへの愛を叫び散っていったカルタ・イシューと同じ機体に乗る、その気持ちだ」

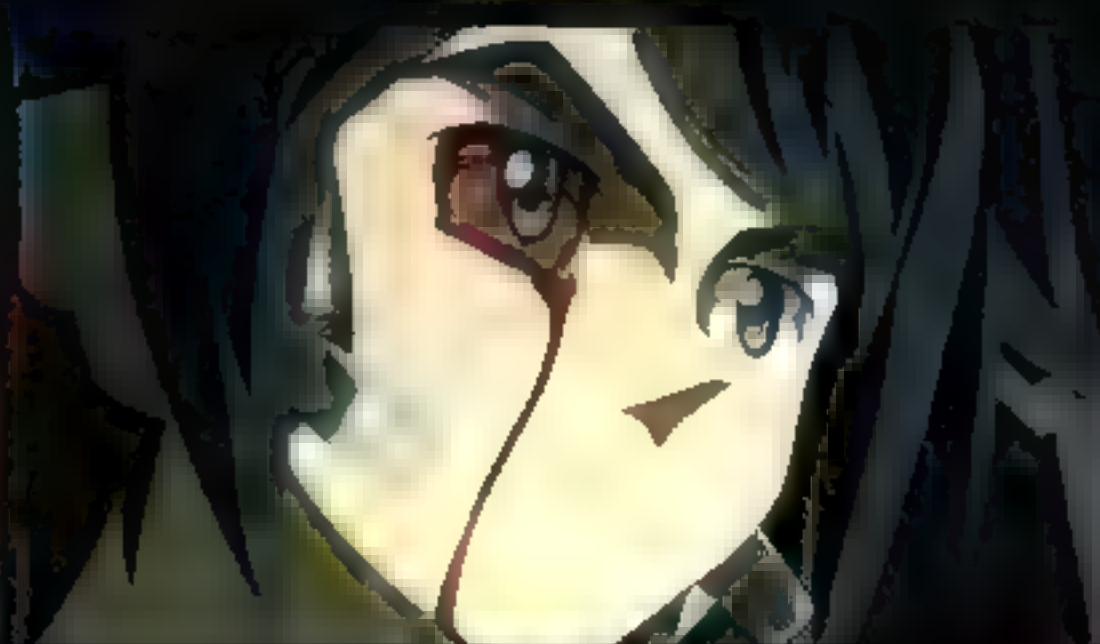
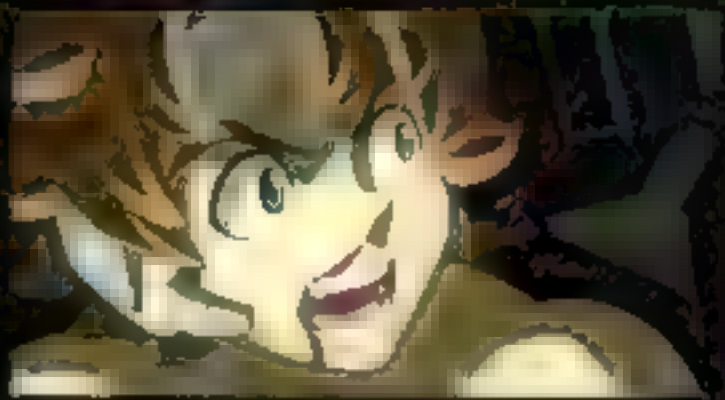
チャドの突撃によりMAの作戦ルート誘導に成功する。だがバルバトスとグシオンリベイクが原因不明の不調に陥ってしまう。ザックによるとガンダム・フレームにはMAに反応しリミッターを解除するシステムが、阿頼耶識にはパイロットを守りリミッターを制御するシステムがあり、2つが衝突しているという。パイロットを優先する以上、2機はMA戦に出すことは不可能だ。一方、作戦ルート上ではまたしてもイオクの愚行が鉄華団の邪魔をする。イオク機の一撃を受けたMAは不意の加速をし、鉄華団が構えていた迎撃ポイントを突破。こうなれば鉄華団だけで防ぎきることは不可能だ。オルガはマクギリスに援護を求める。

新たに設けた第2迎撃ポイントで、シノのガンダム・フラウロスが電磁投射砲でMAとブルーマの分断に成功する。マクギリス、石動、そして乱入したアリアンロッドのジュリエッタがMAを迎え撃つ。しかし激戦のなかでマクギリスは思い知る。厄祭戦で人類を滅亡寸前まで追い込んだMAの強さを。

MAがビーム砲の照準をクリュセに向けたとき、それを妨げるようにバルバトスが降り立った――



俺の全部は、オルガのために
使わなくちゃいけないんだ (三日月)





おいバルバトス、あれはお前の獲物なんだろう？
余計な鎖ははずしてやるから
……見せてみろよ……お前の力（三日月）



STORY GUIDE

バルバトスルプスリミッターをはずした三日月はすさまじい動きでMAと対峙する。そして巨大なヴァルキュリアバスターソードを手に、厄祭戦の元凶を単騎で駆逐した。

1か月後。オルガは、テイワズへ赴きマクマードに盃を差し出し告げる、何かあればたたき割ってほしいと。鉄華団が事を成せば名瀬も若頭へ昇進するが、それは名瀬に「鉄華団の手綱を離すな」というマクマードの忠告でもある。名瀬は性急に事を運ぼうとするオルガのやり口を案じていた。

三日月は右半身不随となっていた。バルバトスに乗り、エドモントン以来2度目となるリミッター解除を行なったためだ。しかし本人に気にするようすはない。1か月ぶりに会いにきたクーアリアは、三日月がこのまま変わらずバルバトスに乗り、どこかへ行ってしまう、そして二度と帰ってこなくなってしまうのではないかという懸念を口にする。アトラも涙を流し、同じ思いだと打ち明けた。

「俺の命は、もともとオルガにもらったものなんだから、俺の全部は、オルガのために使わなくちゃいけないんだ」

オルガはひとり三日月のことはを思い出し、わき上がる感情のまま拳を壁に打ちつけた。「ミカ、俺は謝らねえぞ」。三日月の枕もとで絞り出したその声に、起きていた三日月が答える。俺はもうバルバトスなしじゃ走れない。オルガ、俺を連れてって。オルガの指示があれば、俺はどこへだって行ける。

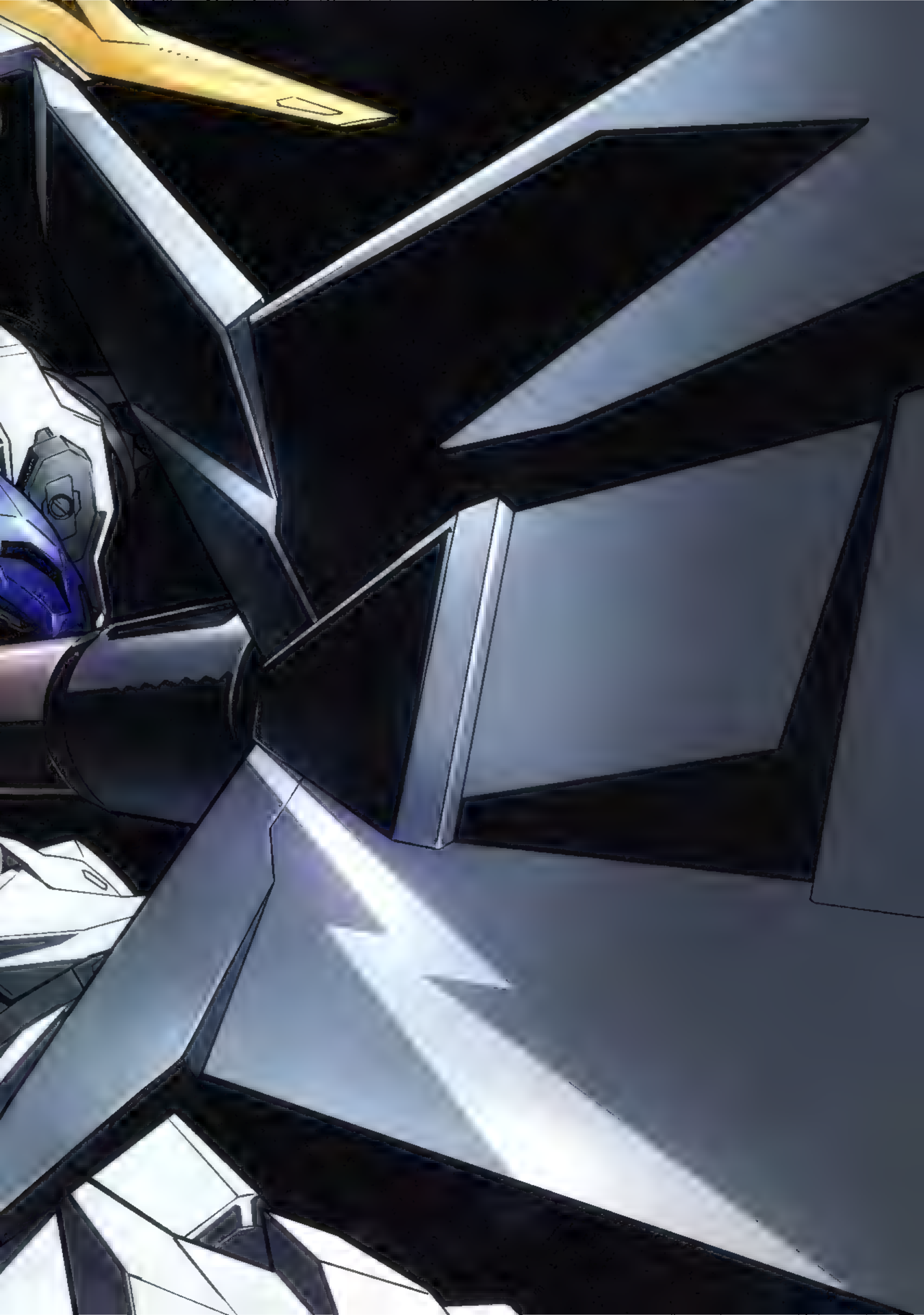
「謝ったら許さない」

「わかってる。謝らねえよ。俺が、お前を連れてってやる」



三日月が……彼が失ったものを、
この目で見える勇気がなかったのです (クーデリア)





THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

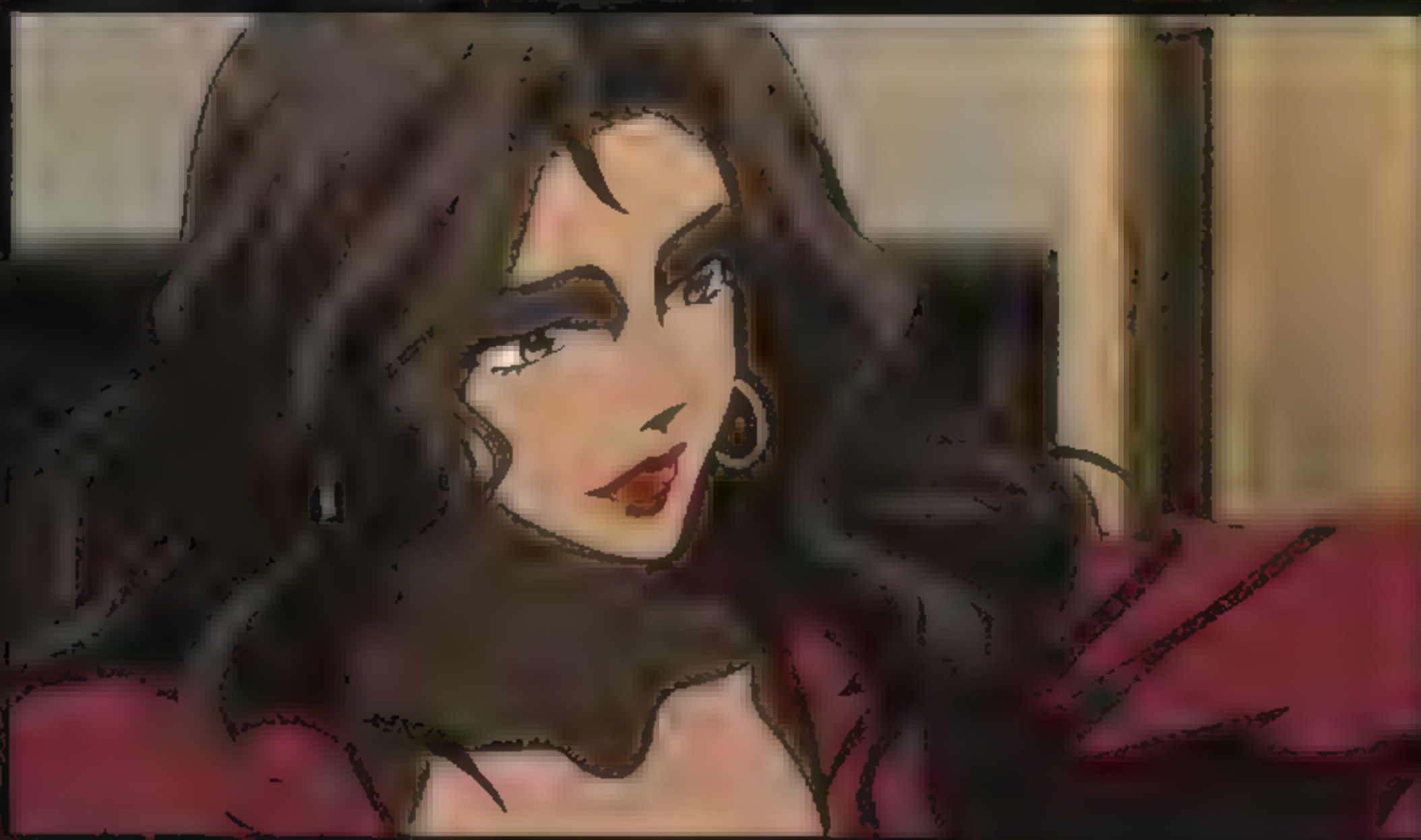
STORY GUIDE

of second season





……知らなかったんだね、
家族ってもんを。
あたしらも、昔はそうだった
(アミダ)



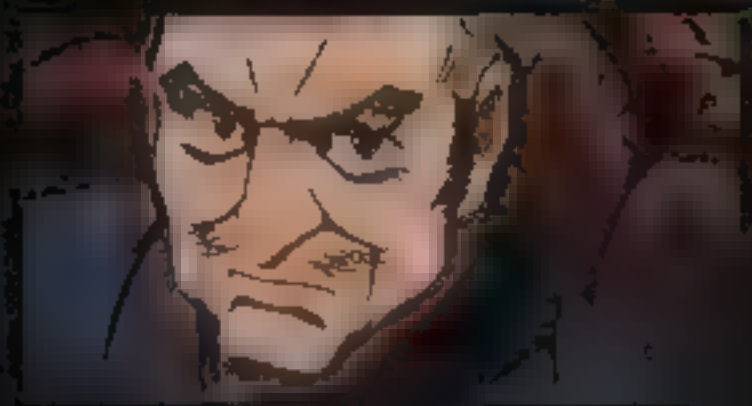
STORY GUIDE

鉄華団へ出向していたラフタ・フランクランド、アジー・グルミン、エーコ・タービンがタービンスに戻った。ラフタは昭弘に対し、自分の心の変化に気づきながらも仲間として別れのことはをかわす。

そのころイオクはジャスレイと共謀し、鉄華団ではなくその支持組織であるタービンスを一齐摘発しようとしていた。その情報を受けたマクギリスは摘発の根拠として、ギャラルホルンの条約で使用・保有を禁止された兵器ダインスレイヴと同等の威力をもっているガンダム・フラウロスの電磁投射砲に思い当たる。イオクはダインスレイヴをもち出し、ラスタルはそれを黙認していた。マクギリスは“同志たち”へ連絡を取るよう石動に命じる。

一方、ハンマーヘッドでは名瀬とアミダ・アルカが出会ったところの話をしていた。出会いは宇宙港の酒場、名瀬がアミダに護衛を頼んだのだ。そして2人は、裏社会に搾取されていた女たちを救い出し、タービンスを結成したのだった。そこでようやく「家族」を知った名瀬は、オルガと昔の自分を重ね、「家族」をみすみす手放すようなことはしてほしくないと強く思っていた。

歳星で三日月がマクマードと面会しているとき、タービンスにギャラルホルンの強制捜査が入ったという知らせが入る。タービンスはイオクにより貨物艇に積まれていたダインスレイヴを口実に、違法組織として処分されようとしていた。助けの手を差し伸べようとするオルガに、名瀬は「鉄華団を、家族を守る。それだけを考えろ」と一喝したのだった。

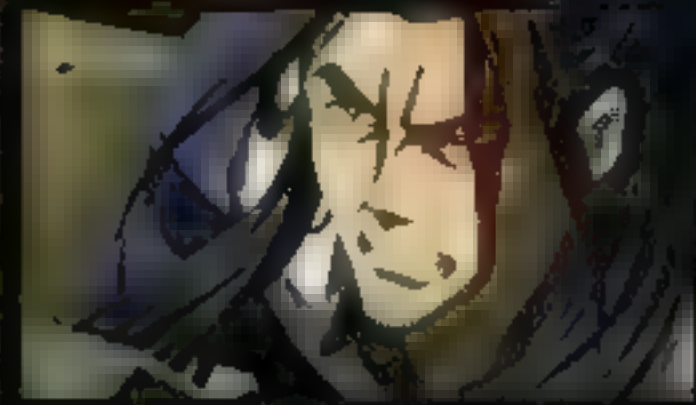
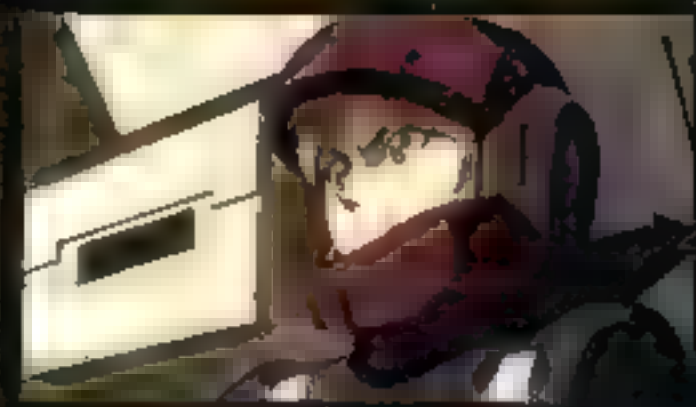


鉄華団を、家族を守る、それだけを考えろ。
…いいな、オルガ・イツカ (名瀬)





大丈夫。私が家族を守る。
絶対に守ってみせるから! (ラフタ)



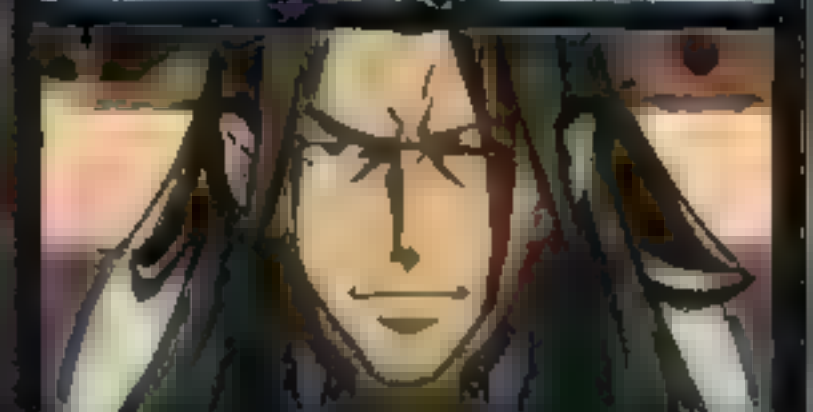
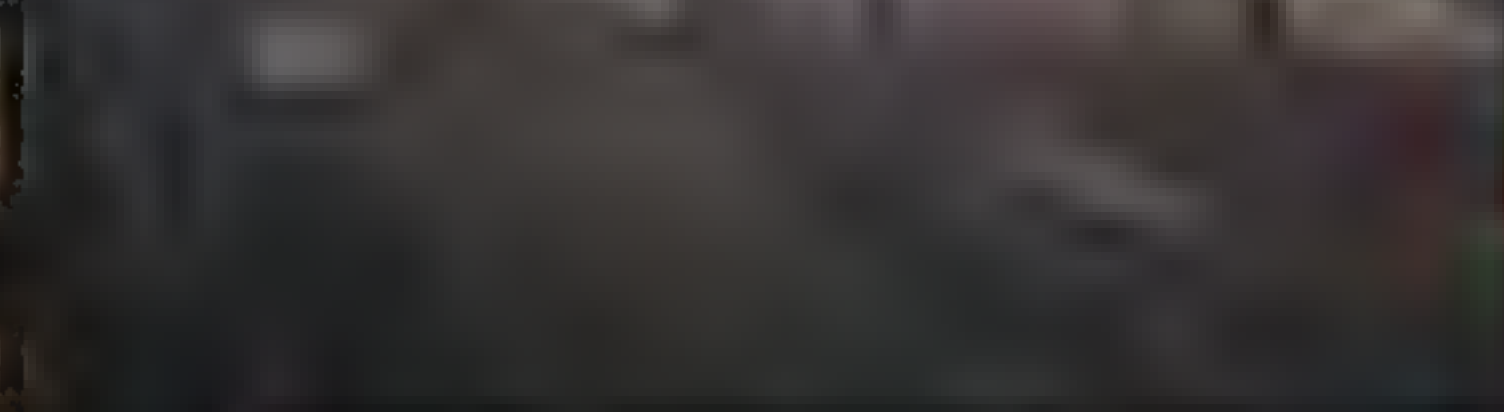
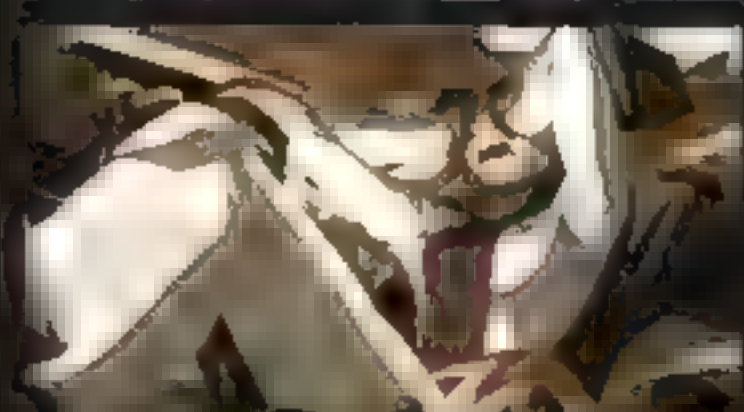
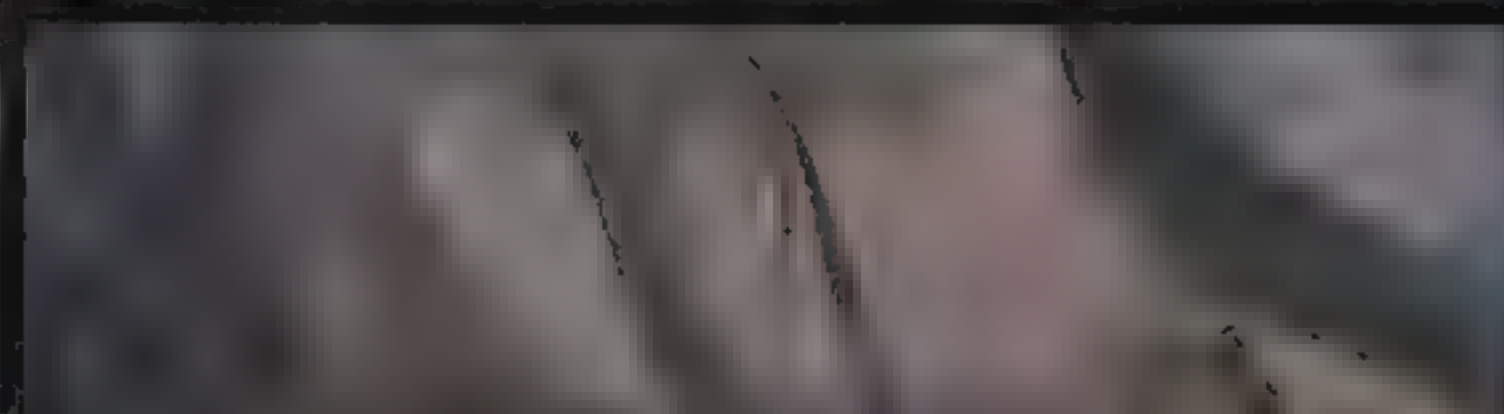
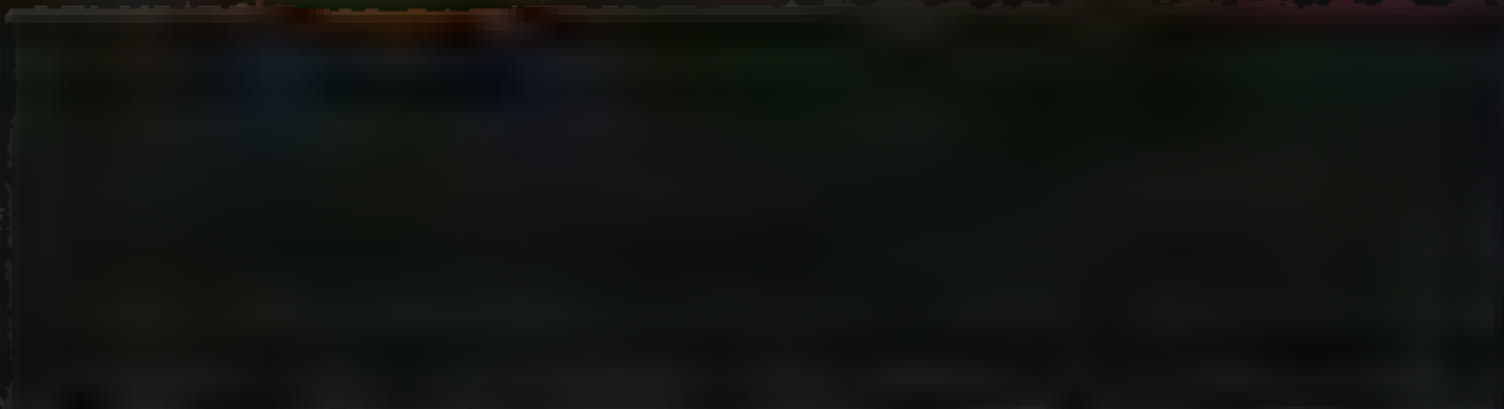
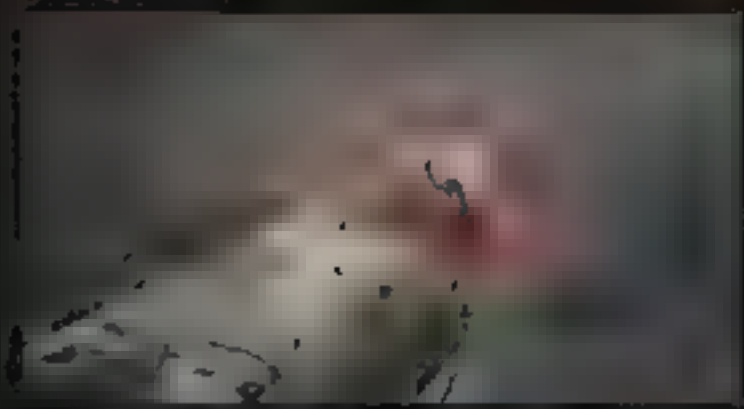
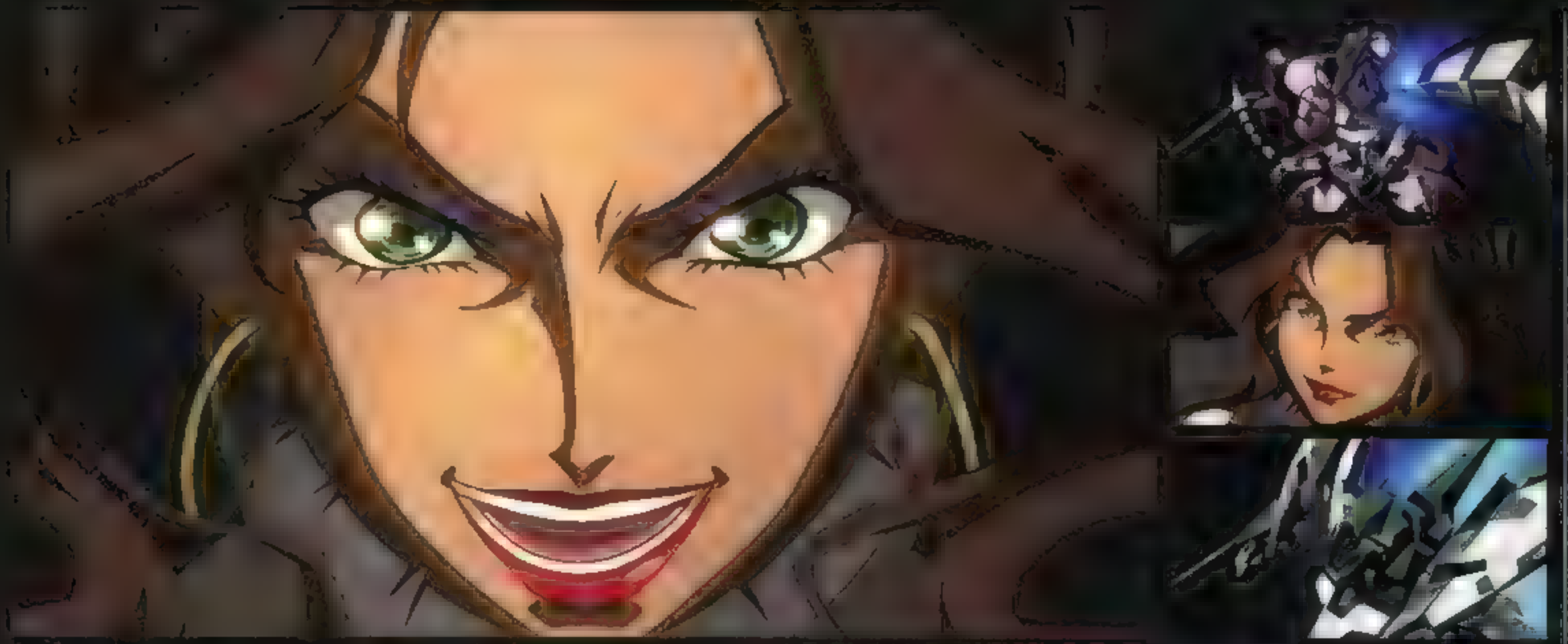
STORYGUIDE

組織が大きくなれば綻びは生じる。名瀬はマクマードに盃を返し、タービンスの女性たちを受け入れてもらう手はずを取った。下手に動けば共犯と見なされともに重罪を被ってしまうと苦しむオルガの前にシノと昭弘が現われ、タービンス救出の案を伝える。オルガは頭を下げ、声を絞り出す。「シノ、昭弘、兄貴を頼む」。

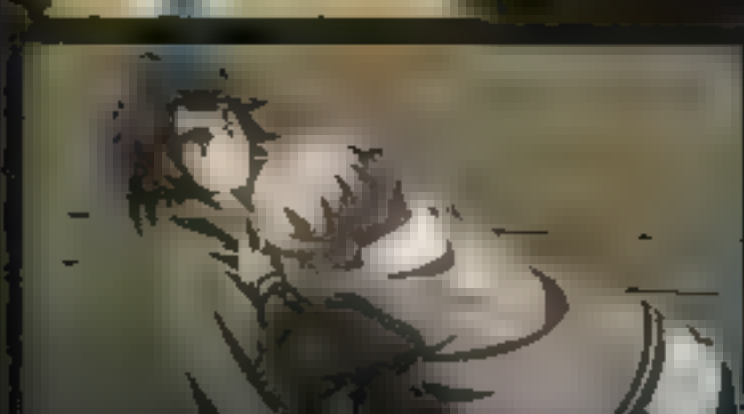
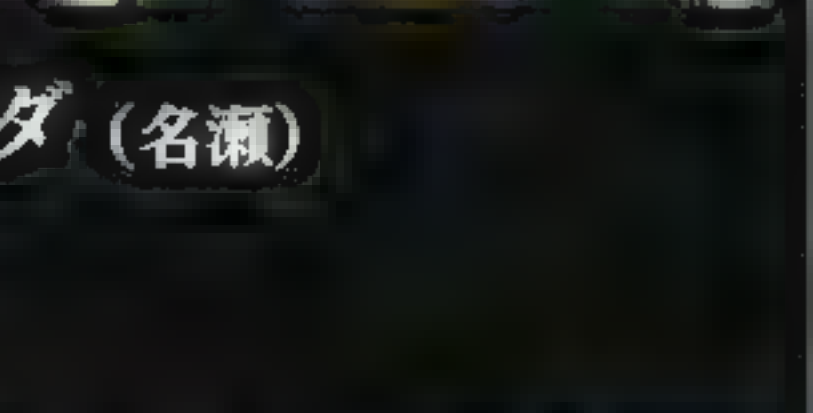
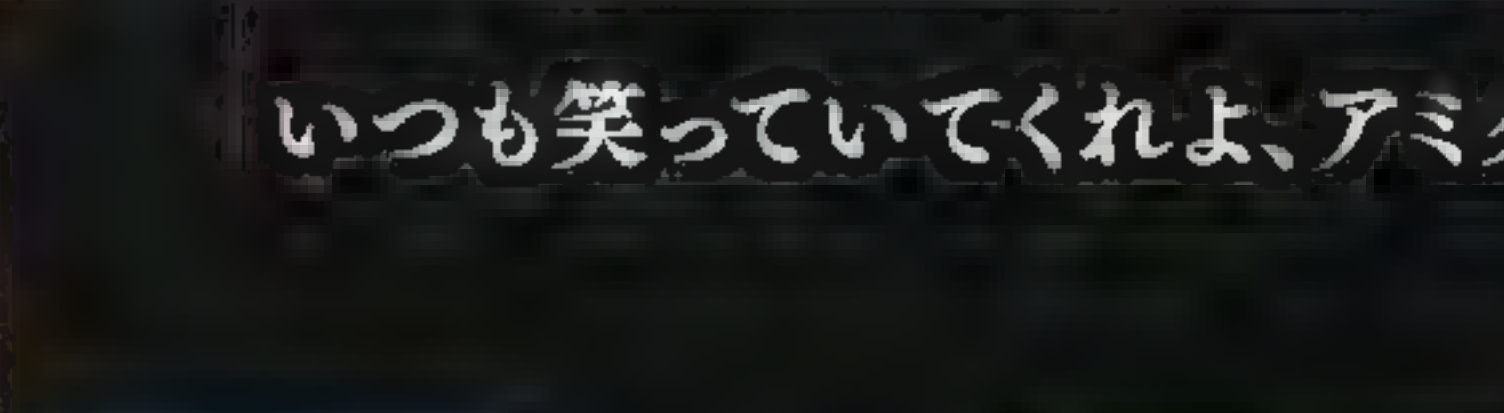
タービンスの拠点惑星にイオク率いるアリアンロッド艦隊が迫る。ハンマーヘッドに乗る名瀬とアミダの百鍊を残し、ほかの非戦闘員は全員輸送船で退避、名瀬は停戦信号を発した。だが、アリアンロッド艦隊はそれを無視し、禁忌の兵器ダインスレイヴを装備するMS隊が避難船もろとも狙い撃った。それは輸送船のナノラミネートアーマーをも突き破り、ランチで逃げる非戦闘員すら攻撃の的となった。ラフタの辟邪が敵MS部隊に囲まれ危機に瀕したとき、昭弘が駆るガンダムグシオンリベイクフルンティが到着し、敵機に攻撃を仕掛けた。名瀬はオルガの助けに気づき、思わず笑む。

一方、アミダの百鍊にジュリエッタの乗るレギンレイズ、ジュリアが襲いかかる。ジュリエッタがアミダに押されるなか、イオクが放ったダインスレイヴの槍弾はジュリアを巻き込み百鍊に致命傷を残した。アミダは最後の力を振り絞り、イオク艦に向かってライフルを放つ。

アミダの残した輝きに導かれるようにイオク艦を目がけて突っ込んだハンマーヘッドの中で、名瀬はほぼ笑ったまま絶命した。名瀬の死を知った鉄華団とタービンスの面々は悲しみに暮れるのだった。



いつも笑っていてくれよ、アミダ (名瀬)

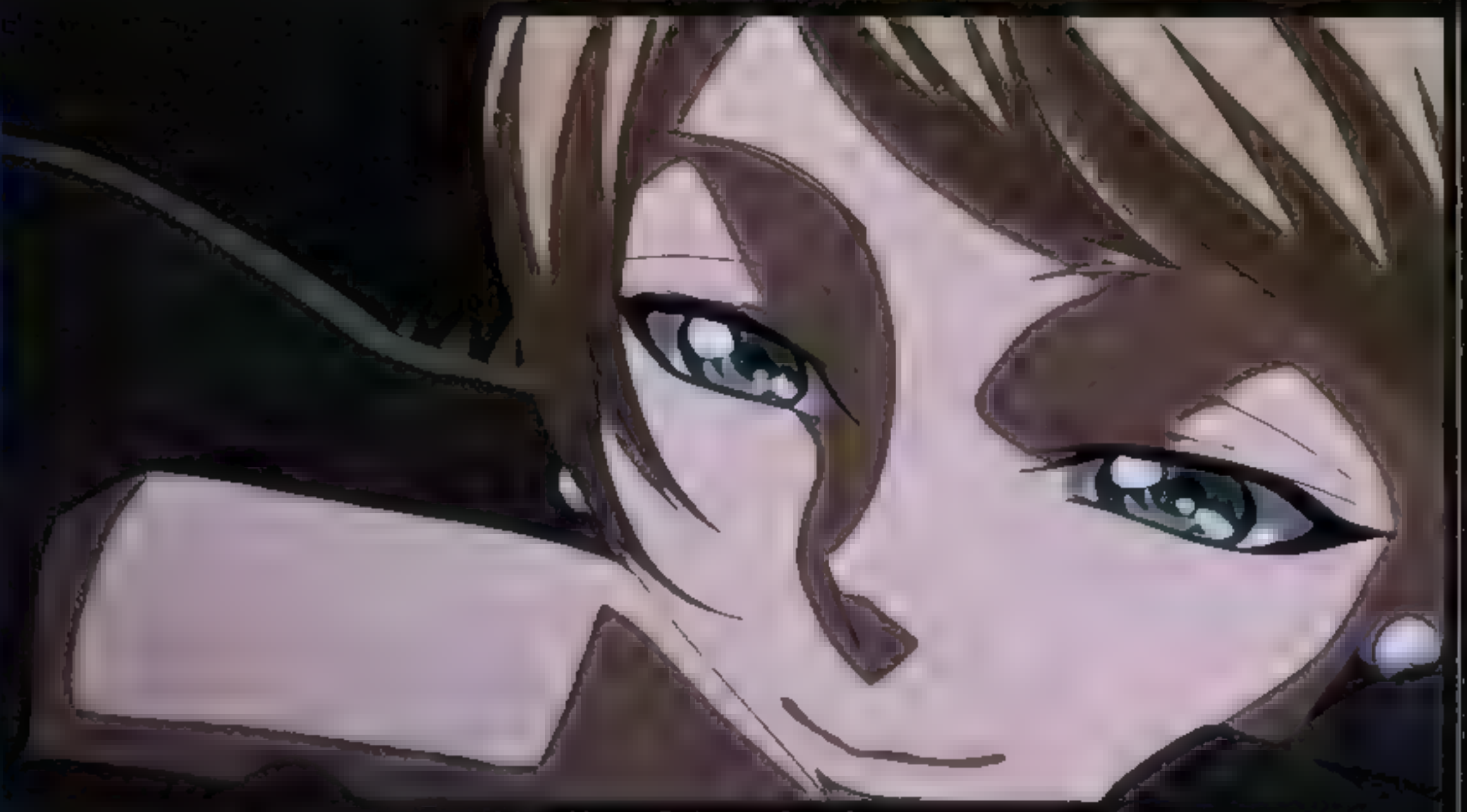


STORYGUIDE

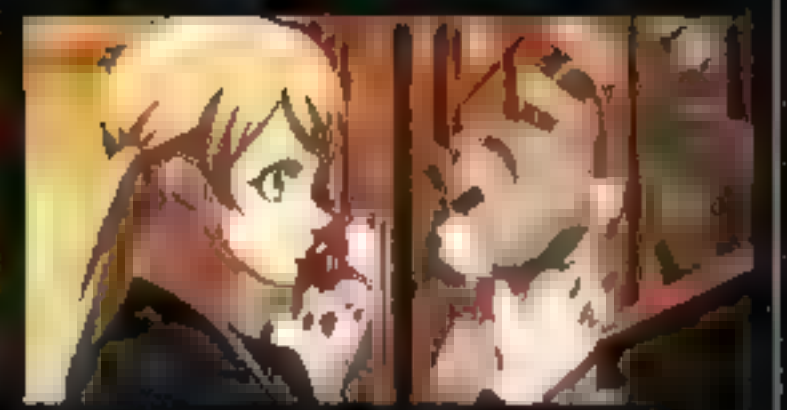
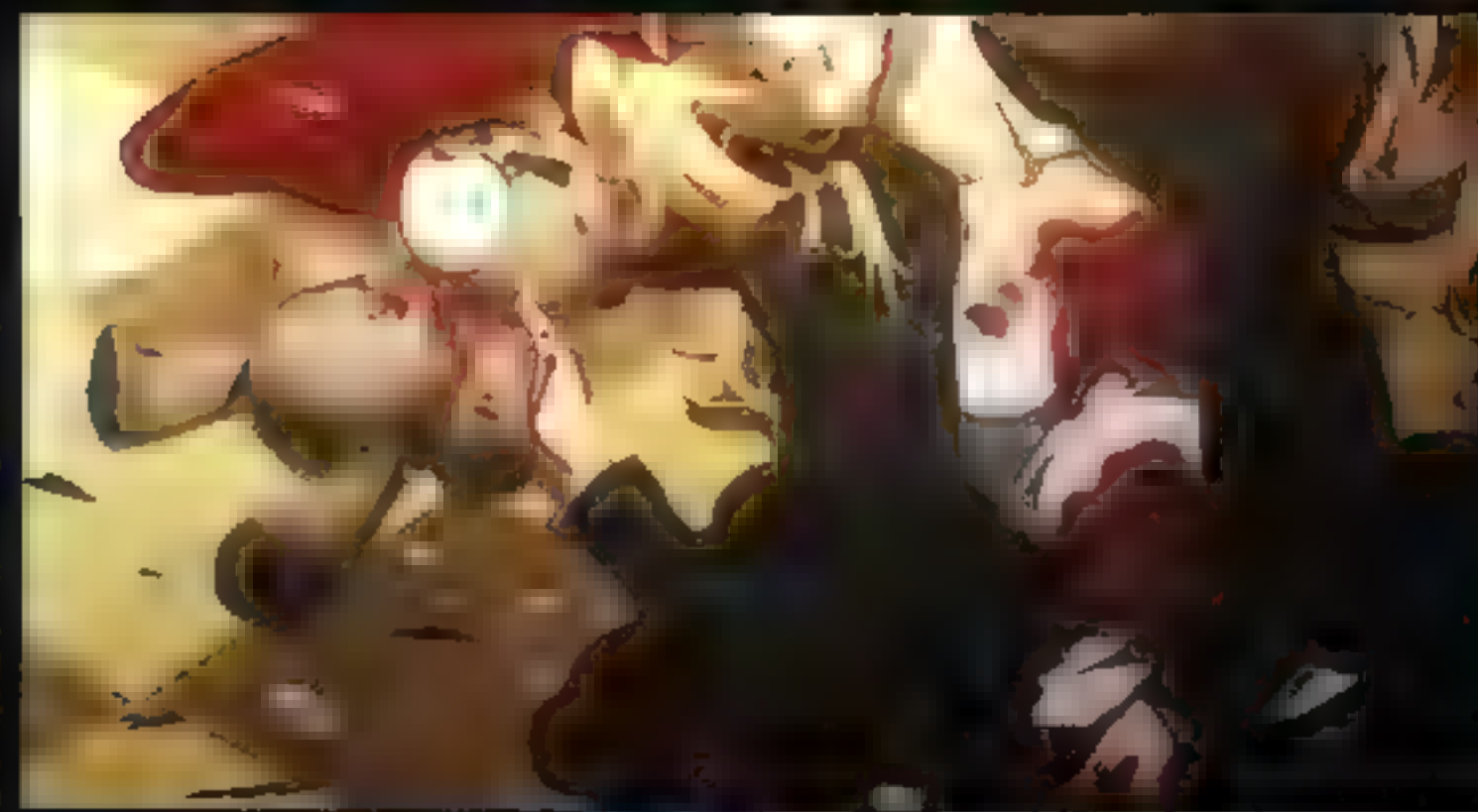
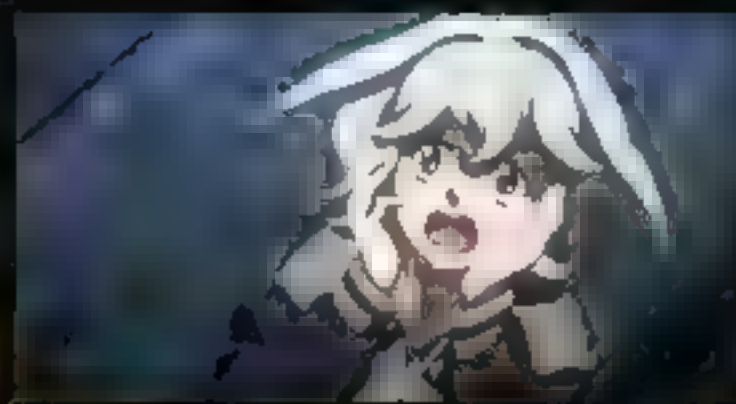
亡骸はギャラルホルンに押収されたまま、マクマード邸では名瀬とアミダの葬儀が執り行なわれた。名瀬を陥れた張本人ジャスレイは、駆けつけた鉄華団のみならず生き残った元タービンスのメンバーをも前にして名瀬を侮辱する。マクマードは名瀬の遺志を受け、元タービンスのメンバーを引き取った。その話を受けてアジーはラフタに「あんたは鉄華団に行ってもいいんだよ」と告げる。亡きアミダがラフタの恋心に気づき、応援していたと知ったラフタは沈思する。

鉄華団が歳星を去る前夜、ラフタは昭弘を飲みに誘った。自分の生い立ちから名瀬やアミダとの思い出を語り、名瀬が残した子供たちに2人の教えを伝えるためにも歳星に残ると話す。「筋を通さねばならないこと、大事にせねばならない者をきちんと見つめ、真っすぐに生きる。俺も、お前のようにありたいと思う」と言う昭弘に、ラフタは胸に秘めた思いをのみ込む。別れ際、ラフタは約束していた力いっぱいの抱擁をし、2人は別々の道を行くのだった。

その翌日、悲劇は起こる。歳星での買い出し中に、ラフタが銃撃されたのだ。ラフタの手にあったのは、昭弘によく似たぬいぐるみ。血だまりに倒れるラフタを見たアジーは絶叫する。誰の差し金かは明白だった。昭弘は怒りの形相でオルガに命令をくれと訴える。今ジャスレイに弓を引けば鉄華団はテイワズにいられなくなる。悩み抜くオルガにマクギリスは「自分たちは運命共同体、何があっても裏切らない」と言う。オルガは、格納庫で新しいバルバトスとつながっている。日月のもとへ行き、ジャスレイ討伐を伝えるのだった。



こんな気持ちになったのは、
初めてだよ。昭弘 (ラフタ)



ラフタアアアアッ!! (アジー)





いい兄弟じゃねえか。
なあ……名瀬よ…… (マクマード)



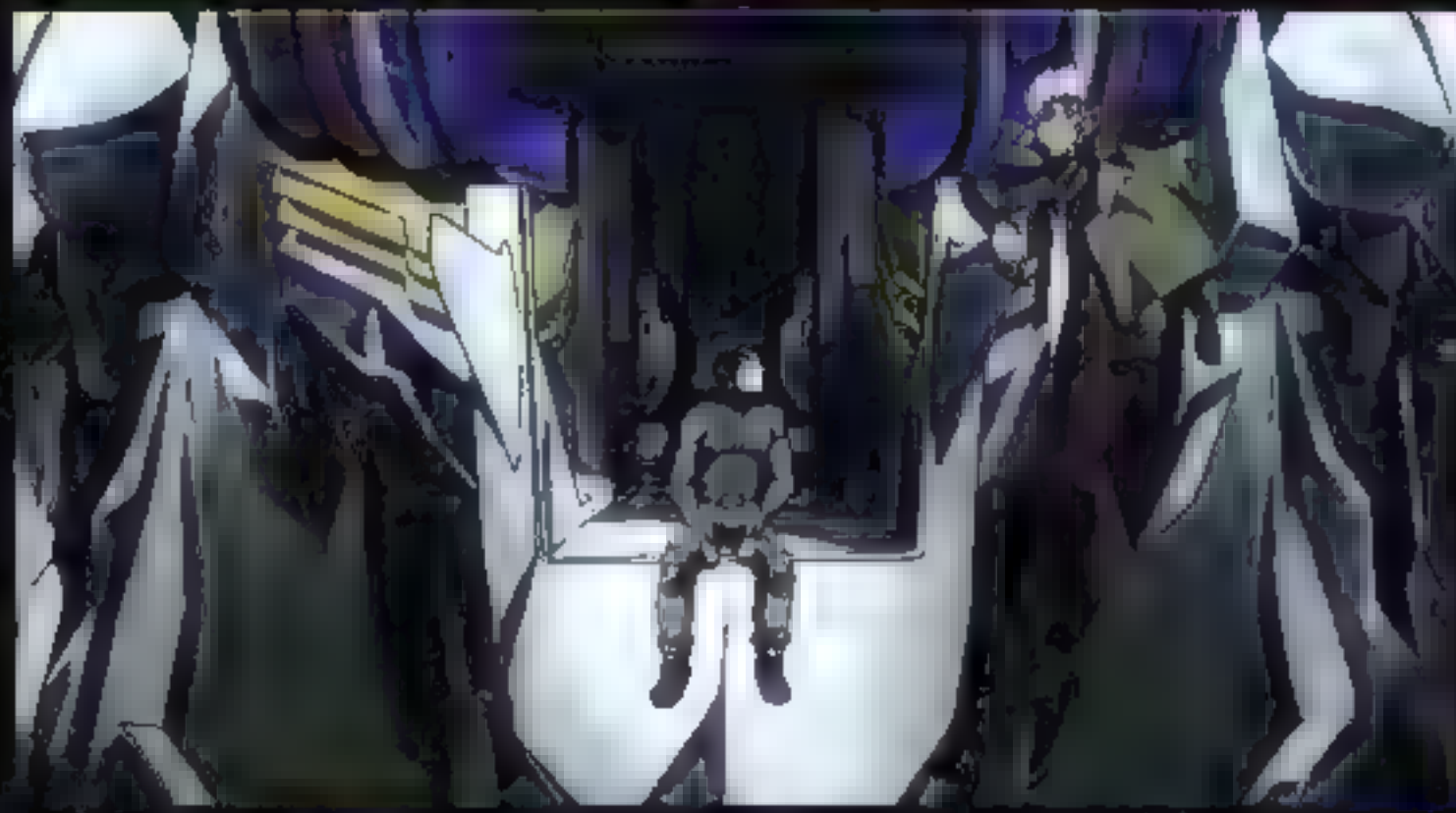
STORY GUIDE

ジャスレイは追い詰められていた。次々と撃沈されるJPTトラストのMS隊。鉄華団の背後を討つはずのイオクからは連絡がなく、援軍が来ない。鉄華団とマクマードを葬り、テイワズを手にするというジャスレイの野望が遠ざかる。

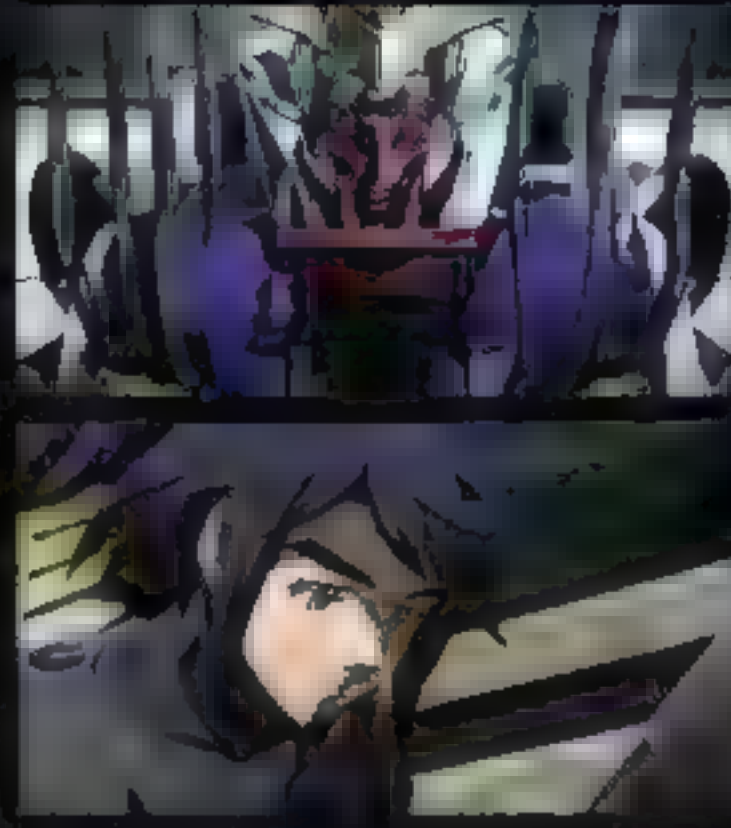
三日月はバルバトスルブスレクスを駆り、敵をなぎ払っていく。そして、タービンの形見分けの辟邪に乗り込むハッシュ。少年たちは戦いのなかで、幾度にも及ぶ別れを振り払うようにMSを使役する。ガンダム・グシオンリベイクフルシティの中で昭弘もまた、亡き人を思っていた。

ジャスレイの悪巧みを見通していたマクマードは、助けを求めて通信してきたジャスレイを一蹴する。親父にも頼れないと焦ったジャスレイはオルガに直接手打ちをもちかけるが、オルガはまったく聞く耳をもたない。その瞬間、ジャスレイの目の前にバルバトスルブスレクスが降り立った。巨大なメイスを艦橋に突き付けながら命令を待つ三日月にオルガの声が届く。「つぶせ」。黄金のジャスレイ号の艦橋がメイスの餌食となった。

一方、ギャラルホルンの若き将校ライザ・エンザが革命ののろしを上げた。その放送を聞きながらマクギリスは穏やかにほほ笑む。鉄華団はこの革命に参加するため、アドモス商会との業務提携を全面的に解除した。オルガは鉄華団に生き抜くため、火星の王になるためにマクギリスとともにいくと宣言する。団員の士気が上がるなか、オルガは三日月だけに、本当はたどり着いた場所でみんなと笑いたかったと打ち明けるのだった。



たどり着いた場所で、
バカ笑いしてえ。
みんなで、いっしょに (オルガ)





STORY GUIDE

革命を起こしたマクギリスはギャラルホルン地球本部の7割を制圧、同施設にいたセブンスターズの身柄を拘束した。演説を終えたライザは鉄華団とともに、アリアンロッド艦隊に対抗する防衛網を地球軌道上に構築していた。

マクギリスは回顧していた。孤児だった自分が、イズナリオに会いファリド家へ連れていかれたことを。そして豊かな生活のなかで知見を深め、頭角をあらわすとファリド家の跡取りとなった。しかしイズナリオによる蹂躪は続く。そんな生活のなかで彼はアグニカと出会う。『すべての力を束ねる存在』それが彼のめざすものとなった。時を経て、彼はついにガンダム・バエルへと続く扉を開ける。

格納庫に安置されたバエルを愉悦の表情で見上げるマクギリスの前に、ガンダム・ヴィダールが降り立つ。ハッチが開き、仮面を脱いだその姿はガエリオ・ボードウィンだった。ガエリオは、カルタ、マクギリスと過ごした幼き日を回想する。マクギリスにあこがれ、隣に立ちたいと願った日々。そしてその願いがかなった後にマクギリスによって起こされた悲劇。

バエルを起動させたマクギリスと対峙するガエリオ。そのとき、バルバトス・ブスレクスが現われ、ヴィダールに攻撃を仕掛けた。両機引かぬなか、バエルはギャラルホルン本部ヴィーンゴールヴに立つ。そこでマクギリスは全世界へ向けギャラルホルン変革をうたったのだ。そしてマクギリスの真意を悟ったガエリオも、それに続く。

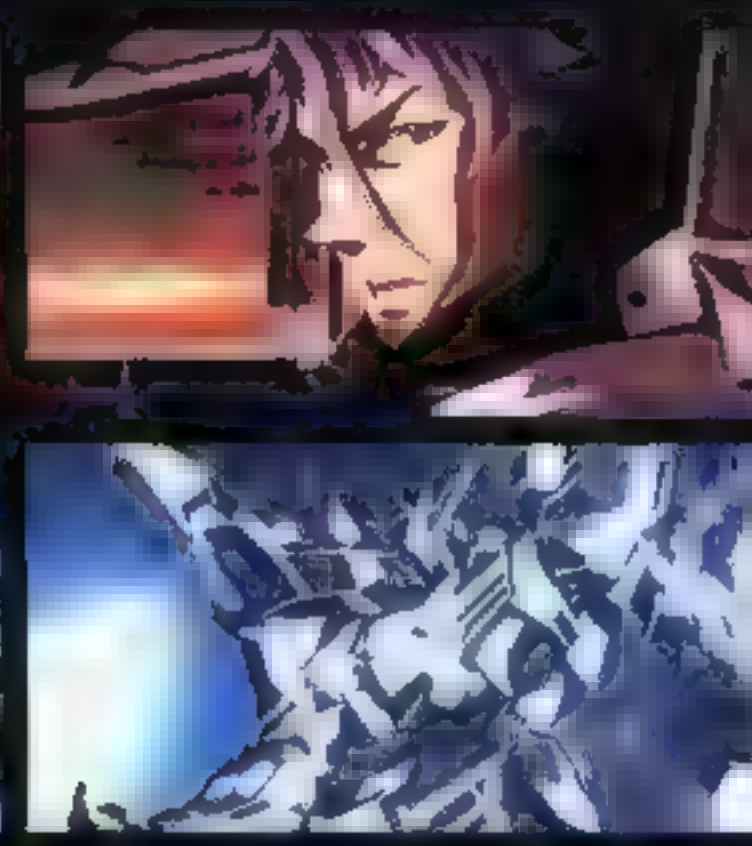
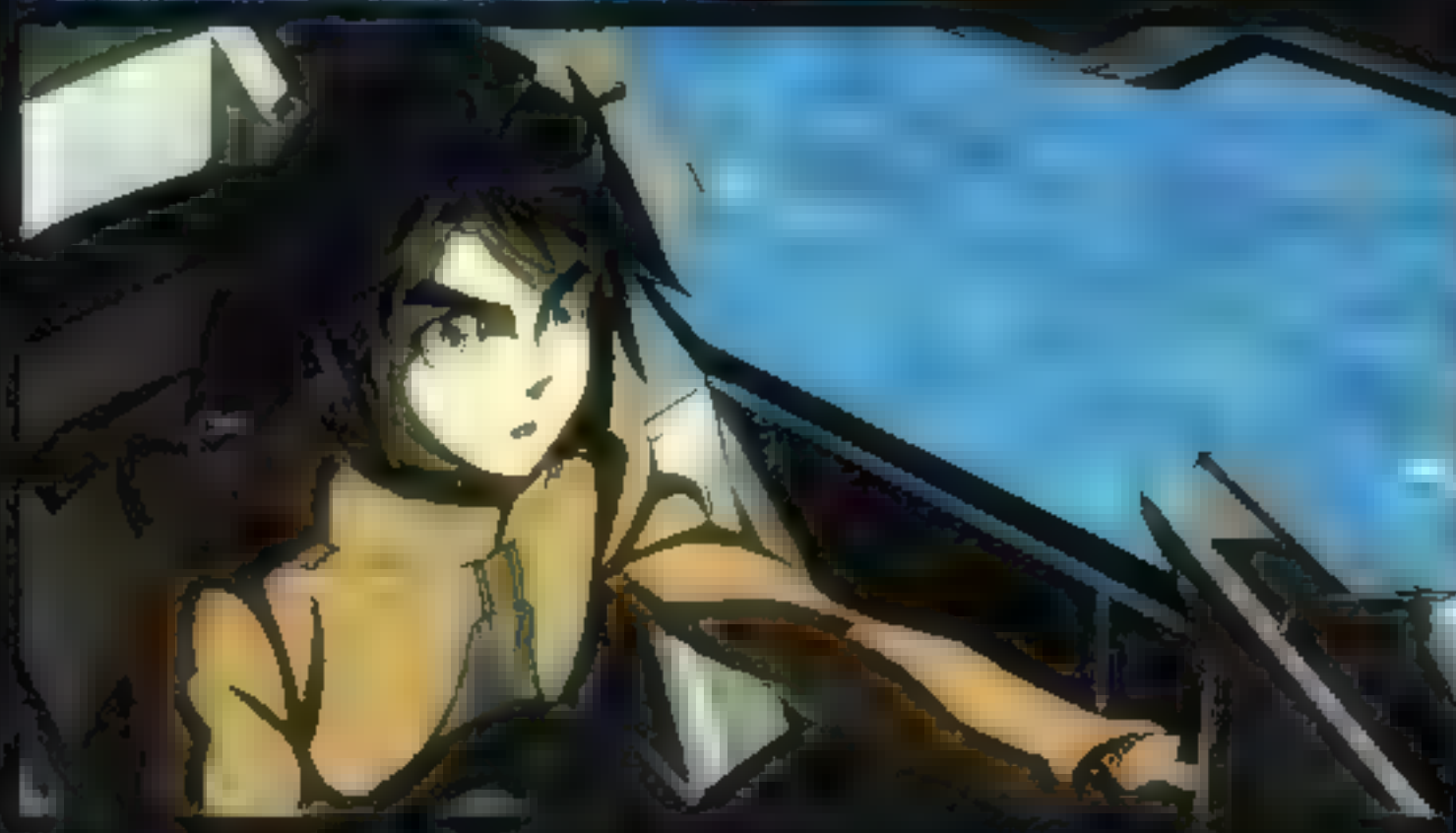
「ガエリオ・ボードウィンは、ここに宣言する。逆賊、マクギリス・ファリドを討つと！」



アグニカ・カイエル。
さあ、目覚めのときだ (マクギリス)



この場で。
仮面を外したお前を、全否定してみせる (ガエリオ)





歴史を尊ぶなら、
むしろ、やつはアグニカを否定すべき
だったのだ (ラスタル)



STORYGUIDE

カルタとガエリオの殺害、イズナリオ失脚の誘因、アルミリアとの婚姻によるボードウィン家乗っ取りの画策、ギャラルホルンの象徴ガンダム・バエルを起動させたこと。ラスタルはマクギリスの不義を白日の下にさらし、アリアンロッド艦隊を挙げての断罪・討伐を宣言した。

ギャラルホルンのトップはバエルに選ばれた自分だと宣言したマクギリスは、拘束したバクラザン公とファルク公、そしてボードウィン公に全戦力の譲渡を要求する。しかし彼らは中立を堅持。結果、マクギリスと鉄華団のみでアリアンロッド艦隊と戦うこととなった。

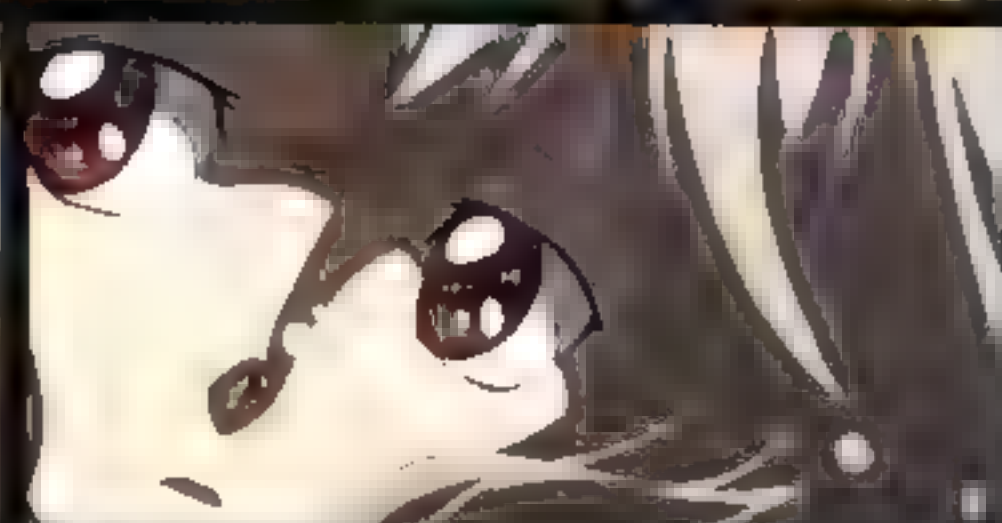
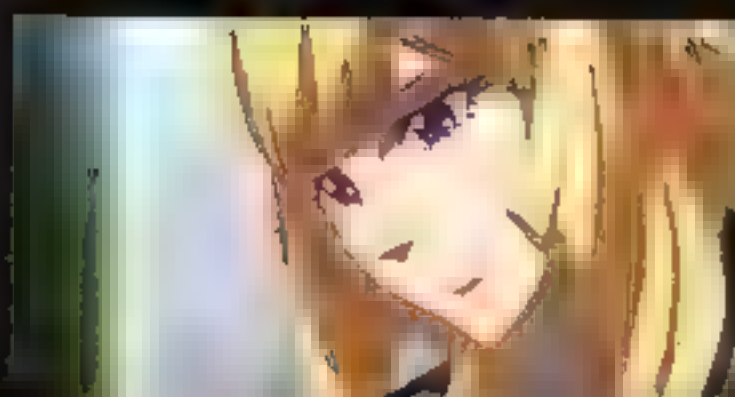
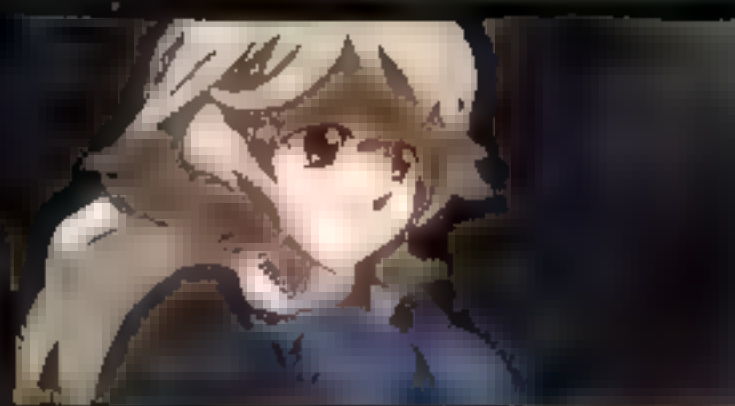
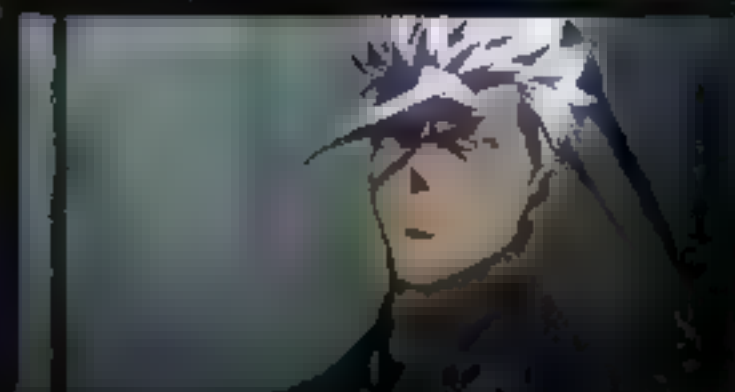
オルガにとってアリアンロッド艦隊と戦うことになるのは想定外だった。大事な“家族”を背負うオルガの怒りがマクギリスのほおを打つ。しかし、マクギリスと一度手を組んだという義理を果たすため、オルガはラスタルと戦うことを決める。鉄華団が軍備を進めるなか、ザックだけがオルガの決定を「どう考えても勝てるわけない」と非難する。

戦闘前、アトラはバルバトス・スレクスにつながれた三日月のもとにやってきた。これで最後なんだよね、大変な戦いなんだよねと切り出したアトラに、戦場にいるほうが楽だとつぶやく三日月。それを聞いたアトラは、三日月が戦闘に出ている間、どんな思いで帰りを待っているか、何もできない自分がどんなにつらいか、そんな思いがあふれてしゃくりあげた。三日月はそんなアトラの肩を抱き、「アトラのこと、大事だっと思って」と、さらに強く抱き締めるのだった。

一方、ラスタルはマクギリスの討伐とバエルの奪還に向け、ついに艦隊を発進させるのであった。



考えることを、
やめんじゃねえぞ (雪之丞)



STORY GUIDE

アリアンロッド艦隊と交戦するなか、オルガはラスタルを討てば俺たちの未来は変わると叫ぶ。

戦闘のさなか、アリアンロッド艦隊から上がった後退信号に呼応するように、革命軍のMSからラスタル陣営に向けてダインスレイヴが発射された。それは、間諜を潜ませ、禁忌の武器を使用させるというラスタルの詭計だった。報復の口実をつくったラスタルは数十機に及ぶダインスレイヴ隊を前線へ配置し、ダインスレイヴ発射を号令する。第一波で革命軍全艦隊の半数以上が壊滅。第二波でガンダム・フラウロス(流星号)を含む多くの機体とホタルビに甚大な被害が出る。深手を負いながら帰還したシノは、心配するヤマギ・ギルマトンに流星号を直してくれと頼む。さまざまな思いをのみ込み、シノの決意を受け入れたヤマギは、自作のダインスレイヴを流星号に取り付けた。

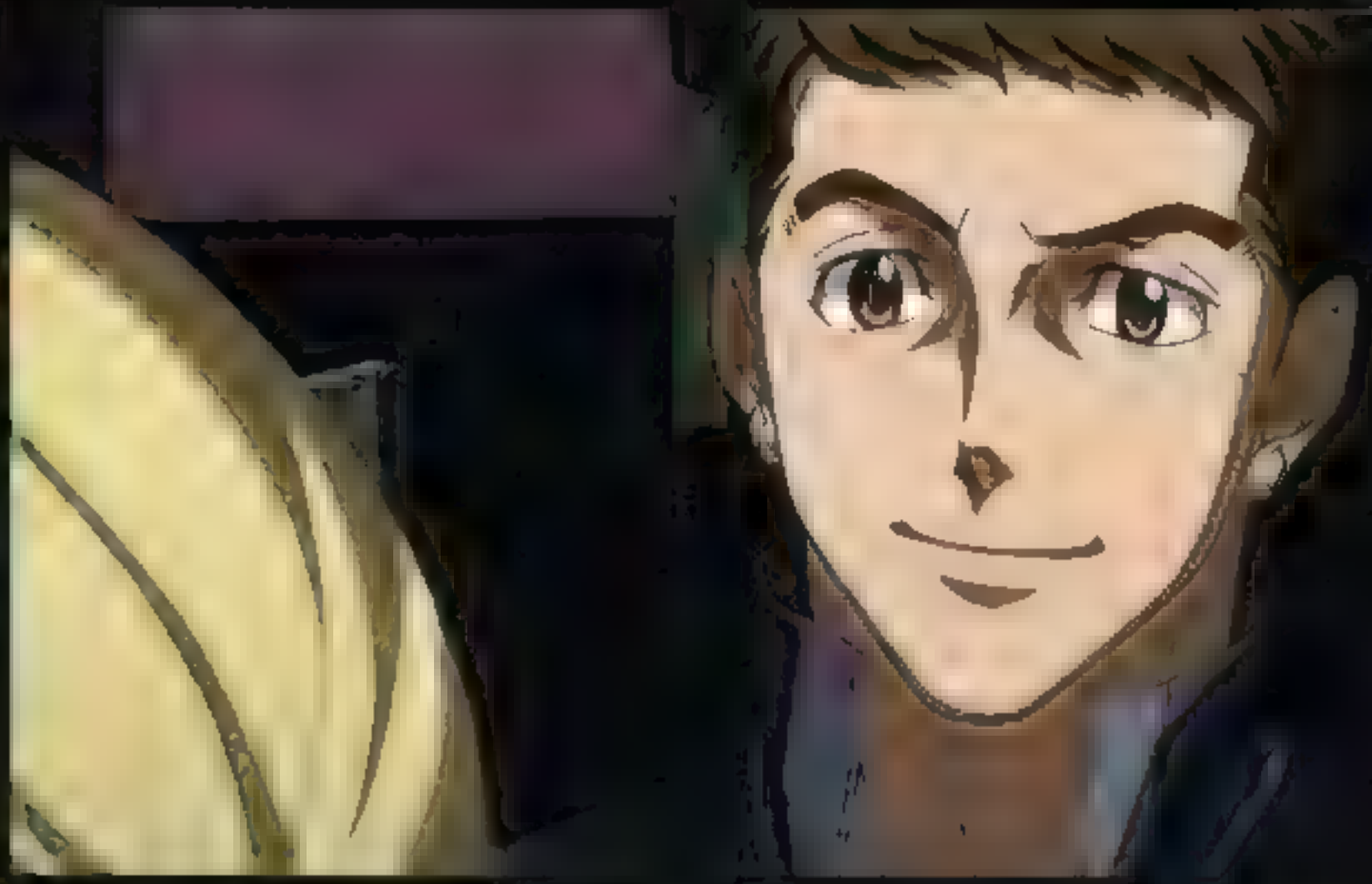
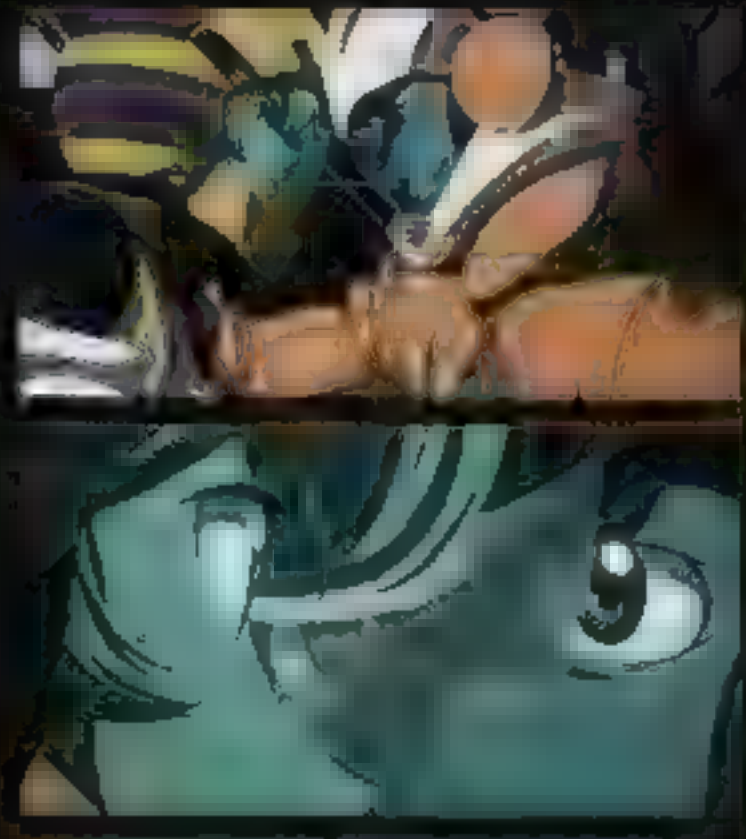
一度撤退することを選択しようとするオルガにシノは、前に進むしかないと呼ぶ。シノのことばにユージンたちも賛同し、ラスタルひとりをたたけばアガリだとオルガも覚悟を決めるのだった。

鉄華団は流星号のダインスレイヴでラスタル艦を沈めるという策に打って出る。チャンスは一度きり。ホタルビの影に隠れ、敵の緑り出すダインスレイヴの雨をくぐり抜けた流星号がラスタル艦をとらえる。しかし、発射の瞬間、ジュリエッタの投じたジュリアンソードが流星号の砲身をかすめ、射軸をずらされたダインスレイヴの弾道はラスタル艦の艦橋を外れ、虚空へ消えていった。無念の叫びを上げるシノに、無情の砲火が降りそそぐ。

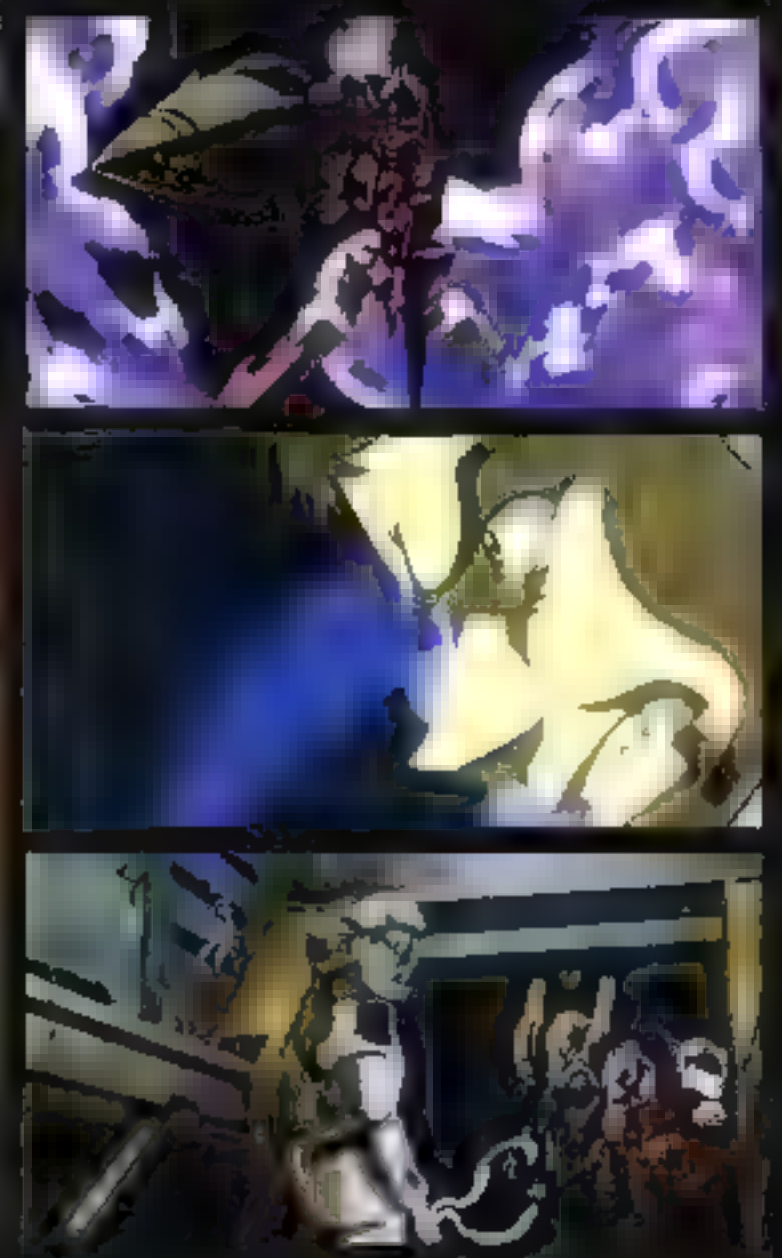
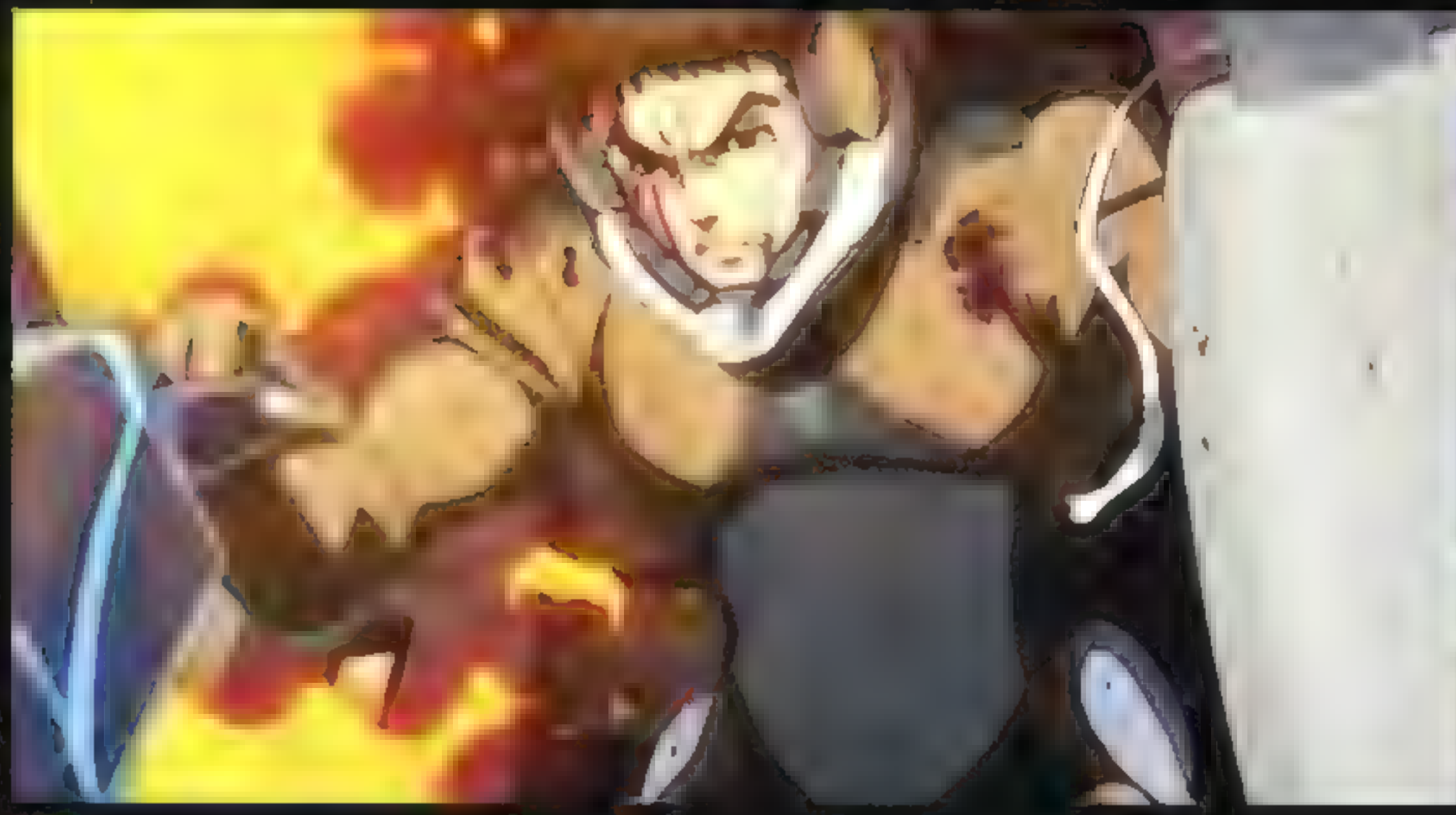




許さないよ……
死んだら、許さない (ヤマギ)



チックショオオオオオオオ!!! (シノ)





STORY GUIDE

フラウロスを回収しようとするオルガにユージン、シノがつくったチャンスを無駄にできないと叱咤する。

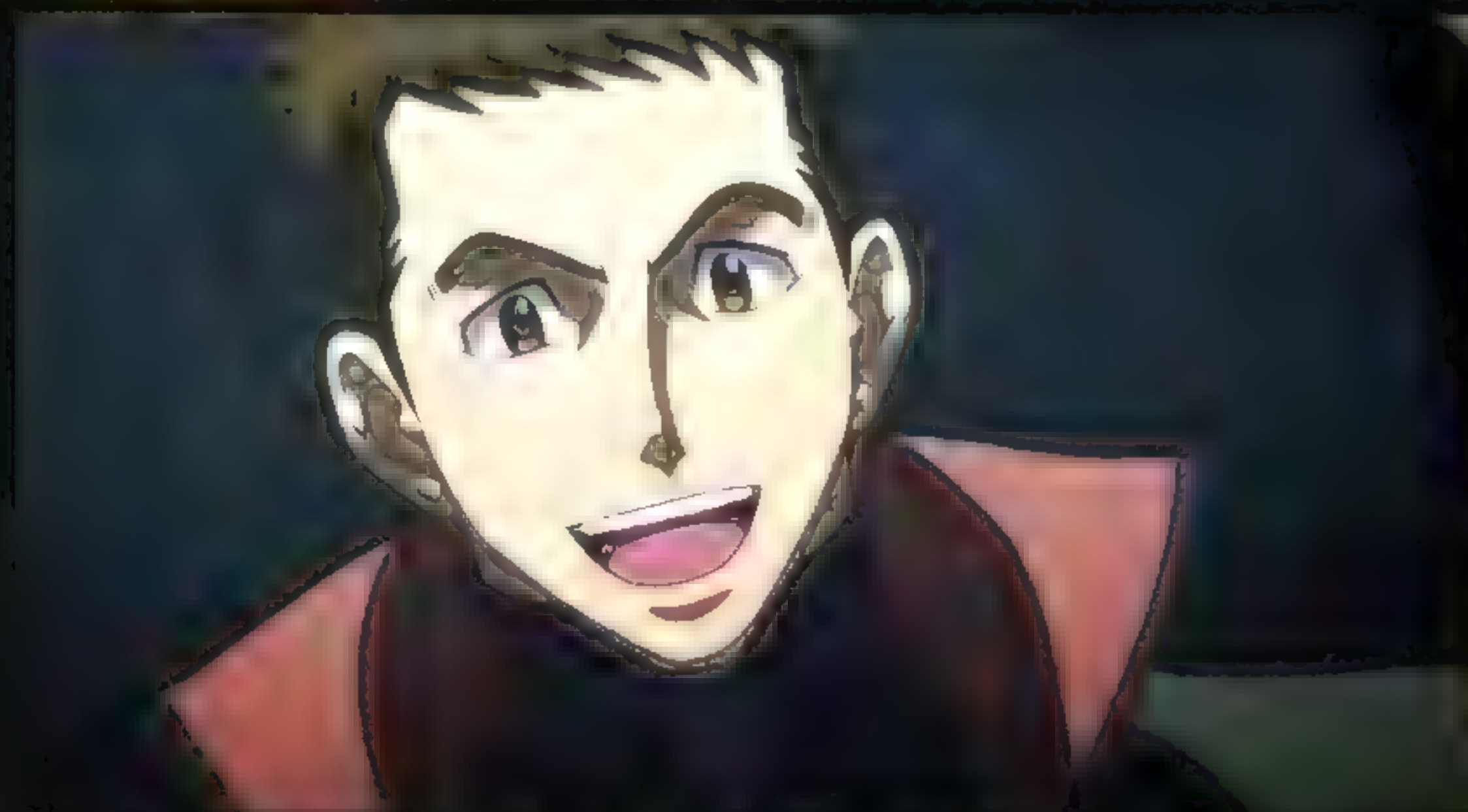
ホタルビが敵陣前で爆発し、満載していたナノミラーチャフを散布、レーダー妨害を果たす。バルバトスルブスレクスと交戦していたレギンレイズ、ジュリアもその爆発に巻き込まれた。そのすきにイサリビは戦線を離脱。ほかのMS隊も撤退した。そのころ、マクギリスの駆るパエルはガンダム・キマリスヴィダーと激しい火花を散らしていた。瞬のすきを突きキマリスヴィダーのドリルニーがパエルを貫こうとしたとき、石動のヘルムヴィーゲ・リンカーが分け入り、犠牲となってマクギリスを逃がしたのだ。最期の瞬間までマクギリスを慕う石動に、ガエリオはかつての己を重ねていた。

タービンスの航路を使い、火星へ退避する鉄華団の多くの団員が心身に深い傷を負っていた。戦闘で片腕を失ったデルマに昭弘は、生き残ってくれてありがとうと告げる。ぎりぎりの状態の鉄華団に、マクギリスは火星圏での戦いを提案する。厳しい状況を受け、家族のためにと決断してきたはずが、多くの家族を失ってしまったとユージンに吐露するオルガに、「みんなあんたを信じて死んでいったんだ」とヤマギが怒りをぶつける。

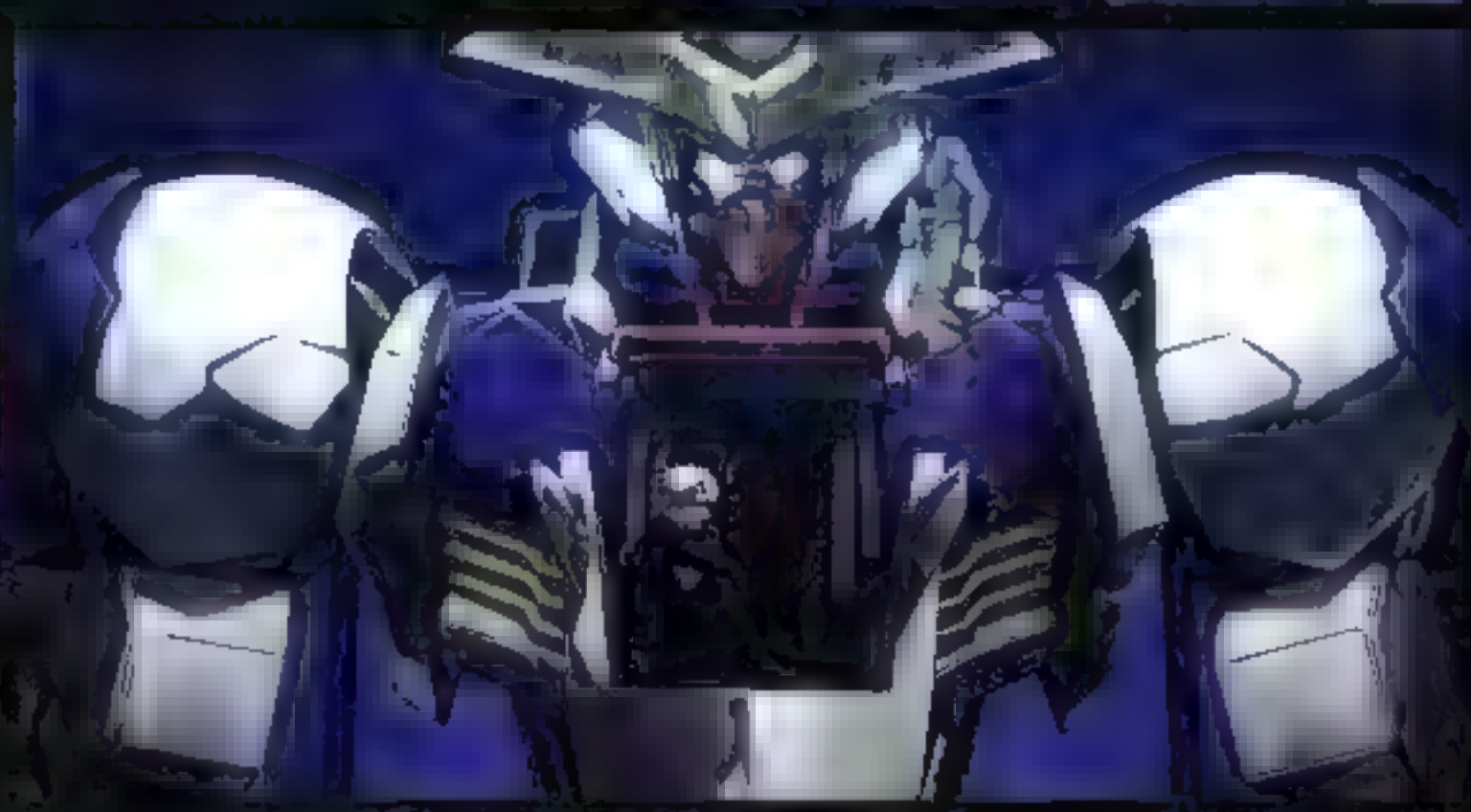
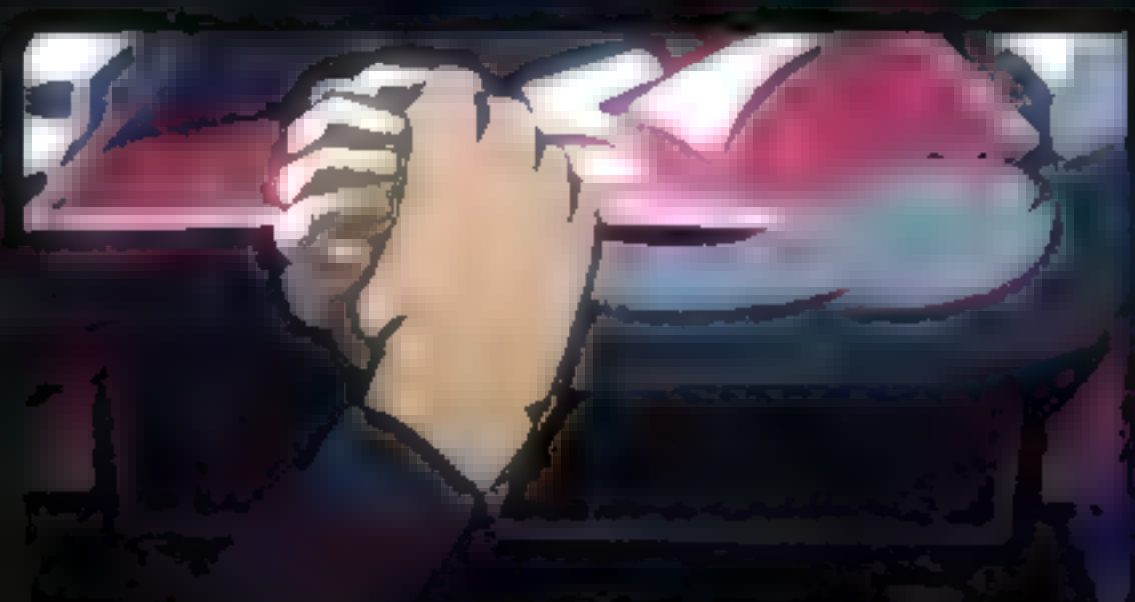
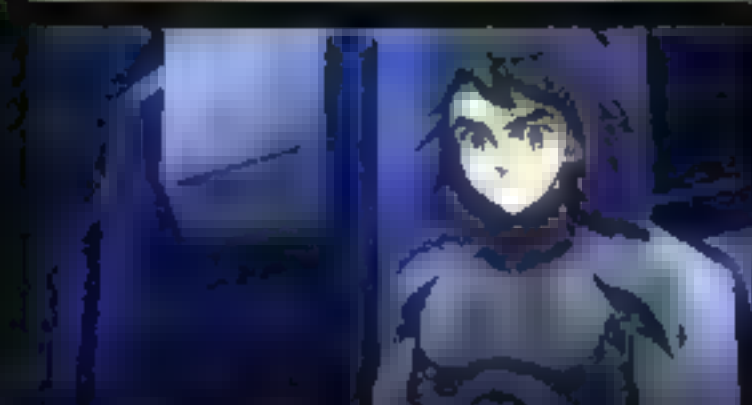
三日月に対して、オルガはみんなにうそをついてしまったとつぶやき黙り込む。そんなオルガに三日月は言う。自分が邪魔するやつを全部片付けていれば、オルガのことばはうそにならなかったと。そのことばにオルガは、「迷わない」と強く思い直すのだった。



生き残ってくれて、ありがとな……
デルマ・アルトランド (昭弘)



いろんな奴がいるここが、俺は好きだ。
守りてえよ、鉄華団を (シノ)





私……必ず、アトラさんを。
生まれてくる子供を、守ります。
約束です (クーデリア)



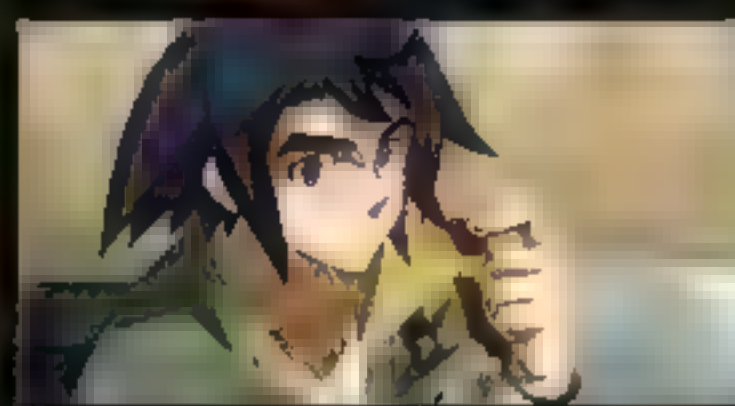
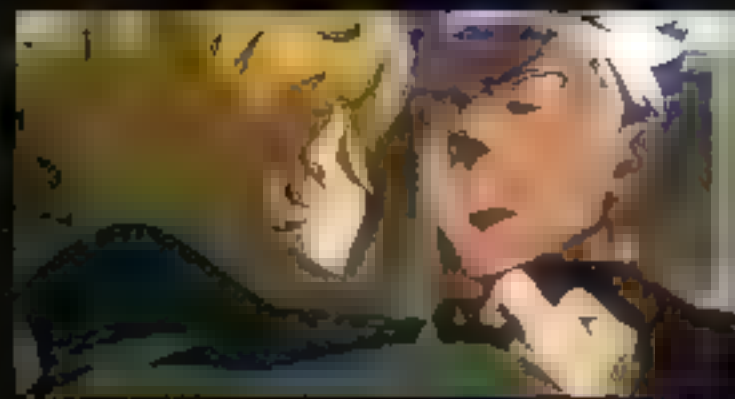
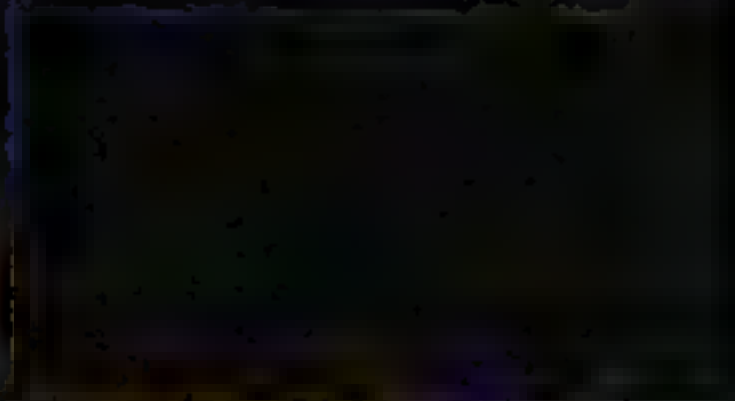
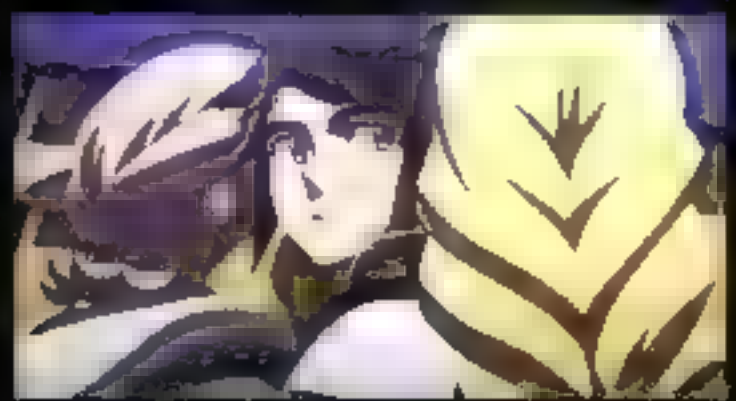
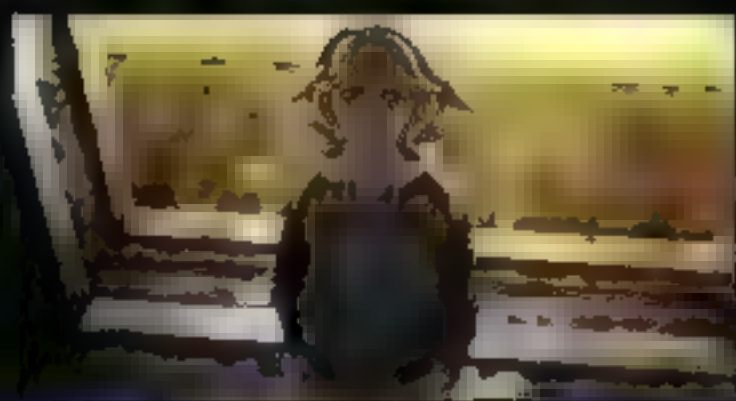
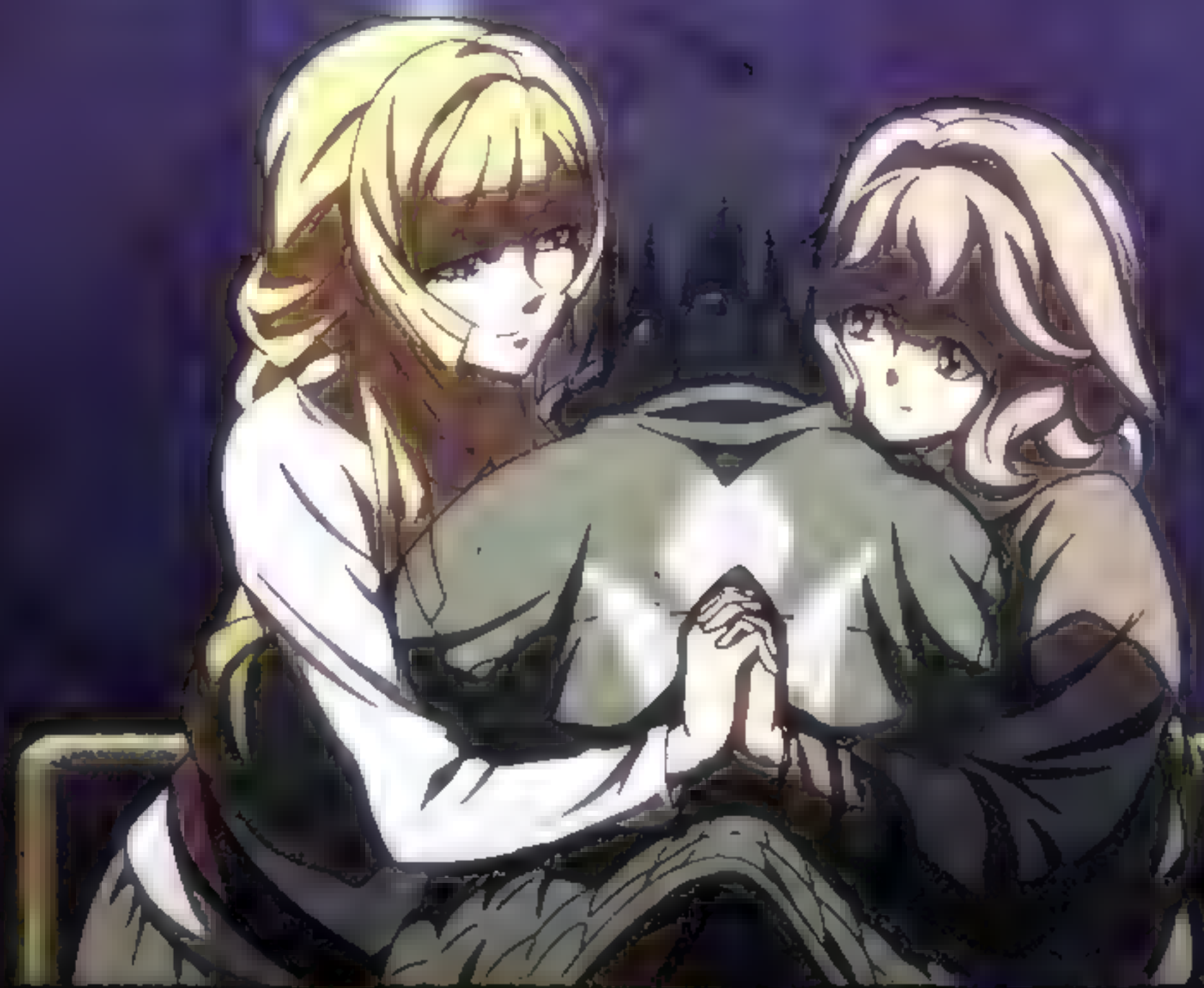
STORY GUIDE

マクギリスはギャラルホルン内での地位を剥奪された。一方で発言力を強めたラスタルはいよいよ深謀を巡らせていく。

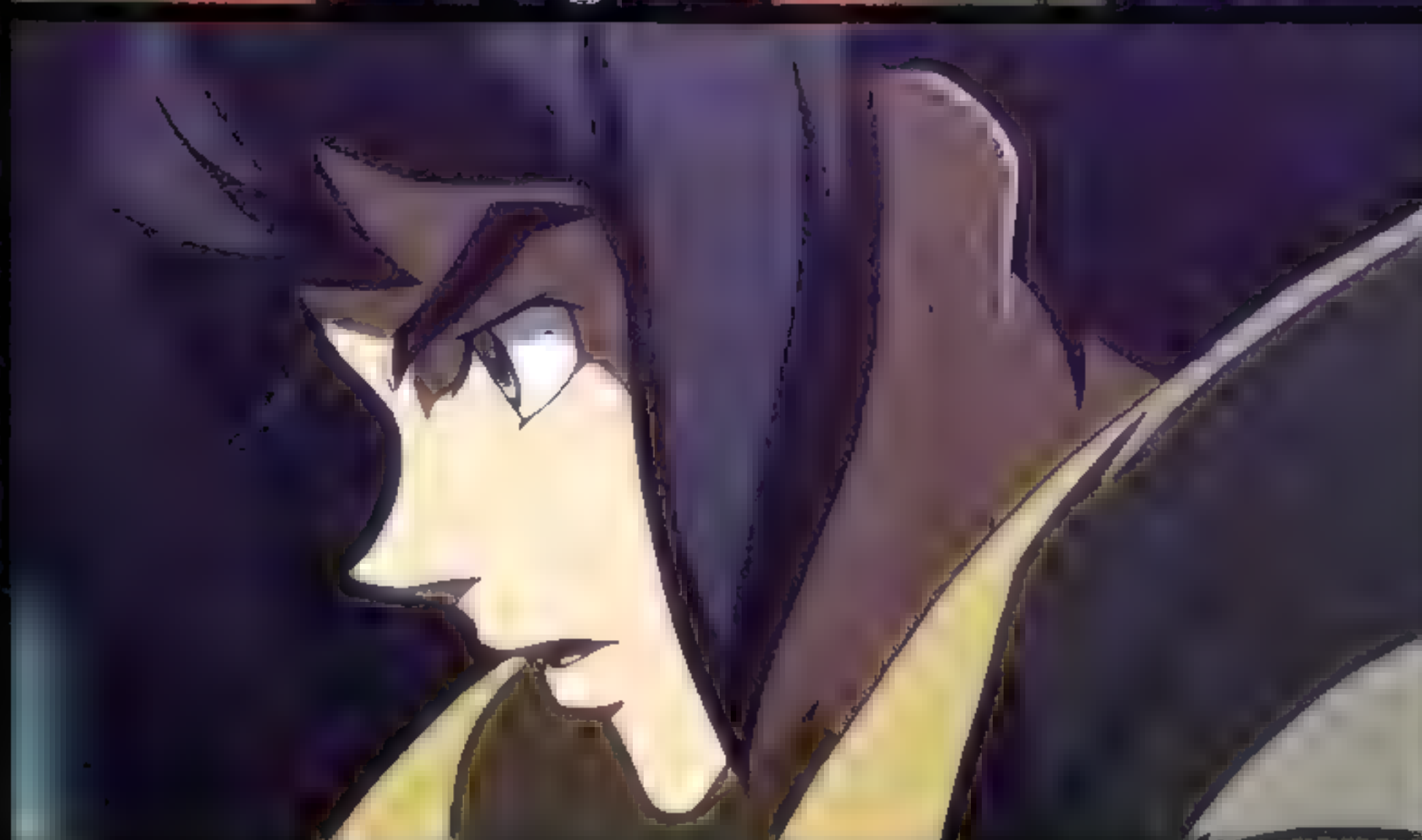
鉄華団が火星に戻ったころ、鉄華団団員はマクギリスの共犯者として指名手配されていた。ノブリス・ゴルドンによるアドモス商会への融資も打ち切られ、オルガはティワズのマクマードに、ラスタルへの取り次ぎを嘆願する。

そんな状況のなか、三日月は格納庫で野菜の育て方を読みふけていた。そこに立ち寄ったクーデリアに、唐突に「俺の子供も育ててくれる?」と聞く。三日月は「アトラひとりの子育ては不安だということ」「約束」というものがあるといいと思っていることをクーデリアに打ち明ける。クーデリアは喜びや苦しみ、さまざまな感情を去来させ静かに涙する。クーデリアさんもつくりましょう! いっしょに、三日月の赤ちゃん!と言うアトラに、クーデリアは「何て無器用な人たち」と笑い、3人は互いを抱き締め合うのだった。

そのころ、ラスタルは鉄華団の解散及びマクギリスとガンダム・バエルの引き渡しというオルガの提案をすげなく却下した。マクギリスと鉄華団は、ギャラルホルンの復権と世界秩序のための生け贄なのだ、と。失意のオルガに、ユージンと、昭弘は、俺たちは家族だと叱咤する。幹部メンバーが打開策を模索するなか、蒔苗に協力を求めるという案がクーデリアから出され光明が差す。しかし、いざ蒔苗に連絡を取ろうとしたとき、通信が遮断されていることに気づく。鉄華団の本部をギャラルホルンが取り囲んでいたのだった。



死んだように生きてた俺らに、生きる実感をくれた。
そして、家族をつくってくれた (昭弘)



STORYGUIDE

ラストルは、ノブリスを使って報道管制を敷き、マクギリスと鉄華団を追い詰めていく。オルガは全滅を装った脱出を画策し、蒔苗に個人IDを書き換えてもらうための方法を探る。蒔苗と連絡を取るにはクリュセ市街地のアドモス商会にあるQCCSの端末を使うしかない。どうやって市街地までたどり着くか悩むオルガにマクギリスは、自分が単独で包囲網を突破するすきに市街地をめざすよう提案する。

マクギリスが作戦に移るころ、格納庫でオルガは三日月に市街地に行くことを告げ、銃を貸すよう頼む。それはオルガの覚悟であり、「必ず返す」という三日月との約束でもあった。

無事、アドモス商会に到着したオルガは蒔苗との通信に成功する。IDの書き換えは重罪だと前置きしつつも蒔苗はそれを快諾。さらにそこにも現われるタカキだった。タカキは鉄華団退団後、蒔苗のもとで働いていたのだ。IDの書き換えには地球へ行く必要があったが、移動手段は名瀬の遺志を継いだ、アジーを頼ることで道は開かれた。

見送るクーデリアにオルガは、今まで助けてくれたことに感謝し、出会ったころの話をして笑い合う。つかの間の優しい時間。アドモス商会を出たとき、オルガたちは突然、銃撃を受ける。咄嗟にライドをかばったオルガは、背中^{びんし}に銃撃を浴びつづけた。瀕死の状態にもかかわらず立ち上がり、踏み出していくオルガ。

「俺は止まんねえからよお。お前らが止まんねえ限り、その先に俺はいるぞ。だからよ……止まるんじゃねえぞ……」

オルガ。それ、ちゃんと返してね (三日月)



わかってるよ。ミカ、心配すんなって (オルガ)





三日月さん、行ってください。ここは俺の持ち場です。いつかぜってー追いつくんで…
止まんないで、先……行って…… (ハッシュ)



STORY GUIDE

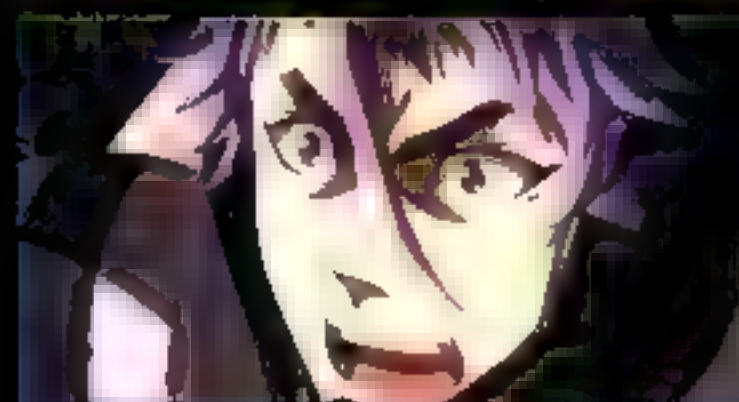
オルガの訃報に動揺する団員たち。彼らを集めた三日月は静かに宣言する。

「俺のなかに、オルガのことはまだ生きている。オルガの命令が生きている。なら、俺は全力でそれをやる。俺の、オルガの命令の邪魔をするやつはどこの誰でも全力でつぶす。どこの、誰でもだ。わかった？」
「なら、死ぬまで生きて、命令を果たせ」

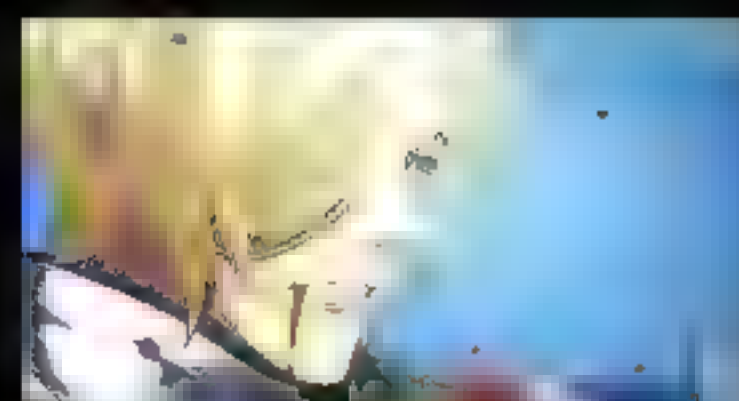
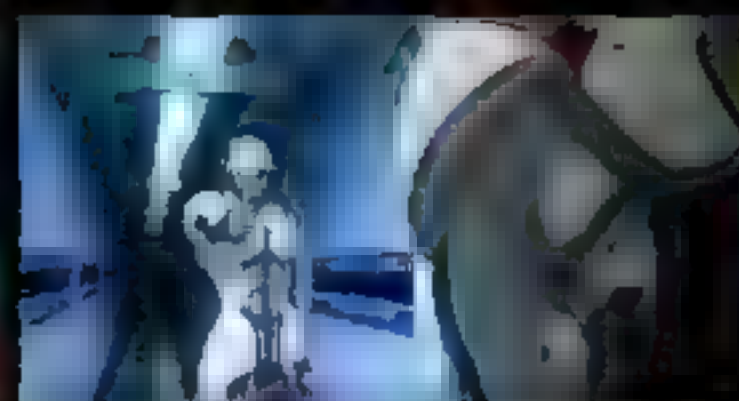
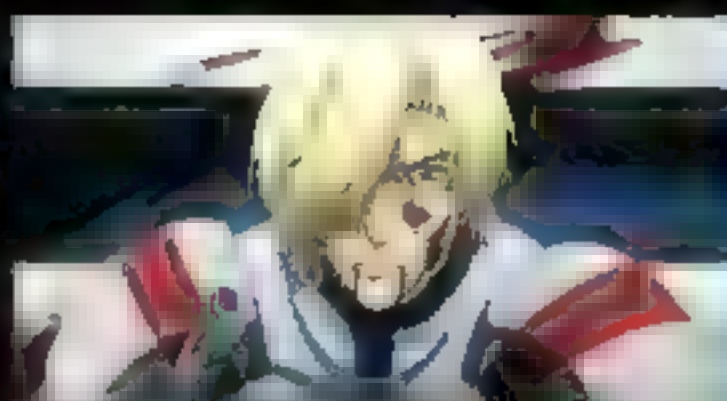
ギャラルホルンの提示した降伏勧告の期限を迎え、鉄華団への全面攻撃が始まった。三日月たちMS隊は施設防衛に回り、クリュセまでの地下トンネル貫通と団員逃亡の時間を稼ぐ。一方、宇宙に出たマクギリスは自身のハーフピーク級で特攻をかけた。思い描く世界のために飛び立つガンダム・バエル。しかしその前にガエリオが立ちはだかる。激しい死闘のすえ、バエルとキマリスヴィダーはラスタルの乗艦に激突し大破。艦内へ潜入したマクギリスは致命傷を負いながらもラスタルの姿を捜す。しかし目の前に現われたのは、またしてもガエリオだった。マクギリスとガエリオは最後の邂逅を果たす。

「まだ死ぬな……俺を見ろ、マクギリス！」

ガエリオに多くの思いが去来する。自分を殺そうとした男が目の前にいる。その男は自分があこがれていた存在だった。最愛の妹、アルミアもマクギリスにならと許したのだ。しかしこの男は、自身が語る幸せに本物と偽物があるとすら気づいていなかった。マクギリスの告白はガエリオの心を強く揺るがす。マクギリスにとってカルタやガエリオは自身の目的を果たすためには目をそらさなければならない存在だった。かつての親友の腕の中で、マクギリスは息を引き取った。

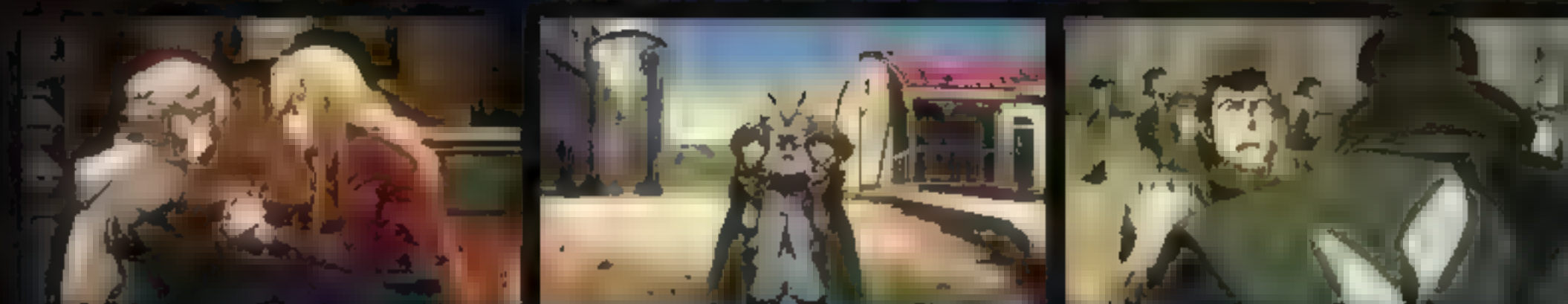


言うな！
お前が言おうとしていることばが、俺の想像どおりなら……。
言えば、俺は……許してしまうかもしれない（ガエリオ）





何にももっていなかった俺のこの手のなかに、
こんなにも、多くのものがあふれてる…… (三日月)



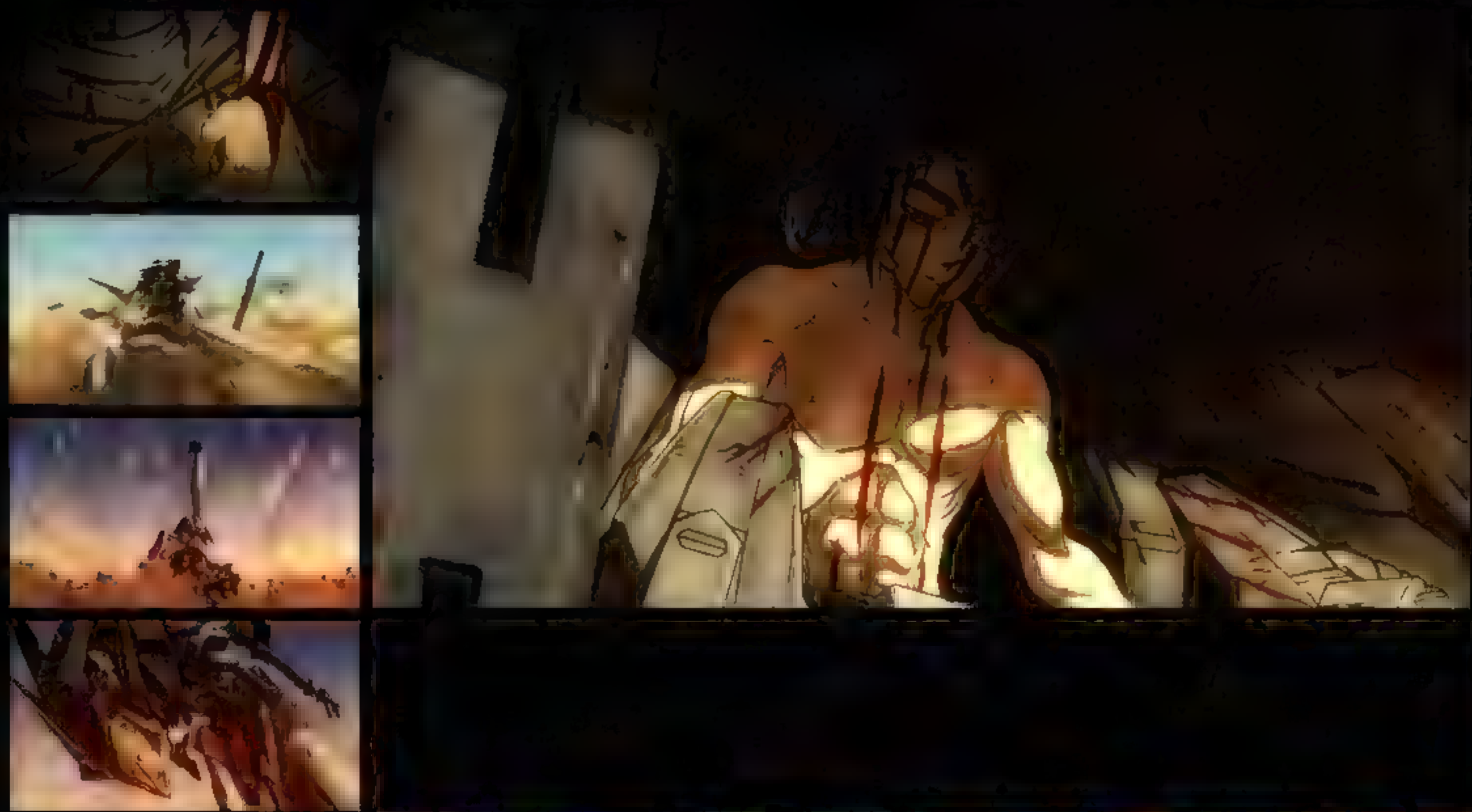
STORYGUIDE

クリュセまでのトンネルが貫通した。团长命令を遂行するためユージンら防衛前線は撤退、雪之丞たちとともにクリュセをめざす。時間稼ぎのためにアランロッド艦隊に挑むのは、三日月と昭弘だけだった。戦場に現われるレギンレイズ・ジュリア。そして、ダインスレイヴ隊は、宇宙から鉄華団本部施設もろとも、2機をなぎ払った。

直撃を受けたバルバトスルプス・レクスとグシオンリベイクフルシティ。朦朧とする意識のなか、三日月はオルガと出会った日のことを思い出していた。三日月は、再び立ち上がり、バルバトスルプス・レクスは四肢を次々と吹き飛ばされながらも進んでいく。昭弘は目の前に降り立ったグレイズにイオクが搭乗していることを知る。死が迫るなかで、昭弘はイオクに報復を果たした。

レギンレイズ・ジュリアとバルバトスルプス・レクスの死闘は続き、ついにコックピットハッチが吹き飛ばされた。中にいた三日月の意識はもうなかったのだ。バルバトスルプス・レクスの首が討ち取られ、空高く掲げられた――

“マクギリス・ファリド事件”を経て世界は大きく変わっていった。火星は地球圏からの独立を果たし、初代連合議長にクーデリアが就任。セブンスターズによる合議制を廃したギャラルホルンの初代代表にはラスタルが就任した。葦苗亡き後のアープラウ代表はラスカー・アレジが務めている。クーデリアは公務の合間を縫い久しぶりのわが家へ戻る。アトラと、三日月の息子、暁の待つ桜農園へ。歴史の陰に忘れられようとも、鉄華団が、そして愛する人が残してくれたこの世界を、3人はともに歩いていく。



未来をつかむ手です
(クーデリア)





THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2 CROSS TALK

三日月・オーガス役 オルガ・イツカ役
河 西 健 吾 × 細 谷 佳 正



細谷 佳 正

描きたかったのは 苦しみではないということ

——「機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ」がついに完結を迎えました
が、現在の率直な気持ちをお聞かせください。

河西 ここまで主人公の死を真正面から描いたのは、「ガンダム」シリーズの長い歴史のなかでも、「鉄血のオルフェンズ」が初めてだったのではないのでしょうか。ただ、最終回の昭弘とのやりとりや、死の間際の三日月のようすからも、「やりきった」という気持ちが強いです。むしろ悲壮感ではなく、すがすがしさすら感じました。

細谷 まだ「終わった」という実感がわかないのが正直な気持ちです。人の死を正面から描きづらい時代ではありますが、そこをあえて曲げずに貫き通した姿勢は、自分としてもうれしかったです。「終わってほしくない」という気持ちは、僕のなかにもあります。ですがそれをせずに、キツチリと終わらせることには潔さを感じますし、終わりがあからこそ、物語は濃くなつていくと思います。

——第2期では鉄華団が組織として成

長していくことによって、オルガはあがいていたような印象を受けますね。

細谷 第1期のオルガは、鉄華団を立ち上げてクーデリアを地球に届けるという仕事のなかで、イキイキとしているのがよくわかりました。ですが第2期になって、鉄華団が組織として成長していくという状況の変化は大きかったですね。感覚的には一国の大統領を任されたぐらいのイメージで、オルガは公人としての顔を見せつけなければいけなかったわけです。「リーダーはこうでなければならぬ」という考えを意識していたと思うのですが、それは僕としてもプレッシャーでした。

——終盤のオルガは、徐々に昔を取り戻していった雰囲気があります。

細谷 物語の終盤で追い詰められていくにつれ、シノの死やラスタルの交渉を経験していくことで、オルガはシンプルになつていきましたね。何というか、一日と幼少時代に止まったところのメンタルに戻つていくんです。その瞬間から、僕も身軽になつた感覚がありますね。人間的な

弱さを近しい仲間に見せられるようになって、また彼の人間らしさが見えてきたと思います。

——第48話ではオルガが死に至りましたが、どのようなお気持ちで演じられていましたか？

細谷 オルガが死ぬとしたら「拳銃で撃たれる」と思っていたんです。オルガの死にざまは突然だったかもしれ



河西健吾

れませんが、「人の死はこういうものだな」と思いました。彼はあのエピソードのなかで、とても心が弾んでいるんですよ。鉄華団を救える手段が整ってきて、自分が話をつければ家族を助けてやれる。しかも、その後は何のしがらみもなく生きていくことができる。クーデリアの事務所を出る前に、廊下でオルガとライトが話しながら歩いてるんですよ。その会話の掛け合いが本当に軽妙なんです。物事が急速にうまくまとまりはじめてそこで突然やってくる最期というのが、個人的にですが、そういうものなのかもしれないと思いました。

——アフレコには、どのような姿勢で臨まれたのでしょうか？

細谷 「次は死ぬシーンだからこうしなきゃいけない」というつもりはまったくなく、アフレコが始まったら自然に進んでしまったという感覚でした。偶発的に命を落とす瞬間って、映画やアニメにすればドラマチックに描かれますけど、現実はそのようないんだらうなど。きつきまで隣で仲よくしていた人が、いきなりいなくなってしまうというか。ですから僕自身のなかには、まったく悲しい気持ちはありませんでした。

河西 個人的にオルガの死は意外でした。第2期はオルガの苦しみかき彫りになっていましたか、それな

らオルガを残して鉄華団のメンバーが全員なくなってしまう流れになるのかなと思っていました。家族がいなくなることが、オルガにとっていちばんつらいことですからね。ただ、描きたいのは苦しみじゃないということとは、その後の展開でよくわかりました。次につなげるためには、どうやってあかくのか……。この作品の根底には、そんな意図が込められてるんだと思います。

——第48話でも、三日月はオルガの護衛としていっしょに行こうとしていましたよね。

河西 「オルガが死ぬ」ということは、これまでは、日月が絶対にさせないと思ってたことなんです。でも今回は自分のいない場所で事件が起こってしまった。日月は自分のことを責めたかもしれませんが、オルガにもらった命なのに、オルガを死なせてしまったら意味がないと。

——その気持ちが、第49話の演説で見

せたような変化につながっているのかもしれないね。

河西 あのシーンは、オルガのように演説するという方法論もあったかもしれないんですが、「自分としては」さすがにそれは違うだろうな」と思いまして、現在の形に落ち着いていますね。人事なのは話し方ではなく、意思を伝えることなんです。オルガは守ることができなかったけど、彼の「つたことはやり遂げないといけない。彼が残したことはや意思は、守らなければならぬ」という思いで演じていました。鉄華団のメンバーからしてみれば、あの「日月がリーダーのようなふるまいをするわけですから「オルガが乗り移った」と見えたかもしれないですね。

——最後にまた新しい三日月を見ることができたという印象です。

河西 第1話からそうですけど、日月は演じることに、どんどん新しい事が聞かれていったという感じで

死を悼んで終わりではなく
人の記憶やいろいろな形で
残っていくんだなと

オルガと三日月が生きていたら どんな未来だっただろう

す。ある程度まで進むと、「ああ、三日月はこういう人間なのか」と理解が進むのですが、また新しい扉が見えてくる。最終話でも、また新しい扉を開けた感覚がありました。

——三日月の死に対して、どのような気持ちを抱きましたか？

河西 僕個人としては、三日月は死ぬだろうと思っていたので、驚きはありませんでした。最後の瞬間は、戦いの相棒である昭弘といっしょに散れたのもよかったです。三日月自身は、悲しい気持ちも後悔もまったくなかったんじゃないですか？ 最後の瞬間まで、ブレスレットが汚れたことを気にしていましたからね。ただ、三日月に未来がないことは、とても悲しい事実です。でも最後に、アトラたちが三日月のことを思い出し、「子供（暁）の手が父親譲りだっという話もあった。もうみんなにかかわることはできないけど、誰かが覚えていてくれることは救いです。三日月という人間は「そこにいたんだよ」ということが描

かれているのは、うれしいですね。誰かが死を悼んで終わりなのではなく、三日月のことは人の記憶やいろいろな形で残っていくんだなど。

——最後に暁がみんなの写真を見ているシーンも、悲しさを誘いますね。

河西 もしオルガと三日月が生きていたら、どんな未来を歩んでいたんだろうっていう気持ちはありますね。な命をまっとうするまで、彼を演じてみたかったなど。きっとバルバトスにつながった状態で、暁をあやすのかな（笑）。

細谷 小さいころからカンダムに触れるというのは、三日月の子供らしいよね（笑）。

河西 確かにそうですね（笑）。

細谷 最終話はスタジオにいましたが、出演がないのでお客さんと同じ気持ちでした（笑）。改めてアフレコのような客観的に見ると、キャストのみんなが本気でぶつかっていく姿と、そこから発せられる空気、役者さんがどんどん変わっていくのが興味深かったです。ことばでは表

わしにくい感覚ではあるんですけどね。これはオンエアでは見られない光景ですから、とてもせいたくだなと感じました。

——今まで演じられていた現場を、客観的に見るというのは不思議な感覚ですね。

細谷 そうですね。特にオルガが生きていたときにはない会話があるのは新鮮でした。たとえば、三日月と昭弘がいっしょに戦っているなかで、会話をしているシーンもそうです。河西君や内田（靖則）さんが試行錯誤しながら演じているようすを見ていただけで、とても色っぽさを感じます。ちよつと舞台のような雰囲気があつて、熱さを感じました。

——第1期、第2期を通して、どんなシーンが印象に残っていますか？

河西 モビルアーマー戦の前後で、オルガと三日月が会話をしているシーンが印象に残っています。三日月がなせオルガに対して、このような接し方をしているのが描かれて

いたので。それも：日月の体が動かない状態だったことも、印象的でしたね。

細谷 あのシーンはこれまでと同じ「連れてってやるよ」というセリフでも、ちよつと雰囲気違ったよね。第1期ときは、ミカにとってもビビりながらヤケクソで言っていた感じだったけど、第2期は覚悟を決めた感じだった。

——細谷さんはどのようなシーンが印象的でしたか？

細谷 激しい会話というより、静かなシーンが印象に残っています。第26話で「お嬢さんの案件だ」って言う、ミカと2人だけで静かに会話をするようなシーンですね。第2期のオルカは、政治的な交渉のなかで相手に本心を悟られないような会話だった、けたたましいなかにいることが多かったんです。でも鉄華団の代表として会話をしているよりも、イサリビのデッキだったり、バルバトスの前だったり、雰囲気落とした場所で静かに2人で会話だけするシーンが好きですね。スタジオの雰囲気も、こういうシーンになると、周囲から物音がどんどん消えていく感覚があるんです。あの瞬間は、とても好きでした。

——「鉄血のオルフェンズ」は、お2人にとってどんな作品でしたか？

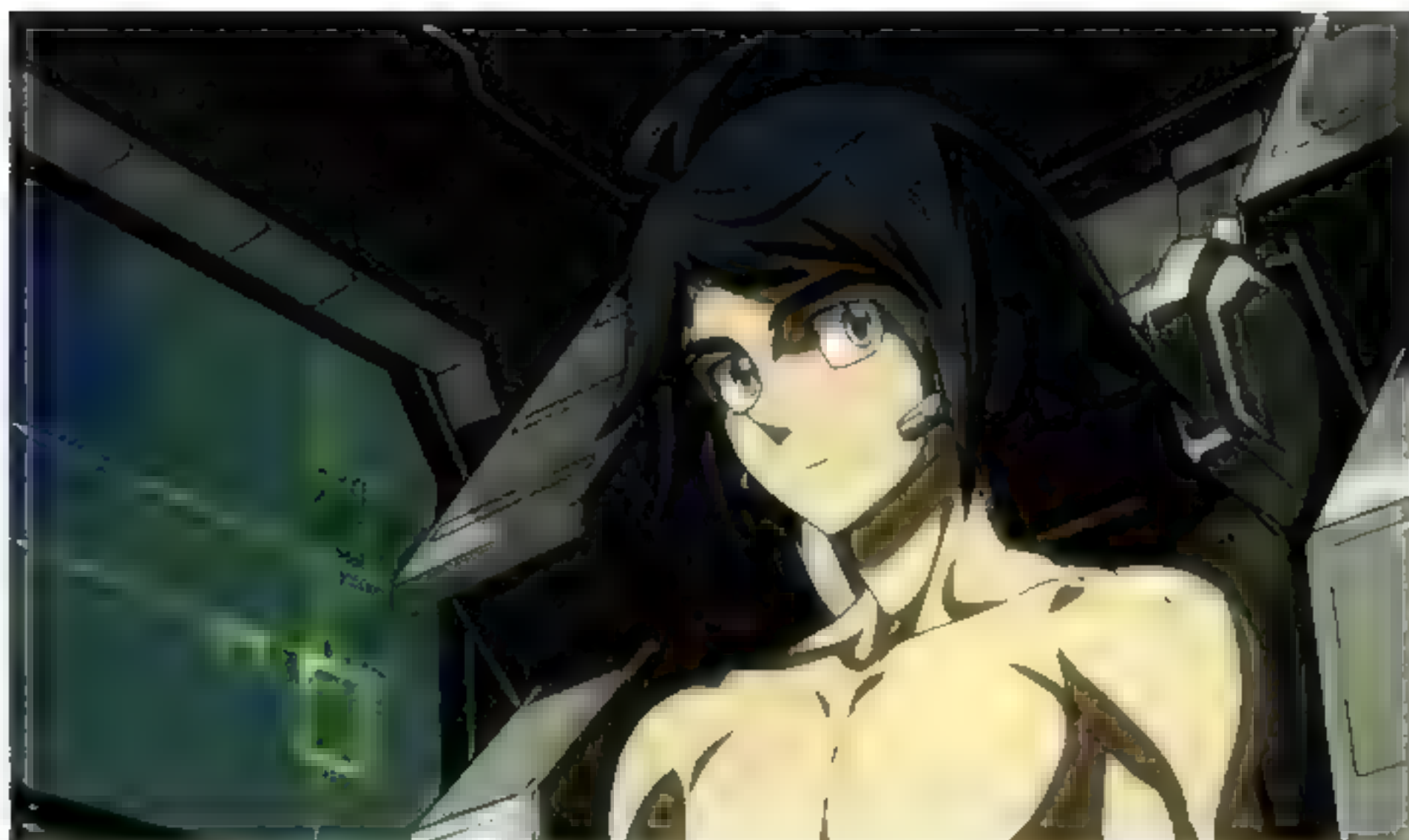
河西 大げさではなく、今後つくられる「ガンダム」に多大な影響を及ぼす作品になったのではないかと、明確に1人公の死を描いたことは、ひとつの壁を乗り越えたという感覚があります。きつと次の「ガンダム」に立ち向かう意欲をわかせることができる存在になったのではないかと、僕は考えています。

細谷 この作品を通して、ひとつのスタイルといいますか、しつくりとしたものを見つけることができました。自分のキャリアのなかで、リーダー的なポジションをやらせていただいたことはありましたが、オルガにかかわったことで、今まで知らなかった感覚を知ることができました。ことばや文字にはできませんが、自分のなかで明確に「大事な部分はこれなんだ」という感覚を得ることができました。

——「鉄血のオルフェンズ」を応援してくれたファンの皆さんに、メッセージをお願いします。

河西 今50話という長期間にわたって応援していただき、本当に感謝のことばしかありません。「鉄血のオルフェンズ」は、「ガンダム」という歴史あるシリーズのなかで、これまでにない新しいものを提示できたのではないかと思っています。これまで見てくださって、ありがとうございます。

細谷 作品のファンの皆さんのなかで、いろいろな思いや感情が生まれましたと思いますが、それらすべての思いがありがたいです。これまで応援していただき、本当にありがとうございます。



THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

CAST COMMENT





Question

- ①作品に参加した感想
- ②声をあてたキャラクターについてもった印象と役作りについて
- ③いちばん心に残っているシーン
- ④いちばん心に残っている自分のキャラクターのせりふ
- ⑤好きなキャラクターと好きなメカ
- ⑥ファンへのメッセージ

クーデリア・藍那バースタイン 寺崎 裕 香

①作品のストーリーにキャストだけでなく、スタッフの皆さんも含めかわっている方、皆さんが、こんなに魅せられ、のめり込んでいる作品に参加できていることを、とても奇跡のように感じています。「伝説をつくろうー」と団長が熱くなっていたのも、作品に対する自信があつたから、キャストひとりひとりが毎回命がけでアフレコに挑んでいて、まさに戦場でした。先輩の背中を見て、仲間たちの背中を見て、いろんなことを学び感じた1年。とても充実した時間でした。

②とてもまつすぐで、強い部分ももちながら、恋愛に関してはとても不器用でかわいらしい部分もあっていて、とても魅力的な子だなと感じます。とにかく、自分の信じた道をただひたすらにがむしやりに突き進むしかなくて、振り返って暇もなくて。彼女の最初の「たどりつくべき場所」に「いかう」とだけ見てきた第1期に比べ、第2期はその経験をもとにとっても大きく成長した彼女を、とても頼もしく感じました。人々の希望になってほしいと、フミタンの残したことを現実のものにするため、鉄華団のみんなを幸せにするという約束のため、しっかりと地に足をつけ、何をしなければいけないのか、少しずつ、現実にしていっている

姿がとても印象的でした。

③タカキとアストンの別れのシーンです。アストンの「お前たちと出会わなければよかった。死にたくないって思いながら死ななきゃいけないんだから」ということは、ヒューマンデブリだったからこそ。ヒューマンデブリという存在の残酷さがより浮き彫りになった気がしました。アストンには、人として当たり前な感情を知ってもらえてよかった。そんな子供たちをなくすために！クーデリアには頑張っしてほしい!!

④地球支部編で、落ち込み悩むタカキに対してかけたことばです。「あなたたちはもつと学ばなければならぬ。本当の選択肢は無限にあるのよ」とタカキにことばをかけるクーデリアは、第1期のときとはまた違ったことばの重みを感じました。こんなことを言うようになったんだな」と母親のような気持ちで彼女をみて、とても感動したのを覚えています。

⑤好きなキャラクターはいっぱいすぎて選べません!! 敵も含め、すべてのキャラクターがとっても魅力的なオルフェンズ。人々に旅立った仲間も含め、すべてのキャラクターがとってもいいです。好きなメカは、ひとめぼれしたのは、やっぱりバルバトス。あの登場シーンを見てしまったらほれずにはいられないですよ。あとは、マクギリスが乗っ

ていたグリムゲルデが好きです。色とウサギみたいな耳がついているのがかわいくて、もし、クーデリアが乗るなら、グリムゲルデに乗せたい!!

⑥これまで応援していただき、本当にありがとうございました。たくさん仲間を失いつつも、目の前にあるものにがむしやりに食らいついて前進していく少年たちの行く末はきつと、輝かしい未来につながっていると思います。彼らは、笑いあうために前に進んできました。「日々を大切に生きていこう」と思わせてくれた彼らの姿が、皆さまの笑顔につながっていたらうれしいです。あなたの心にこの作品が残りますように。

アトラ・ミクスタ

金 元 寿 子

①第2期からは、新キャラクターも増えて現場もさらに熟くなりました。本当に鉄華団のメンバーがそこにいるような、すごく不思議な感じでした。またキャラクターを演じられてうれしい気持ちが大きかったです。

②姿も成長しましたが、月山というか、クーデリアと、日月との絆がより強くなったと思います。いつも一生懸命な

姿で2人に寄り添うところに、アトラの愛情を感じていました

③本当にたくさんありますが、名瀬さんとアミダさんが身を挺してタービンを守るシーンです。2人の愛の深さとかつこよさに心うたれました。

④第37話のクーデリアさんとのシーン、大丈人だよ、日月はいつもちゃんと戻って来てくれる。私たちのところに。お互いを想い合うすてきなシーンです。

⑤ハッシュュが、最初はあんなにツンケンしていたのに、途中から、日月の弟「みたい」に後を追っているのがとても好きです。

⑥いつも応援してくださりありがとうございます。ごさいます。とてもすてきな作品に、みんなで魂を込めました。これからふと思いついたとき、皆さんの力になれていたらうれしいです

ユージン・セブンスターク

梅原裕一郎

⑦ガンダムという歴史ある作品に携われたこと、そしてひとりのキャラクターを第50話もの間演じることができたこ

と、かけがえのない経験になりました。一視聴者としてもオンエアを毎週楽しんでいましたので、参加できたことをうれしく思います。

②初回のアフレコでは、刺々しいが情けない、まだ若いキャラクターとして演じさせていただきました。話が進むにつれてユージンは成長していき、第2期では副団長というポジションも与えられ、感慨深かったとともにお芝居の方向も少しずつ変えていきました。

③オルガが死んでしまうシーンです。まさかあんな死に方をするとは思っていなかったもので、衝撃でしたし、悲しかったです。しかし最後まで前を向き、団長でありつづけようとするオルガの姿に感動しました。アフレコのとこも、感情が揺さぶられました

④第47話でオルガに向かって放った「お前がくれたんだろ」です。生きる意味や実感を与えてくれたオルガを信じていること、また背負い苦しんでいるオルガを支えようとしていること、今までのユージンのすべてが詰まったせりふでした

⑤好きなキャラクターはオルガです。人を引っ張っていく強いところ、ひとりで背負ってしまう弱いところ、相反する面をたくさんもっていて、魅力的です。

好きなメカは獅電(オルガ機)です。ユージンがMSに乗る機会はないと思って

いたので驚きました。

⑥長い間オルフェンズを応援してくださり、本当にありがとうございます。僕にとつて大切な作品となりましたし、もちろん皆さんにとつてもかけがえのない作品になったと思います。少年たちの生きざまから、思い思いのことを感じていただければ幸いです。

昭弘・アルトランド

内匠靖明

①物語はつらいシーンが多かったです。が、役者としては最高にすてきな時間を過ごすことができました。すばらしい作品とキャラクターに出会えたことにとても感謝しています。またまた昭弘を演じていたかったです。

②人としてパイロットとして成長著しいという印象でした。演じる上では第1期同様、描かれていることをどれだけ素直に表現できるかということだけを考えていました。そしてとにかく幸せになつてほしいと願っていました。

③ラフタにぎゅ

うってさ。あのシーンすごく好きなんです。つらいシーンは嫌でも心に残っているので、逆に心に残っ

ているほっこりしたシーンを選んでみました。

①最終話でイオクに発した、その名前……おまえか!」です。このせりふだけなかなかOKを出せず、もう何がOKでNGがよく分からない精神状態で発したテイクでOKが出ました(苦笑)。不思議な体験で心に残っています

⑤好きなキャラクターは、昭弘・アルトランドです。好きなメカは、昭弘が搭乗した機体すべてです。うーん、やっぱりこればかりは譲れないですね……。足掛け3年、苦楽とともに過ごして来ましたので。

⑥皆さんのおかげでここまで突き進むことができました。皆さんにとつて忘れられない作品になつていたらこんなにうれしいことはありません。「鉄血のオルフェンズ」を愛してくれた皆様、本当にありがとうございます!!

ノルバ・シノ

村田太志

①歴史あるガンダム作品に出演できた事は大変光栄でした。そして同じくらしいに、このオルフェンズという物語をつくり上げる一員になれた事が、何に

Question

- ① 作品に参加した感想
- ② 声をあてたキャラクターについてもった印象と役作りについて
- ③ いちばん心に残っているシーン
- ④ いちばん心に残っている自分のキャラクターのセリフ
- ⑤ 好きなキャラクターと好きなメカ
- ⑥ ノアンへのメッセージ

も代え難いやりがいを得られたと感じています

② 顔板の指小は特になく、いい意味で併せてもらえてるんだなと思い、目元に演じました。特に予警はストノハートをかけずに振り切るようにも心掛けました。結果、それがシノにとってよかったと思っています

③ やはりシノの絶命シーンかと。シノか死を1度にして出た「りきたい」という心からの叫び。自分で演じていても胸が締めつけられましたし、直前のヤマギとのシーンで積み上げた心情も相まって間違いなく忘れられないシーンとなりました

④ 第46話の「守りてえよ、鉄華団を」というセリフです。この会話で自分の意思も伝えて、なにかつューシンも、接的に助ましているんです。彼はおバカですか、大はかなり素でニュートラルに物事を考える人」ではないかと総合的にクノヒギました

⑤ シノと四代目流石は、わすれかたな。なんだかんだいって、あえてうですよ、あえて。イオクですもういつそイオクと言っておきます(笑)。それとヤマギ。約束守れなくて、すまねえな……

⑥ 鉄華団の一員として、物語の結末を見届けてくださってありがとうございます！

皆さんのオルフェンズ愛は僕らをものはや超える勢いです！ そんな力強い応援に包まれたからこそ、僕らキャスト・スタッフ一同は最後まで駆け抜けられました。これからオルフェンズを愛してください。本当にありがとうございます！

ヤマギ・ギルマトン

斉藤壮馬

① 宇宙の片隅で必死に生きる少年たちの群像劇、とくくってしまおうとシンフルですが、こんなにも多様なコミュニティのあり方、生きた「死」の残し方を描く作品は本当に稀だと思います。毎話、今本をあらうたびに、彼らの気持ちになって笑ったり泣いたりしていたことをよく覚えてます。比喩ではなく彼らと人生をともにできたという思いでいっぱいです。願わくばもつともつと彼らとともに歩みたかったです

② はじめは控えめなメカニックという印象でしたが、少ないセリフながらも意外とがんで心の強いところや、家族を思う心の優しさを感じました。特に、やはりシノとの関わりかヤマギに「こっちは大きな意味をもちていたと思います。決してめた

つ存在ではなかったかもしれないが、鉄華団の一員としての自覚と覚悟のあるキャラクターだと解釈して演じさせていたと思いました

③ たくさんあつて悩みますが、いちばんは決めきれないですね……。ひとつは、名瀬とアミタのラストシーンでしょうか。2人の生きざま、死にさまに、今本をあらうときからうるつとききました。そしてなんといいてもシノの最後の叫びです。村田さんの魂の叫び、最高でした

④ 「……許さないよ。死んだら、許さない」です。決して自分の気持ちを明確に言うことのないヤマギですが、それでもシノを、鉄華団を思う気持ちがあふれてしまったのがこのセリフだと思います

⑤ 本音に名瀬が好きなのですが、鉄華団のメンバーというところから好きです。不良ちっくな見た目からの意外とビビりなキャラというギャップ、さらには自ちもよさそうであるいろいろなことに精通しているというのはたまらないですね。メカではやはりフラウロスの変形がカッコいいですね。本放送で見たときははしりました

⑥ ここまでオルフェンズを、鉄華団を応援してくださって本当にありがとうございます！ 何度も繰り返し見てくださいます。いいにはあまりに

もヘビーな内容ですが、この作品が皆さまの心に残りつつけてくれれば本当にいいです。ありがとうございます！

ライド・マッス

田村睦心

①第1期で一旦平和だったので、第2期はなにが起こるんだろうとドキドキしていました。生きて鉄華団としていられることがうれしかったです！それだけでなく、MSにまで乗れたのがウソみたい……めっちゃくちゃ興奮しました！

②めっちゃ仲間想いで優しい了りだになって思いました。でもあんまり素直ではないのでそこは悪ガキ感をだしてやりました。とってまあかわいげがあつて、守ってあげたくなるんだなって私は思いました。みんなにそう思ってもらえて愛されたいいなあ。彼は自分がみんなを守りたいんだと思いますけど。

③名和さんとアミタさんの最期の戦い。イオク許さないと思ってたけど、それ以上に2人が本当にかっこよかったですし、想いも戦いも熱かったです：

④年少組のやつらを引っ張っていくのは、これからはオレだから。地球に残ったタカキには負けられないんです。タカキがいなくなつた事によつてより必死に頑張ろうとしてるのがよかつたです。でもなかなかうまくいかなくて守られてばかりなのか悔しかった……

⑤オルガ。すごくいろいろ考えてて泣けてきます。背中みんなに預けてたと思うけど、相談ももっとみんなとできたらよかつた。必死に踏ん張ってる姿に涙。雷電号。接近戦で殴りにいってのすごくかつこよかったです！あと、黄と青のカラーも好きです！派手で！！

⑥ずっとハラハラしていたと思います。つらかつたりして泣いたこともあると思います！でも、みんなの力で本当にすばらしい作品になりました！この作品に関わることができてすごくうれしかったです！鉄血のオルフェンズ」がずっと語り継がれていくものになりますように！

タカキ・ウノ

天崎滉平

①第1期が始まってすぐのころはまだ本当にホヤホヤの新人だったことであつて、「自分はこの場にいていいのだろうか」という気持ちがとても強く、どこか借りてきた猫のようだったのですが、第1期の第25話を経て、ここは自分の居場所だと思えるようになり、作品、役に対する責任感もより強くなりました。第2期の地球支部編は4話にわたつてタカキのメイン回だったので、この4話がおもしろくなるかならないか、タカキが皆さんの心に残る人物になるか否かは自分に懸かつているんだという責任感を強く持つてできたのも、第1期を経ての自分だったからだと思います。

②タカキは団長に地球支部を任せてもらえたことは、いろいろ不安はあれどそれでもうれしく思つたんだろかなと思います。そして、何よりも妹のフウカといっしょに暮らせるようになったことはタカキにとって最良の変化だったと思います。その後、地球支部は大人たちの思惑に巻き込まれ、タカキは大切な友を亡くすことになったのですが、妹との未来のために鉄華団を辞める決断ができたのも、それまでのすべての出来事があったからこそだと思つたので、無駄なことなんてひとつもなかったとタカキの心機としては勝手なから思つてしまいます。

③いちばんというと本当に難しいの

で、心に残っているシーンのひとつをあげるなら、第31話でフウカが家でひとりタブレットを使って勉強している後ろ姿が映るシーンです。不安でいっぱいになっていて、小さな背中をみて胸が苦しくなりました。第33話の「お兄ちゃんまで、私の前からいなくならないで」のことでタカキがフウカの苦しみ気づくことができて本当によかつたです。

④これもいちばんは難しいので数あるうちのひとつですが、第33話ラストの「帰ろう、俺たちの家へ」です。鉄華団のメンバーは、帰る場所。は鉄華団しかないと思ひ込んでいたところがあつて、もちろん本当に居場所がほかにないメンバーもいるのですが、そもそもほかに居場所をつくることを諦めている節がある気がします。そんななかでそこから抜け出す決断をしたタカキが、鉄華団ではじめて1分だけの木末を選択したタカキが、その先に掴みとつたことばが「俺たちの家へ」なのだと思います。

⑤好きなキャラはフウカです。理由は、愛しいからです。好きなメカは、ランドマン・ロディです。理由は、やはりタカキが乗った機体なので思ひ入れがあります。もともとブルワーズで使われていたマン・ロディを改造した機体で、タカキはブルワーズとの戦いの際マン・ロディに攻撃され瀕死の重傷を負つた過去もあるのが縁の深い機体だと思います。友で

Question

- ①作品に参加した感想
- ②声をあてたキャラクターについてもった印象と役作りについて
- ③いちばん心に残っているシーン
- ④いちばん心に残っている自分のキャラクターのせりふ
- ⑤好きなキャラクターと好きなメカ
- ⑥ファンへのメッセージ

あるアストンが乗った機体でもあるので、あと普通に形とカラーリングも好きです！

⑥鉄華団のことを応援していた方も、もしかしたら他の陣営を応援していた方も！「鉄血のオルフェンズ」を応援してくださり本当にありがとうございます。そして、このページを読んでもくださりありがとうございます。役者、同、最高の作品をつくろう」と第1期からみんなでやってきました。皆さんにとってオルフェンズが、そしてタカキが心に残る作品、キャラクターになっていたのなら、こんなに幸せなことはないです。僕にとっても忘れられない作品、キャラクターになりました。またタカキと会いたいなあ。

アストン・アルトランド

熊谷健太郎

①第1期のころから、まさか自分がガンダムに出られるなんて思ってもいなかったなか、物語が進んでいくうちにアストンに出会い、MSに乗って戦えるとは……。自分でも驚きの連続でした。本当にすてきな作品に参加させていただき幸せでした。

②最初アストンと出会ったときはブルワーズ少年兵たちのなかでいちばん精神的に大人なのかな？と思っていました。戦闘中には仲間を気にして声をかけたり、生まれ変わりの公話のなかでは空気を換えようとポジティブなことばを使ったりしていました。けれど第2期になって、普通の人のための当たり前がわからないんだ、それだけ過酷な日々をブルワーズでは送っていたんだなど。なので、タカキやフウカと過ごす日常ではわからないことに対しての戸惑いやある種まだ無知なところを、対して戦闘では冷静にタカキを支えられるように考えさせていただいていたしました。

③タカキとフウカの家で食卓を囲むシーンです。今思い返すからこそ、よりあんな温かな日常が3人にはつづいてほしかったなと思います。

④「死にたくないって思いながら死ななくちゃいけないんだからな。でもありがとう」

自分自身に価値を見出せず、できるのは戦うこと、守って死ぬことだと言っていたアストンが今わの際にやっとヒューマンデブリではなく人としてそう思えたんだなって、タカキやフウカ、鉄華団のみんなと過ごした日々は幸せだったんだなってせつなくなります。

⑤好きなキャラクターはタカキとフ

ウカです。やっぱりアストンの守りたい対象として感情移入していましたから特別ですね。好きなメカはこれまたやっぱりランドマン・ロディにマン・ロディです。アストンの第1期からの相棒にして、家族が受け継いでくれた機体でしたから思い入れが強いです。なによりかわいい。

⑥鉄華団のたどり着いた場所を見届けてくださいました皆様、本当にありがとうございます。なんて僕が言うのもおかしいかもしれませんが、結局は皆様と同じように知る立場です。ただ、この作品を愛してくださったこと、アストンを愛してくださったことを本当にうれしく思います。アストンや声を担当させていたいたキャラクターたちを通して、少しでも観てくださった皆様の心を動かす一助となれていたら幸いです。

チャド・チャダーン

石谷春貴

①第2期に参加できうれしくて、第1期から積み上げてきたオルフェンズという物語を支える一員として、自分の役割をしっかりと果たせるよう全力で臨みました。周りの鉄華団も

すこかったので、負けてなるものか
と思えるとてもいい現場でした

②第2期に入り、鉄華団の古参として地球支部を任されたり、悔しい経験をしたことで、第1期のときよりも人間味が増したと思います。しかし、根底にはやはりデブリだった彼がいることは切り離せないものだったように感じます。

③多くあるのですが、名瀬とアミダがイオクと戦って散るシーンが心に残っています。やはり大人の男と女、純粹にかっこいいです。だからこそ、あんな結末になつてほしくなかった……

④第2期第33話「火星の」で怪我をして1を覚ましたチャドが、アストンら多くの団員たちの死を知ったときのせりふです。悔しくて、やりきれなくて、でも静かに彼の決意がより固まつて、少し成長できた瞬間なのではないかなと思います。

⑤どの機体も魅力的なのですが、チャドが操縦していることもあり、やはりランドマン・ロディです！第2期後半のOPの地上を移動しているところか本当にかっこいい！そしてかわいい！ずんぐりかわいい！

⑥オルフェンズを心援してくれた皆様、鉄華団の生きざまはいいがでしたでしようか。全力で駆け抜けてき

た彼らの姿が、皆様の心に残っているのならとてもうれしいです。決して散らない、鉄の華。僕も心に宿して進もうと思います

ダンテ・モグロ

濱野大輝

①ガンダムシリーズのファンとして、今作に参加できてとても光栄でした。そして、鉄華団の一員として無念さも残る戦いでしたか、ストーリーを見届けた達成感もありました。アフレル現場の環境は本当にすてきで、一致団結し喜怒哀楽を共有する家族のようでした。

②ダンテについては、出てくるとクスノと笑ってしまう、ムードメーカーになれるように演じました。第2期からは、彼が登場するシーンは、それを表すような場面が多かったように思います！そして、そんな彼だからこそ、若い鉄華団メンバーと分け隔て無い関係を築くことができたのだと思います。苦しい戦いが終わった最終回、孤児院のカットにはとても感動しました。

③タンテとしては「夜明けの地平線団」と対峙した戦闘シーンで、撃墜

した敵モビルスーツから情報を抜き取り、敵司令部の場所を導き出したシーンが心に残っています。なかなか地味……いや、粋な作戦行動を遂行することのできる、彼なりの才能を見せることができていたのではないでしようか？ほめてあげてください（笑）。

④「レビューマンデブリの意地見せてやろうぜ」テルマに向けて言ったこのセリフには、アストンを欠ったデルマを元氣付け、もうひとりではないのだと伝えたい想いもあったように感じます。棺桶と呼ばれるマン・ロディを前に、流星隊として死闘前の決意表明とも取れるせりふでした。

⑤好きなキャラは三日月です。問答無用にカッコいい！人公。狂気を帯びた戦闘シーンには心躍ります！好きなモビルスーツはマン・ロディです！屈強なボディに機動性、コロンとした愛らしさも魅力的です！

⑥鉄血のオルフェンズを愛し心援してくださった皆様、本当にありがとうございました。ここまで楽しくも苦しい戦いを戦いぬくことができたのは、ファンの皆様の家族のような愛があったからだと思います。最後は苦しい終わり方でしたが、彼らの行き着いた答えを見つけたけると幸いです！

デルマ・アルトランド

室元 気

①わーガンダムだすげー！って思いながら毎回収録にお邪魔してました。そしてわーまだ生き残ってるすげー！って思いながら第2期を迎えて、氣付いたら第2期も終わりですね。時間が経つにつて早いなあと思う思いました。

②丸くて垂れ目だなあと思いました。なので、ちょっとおっとりした感じかなと思ったら結構アグレッシブでした。超飛び蹴りとかしててすごいなあと思いました。

③1話（第26話）で超飛び蹴りしてたところですよ。

④「はい」です！昭弘に「生きてくれてありがとうテルマ・アルトランド」って言われたときの「はい」です！！とってもきゅん……ってなったのでやっぱりユレです。

⑤デルマとランドマン・ロディです。どちらもこころ丸くてとってもかわいいですよね。

⑥鉄血のオルフェンズを心援ありがとうございました。鉄華団のこと、鉄

Question

- ① 作品に参加した感想
- ② 声をあてたキャラクターについてもった印象と役作りについて
- ③ いちばん心に残っているシーン
- ④ いちばん心に残っている自分のキャラクターのセリフ
- ⑤ 好きなキャラクターと好きなメカ
- ⑥ ファンへのメッセージ

血のオルフェンズ」のこと、また何かの折に思い出していただけたらうれしいですありがとうございます

ハッシュ・ミディ

逢坂良太

①別のガンダム作品に出させていたでいたので、今回の鉄血のオルフェンズ」にも出られることになり本当にうれしかったです。ガンダムシリーズが好きだったこともあったので、運作でかわらせていただけただけでもありがたいなあとも今でも思っています。

②最初に現場で、鉄華団と「月」が嫌いだということを教えていただいたので、反骨精神で強くなつてゆくゆくは裏切るかもしれないなど、思っていたのですが、見事にいい方向で成長というか、変化したので、よかったなと思いました。

③やはり最後の散るシーンですかね。自分しか参加させていただけてないですが、あのときだけは、一年間いっしょにやってきたような気持ちで演じさせてもらい、すごくいいものが出せたような気がします。最終回に帰られなかったのは悔しかったですが

(笑)

④③で書いたシーンで心に残っているセリフが多いのですが、別のところであげるなら、二二月に女性2人が見送るときにほおにキスをするシーンで目を手で隠しながら「もう終わりでした」といったところですかね。あそこでこいつは初心でかわいいやつなんだなと思つて、さらに好きになりました。

⑤自分の乗っている機体以外だと、バルバトス(第6形態)ですかね、あれがなんか完成形としてすごくいいなと思えました。ルブスやルブスレクスもいいんですが、シンフルなかつこよきならこちらかなと思います。

⑥本当に最後まで見ていただけてありがとうございました。僕自身途中参加でしたが、収録していくにつれて、本当に家族の一員になれたような感じがしています。これから時々思い出しながら、親子二世代三世代と、未来につないでいつてほしい作品ですので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

①第1期ではブルワーズの少年兵「ビトー」として出演させていただきましたが、第2期では「ザック」という新たな役で、今度は鉄華団とともに歩むことができてうれしかったです。

②ザックは、最初は軽薄でお調子者な印象が強かったので、コメディリーフ的な立ち回りを強めに演じさせていただきました。後になってからは、鉄華団という組織を他のメンバーよりも俯瞰して見つめ、その行動に疑問を抱く役割を担うのですが、その端々に彼の仲間想いな部分や、純粋な部分が見え隠れしていて、とても好きなキャラクターになっていきました。

③マクギリスVSガエリオの決戦です。複雑な想いや感情、お互いが背負うもの、それらをかけたお互いに負けられない闘いだっと思ったと思います。アグニカ・カイエルに囚われていたマクギリスも、復讐に生きようとしたガエリオも、最後には心から通じ合えたと思っています。

④啊んなか、丁え突っ込まれて、ぐちゃぐちゃに弄られてるみてえだね。『ソ』第47話でのザックのセリフです。軽薄な彼の仲間想いな気持ちとか、又行だけしかいえずに何もできない不甲斐なさとか、台本を読んでいるだけで伝わってくる感じが、いいヤツなんだなあ、こんなことって

古川 慎

ザック・ロウ

ているけどちゃんと鉄華団の、員なんだなあ」といいヤツなんです本当に

⑤キャラクターはザックはもちろんですが……アトラですね。ヒロインかつ癒し要素だと思っています。アトラがいると和みます。メカはガンダム・ウィダールです。2丁拳銃とバーストサーベルはロマンですよ

⑥波乱万丈、困難や苦難の多い道ではありましたが、最後まで駆け抜けた鉄華団に、僕は「お疲れさま」と言つてあげたいです。鉄華団の道を見守つてくださりありがとうございました。今後とも「鉄血のオルフェンズ」をよろしくお願いします。

デイン・ウハイ

木村 昴

①出演が決まったときは本りにうれしかったです！収録中も、第1期からキャラクターを演じてこられた役者さん方の、非常に熱心なキャラクター愛やガンダム愛に触れることが多くでき、大変に幸せな現場であったなと振り返るばかりです

②第1印象と実際のキャラクターと

のギャップに大変驚かされましたね(笑)。しかしながら演じていくうちに、優しく繊細な面が非常に多いキャラクターであることを知り、自然と感情移入させられていったことを覚えていきます。

④何と言っても「俺はここに来る前たくさんの人間を殺してきた」ですね。なかなかデインの生い立ちについて触れるシーンがなく、これまで少ない口数のなかからイメージを膨らませてつくってきたデインでしたが、このデインが持つ強烈すぎる過去に度肝を抜かれたことを覚えていきます。このせりふをきっかけにさらにデインというキャラクターへの熱が上がつたように思えます。

⑤長らく「鉄血のオルフェンズ」を応援してくださり、誠にありがとうございました！

ナディ・雪之丞・カツサパ

斧アツシ

①この作品に参加しきれたことが本当に幸せ。毎回死ぬんじゃないかと台本を読み終えるまでは安心できなかったが、最後まで参加できたことがうれしさとひとしおです。

②雪之丞は、鉄華団の子供たちに最初から最後まで寄り添いつづけた唯一の大人。すべてを包んで受け止めてくれるようなデカさと温かきをもった存在でいたいと思って演じてましたが、まさか、あんなサブライズな喜劇を思いついてもらえるとは……ありがたかった！

③そりゃ酷な質問だわ！ ありすぎて絞れねーよ！

④「そんなに待たせるつもりはねーよ」もしかしたら、もう二度と逢えなくなるかもしれない状況で、でも絶対に生きて大切なメリビットを守り抜く、だからもう少しだけ待っていてくれ。そんないろんな気持ちが入り交じった雪之丞にとってはとても大事なせりふだったから

⑤メリビットに決まっただんろー！俺に生きる希望を与えてくれたんだから。ハノハロ、ハルバトスーだな……！イソの整備にや、苦勞したからよ

⑥最後までつきあってくれて、ホント、ありがと！心から感謝します。こんな最高にカッコよくて、最高に泣ける作品があつたってことを、いつまでもいつまでも忘れないでいてくれたら、最高にうれしい!!!

メリビット・ステープルトン

田中 理恵

①ティウスから派遣されたメリビットさんでしたが、第1期からかなり変化がありました。鉄華団を陰で支えつつ、雪之丞さんと出会い、恋に落ちていたり、めまぐるしい変化でした。

②鉄華団がやはり少年(子供たち)が多かったのもあり、メリビットの大人の女性のお芝居が落ち着きのある雰囲気を出すように心がけました

③雪之丞さんとききあっているというのが発覚したシーンでした(笑)。台本読みながら飲んでいたお茶を噴きそうになるくらい驚きました。

④雪之丞さんに言ったせりふで「私をほかの人のものにしないで」です。ドキドキしました。

⑤ハルバトス 群を抜いてやはりカッコいいという印象で好きです

⑥最後まで本音に見逃せない内容になってますし、ストーリーの展開に驚く場面にもたくさん遭遇されたと思います。最終話までオルフェンズを応援いただきありがとうございました

Question

- ① 作品に参加した感想
- ② 声をあてたキャラクターについてもった印象と役作りについて
- ③ いちばん心に残っているシーン
- ④ いちばん心に残っている自分のキャラクターのせりふ
- ⑤ 好きなキャラクターと好きなメカ
- ⑥ ファンへのメッセージ

ました！

ラストル・エリオン

大川透

①「鉄血」には出演したいと、ずっと思っていたところ、重要な役で第2期を走る事ができて嬉しかったです。

② 冷徹な人物にも見えるのだけれど、実は深く物事を見つめ、判断する人物だと感じ、そう演じてきました。

③ 鉄華団を救うため、団員を助けてくれと言ってきたオルガに対し、冷たく非情な返事を返したシーン。ラストルの恐さを感じました。

④ やっぱりジュリエッタが好きなのだけれど、馬鹿な子ほどかわいいというところで、イオクも捨てがたい！

⑤ とても面白いにつくられた作品だと思っています。何回見返しても色褪せない、この物語をこれからも人事にしてみたいと思います。

イオク・クジャン

島崎信長

① 第2期の初回の収録から、スタッフ・キャスト関係なく、「鉄血のオルフェンズ」への愛と情熱、育まれた絆を強く感じました。だからこそ、早く本当の意味でこのチームの仲間になりたい、いっしょによりよい作品をつくりたいという僕自身の思いも高まり、すぐにオルフェンズという作品と現場が大好きになりました。

② 大は初登場のときからイオクの根っこの部分は拾うことができていた感じがしています。より強くなったり突ったりはしましたが、最初から最後まで僕のなかのイオク像はブレずに突き進むことができました。しかし、ここまでさまざまな意味で活躍させてもらえるとは思っていませんでした。これほどまでにいろいろな意味で皆様の心を動かすキャラクターを演じさせていただけで、本当に光栄に思います。

③ 第35話「目覚めし厄祭」からのモビルアーマーを巡る一連の流れは、イオクの個性や立ち位置がはっきりとした回でした。より振り切って、全力全開で演じることができて本当に楽しかったです。ただ、正直全部がいちばんです！

④ これもすべてとていいですが、ひとひとが大切に、全力でしたこの場で何かを、うとしたら、最終回でイオクとしては昭弘と、島崎信長としては内匠靖明という役者と対峙することができて、熱く、楽しかったです。

⑤ 兵装は整備士と部下からの提案により、長距離射撃がメインの支援型にカスタムされている「レギンレイズ（イオク機）」。今ではその提案の理由が明白ですが、まだ彼の操縦技術が明かされていないときにこの文句を見て、きつとそういうことなんだろうなあと何となく察していました。まあやっぱりどのキャラクターもどのメカも大切だし好きです！

⑥ 「オルフェンズ、おもしろかったでしょう！」と自信をもっていうことができます。僕たちも皆様に負けないくらい思いつき作品を愛して楽しんで取り組みました。間違いなく僕の心にと残る作品です。どうか皆様の心にも、オルフェンズが長く長く残るものになりますように。

ジュリエッタ・ジュリス

M・A・O

①皆さん全力で戦い、全力で楽しむというような、とてもすてきな雰囲気です。アフレコに臨まれていて、その空間にジュリエッタ役として参加させていただく事ができ本当に幸せでした。

②とても真つすぐな心をもったキャラクターだなという印象でした。そして、その真つすぐさゆえに生じる焦りや危うさもしつかり表現できれど心掛けました。また、さまざまな戦闘経験や、周囲の人物とのかわりを経て、手数を重ねることに成長を感じられるキャラクターでもありました。

③シノさんがスーパーギャラクシーキヤノンを外してしまった後のシーンです。ジュリエッタとしては、なんとでもラスタル様をお守りする、という思いがあつたと思うのですが、とてもやるせない気持ちになりました。

④私は、弱いリーというセリフです。自分の存在価値だと思つていたことを、素直にそうではないと否定した上で、それでもできることのすべてを尽くそうとする姿が、本当にすてきたと思いました。

⑤好きなキャラクターはラスタル様です。ラスタル様は最後まで大人であり、本当に力強い司令官だと思いました。メカはやはりジュリアが好

きです。名前の由来を考えるだけで、とてもうれしい気分になります(笑)。機体が人きくても機動力が高く、武器の長剣がワイヤーで鞭になるところもかっこいいと思いました。

⑥それぞれの立場での思いや信念が交錯するなかでむかえた結末に、確かな希望や未来を感じとつていただけたらうれしいです! 「鉄血のオルフェンズ」、最後まで見届けていただき本当にありがとうございます!

石動・カミーチエ

前野 智 昭

①ガンダムシリーズは昔から本当に好きなので、参加させていただきとてもうれしかったです。MSにも搭乗させていただいたので、個人的にはそれも非常にうれしかったです。

②マクギリスに従順な、非常に優秀な部下というイメージで頂しさせていただきました。実際、そのとおりのキャラクターでした。

③ヘルムヴィーゲ・リンカーを授かったシーンです。ヴァルキュリアバスターソートには夢がふまっています。

④准将のもとでなら夢を見ることができた……という石動の最期のシーンです。彼のマクギリスに従順だった人気が表れている印象がせりふでした。

⑤石動がもちろんいちばん好きですが、彼的に考えると「准将です」と答えねばならないところでしょうか。好きなメカはもちろん、ヘルムヴィーゲ・リンカーです。ガンプファも買いました。

⑥本当に深い作品でした。携わることでできてうれしかったです。こんなにすばらしい作品をつくれたのも、皆さんの応援のおかげだと思っています。本当にありがとうございます!

名瀬・タービン

鳥 海 浩 輔

①非常に楽しい作品に参加させていただけで、うれしかったです。内容は楽しいだけではなく過酷であつたりもしたのですが、現場は和気藹々としていて平和な日常の鉄血団でこんなカンジなのかしら、といった雰囲気でした。

②最初は飄々とした、なんか怪しいヤサ男なのか、と思つたのですが、すぐにそんな印象はなくなりました。非常に優しい愛にあふれた大きな男でした。自分の弱さも受け入れてるし……最期までカノコイイ大人でした。役作りは……よくわからないです(笑)。でも肩肘はついている人ではないので、私もリラックスして演じていました。

③どうしても自分のシーンになつてしまいましたが、名瀬とアミダの出会いから最期までの一連ですね。「生ききった」彼らが最高に楽しかったです。

④やはり最後のセリフは、連で心に残っていますね。私の解釈では、あれは名瀬からアミダへのラフレターです。名実ともに隣で支え合つた人への。

⑤それぞれのキャラクターが皆魅力的で誰かひとりを選ぶというのは、本当に難しいのですが、強いて選ぶとすれば、やはりアミダですね。理由は、わかるでしょう。だからメカも、白隼。理由は、わかるでしょう(笑)。

⑥どのような形であれ、最後まで走り抜けた彼らを見届けてくれてありがとうございます。

Question

- ①作品に参加した感想
- ②声をあてたキャラクターについてもった印象と役作りについて
- ③いちばん心に残っているシーン
- ④いちばん心に残っている自分のキャラクターのせりふ
- ⑤好きなキャラクターと好きなメカ
- ⑥ファンへのメッセージ

アミダアルカ

田中敦子

①「Vガンダム」・「Gのレコンギスタ」につづき、またガンダムシリーズに参加させていただけたことを心からうれしく光栄に感じています。MSに乗ることはもうないかもしれないと思っていましたので、なんだか新人のころを思い出し、身の引きしまる思いがしました。

②名瀬の姐さん女房であり、タービンス皆の母であり姉のような存在の「アミダ」戦闘員でありながらもタービンスを包み込む優しさや温かさを表現できればと思って演じました。

③たくさんありますが、やはり「燃ゆる太陽に照らされて」（第40話）は過去に出演させていただいたガンダムシリーズのなかで最も印象深いエピソードになりました。

④「しかし、女つてのはなんでこう男の囃が見抜けるかねえ 男も男さ、すぐわかる囃をつく」男と女の真髄を見るようで、名瀬とアミダの関係に憧れました。

⑤みんなそれぞれ個性豊かで素敵なキャラクターでした。本当に「真音

の多い番組でしたが、私にはひとりひとりが輝いて見えていました。好きなメカはもちろん白鯨です。最新型のモビルスーツではないけれど、そんな白鯨に乗り続けるアミダのこだわりが好きでした。

⑥イオクとの闘いで散った、名瀬とアミダにいただいた皆様からのあふれるようなメッセージの数々は、私の一生の宝物です。「鉄血のオルフェンズ」を最後までご視聴いただき本当にありがとうございます。またどこかで……

ラフタ・フランクランド

日笠陽子

①ラフタは第一期より出演させていただいていましたが、出演できるだけではなく、パイロット役という事が本当にうれしかったです。ガンダムに出演するというのは、女優さんにとってひとつの目標のようなものだと思うので。

②第一期で初めて登場した回はラフタの鼻歌から始まり、いきなり「月と囃ってかなり楽しそうにしていたので、何も考えていなくて本能で囃いを楽しむあつからかんとした女

の子だと思っていました。なので、自由奔放さを意識しながら演じていたのですが、ストーリーが進むにつれて彼女の過去だったり恋愛を知ることによってどんどん大人の女性の顔をするようになりました。つらい過去を乗り越え今は幸せだという笑顔は本物であるように演じられるよう気をつけていました。

③昭弘とのシーン、とりたいところなのですが、ここはあえて名瀬だーりんとかアミダ姐さんの最期のシーンを選ばせていただきます。2人が逝ってしまう瞬間のシーンでは、もちろん囃では泣いているところが描かれていましたが、お芝居として、ラフタとして「泣き」を入れることができなかったのです。本当は心から泣き「びたかった。悲しみを全身で表に出せたらもう少し楽になれたのかな。いつでも追われる人は辛くて苦しいものなのだと思います。

④「ぎゅーってしてやるー」。第二期ではラフタの代名詞のようなせりふになりました。初めての恋、ぎゅーとしたくなる気持ちがあふれてしまっと思わず泣いてしまったこのことは、ラフタの昭弘への想いが、ぎゅぎゅつと詰まったひと言だったと思います。

⑤昭弘と、アジー。名瀬と姐さん。いちばんを選ばません。理由は、ラフタにとって大切で大好きな人たちが

だから、私にとっても大切で大好きなキャラクターたちです。

⑥ 皆さん、本当に応援ありがとうございます。ございました。私はこの、鉄血のオルフェンズ」という作品にかかわることができて幸せでした。いっしょに戦っている仲間も、敵も、みんなみんな最上級で愛おしく思えるほどの濃い時間でした。今作は今までのガンダムというカテゴリーのなかでも異質なストーリーですが、遠くない世界観だからこそ私たちの現代に置き換えることができ、ちっぽけでも、世界から弾き出されても、オルガや三日月たちのように懸命に生きたくなります。皆さんの心のなかに何か傷跡をつけられている作品であつたらよいなあと思います。今後はぜひBlu-rayやDVDで何度も見返していただければ幸いです。

アジール・グルミン 立 幸

① すきましかつた。これに尽きます。何よりここまで鉄華団と運命をともにするとは思ってなかったの、こんなにも作品に翻弄されるとは思っていなかったですね。オルフェンズのすごいのは自分たちだって、お話し

とわかっていのに、これに関してはお話し……だけどもあり」と脚本家に怒りを覚えてしまうこと(笑)。イヤどつぷり責からせていただきました。ホントすきまじい作品でございました。

② アジールは第1期に比べて相当変わった……というか「家族」が壊滅した以上変わらざるを得なかったのかも知れませんが、私も彼女への理解がよりいっそう深まったように思いますし、リンクすることも多々ありました。例えば第41話の収録時、日笠さん(ラフター)のいない現場で私(アジール)がしゃべるなんて想像できない」と嘆いていた私でしたが、本当に第42話からアジールがでてこなくなる」と知ったときはシナリオチームは神様なんじゃないかと怖くなりました。なにもかも見抜かれていると思いましたね(笑)。

③ アジールが第2のタービンスのように組織を率いていたのは愕然としました。たぶん彼女はともそういう性格ではないだろうに、そうせざるを得なかった理由なんとも悲しくて勇ましい。私の想像よりずっと強い人物で、感謝いたしました。

④ 「連絡を待っている」逃げ場のない鉄華団にクーデリア降参で送った手紙。先にも述べたシーンですが、戦線に立つ以外に人を守る術ができなし、個人的には「つか連絡よこせい」

くらいに思っていました。とにかく本当に、誰も欠いたくなかったんですよね。

⑤ キマリス。なんだろう、キューベレイも好きだったんですけど、変形した頭部に無条件に惹かれるみたいで。色といい展開したときの「うわあコツチ来んなあー」感が好き。イオク様。タービンスの仲間たちは好きなこと前提として、オルフェンズは敵方がホント人間的で好きです。イオク様に関してはたぶんあんな人ホントにいるし(笑)、だからこそ憎めないしなんとかさらって再教育してよいにできないかと毎回思っていました。そんな上手いかわないところも含めて、魅力的な人物のひとつですね。しかも付けたくないのに「様」をつい付けてしまう高貴さ、うーん、ずつと見ていたい。

⑥ 鉄華団たちに負けずとも劣らず、いやひょっとすると超えていたんじゃないかと思えるほど熱く見守ってくださり、本当にありがとうございます。仲間を失うたび我々と同じように震えてくださって、とても励まされたし皆様に感動しました。私自身ズバノと切り裂かれた瞬間は何度かありましたが、だからこそ何かしらに下っつ打ち込む覚悟を得たように思います。生きて、生きて、生きましよう。本当にお疲れさまでした、ありがとうございました!!



CROSS TALK

マクギリス・ファリド役
櫻井孝宏



THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM
IRON-BLOODED ORPHANS 2

ガエリオ・ボードウィン役

松 風 雅 也 ×

櫻井孝宏

子供のころの傷は、 ずっといいえないもの

—改めてご自身が演じられたキャラクターを振り返ったとき、どんな気持ちになりますか？

櫻井 作品が始まった当初は、どんなゴールにたどり着くかは当然想像できないものです。ただ、配置されているキャラクターを見渡したとき、マクギリスは思い描いていた目的地点と、ちよつと違う場所にたどり着いたのかもしれないという印象です

松風 今振り返ってみると、ガエリオにとって、生懸命マッキーの相棒面をしていた第一期の前半は、楽しかったでしょうね。火星にいつしよに米で、こんな辺鄙なところに、出向く必要があるのか？って、いろいろ怪訝をたたいで、このシーンって、実は第49話の過目を生踏したシーンとリンクしてくるんです

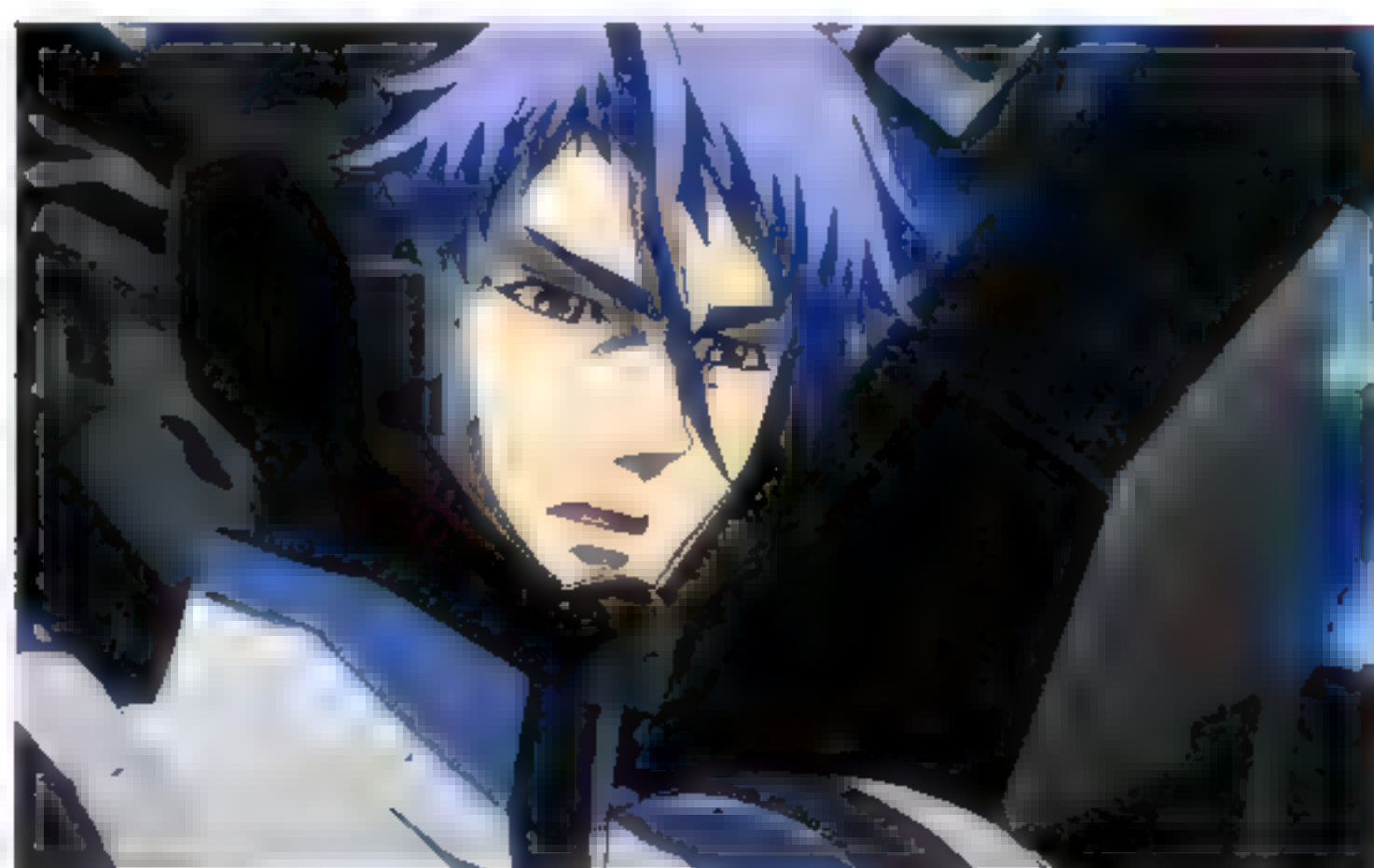
—第2期を演じていく過程で、変化を感じた部分は？

櫻井 マクギリスの当初の印象は、騎—然としたイメージですね。それこそラスタル的なポジションです。でも第2期になって、ラスタルが登場しましたから、あれ、これは違う

な」と(笑) 最初はいつでも正しい姿勢で立っているような人という感じでしたが、少しだけ横道にそれてみたら、暗い側面があったというでもそのふめない展開が、「鉄血のオルフェンズ」のおもしろさだったと感じています。それこそ、第一期のときは本当にイケイケでした(笑)でもモニターとして仮面をつけて「大人にはなり切れないものだ」と口っていたセリフは、後になって皮肉として効いてきますね

—ガエリオはヴィクターという、まったく異なるキャラクターとして登場しました。

松風 仮面をかぶったことで、極端に役づくりをしたという意識はないですね。たとえば、わかりやすい「復讐の鬼」という方向性ではありませんし、それこそ、山がガエリオすぎるから若干抑えめにしてほしい」という指摘を受けたくらいです(笑)でもちよつとした変化を、ファンの皆さんは、復讐を押し殺した演技が好きです」と口つてくださるので、とてもうれしかったですね。出来事をいつ



ばい起こしてくれるシナリオということもあって、ガエリオは幸運なキャラクターだったという気持ちがありますね。物語の進行と同時に、自然と成長していくことができたと思っています

—マクギリスとしては、ガエリオとカルタとともに歩む未来も可能性としてはあったと感じられますか？

櫻井 たぶん、マクギリスとしては容易に想像できた未来でしょうね。でも、そっちに行かなかったのは、もう決めてしまったからなんです。子供のころの傷って、ずっといいえなものですね。アグニカに傾倒して、彼なりに立場を確立して、若者

松 風 雅 也

たちを掌握していったというプロセスは、幼少期のうらみつらみかエネルギーなんです。途中で揺らぐこともあったと思うんですが、そもそも最初からいっしょに歩む道はなかったんでしょね。

——それが結果的にみずからの破滅を招いてしまった印象がありますね。

櫻井 彼なりに盤石であろうというところを、ラストルにうまく立ち回られてしまったという感じはあります。志をともにした若い革命軍たちも、ちよつとマクギリスと似た夢見がちなタイプだったんじゃないですか？ 彼らがワツと集まってひっくり返そうとしたところを、何枚も「丁なラストルが押さえ込んでしまった」という

——ラストルは、今までマクギリスが対峙したタイプとどんな違いがあるのでしょうか？

櫻井 振り返ってみれば、マクギリスがこれまでに倒してきた人たちって、1人1人の重人（じんじん）ではないんですね。ラストルのような骨太の人には、やっぱりかなわなかったということでしょう。もつと虎視眈々（こんけん）としていればよかったんですけど、あのタイミングを止めることはできなかったんでしょね。

松風 バエルの伝説は若い軍人はと

もつと現実を見ていましたね。バエルに対する感覚って、足繁（あしひら）が約300年前っていう時間設定が絶妙なんです。日本でいえば江戸時代です。価値はわかるけど今役に立つの？ っていう感覚じゃないですか。それこそ今、水戸黄門（みづとく）的な印象を出されても、それには従えないですよね。

——マクギリスが散った第49話は、どんなお気持ちで演じられましたか？

櫻井 残念ではありますが、自業自得であることはぬぐえないです。ラストルに死すらも利用されるという形でした。子供のころ、ラストルに、何が欲しいの？ と聞かれて、「バエル」と答えていたじゃないですか。そのころから変わっていないというのは、ちよつとせつなさを感じました。最期の瞬間もガエリオに何かを伝えようとして、曲（まが）として何かを「わん」とする表情ではありますが、そのまま死んでしまつて、かわいそうではありませんが、ただ心しいなど、表面的だったかもしれせんか、ガエリオとカルタの関係はよく見えた時代もあったわけですから

——最終的には、単独で戦うことを選択しました。

櫻井 最終的にマクギリスひとりでひっくり返すと「われたら、誰でも「本気か？」って思いますよね。まあ本人自身も当然無理だとは思っていたんじゃないでしょうか。ただバエルは伝説のモビルスーツではありますし、本人がわからない領域で、何かが起こるんじゃないか」という期待はもっていたかもしれません。

松風 でも最後までガタガタした感じを見せなかったのは、マノキーの魅力です。アリアンロッド対単独ってどう考えても無理なのに、見ている方には、何かあるかもしれない。っていう期待を感じさせてくれる。あれはひとりマノキー軍団ですよ。

櫻井 （笑）まあ最終的にそうなっちゃったんだよね。ただ、日月（げつ）だけにいっしょに行こうっていったのか、唯一折れたポイントですよ。

——戦いに臨む姿勢が、ラストルとはまったく違っていたという印象を受けます。

男子的なロマンは マクギリスのほうにある

ガエリオは「絶対死なない」 思っていた

櫻井 「ガンダム」という冠の作品なのに、ラスタルはガンダムのことをまったく気にしていないのは大きいですね。最後まで鉄華団はバルバトスとグシオンリベイクで何とかしようとしているのに対して、ダインスレイヴの物量で対応する。ラスタルは徹底的なリアリストで、モビルスーツもダインスレイヴも、ただの道具でしかないんです。バエルで何とかしようとしたマクギリスとは、そこで川俣的なのがついていたんですね。

松風 そういう意味では、男性的なロマンはマッキーのほうにありますよね。ヒーロー思想は、ラスタルにはまったくないんです。

櫻井 そうなんだよね。だからラスタルがもしガンダムに乗っていたら、ワンチャンスあったかもしれないかった。

松風 今までの「ガンダム」シリーズだったら、乗ってもおかしくないですからね。

——マクギリスの死は、どのように受け止めていますか？

櫻井 生々しかったですね。宇宙が舞台のSF作品ですけど、しっかりとした会話劇ですから死を描く姿勢が非常に冷静に描かれているんです。名瀬とアミダの死に関しては非常にドラマチックでしたけど、シノやオルガの死にしても、とてもリアリティを感じますよね。シノの死はともかくローズアップされていますけど、ラスタルやギャラルホルンからしてみれば名前も知られていないような人ですよ。そういう立場によるギャップが、シーンに深みをもたせていると感じます。

松風 この作品は、死に至る意味がしっかりと描かれていることが大きいですよ。ただ、シノが何も考えずに突っ込んだだけなら、誰もその死は悼みませんよね。でも彼が単独で攻撃した理由や、失敗したときの心情がきちつと描かれている。誰かが死んで「悔しい」「残念」って思うのは、そこに筋が通っているからなんです。

櫻井 でもガエリオは「絶対死なない」って思っていましたね。さすがに2回死ぬっていうことはないなと。

第1期も結果として生きていましたけど、完全に死んだという見せ方をしていましたから。それをまた殺すっていうのはありえないだろうなと。

松風 でも現場のキャスト陣の一部は、みんなガエリオが死ぬ設定でしゃべってましたよ（笑）。さすがに自分でも死なないかなと思っていました。そうでなければ、仮面までかぶって生きてきた意味がないですから。

——最終的にガエリオは生き残りましたが、エピソードのようすは2人の戦いの激しさを物語っていました。

松風 ジュリエッタに力いすを押しもらいながら、しかも軽口をたたくというのは、いつそうせつなくなりますね。最後の戦いから5、6年が経過してもあの状態ということは、一生あのままといい可能性も高いわけですから。

——第49話のアフレコには、どのような気持ちで臨まれましたか？

松風 「ガンダム」というすごいタイトルで、ずっとお世話になっていて川口さんが音響監督で、相手役

は櫻井さんですからね。これでダメなら一生ダメだろうという気持ちでした。

櫻井 Bパートのテストが終わったとき、ラスト役の大川透さんが「すごくよかったよ」と言ってくれて、もうこれが本番でいいんじゃないのって、思ったぐらいですから。

松風 第1期の第25話もそうですけど、僕はテストテイクを使っていたいていました。僕は仁さんにずっと育ててもらってきたので、癖も全部わかってもらっているんでしょう。振り返ってみると、マッキーとガエリオのシーンに関しては、本当にNGが少なかったですね。

櫻井 僕は松風君に引つ張り上げてもらったところがありますね。特に第49話は、かなり予想外な演技だったので驚きました。

松風 僕は家で台本を読んでいるとき、櫻井さんの声が聞こえてきましたよ(笑)。そこはもう、完全に脳内再生して挑みました。

——「鉄血のオルフェンズ」を応援してくれたファンの皆さんに、メッセージをお願いします。

松風 ファンの皆さん、作品を盛り上げていただき、本当にありがとうございます。作品自体は全50話終了しましたが、「鉄血のオルフェンズ」はまだまだ止まらないと思います。ぜひ見ていない人にも、紹介し

ていただければと思います。また、度見たことのある方も、何度も見返すことでわかることがありますし、記事からも新しい発見があるはずです。幅広く「鉄血のオルフェンズ」の世界を楽しんでいただいて、これからも盛り上げていただければと思います。

櫻井 「ガンダム」という作品は、これからも連綿とつくられていくシリーズだとは思いますが、「鉄血のオルフェンズ」はそこに影響を及ぼすタイトルになったと思います。これから10年、20年経過後、新しい「ガンダム」がつくられていくなかで、語り継がれる一作になってくれればと思っています。少年たちが頑張って生き、そしてはかなく散っていく物語ではありますが、そんな彼らの姿を見ると、改めて「自分も頑張らな」といけないな」という気持ちが浮かびます。「生きる」ということに対して、もうひと頑張りしないといけないって、ぜひ皆さんもどんな作品を掘り下げていただいて、これ

からも楽しんでいただきたいと思います



「生きる」ということに
対して、もうひと頑張
りしないといけないなと

THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOOD ORPHANS 2

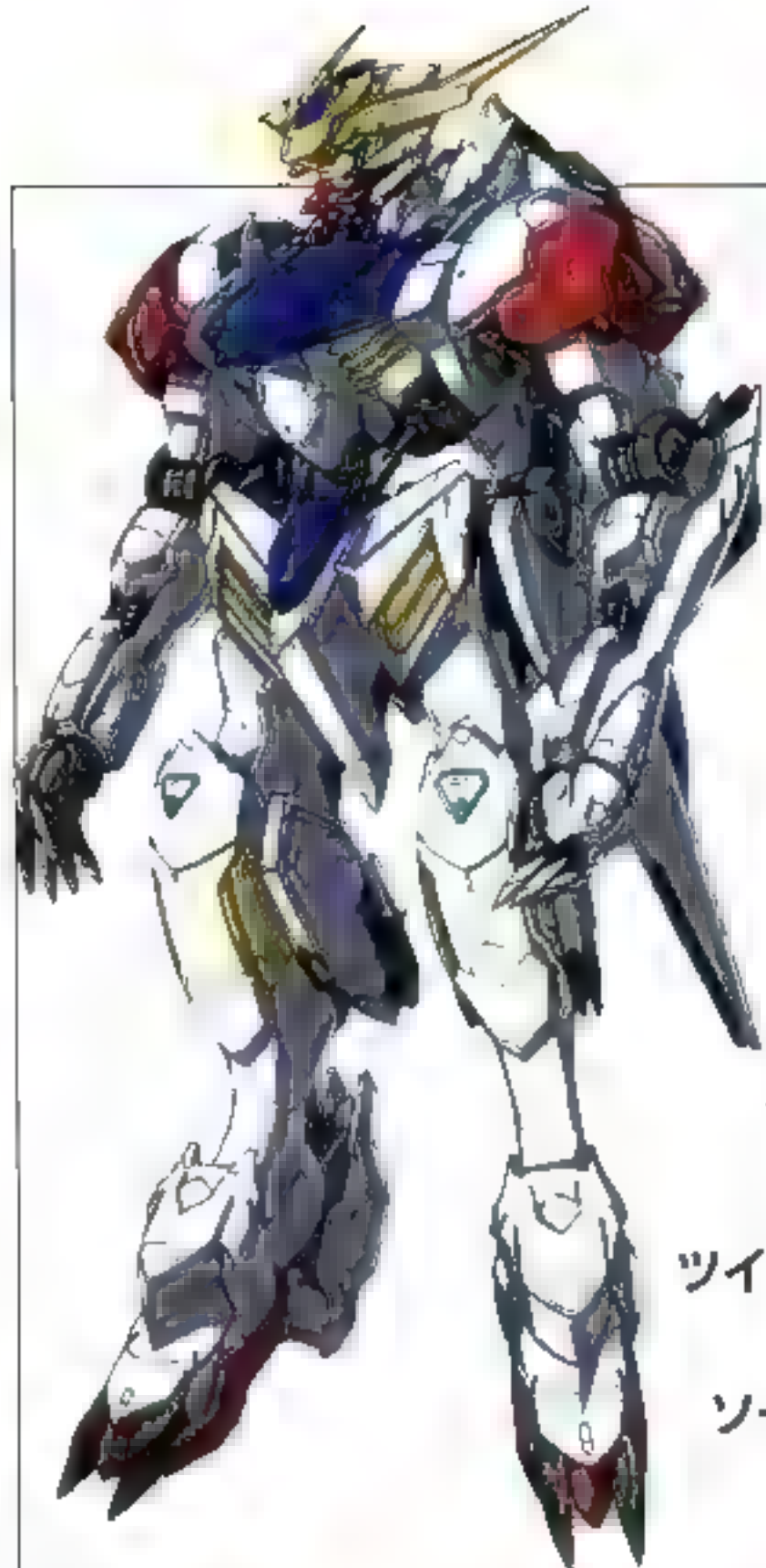
MECHANICS





ガンダム・フレイム

機体番号 ASW-G-08 全高 19.0m 重量 31.2t(本体重量)
パイロット 三日月 オークス



ツインメイス

ソードメイス

ガンダム・バルバトスルプス

[型式番号]ASW-G-08 [全高]19.0m [重量]31.2t(本体重量)
[パイロット]三日月 オークス

ティワズの本拠地、歳星のMS工房でオーバーホールしたバルバトスの姿。過去の戦闘データを分析し、三日月が好む近接格闘仕様への改修・調整も行なわれている。背中には隠し腕のサブアームを追加し、マニピュレータも強化されている。新しい装備として、機動性を考慮したソードメイスやツインメイスをもつ。

シザース
可変型リアアーマー



腰部に追加されたリアアーマーは、取りはずすことでハサミ型の近接武器になる。テコの原理も加わり、フレイムごと切断するほどの威力を発揮する



ガンダム・グシオンリベイクフルシティ

[型式番号]ASW-G-11 [全高]18.2m [重量]36.5t(本体重量)
[パイロット]昭弘・アルトラント

バルバトス同様、歳星のMS工房でオーバーホール、改修が加えられた。長距離精密射撃、サブアームを駆使した4丁同時射撃の特性はそのままに、シザース可変型リアアーマーを装備することで近接戦闘能力を強化。支援も近接戦もできるバランスのいい機体となった。

アサルトナイフ

フラウロス唯一の近接格闘兵装。機動性重視の小型武器で、いわば緊急時の護身用。戦闘の基本はレールガンによる砲撃である

ガンダム・フラウロス(流星号)

[型式番号]ASW-G-64 [全高]17.8m [重量]29.9t(本体重量) [パイロット]ノルバ・シノ

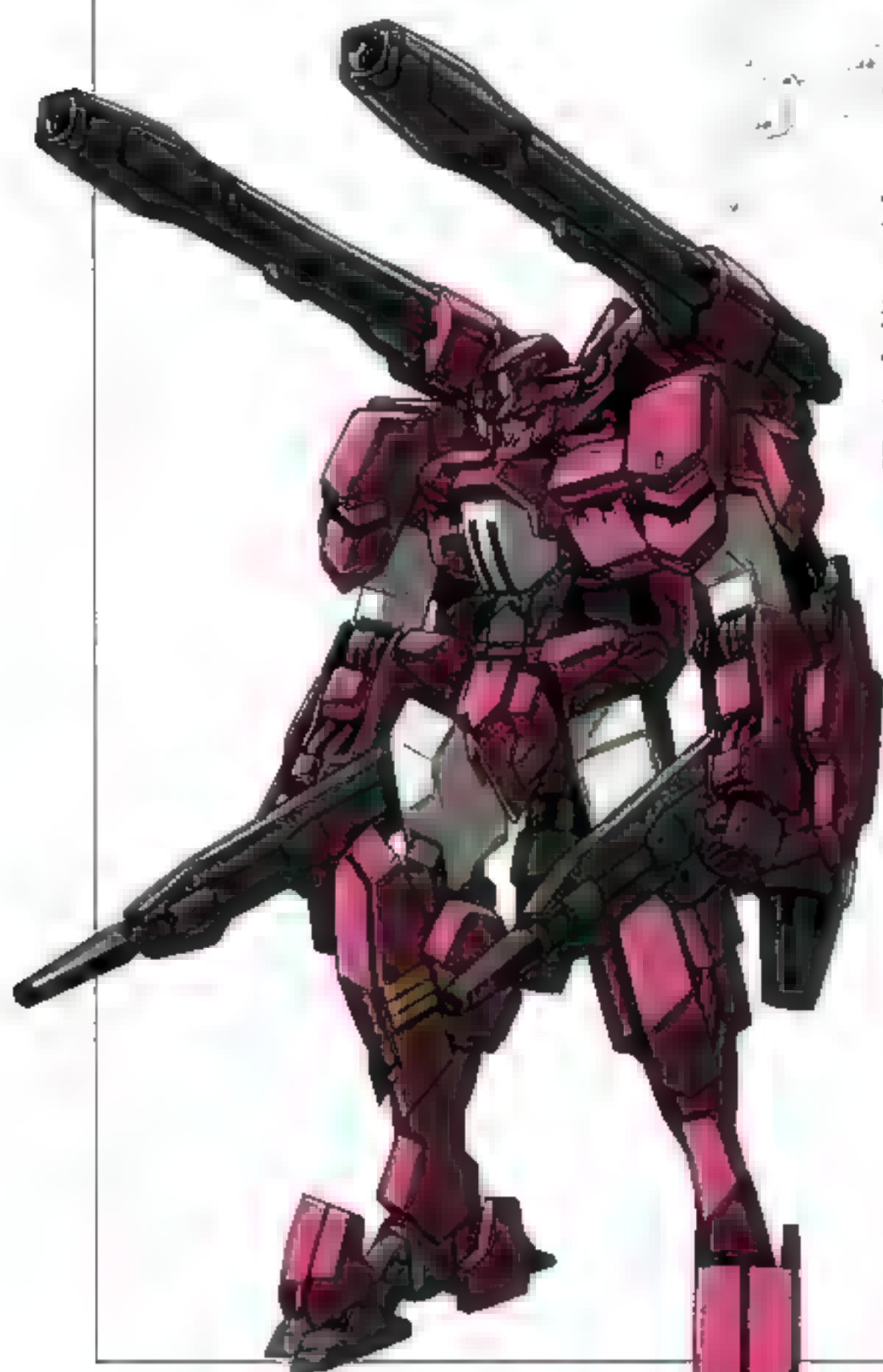
火星のハーフメタル採掘場で発掘された新たなガンダム・フレイム機。大型のレールガンを2門備える射撃特化機体で、ダインスレイヴの特殊硬弾を発射することもできる。発掘時は白をベースカラーにしていたが、シノの要望で塗り替えられ、四代目流星号となった。

ダインスレイヴ

レアアロイ製の特殊硬弾をレールガンで撃ち出す砲撃兵器ダインスレイヴ。ナノラミネートアーマーすら容易に貫き、強力すぎるゆえに厄祭戦後は非人道的兵器として条約で使用を禁止されていた。ヤマギの発注で、ティワズはフレイムの材質を原料に、試作の弾丸を開発した

砲撃モード

フラウロスは、腰部から上半身が180度回転して4脚の砲撃モードになり、背部にあったパーツが肩部レールガンと連結。超長距離射撃モードになる。地上戦で真価を発揮する





ガンダム・バルバトスルプスレクス

[型式番号]ASW-G-08 [全高]19.0m [重量]32.1t(本体重量)
[パイロット]ニ日月・オーカス

モビルアーマー戦で激しく損傷したルプスは再び歳星のMS工房にもち込まれ、さらなる大改修を受けた。反応速度を理論値限界まで高めることに成功し、ツメのようなマニピュレータとツマ先には超硬度の希少金属を使用。両肘のシールド装甲にはサブアームを収納している。歳星のMS技師が技術の粋をつぎ込んだ新たなバルバトスには、十を表わす“レクス”の名が与えられた。



バエル・ソード

希少金属でつくられた2本の剣。軽量武器にもかかわらず、技量あるパイロットが振るえばフレームすら斬り裂くことができる。バエルの主兵装であり、アグニカ・カイエルがいかにも優れたパイロットだったかがうかがえる

ガンダム・バエル

[型式番号]ASW-G-01 [全高]18.0m [重量]30.0t(本体重量)
[パイロット]マクギリス・ファリド

厄祭戦当時、ギャラルホルンの創設者、アグニカ・カイエルが搭乗していたガンダム・フレーム機。アグニカの魂が宿るとされ、ギャラルホルンの象徴として地球本部の地下に安置されていた。翼のようなスラスターをもち、大気圏内での飛行機能を備える。起動には阿頼耶識システムでの接続が必要になる

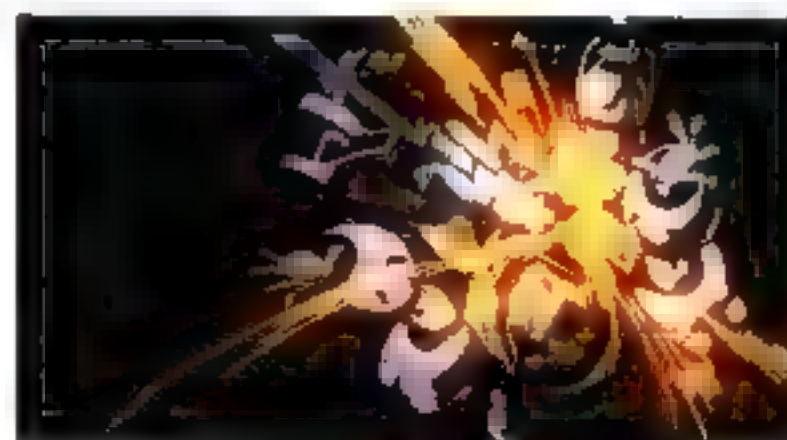


超大型メイス

ティワズのMS工房でつくられた超重量級の近接兵装。柄は間合いに応じて伸縮し、先端と柄の底部にはパイルバンカーが仕込まれている

テイルブレード

モビルアーマー、ハシュマルに装備されていた超硬ワイヤーブレードを移植。阿頼耶識システムにより、常人では不可能な変幻自在の動きで敵を仕留める



ガンダム・キマリスヴィダール

[型式番号]ASW-G-66 [全高]19.5m
[重量]34.5t(本体重量) [パイロット]ガエリオ・ボードウィン

偽装を解除し、本来のキマリスとなった姿。以前のキマリスと大きく外観が変わっているが、これも厄祭戦時に存在したキマリスのバリエーションのひとつである。突進武器のドリルランス、ヒザに仕込んだドリルニー、格闘武器の刀、そしてダインスレイヴをも備える。最新技術による調整もされ、機体の戦闘力は群を抜いている。

ガンダム・ヴィダール

[型式番号]ASW-G-XX [全高]18.5m
[重量]30.9t(本体重量) [パイロット]ヴィダール

ラスタル・エリオンのもとで、偽装用の装甲を施されたキマリスの姿。背中に3基目のエイハブ・リアクターを積んでいるが、これは出力に影響はなく、キマリス固有のエイハブ・ウェーブをマクギリス側にとらえられないようにするための偽装リアクターである



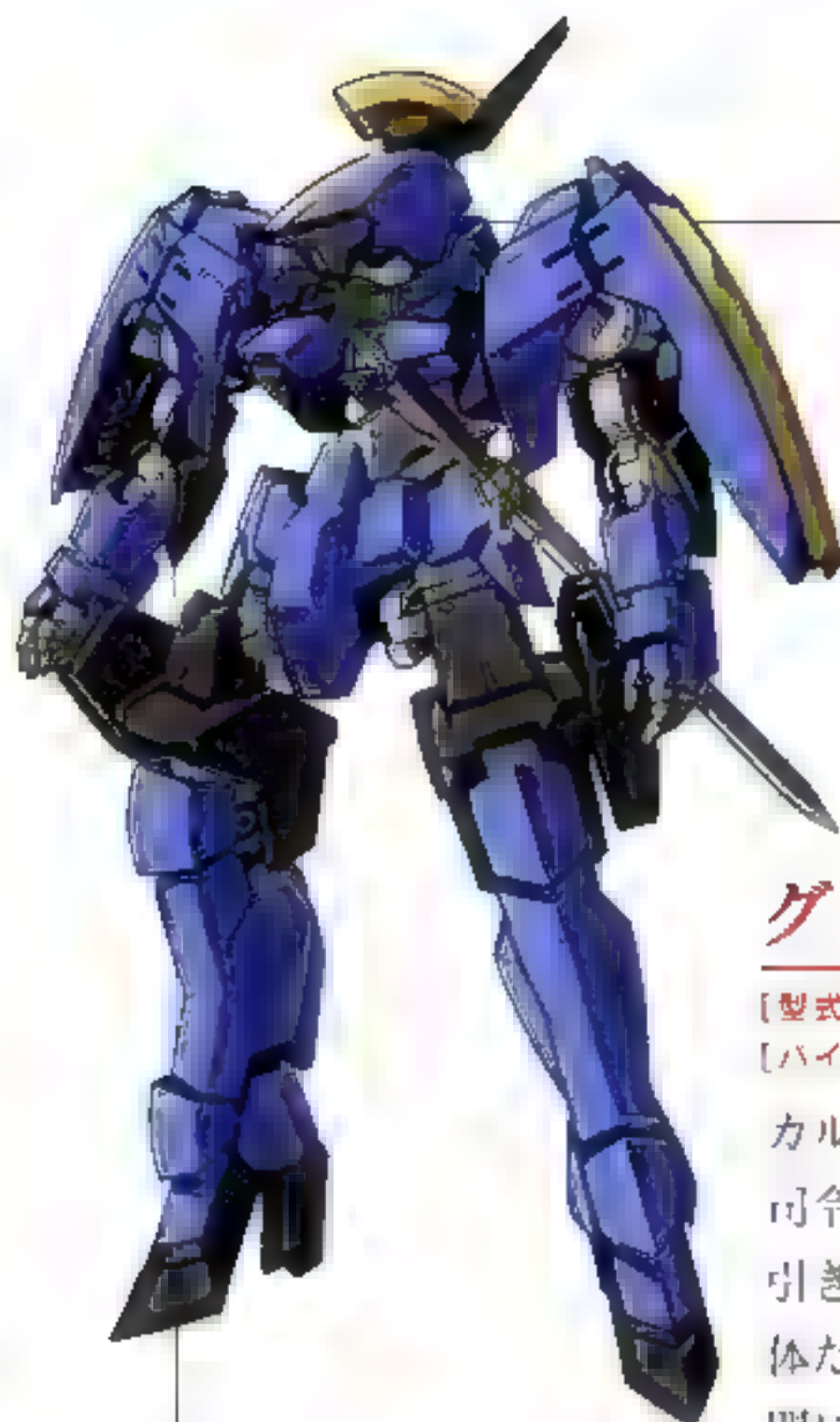
足部ハンターエッジ

ツマ先とかかとに仕込まれた隠し武器。斬るというよりは、脚力に任せてナタのようにたたき割る。ヴィダールにとっては、これが質量武器になる。高い機動性とあいまって、ハンターエッジで戦うさまは華麗のひと言

阿頼耶識TypeE

ヴィダールとキマリスヴィダールには、グレイズ・アインの生体ユニットとなったアインの脳ごと、阿頼耶識システムを移設している。アインの脳を介することでパイロットにかかる情報負荷が軽減され、限界まで機体性能を引き出すことができる





ナイトブレード

主兵装はカルタ搭乗時から変わらぬ2本の剣。優美さを優先させた仕様だが、グリムゲルデでも剣を使用していたマクギリスには使い慣れた武器でもあった

グレイズリッター(マクギリス機)

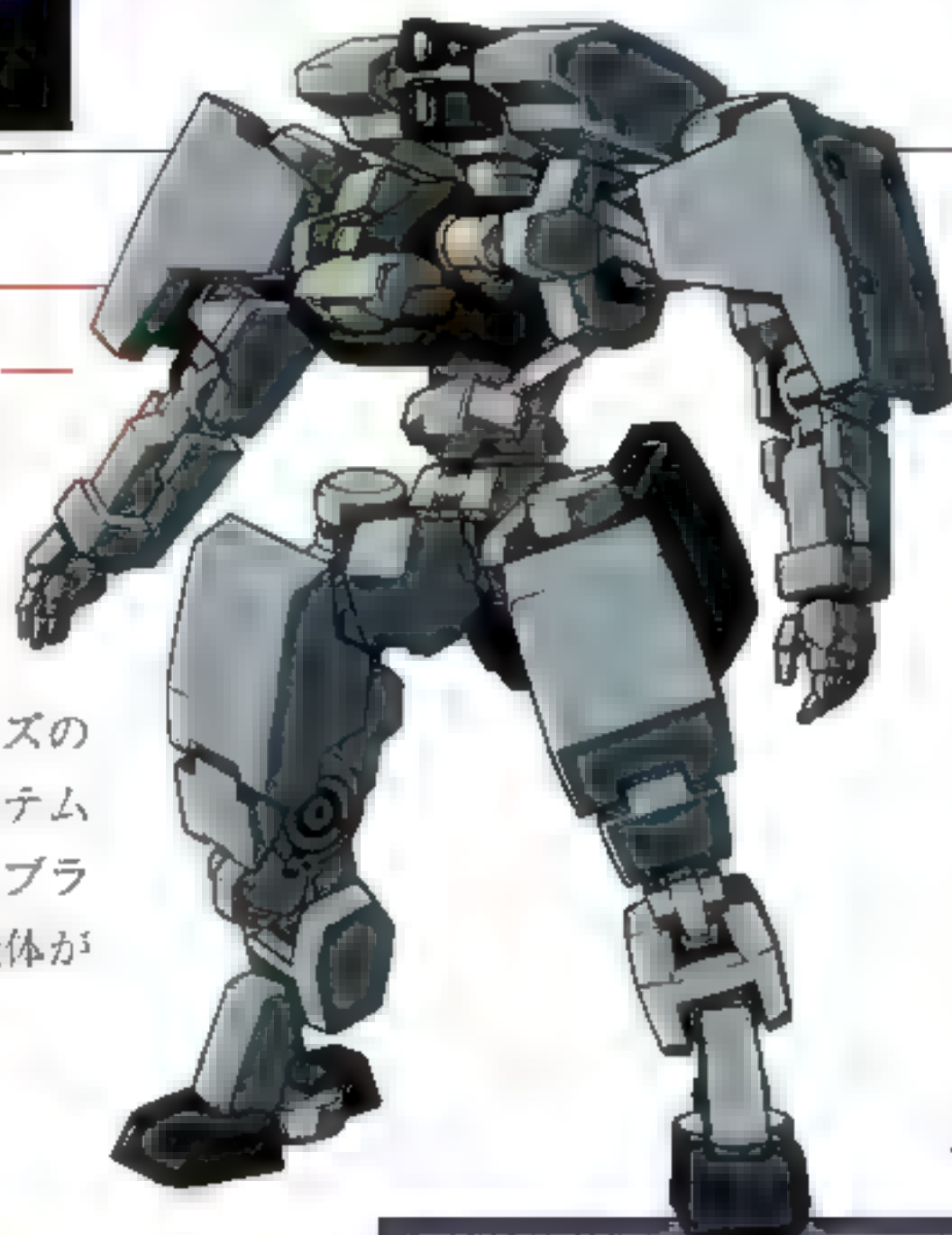
【型式番号】EB-06rs 【全高】18.7m 【重量】32.1t(本体重量)
【パイロット】マクギリス・ファリド

カルタ・イシュー亡き後、地球外縁軌道統制統合艦隊司令に就いたマクギリスは、彼女の乗機もそのまま引き継いだ。ただし、もとは記念式典などの参列用機体だったため、機体特性を全面的に調整。重力下の戦闘に適した実戦的な機体へと生まれ変わっている。



マクギリス機

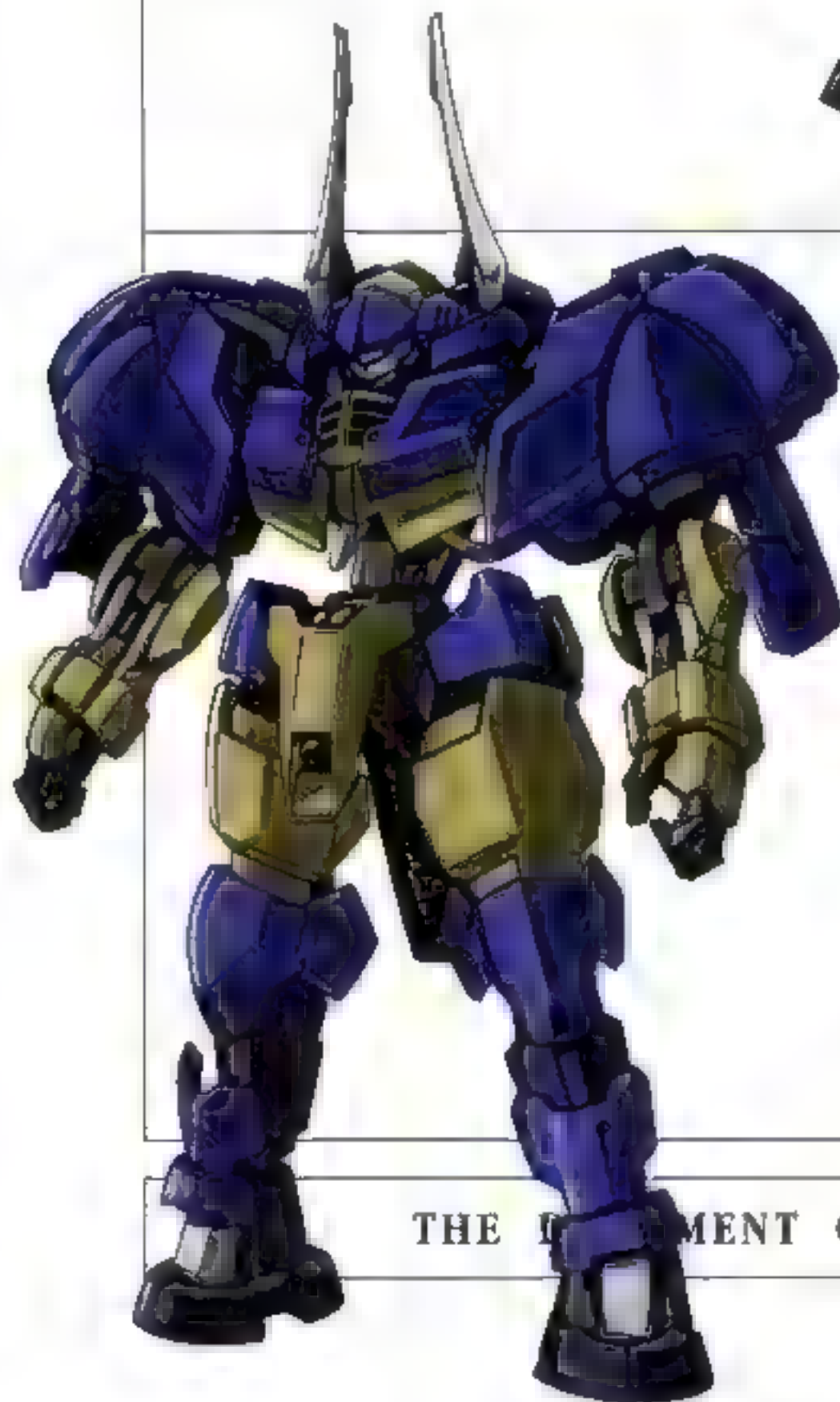
マクギリス直属の兵には、一般カラーのグレイズリッターが与えられ、精鋭部隊を編成。こちらもマクギリス機同様、実戦的な調整が施されている



フレック・グレイズ

【型式番号】AEB-06L 【全高】13.8m
【重量】25.2t(本体重量) 【パイロット】——

アープラウで起こった紛争以来、自己防衛のためのモビルスーツを求める声が高くなった経済圏に対してギャラルホルンが用意した、グレイズの廉価版モデル。小型で操縦システムが明解なため、練度が低いアープラウ防衛軍の上力として多数の機体が配備された。



ヴァルキュリア・フレーム

ヘルムヴィーゲ・リンカー

【型式番号】V08Re-0526 【全高】21.1m
【重量】43.9t(本体重量) 【パイロット】石動・カミーチェ

厄祭戦末期に実在したヴァルキュリア・フレーム機のひとつ、ヘルムヴィーゲのデータをもとに、グリムゲルデを改装した機体。約300年の時を経て、ヘルムヴィーゲが現代に転生(リンカーネーション)したという意味を込め、機体名には「リンカー」がつけ加えられた。

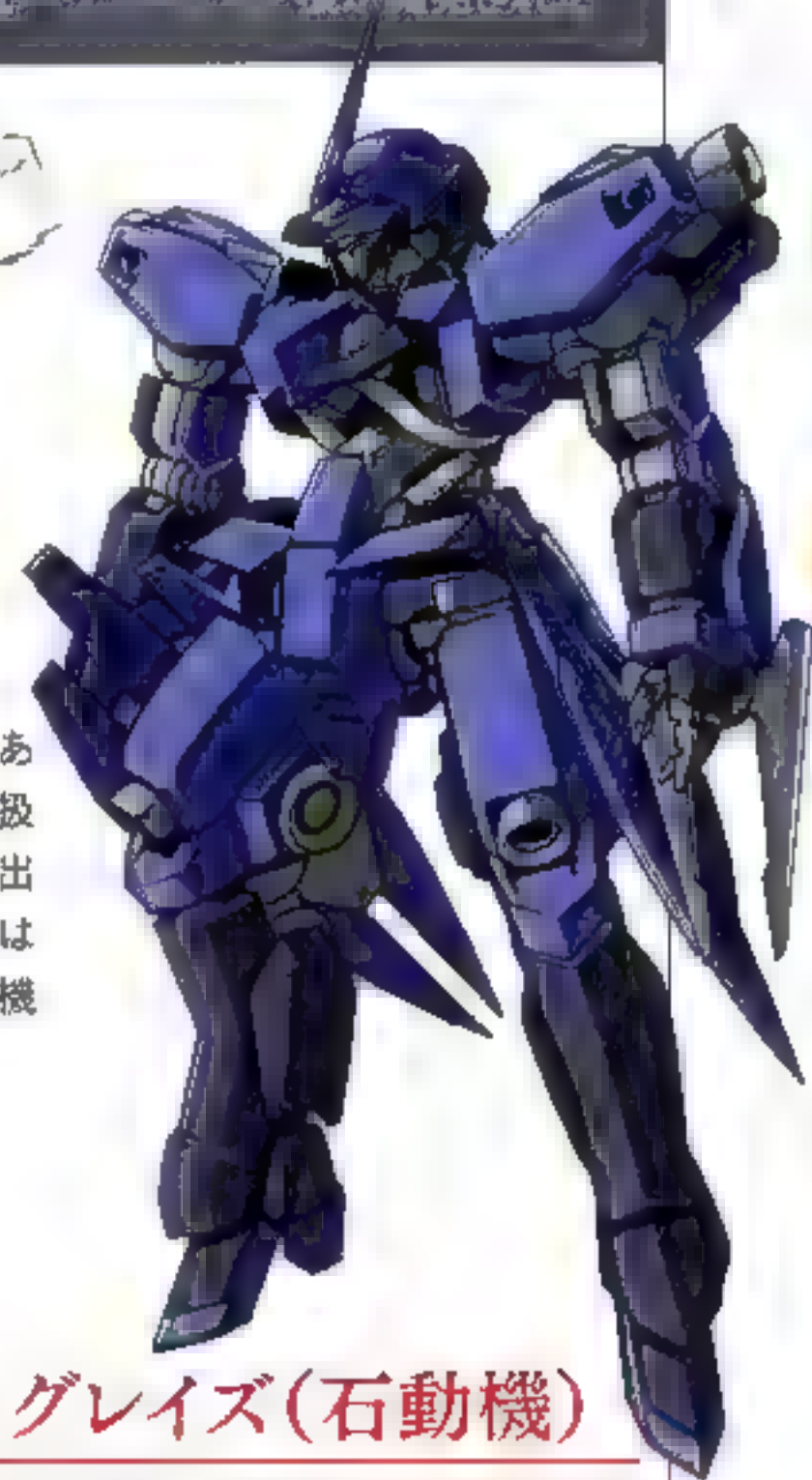
ヴァルキュリアバスターソード

ヘルムヴィーゲはもともと対モビルアーマー用に開発された重量級機体で、この巨大な剣は、モビルアーマーの装甲を粉砕するために用意された専用武器だ



ワイヤークロー

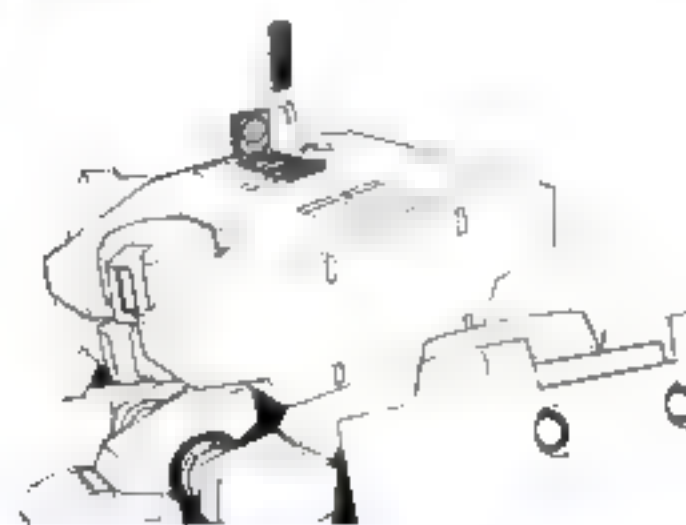
グレイズとの互換性がある本機は多数の武装を扱える。さらに両腕には射出型クローを備える。これは攻撃武器というより、敵機拘束に用いられる



シュヴァルベ・グレイズ(石動機)

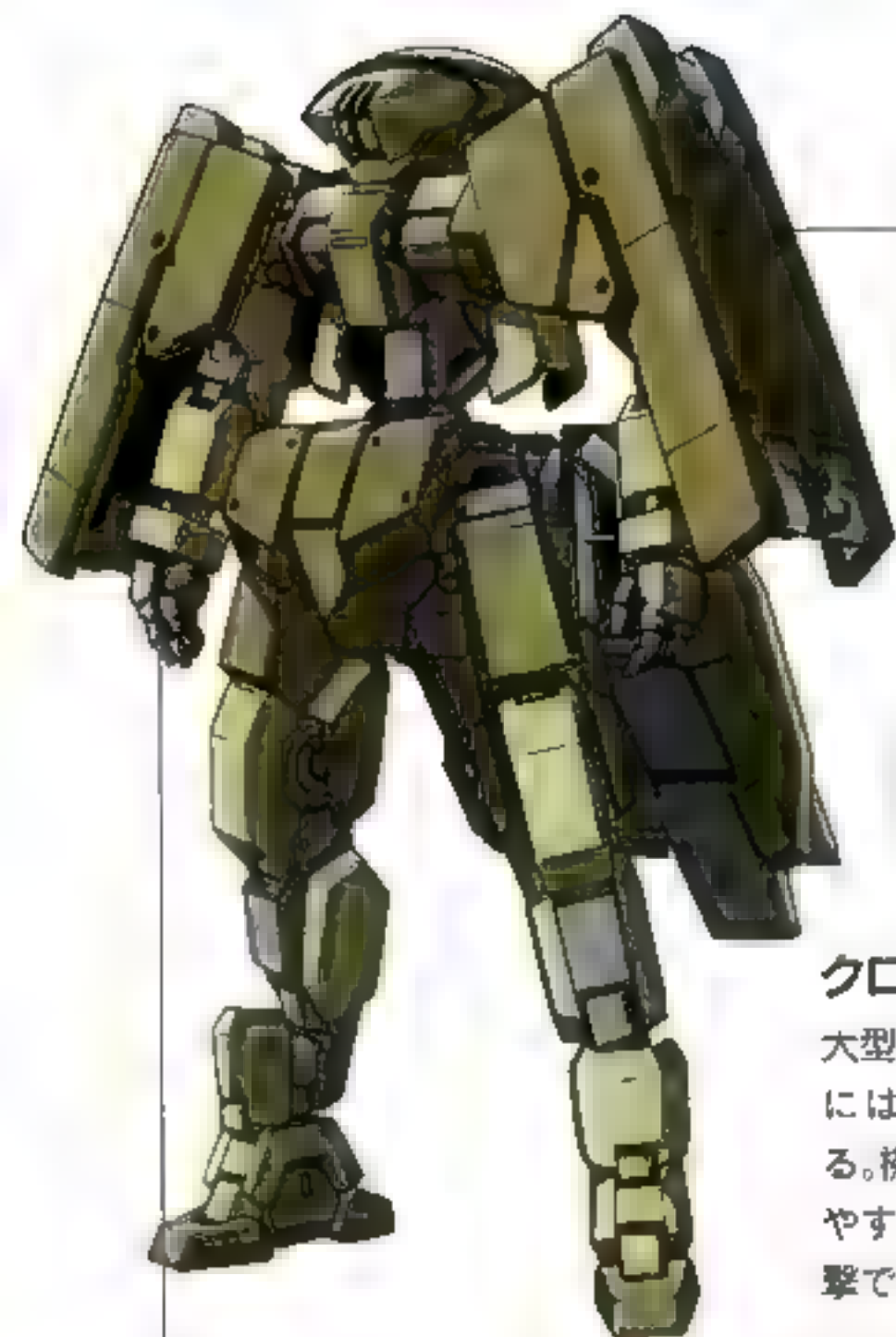
【型式番号】EB-05s 【全高】18.1m 【重量】32.5t(本体重量)
【パイロット】石動・カミーチェ

マクギリスがグレイズリッターに乗り換えたため、かつての乗機は副官の石動に引き継がれた。グレイズの高出力カスタム機であるシュヴァルベには精密な操縦技術が求められるが、石動はみごとに乗りこなしてみせた。武装、性能に変更はない。

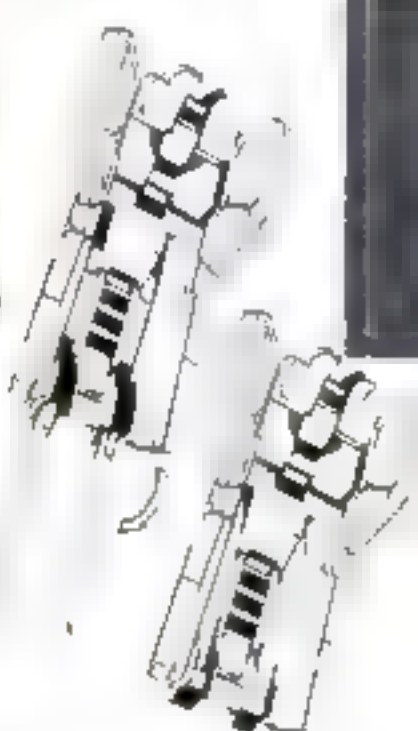


頭部ミサイル

特徴的な頭部には小型ミサイルの発射口がある。モビルスーツに対しては大きなダメージは与えられないが、モビルワーカー相手には十分な効果を発揮する



ゲイレール・フレーム

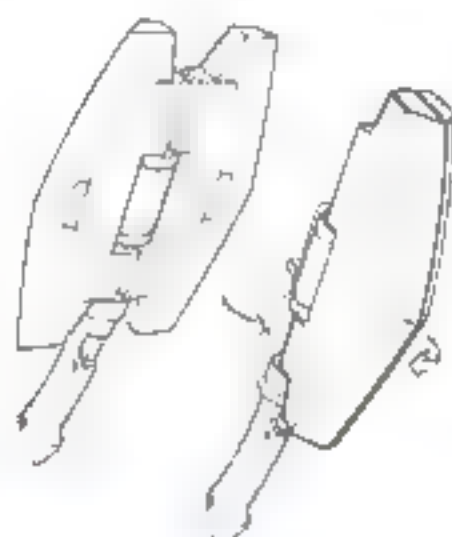


ゲイレール

[型式番号]EB-04 [全高]17.9m

〔重量〕29.8t(本体重量) 〔パイロット〕ガラン・モッサ

グレイズ登場以前にギャラルホルンに配備されていたMS。現在ではわずかな機体が地方部隊や訓練用に残るのみだが、使い慣れた機体を好んでか、退役した傭兵が愛機にしている場合が多い。シャルフリヒター同様、背部にホバーユニットの装着が可能だ。



シールドアックス

開けばシールドに、閉じれば
アックスになる汎用武器。扱
いやすく携帯性もいたため、
多くの装備を携行するのが
難しい傭兵隊にとっては重
宝する武器である

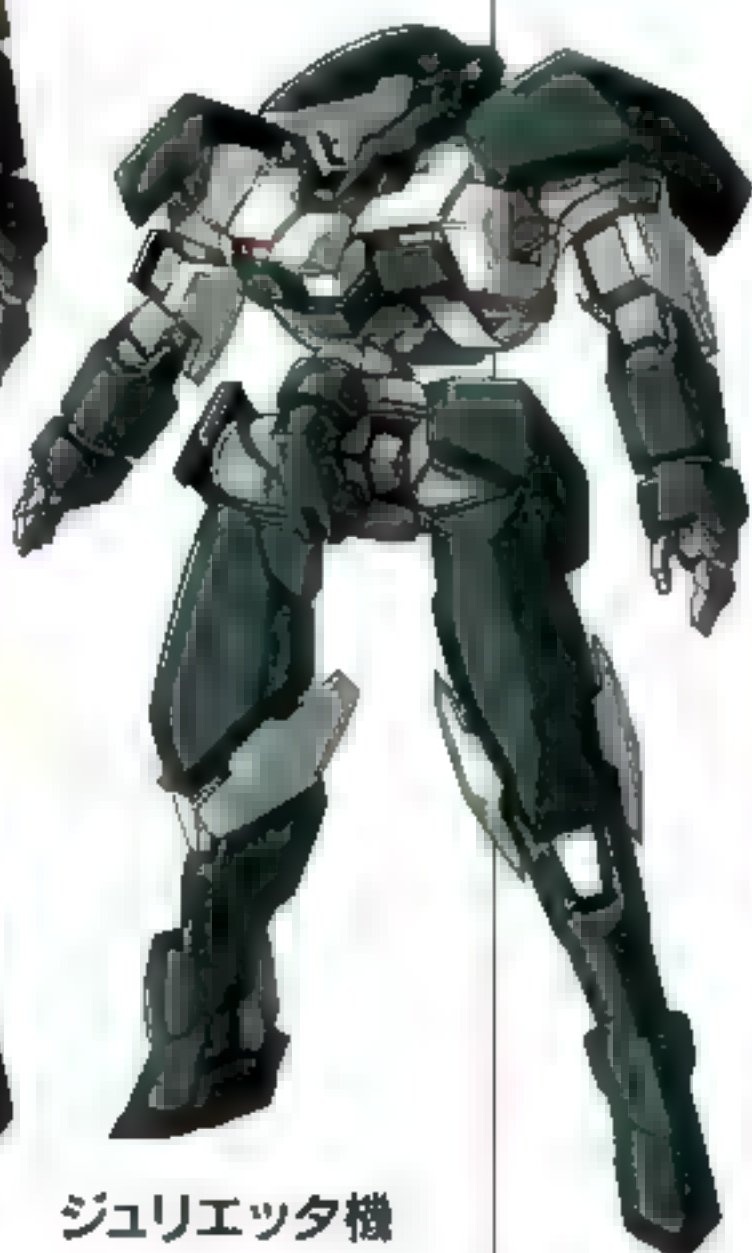


ゲイレール・シャルフリヒター

[型式番号]FB-04)c4 [全高]17.9m [重量]33.5t (本体重量)
[パイロット]――

重装備、重装甲をコンセプトに仕様変史されたゲイレールの姉妹機。豊富な武装バリエーションをもつことから変化する戦況、混戦での対応力が高く、ガラン隊をはじめ、傭兵部隊ではいまだに重宝されている。機動性は低い。背部ホバーユニットで大きな移動が可能だ。

レギンレイズ・フレーム



イオク機(指揮官機)

レギンレイズ

【型式番号】EB-08 【全高】18.5m 【重量】31.9t(本体重量)
 【パイロット】イオウ・クジャン、ジュリエッタ・シュリスほか

グレイズをしのぐ高出力機で、専用武装も多数用意。本格的な量産に先駆け初期にロールアウトした数機は、アリアンロッド所属の選ばれたパイロットに割り振られた。イオク機は長距離射撃支援タイプに、ジュリエッタ機は近接格闘タイプにカスタマイズされている。



ジュリエッタ機



ライフルとソードユニットからなり、補助パーツを加えて組み替えることで、ロケットランチャー、ガントレットなどに変化する多用途兵装



ジュリアンソード

ソードモードとウィップモードに変化する本機の主兵装。ウィップモードでは刃をつなぐワイヤーに電気信号を送ることで軌道コントロールが可能。自在な動きで斬撃する



レギンレイズ・ジュリア

【型式番号】EB-08jic 【全高】29.9m 【取組】4人 3t(本体重量)
【パイロット】ジュリエッタ・ジュリス

レギンレイズをベースに、さらなる高性能化を追求した高機動型試験機。グレイズ・アインの戦闘データが反映されているが、地上戦を主眼に置いていたグレイズ・アインに対し、こちらは宇宙での空間戦闘で真価を発揮する。テストパイロットになったジュリエッタの名前から、ジュリアと名づけられた

ティワズ・フレイム

辟邪

【型式番号】STH-20 【全高】18.3m 【重量】32.9t(本体重量)

【パイロット】ラフタ・フランクランド、アジー・グルミン、ハッシュ・ミディ

ティワズ・フレイムを再調整して開発された新型MS。出力を向上しつつ、クセのない操縦性をもつ。阿頼耶識システムを要さないパイロットでも、ソフトで反応の速い機体コントロールができる。タービンを通じて、試作機の1機が鉄華団に送られた。

イオ・フレイム

獅電

【型式番号】STH-16 【全高】18.1m 【重量】28.5t(本体重量)

【パイロット】フイト・マッス、ダンテ・モグロ、デルマ・アルトランドほか

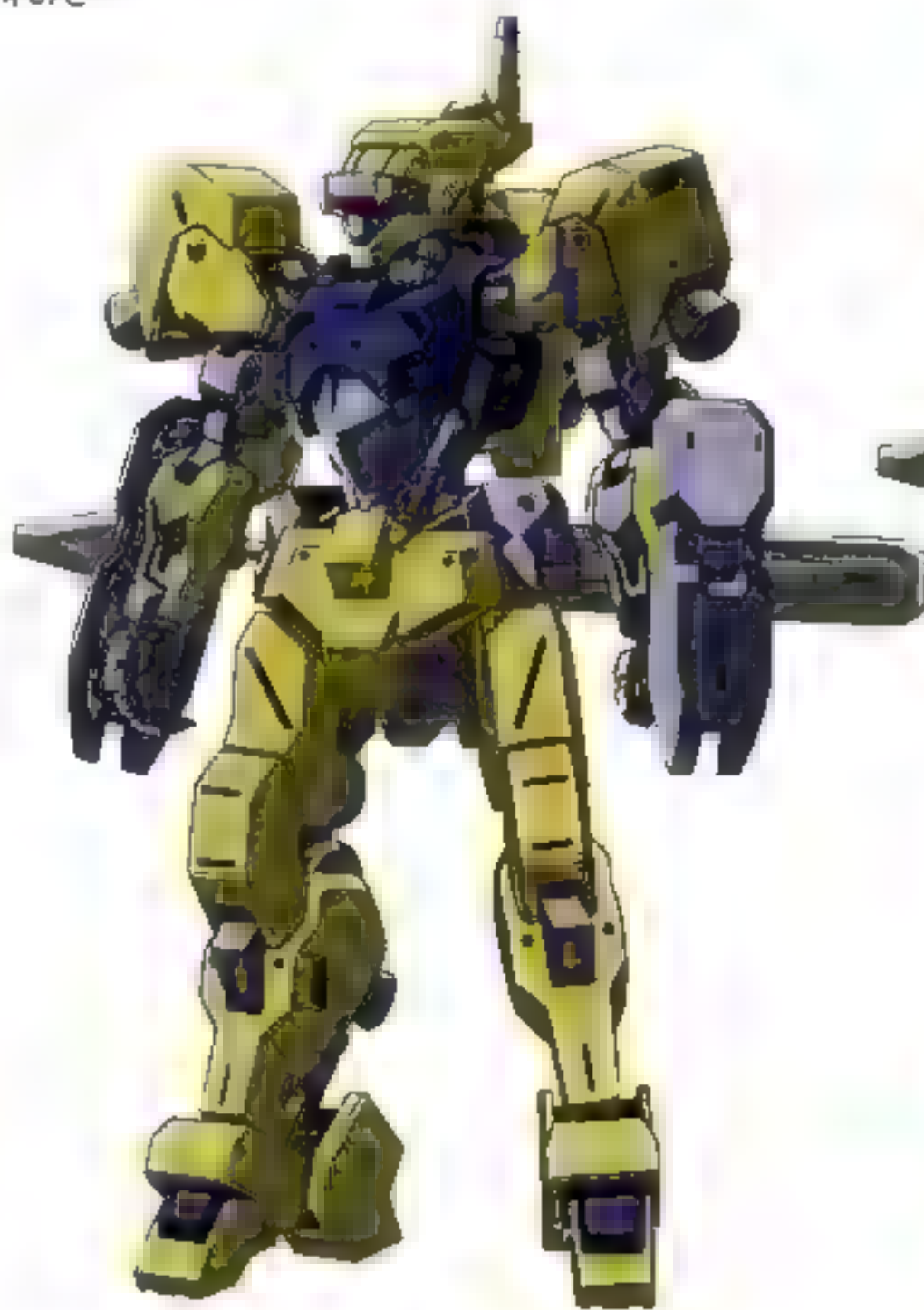
イオ・フレイム製の初モデル。技量、練度に差がある不特定多数のパイロットが搭乗する量産機ゆえに、近接・射撃、機動性のバランスを重視した設計がされ、豊富な兵装が汎用性を高めている。ティワズ内で特に戦闘力を買われている鉄華団には、優先的に格安で卸された

バルチザン

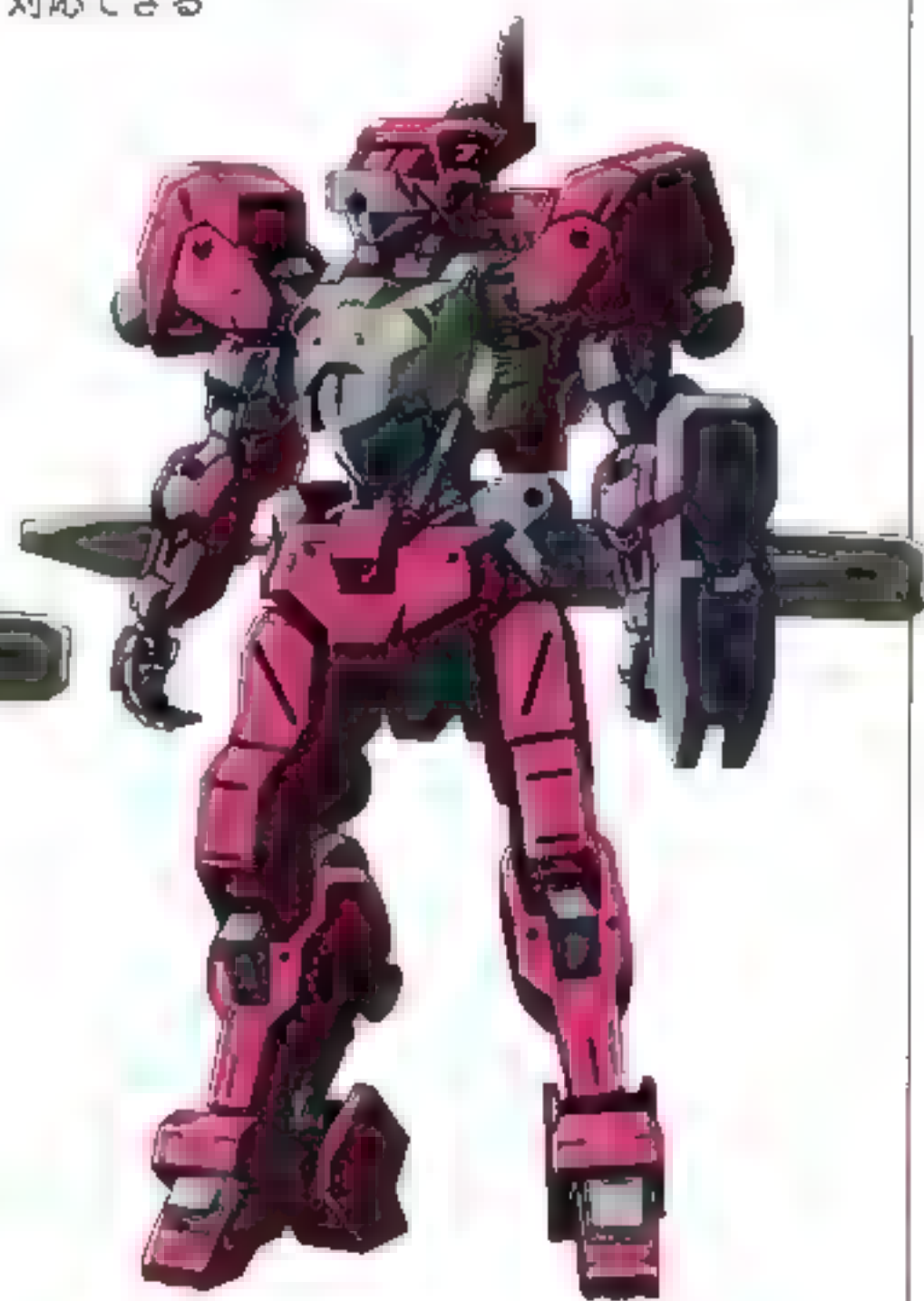
柄の左右がこん棒と槍になっている刺突・殴打武器。柄には伸縮機能があり、長さの調整と持ち替えて1対1から混戦まで、さまざまな戦況に対応できる



獅電(オルガ機)



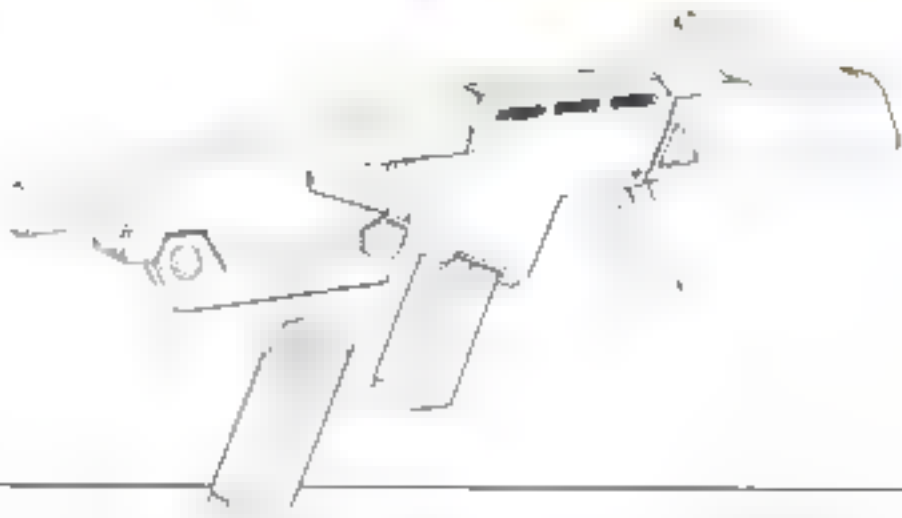
雷電号



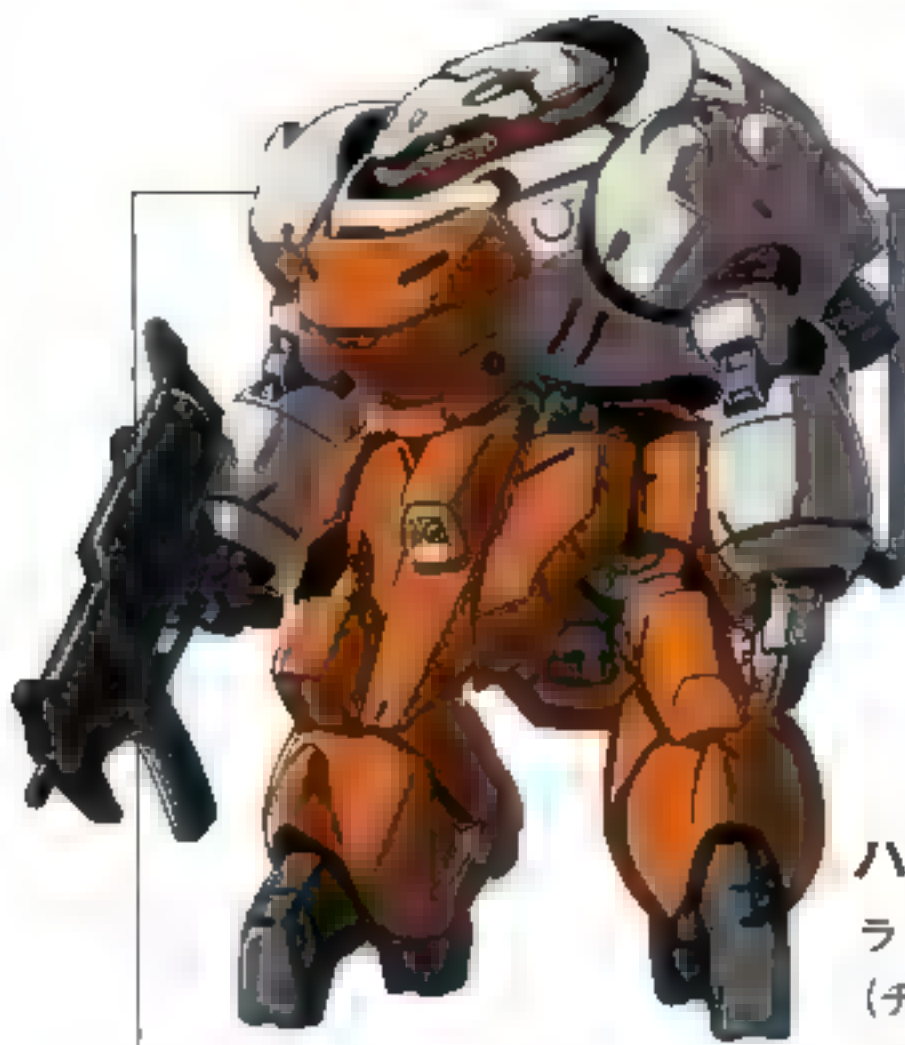
獅電改(流星号)

ライフル

腰にマウントして携行できる獅電の標準射撃兵装。獅電はライオットシールドで半身を隠しながらライフルで迎撃するのが基本スタイル



阿頼耶識システムを移設し、機動力向上のカスタマイズがされた獅電。シノの流星号はさらに超接近戦仕様の改装がされ、ライドが乗り継いだ。オルガには、ティワズから「王の椅子」と称されるホワイトカラーの専用機が贈られた。こちらには阿頼耶識システムは移設されていない



ロディ・フレーム



ハンマーチョッパー

ランドマン・ロディの主兵装。肉切り包丁(チョッパー)のような斬撃武器で、峰の部分には殴打用のハンマーがついている

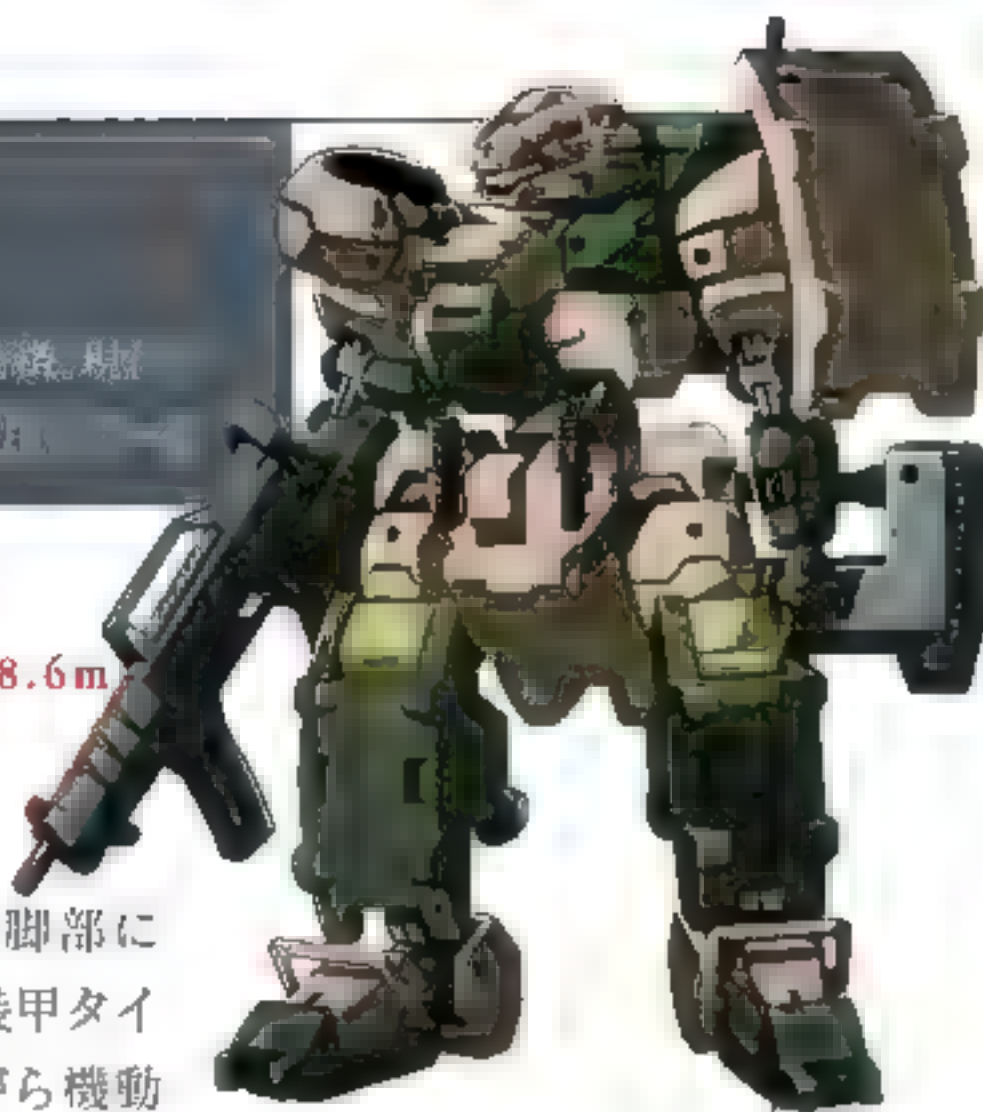
ランドマン・ロディ

【型式番号】UGY-R41 【全高】17.0m 【重量】40.2t(本体重量)
【パイロット】タカキ・ウノ、アストン・アルトランド、チャド・チャダーンほか
鉄華団がブルワースから奪った宇宙戦用機体のマン・ロディを、地上戦用に改修した機体。ブルワース時代から阿頼耶識システムを搭載させていたため、鉄華団の団員には扱いやすい機体であった。

ガラム・ロディ

【型式番号】UGY-R45 【全高】18.6m
【重量】38.2t(本体重量)
【パイロット】——

夜明けの地平線団が運用していた主力MS。左肩、脚部にシールド装甲を施した重装甲タイプ。見た目は鈍重そうながら機動力は保ち、ロディ・フレームの特徴である汎用性に優れた機体となっている。



ヘキサ・フレーム

ジルダ(SAU軍仕様)

【型式番号】IPP-0032S 【全高】19.8m
【重量】29.7t(本体重量) 【パイロット】——

ヘキサ・フレームを使用したSAU軍仕様機。クセのない操縦が特徴で、武装も豊富にセットアップされている。

ユーゴー

【型式番号】IPP-66305 【全高】19.7m
【重量】29.9t(本体重量) 【パイロット】サンドバル・ロイター
夜明けの地平線団の団長サンドバルと幹部の双子が搭乗した機体。テイワスのNo.2、ジャスレイも自身の部隊で運用していた。足先のクローで敵を拘束することができる。



円月刀

サンドバル機の背部にある円形パーツは2刀の巨大シミターで、クローで拘束した敵をたたき伏せていた

モビルアーマー

ハシュマル

【全高】35.2m 【重量】49.8t(本体重量)
火星のハーフメタル鉱山に眠っていたモビルアーマー。ハーフメタルはエイハブ・ウェーブを遮断する性質があるため、鉄華団が掘り出すまで感知されることがなく、逆にMSのエイハブ・ウェーブも遮断され目覚めることもなかった。本体に似合わない機動力、変幻自在の超硬ワイヤーブレードは脅威であったが、リミッターをはずし、対モビルアーマーモードになったバルバトスルプスに撃破された。のちにギャラルホルンがもつ厄祭戦の記録から、ハシュマルという個体名が判明した。

ブルーマ

資源の確保・補給と、ハシュマルの修復も行なう随伴機。資源がある限りハシュマルの内部で無限に自動生産される。モビルワーカーと同程度のサイズで、武器はクローとしっぽのドリルのみ。1機あたりの戦闘力は低いが、数の力で制圧していく



ビーム発射口

MSには効果は薄いですが、人類殲滅用の大規模殺戮兵器として搭載されているビーム砲。拡散させたにもかかわらず、農業プラントを一撃で焼き払った



THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

STAFF COMMENT



Question to Mechanic Designers

- 1 担当されたメカを教えてください。
- 2 それぞれこたわられたところを教えてください。
- 3 心に残っているメカ登場シーンはどこでしょうか？(3つまで、またその理由もお願いします。)
- 4 オルフェンズにおけるメカ&戦闘シーンの魅力は何だと思われますか？
- 5 最終回まで応援してくれたファンにメッセージをお願いします。

キャラクターデザイン原案

伊藤 悠

——第2期の新規キャラクターについて、特に印象があった監督のオーダー、キャラクターを教えてください。

何と云っても最終回の女の子3人のその後です。オーダーいただいたとき、この3人は生きて人人になっていくんだと感慨深かったです。3者の成長のしかたがそれぞれ違う輝き方をしてくれるよう願って、たくさんメモを付けました。

——原案されてから、実際に「こんなふうになったんだ」という印象があったキャラクターと理由を教えてください。

髪の色で驚くことが多かったです。小さい髪と初め聞いていたクーデリア、カルタ、名前から何となく東洋人ぽいと思っていたヤマキの恋愛など。ユージン、シノ、昭弘、ライドたちは、原案時は鉄華団でのホジションくらいしかなかったのか、あんなにそれぞれ生きた人物たちになっていったって面白いような気持ちでした。性格では、もっとも無表情で淡々といくかと思っていたシュリエッタが本当にまじめな一生懸命ないいキャラクターだったのが、毎週うれしい驚きをもって見えていました。

——特にお気に入りのキャラクターが

いたら教えてください。またその理由もお願いします。

みんな好きなのですが、いつも注目していたのは、自分の担当外だったこともあって、ダンテ、チャド、アストン、デルマらでした。疲れ切って希望など知らなかった彼らが元氣な顔になったり、ありという気持ちを知ったり、私的で魅力的な兄弟感もあって、ルビューマンデブリの少年らに人れ込んで見ていました。

——放送をご覧になって、オルフェンズのキャラクターの魅力は、特にどういう部分にあったと思われるですか？

勝者でなくとも強気に美しい、ということかと思えます。それぞれの人物は辛せなとき、悲しんでいるとき、裏切りに狼狽するとき、戦っているとき、勝利したとき、敗北し散るとき、耳を挑むとき、それぞれ美しく輝く瞬間があり、それぞれの輝きが違っていて、生に向かうキャラクターにも死に向かうキャラクターにも、真摯さがあったように感じます。生きて、少し歩人生を積んでいく人物の確かきや進んでいく日々や、界と並列に、なかなか倒れた人物の輝き、司令官の最後の一滴を戦場に使い果たしてくすおれる姿の美しさを描かれたことで、人の美しさは勝敗とかかわりのないことなのだという気がしました。

——最終回まで応援してくれたファン

にメッセージをお願いします。

光と影の濃い、痛いような強烈な物語を創しときに皆さんとこいつしよに追うことができて幸せでした。本当にありがとうございます。

キャラクターデザイン

千葉 道徳

——第2期の伊藤悠先生のキャラクターデザイン原案を見て感じられたことを教えてください。

アトラの身長伸び率と、デインのサイズ感に驚きました。アリウムやセブンスターズのバクラザンやファルクなど、おじさん&おじいちゃんキャラが増えて楽しかったです。特にバクラザンは超能力を使いそうて、おもしろかったです(笑)。

——第2期で印象に残っているシーンはどこでしょうか？

第33話のタカキがラディーチェを撃つシーン、そして各キャラクターの最期のシーンはやはり印象に残っています。そのなかでも第48話のオルガの最期は、何だか 特に大変でした。

——オルフェンズのキャラクターの魅力

力は特にどういう部分にあったと思われ
れますか？ 第2期で登場した新キヤ
ラも触れていただければ。

世界や人類のことではなく、自分たち
が「生きる」ことを考えているところが
いいと思います

——特にお気に入りのキャラクターが
いたら教えてください。

昭弘がお気に入りです。表情づけに迷
わなくて済む、真つすぐでわかりやす
いキャラクターでした。

——最終回まで応援してくれたファン
にメッセージをお願いします。

何年かたって見直していただくと、違っ
た見え方がすると思いますので、

別の形で改めておもしろいと思ってい
ただければいいな、と思います

最後までご覧いただき、ありがとうございます
でした。

メカデザイン

鷲尾直広

○バルバトスルプス、ルプスレクス、
グシオンリベイクフルシティとブー
スター装備、ハシユマル、フルー
マ、ハ
エルです

②「バルバトスルプス」

第一期のバルバトスが作品中で強烈な
イメージを残していましたので、より
バルバトスらしく、第2期の新しいデ
ザインとしてふさわしいものになるよ
うに方向性もディテールも熟考しまし
た。

モビルスーツでは、あまり使われない
複雑な目回を多用しています

腕に付ける機軸砲はエリコンの対空機
関砲を腕に付けているようなイメージ
です。口径はMS用なのでとても大き
いですが

砲身はターバーが付いていて、薄いサー
マル・ジャケットが巻かれています

ターバーが付いているのがポイントで
す。ターバーなしのほうがスマートで
すけど

今さらですか、第一期の滑腔砲にエバ
キエーターが付いているのは、どこ
かから持ってきた砲身をそのままMS
用にしたらだつたりします

何というか、都合上ぶかつこうなどこ
ろか少しあると兵器っぽさが出ていい
と思うのです

「バルバトスルプスレクス」

ガンタムの1役機として、ここまで異
形なものを描かせていただけたのはと
てもよかつたと思います

1月の戦闘スタイルに合わせてバル
バトスも改修されていくのですが、レ
クスに限らずバルバトスは、ストリー
やドラマにも貢献できたデザインがで
きたのではないかと思います
もちろん発注の的確さやほかのスタッ

フの皆さんのアイデアによるところが
大きいのですが、デザイナーの仕事は
それをまとめて形にすることで自己顕
小する場ではないので、そういう意味
でもバルバトスは僕のなかでは成功で
す。ただ全体として完走しきれない自
分のだらしなさはほかのスタッフの方
に助けていただいているので偉そうな
ことは言えませんが……

「グシオンリベイクフルシティ」

グシオンリベイクは、フルワーズのと
きのグシオンのパーツも残っていてデ
ザイン的に、ちぐはぐなところがあつ
たのですが、フルシティはコンセプト
は同じでも、きれいにリファインして
います。

ルプスとは違い、わかりやすい平直で
構成していますがかつこよく、スタイ
リッシュに、昭弘の乗るモビルスー
ツなので力強くも見えるようにデザイ
ンしています

頭部も、リベイクでは閉じた状態で自
の下が空いて寂しくなったり、可動す
るパーツが多すぎたので、顎パーツは
動かさず、全体としてシンプルでも動
きが大きくなるよう変えています

フルシティはコーヒー豆のローストが
ら名前をつけています。コーヒーはよ
く飲むのですが、デザインが上がった
のが夏だったのでアイスクーヒーで
も飲むために少し深めのフルシティに
ローストしてもらっていました

「ブースター装備」

もつと簡単な装備という感じの発注で

したか、グシオンにももう一度大きな
装備を追加したかったので、かなり人
かりな、簡易クタンのような装備に
しました

使用済み滑腔砲の砲身を再利用した近
加武装も考えていましたが使用されま
せんでした

それはどこかほかのところで復活する
かもしれません

「ハシユマル」

鉄血におけるモビルアーマーのイメー
ジは、どんなものなのかと考えるとこ
ろから作業に入りました

デザイナーとしてはスリキリしないの
ですが、デザインというよりも総じて
コンベに通った感が少しあるような氣
がします。

構造よりも本当にイメージ先行のデザ
インでいろいろなものに見えてしま
うのですが、何かに似ないように変える
とイメージも崩れてしまい、結局その
ままを強調して仕上げました

フルーマを製造できるように見えませ
んが、きつと製造ユニットみたいな
が別にオプションであつたりするの
かもしれません

「フルーマ」

裏側が気持悪いかもしれないが、
立体映えるような曲面にしています。
1面は描きやすいようにディテール少
なめにしましたが、甲羅部分は、もう
少しとらえやすい形のほうがよかつた
かな

Question to Mechanic Designers

- ①ご担当されたメカを教えてください。
- ②それぞれこだわられたところを教えてください。
- ③心に残っているメカ登場シーンはどこでしょうか？3つまで、またその理由もお願いします。
- ④オルフェンズにおけるメカ&戦闘シーンの魅力は何だと思われますか？
- ⑤最終回まで応援してくれたファンにメッセージをお願いします

「バエル」

シンプルな機体という発注でしたの
で、装甲をバルバトス(第4形態)よ
り大きくして露出部分を少なくして
います。

装甲自体が人きいのでほかのモデル
スーツと比べると意外と大柄です
全体のバランスはバルバトスと違っ
て、素直にかっこいいガンダムにな
るようにしています

翼もバエルのみ許されたパーツです
し、鉄血ではずっとあえて外してき
たものを丁寧にタイミングで出
していただけたと思っています。

厄祭戦時は二刀流ではなく、もっと
変わった戦闘だったそうです。ど
こかでデザインする機会ができれば
よいのですが

③第35話ハシユマルの起動シーン、
第38話のルプスとの戦闘

起動シーンも含めたかったのは、こ
こまで出さなかったヒーム兵器かつ
いに出てきて、とても効果的に生か
されていたからです

第38話ではモビルアーマーと何組耶
識本来のすさまじい戦闘が、作画も
すさまじくすばらしかったからです

第43話のヴィダールとレクスの戦闘
、バエルの起動、3機のガンダムの
違いが際立っていました

みんなかつこよかったです。

第50話の最後の戦闘

実はこのコメントを書いている時
で、コンテまでしか見ていませんが、
バルバトスもグシオンも戦いつぶり

壊れっぷりがいいですね
鉄血月らしくていいです

④モビルスーツが叫んで、飛び道具
では倒しきれないので、接近戦にな
るところ

打撃音、効果音がほかのメカもの作
品にもなかなかない感じで魅力を感じ
ますね

TVシリーズでは、なかなか難しい
ことだと思いますが、オルフェンズ
ではメカと人物、モビルワーカーが
いつしよの両面に入ること、モビ
ルスーツはモビルワーカーや人間が
たやすく壊せるものではないと感じ
ることができます

⑤「鉄血のオルフェンズ」が完結でき
たのも、応援してくださった方々の
おかげです！感謝しております

これでひとまず終わりではありません
が、とても魅力的な世界観のガンダ
ムでしたし、ガンダム・フレームもた
くさん残っております

また何かの形でガンダムを描くこと
ができればうれしいです。

メカデザイン

海老川兼武

○レギンレイズ(バリエーションを今

む)

ゲイレール(バリエーションを含む)
グレイズ(バリエーションを含む)
ヘルムヴィーゲ・リンカー
ガンダム・フラウロス

各種デザインワーク

バエル、ヴィダールのコックピット
バエルの祭壇

ヴィダールマスクの裏側等の補足
イサリビ追加設定

ダインスレイヴ
etc.

②ギヤラルホルン系のMSは系譜も

含めてその機体が使用されている時
代感やMSのどんな用途が求められ
ていたのかを想定してデザインしま
した。第1期でその時代の最新鋭機
としてデザインしたグレイズよりも

さらに最新鋭機のレギンレイズのデ
ザインが第2期ではいちはん苦労し
ました。ヴァルキュリア・フレームか
ら発展したグレイズ系列ですがゲイ
レールをデザインしたことで自分の

なかで300年の開発系譜がおぼろ
げながら見えたと感じています

レギンレイズのバリエーション、ジュ
リアはガンダムですら圧倒できそう
な雰囲気やシルエットを出せないか
で頭をひねりました。脚の震動ギミッ

クはお気に入りです。

ガンダム・フラウロスはオルフェンズ
で初めてデザインしたガンダム・フ
レーム機でしたのでその世界観から
大きく外れることがないようライン

を整えつつ、変形要素を組み込んでみました。変形後は4脚になるのもポイントです

ヘルムヴィーゲ・リンカーはグリムゲルデを改修した偽装機体。ただしになった本来のヘルムヴィーゲもそう大きく外見の違いはない想定です。同じフレームを使ってどこまで違うシルエットを出せるかが目標でした

③「ガンダム・フラウロス初登場シーン」4代目流石のようによく動いてくれたか」と感動しました。変形の設定も考えるのも大変だったので、こよく変形してくれていたのですね。良かったです。

「ガンダム・フラウロスの最後」最後のフストニューテイングですね。ガンダム・フラウロスは発掘時から最後のラストシューティングまでアイデアを出させていた機体なので、最後は胸の詰まる思いでした。「ハルバトスVSレギンレイス・ジュリアラストバトル」グシオンやバルバトスの最後は心打たれました。

④近接戦闘を主眼に置いた戦闘シーンは鉄の響きと爽快感がして魅力的だったと思います

MSとしては各フレームごとに開発経路がほぼ独立しているのがおもしろいなと思いました。やはりオルフェンズにおけるMSデザインはフレームなんです

⑤第1期と第2期合わせて全5話、おつきあいいただきありがとうございます！

「鉄血のオルフェンズ」は鉄血団メインのお話で、自分の担当はギヤラルホルン側メイン、その鉄血団を苦しめる側。自分の担当メカが活躍しても素直に喜べなかつたりすること、少し(多々)ありました(そんな中、流星号の存在はいやでした(笑))。ひとまず引きされたオルフェンズです。個人的にはその後のお話や300年前の星祭の品など見てみたいエピソードがたくさんあります。今後とも「鉄血のオルフェンズ」よろしくお願いします！

メカデザイン
形部一平

「ユーゴー(サントハル機&双子機、ガラム・ロディ、獅電、一般機&流石&雷電号&オルガ機&タービンス機)、ランドマン・ロディ、ジルダ(SAU機&一般機)、ガンダム・ヴィダール、キマリスヴィダール、ヘキサ・フレーム、JPTトラストのマン・ロディとユーゴー、アミタさんのスピナ・ロディ、ユーゴーのコックピット、スキップジャック級戦艦です。

のユーゴーは今までの路線にないシルエットを狙いました。ガラム・ロディは最初にハルバトスにやられる敵として、いかにも重そうな堅そうなヤツにすることで第2期のパワーアップ感を高めたいと思いました。獅電は鉄血界のジムとして、定番感と汎用性を意識し、仮面を変えることでキャラクターが変わる「俺専用」をつくりやすい仕様になりました。

ランドマン・ロディはカラーリンクでどこまでビロイックに魅せられるか挑戦しました。ランナー構成よりまっすぐは人気があるように、かつこよくしました。

ジルダはヘキサ・フレームの定番仕様にしたく、スピナ・ロディのような安定感と使いやすさを醸すようにしました。コックピットが背中にあるので安全作も高いです。

スキップジャック級は宇宙に浮かぶ艦をテーマに、キャラクター性のある戦艦をめざしました。

ガンダム・ヴィダールは鉄血界必須の銃器を「耳」と決めてから長いコートを着せたり「リベリオン」のような2丁拳銃を持たせたり、タークヒーローとしてのキャラクターを組み立てました。

キマリスヴィダールはカエリオという男の集大成としての花道を飾るにふさわしい、気品とオリンタルのキマリスへの回帰、そして明らかな記号としてのパワーアップをめざしました。ひと目見て彼の存在を表現したようなものにしたかなと思います。

した

③ガンダム・ヴィダールの一連については来しませでいただきました。オーブニングに現われてから長い整備を経ての初戦闘では無双、そして仮面を取ったガエリオとバルバトスとの阿頼耶識バトルは彼の心境や長い長い前振りも相まって引きそうになりました。

④よくも悪くもビームの一撃必殺を封印したことでしょうか。その足かせをどのように違えたおもしろさに転がしておくのか、ということ意識してデザインしましたし、それによつて起こる質量のぶつけ合い、殴り合いがやはり魅力になっているのでは、と思います。

⑤僕も毎週楽しみに追いかけてきました「鉄血のオルフェンズ」ですが、その都度ソイスター等で皆さんの感想を耳にさせていたいてました。すごく真剣に見ていただいている方、たくさんおんかけして、とにかく初みになりました。僕はメカ担当ではありますがこの鉄血の世界がこれで見られないかと思うと大変さひしいです。またいつかどこかでこの世界をのぞいてみたいですね。長い間のご視聴、ご支援、誠にありがとうございました。

メカデザイン

寺岡賢司

① モビルワーカーその他いろいろ

② 各勢力圏に合わせて特徴をつけてみました

③ 地球と宇宙編での森林のなかの砲撃シーン

④ 地味な段取りと山の流れるイメージ

⑤ 名もない鉄血団員のモビルワーカー乗りのことも思い出していただき。ありがとうございました

メカデザイン

篠原保

① 辟邪

② 目新しくありつつも革新的な機体ではなく、ティワズの技術の積み重ねによってつくられた改良機であることがわかるようにしました

③ 第42話、ハッシュは好きなキャラ

クターだったので、それが辟邪のスタイルに合っていたという描き出しはうれしかったです

① 丁描き作画によるメリハリの利いたアクションだと思います

⑤ MSとは何かということ、常に問いつづけた日々でした。ありがとうございました

チーフメカアニメーター

有澤寛

——第2期で最終回を迎え、今改めてオルフェンズの最大の魅力はどこだと思われますか？

キャラクターの大きさ、メカ戦闘シーンのかつこよさです

特にメカ戦闘シーンは、動きのかつこよさはもちろん、メカの壊れ、へこみ、押、エフェクト類も魅力的です。また舌数ことにメカ作画さんや原画さんの特徴が出るメカ描きか楽しめると思います

——全体を通して長井監督とお仕事をされて感じたこと、おもしろいと思ったところなど、エピソードがあれば教えてください。

作画のことも考えてくださる力で、メカシーンはかなり好き勝手に動かさせていただきました。やりたいことがあつて相談すると、笑顔で「いいですよ！」と言ってくれたこと、印象に残っています(笑)。

——第2期で特にこだわられたシーンとその理由を教えてください。

第26、27話とメカ作画を担当しました。第2期のバルバトスが初登場ということ、第1期より激しい戦いを、と悩んで悩んで描きました。ソードメイスは、丁さを意識して、軽く見えないようにしました

——心に残っているシーン、お話はどこでしょうか？(3つまで)

・第32話のアストン回が心に残っています。いまだにあの戦いとは何だったのか、どうすれば、2人でフウカのもとに帰ることができたんだろう、とか。(涙)

・第37話のMA戦です。というより、流石の変形です。レイアウト時に、変形のタイミングやスピードをすごく気にしながら描きました。ギャラクシーキャノンが透けて見えるところも、いろいろ悩みながら描きました

・第50話のバルバトス、グシオンの最後の戦いです。原画を担当しまして、拍子終わったときに、ああ、終わんだなあ。——と思います。描きすぎて、手が痛くなったこと

とも覚えています。

——最終回まで応援してくれたファンにメッセージをお願いします。

第1期、第2期と、全50話見てくださった、本当にありがとうございました

すごく大変で、いろいろ悩んだりもしんだりしましたが、無事最後を迎えることができ、ほっとしています。見返していただくと、つらくなることもあるかと思いますが、新たな発見があつたり、最後まで見たからこそ、改めて見える何かがあると思います

すぐでなくとも構いませんので、ぜひまたいつか見返していただけたらと思います。

本当にありがとうございました！



INTERVIEW

監督

長井龍雪

シリーズ構成

岡田麿里

THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS

雪 龍 井 長

避けて通れなかった オルガの死

——全50話をつくり終えて、現在の率直な気持ちをお聞かせください。

長井 きのが最終回ということもあって（取材日は4月3日）、まだ実感がわかずにフワフワした気持ちです。特に最終回をイベントで見るという珍しい体験もあって、余計に終わった感覚が薄いですね。ふだん、最終回はひとり家で見ることも多くて（笑）。とりあえず、全50話を納品できたことでホッとしています。

——オルガや三日月の死という、ファンにとっては衝撃の結末となりました。これは当初想定したとおりの展開だったのでしょうか？

長井 結末にやる過程には紆余曲折がありました。最終的な着地点は当初の想定どおりですね。鉄血の「オルフェンズ」は、当初から「かつて鉄華団という組織があった」という前提の物語ですから。ただ、そうはいっても実際にキャラクターたちが死んでいくシーンを描くのは、つらいものがありました。かといって生き延びさせてしまったら、想定していた物語にはなりませんから、そのジレンマはありましたね。

——特にオルガの死は驚きました。最終話まで、あと2話を残した第48話と



いうタイミングも衝撃的でしたね。

長井 クライマックスに向けて、鉄華団が減っていくという展開を描くうえで、オルガの死は避けて通れない要素でした。オルガは鉄華団そのものですからね。オルガがいなくならなければ、鉄華団が減びるという着地点にはたどり着けないんです。実は当初の予定では、オルガはもう少し早い段階で死を迎える予定だった

たんです。細かいシチュエーションについては脚本の打ち合わせで決めていきましたが、オルガが死ぬという展開には変わりはありません。

——第2期のオルガは、非常に大きなものを背負って苦悩しているという印象でした。

長井 第1期のラストを振り返ってみると、あの段階でオルガは背負うことを決めていたんです。本当は第1期の仕事を終えた時点で、莫大な報酬をもらっていますから、鉄華団をやめるという選択肢もあったんです。ただティワズと組んでいたこともありましたし、鉄華団自体の知名度も上がってしまったことで、前に突き進むしか道は残されていなかったんです。

——戦場ではなく、街で撃たれて死ぬ、という展開もオルガらしいと感じます。

長井 そうですね。オルガはもともモビルスーツに乗らず、銃で撃たれて死ぬというイメージでした。そもそもオルガは、リモビルスーツに乗ることはないと思っていましたから。

**鉄華団のメンバーは
全滅する予定だった**

——三日月はオルガを失ったことで、大きく変化したキャラクターと感じました。

長井 第49話の演説で見た三日月の態度は、彼なりに納得しようとしていた落しどころなんです。オルガがいなくなったからこそ、あのような態度に行き着いた……というイメージですね。きつとオルガが生きていたら、変化はしていなかったでしょう。

——三日月の最期は、ジュリエッタがみとることになりました。

長井 最初のイメージでは、バルバトスは名もなき無数の雑兵と戦って力尽きるという展開を想定していました。第2期になってジュリエッタが登場したことで、彼女が最期に日月の思いを受け止めるキャラクターになりました。結果的に三日月の最期をうまく締めてくれたという印象ですね

——バルバトスの首を掲げるシーンはショッキングなビジュアルでした。ただ、ラストルとしては、非常に大きな意味をもつ行動ですよ。

長井 そうなんです。恐るべきモビルアーマーを倒したバルバトスは、鉄華団を象徴する存在です。その象徴が「完全に落ちた」ということを周囲に知らしめるのは、バルバトスの首を掲げるのが最も効果的ですから

ね。あくまでラストルがめざしていたのは、鉄華団を壊滅させたというアピールです。ですからユージンたち逃げ延びた鉄華団の追跡には、ほとんど興味はなかったでしょうね。

——ただラストルを倒す……という展開にならないところが、「鉄血のオルフェンズ」らしいと感じます。

長井 もともと「社会すべてから虐げられている子供たち」というところがスタート地点にありますから、特定の個人を倒して終結というラストには向かっていないんです。「ラストルを倒してズラかる」ということも彼らは目標に掲げましたが、それは物語の結末ではありません。実際に描かれたエピソード的には、虐げられた子供たちがあかきつづける物語」という、想定していた展開を貫けたと考えています。

——シリーズ構成の岡田麿里さんは、どんなお話し合いをされたのでしょうか？

長井 シリーズが始まる前に、キャラクターたちが死んでいく物語であることは、確認していましたが、書いていてつらかったのは想像ができません。後半のシナリオに関しては、かなり時間をかけて取り組んでいることがわかりましたから。やはり長くつきあつたキャラクターたちを死なせてしまうのは、自分たちとしても非常に消耗

します。「鉄血のオルフェンズ」がめざした物語を描くうえで、いちばん苦労をかけてしまった部分だと思いますね

——それでも数名の鉄華団メンバーが生き残ったことは、ファンにとっても救いでした。

長井 これは何度かお話ししていますが、最初の企画段階の話では、鉄華団のメンバーは全滅する予定でした。火星にダインスレイヴが撃ち込まれて、本部にいるメンバーは全滅、ライドだけが生き残る……という展開です。



——それはかなりハードな展開ですね。

長井 当初はエピソード（第50話Bパート）もつくるつもりはなかったですからね。ただ、つくっていくなかで、やはり希望は残してあげたいという気持ちが生れました。それがエピソードのエピソードですね。暁のアイデアは岡田さんが出してくれたもので、シリーズ通して描かれた「家族」という部分につながりますね。最後に暁が登場してくれたことで、物語として収まりのいい形になったのではないかと思います。

——今後、暁はどんなふう to 成長していくのでしょうか？

長井 幸せに育ってほしいですね。コンテのときは、三日月つぼく描いていましたが、三日月だったらあんなには甘えないでしょうね（笑）。アトラとクーネリアという目える相手がいる時点で、三日月とはまったく違う性格に育っていくでしょう。

——デザイン的には、アトラと三日月の特徴を受け継いでいるようなイメージでしょうか？

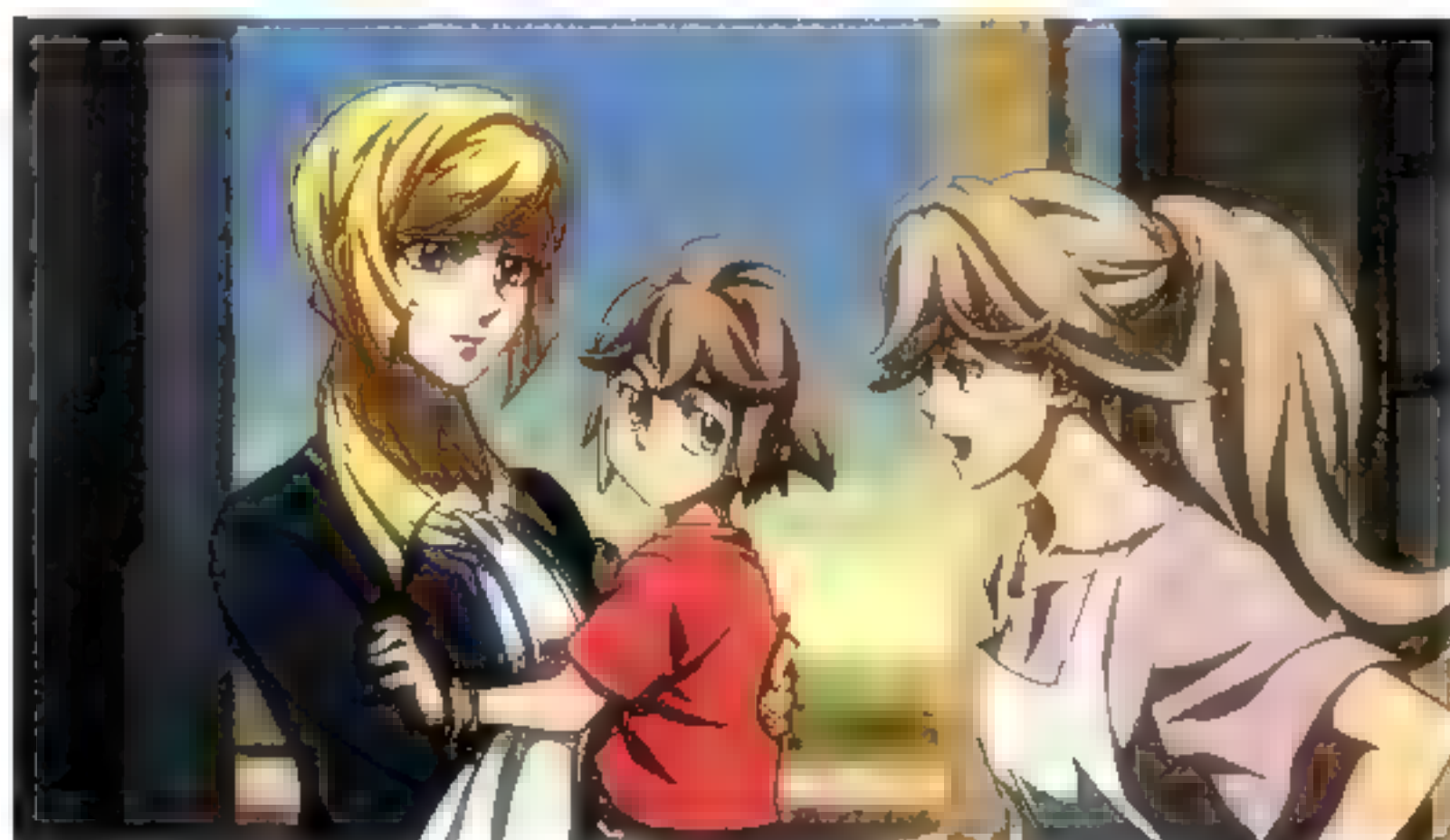
長井 そうですね。ほぼ（両者のイメージが）半分くらいになるようにオーダーしました。キャラクターデザイン原案の伊藤（悠）さんにしていただいた暁の原案を見たとき、「ああ、これなら終われる……」と安堵したんです。

——一方で家族という存在から、最もかけ離れていたのがマクギリスでした。彼の幼少期のこだわりが、みずからの破滅を招いてしまった感があります。

長井 マクギリスの描き方には、さまざまな変遷がありました。彼はギヤラルホルンの改革と、幼少期に抱いたあこがれという2つの思いを抱いていました。ただ結果的にガンダム・バエルを手にしたことで、彼の目的はある程度達成されてしまったということですね。マクギリスは最後に単身でラスタルに立ち向かいましたが、彼のなかではアクニカの伝説を再現できるという気持ちがどこかにあったのでしょうか。だからこそ、悲壮な戦いに臨むわりには、楽しそうにしていましたからね。

——マクギリスは最後に三日月だけは誘いましたね。

長井 そもそもマクギリスと三日月は、対照的なキャラクターとして設定していました。孤児というスタート地点は変わりがないはずなのに、絶えず孤独だったマクギリスと、鉄華団という家族を得た三日月。その違いには興味があったと思いますよ。また、三日月にアクニカ・カイエルを投影していたことも大きいですね。バルバトスがひとりてモビルアーマーを倒すという展開は、彼が幼少期に何度も夢見た伝説の再現ですから。



——本編には多数のキャラクターが登場しましたが、監督は誰に感情移入をしていましたか？

長井 全体を見ていましたので、特定のキャラクターに対して感情移入をするという気持ちはなかったかもしれません。もちろん、三日月やオルガのことは、中心に考えて進めていきましたが、考えていて楽しかったのは、ククビータさんですね（笑）。あとはトドやデクスターさんです。メインキャラクターはどうしても死と隣り合わせでしたので、裏表のないキャラクターのことを考えるのは楽しかったですね。

——確かにもう少しトドやデクスターたちの日常も見なかった気がしますね(笑)。

長井 ええ、特にデクスターさんはいやしです(笑)。力がないがゆえに、ひたすら頑張っている姿に救われますね。結果的に鉄華団に入れられてしまったわけですが、自分でもCG S時代のことをちゃんと後悔して、日々を過ごしています。何か大きなことを成し遂げる人だけじゃなく、黙々と目の前の仕事に取り組む人はすてきだなと思います。

新しい見せ方に チャレンジしたい気持ち

——第2期のなかで監督ご自身が気に入っているシーンを教えてください。

長井 単純に絵面として気に入っているというのは、第2期でいえば第13話(第38話「天使を狩る者」)のモビルアーマー戦です。有澤(寛)さんをはじめ、メカアニメーターの皆さんが、「バルバトスはこれだけすごいんだぜ」という見せ方を実現していただけなので。目のなかで想像していたバルバトスの動きを完全に再現していただけで、とてもうれしかったですね。もちろんメカ戦でいえば最終回の戦闘も気に入っていますが、それも第13話でのチャレンジがあったからこそですね。あとは最終話

(第50話「彼等の居場所」)Bパートで、アトラとクーデリアを描けたことですね。2人が生きていてよかった、喉がいてくれてよかったと感じました。

——「鉄血のオルフェンズ」は、これまでにない「ガンダム」を見せてくれたという印象があります。

長井 ありがとうございます。新しいタイトルで始めるのであれば、できるだけ制約を課して、新しい見せ方をチャレンジしてみたいのが正直な気持ちです。子供のころに自分が「カッコいい」と思ったガンダム像は、バルバトスにすべて焼きつけています。ですからもう一度「ガンダム」を手がけたとしても、「鉄血のオルフェンズ」の潮流にしかないでしようね。

——最後に「鉄血のオルフェンズ」を応援してくれたファンの皆さんへ、メッセージをお願いします。

長井 終わってしまった現在となっては、見届けていただいて、ありがとうございます。ございました」ということば

しかありません。第1話で鉄華団がバルバトスを甦らせるところから始まり、鉄華団という組織がなくなるまで、本当につらい話を最後まで見届けていただきありがとうございます。今は感謝の気持ちでいっぱいです。



岡田 磨里

キャラクターに
うそをつかない意識で

——「鉄血のオルフェンズ」は全50話という長期間に及んだ作品となりました。作品が完結した現在、率直なお気持ちを聞かせてください。

岡田 これまでも4クール以上の作品に参加させていただくことはありましたが、シリーズ構成として携わるのは初めてですね。それもあって、「長きの説得力」をととても感じました。長期間にわたってキャラクターとかかわっていることによつて、彼らが個人として認識できるまでになったという意識があります。

——それはご自身でも意外だった部分でしょうか？

岡田 そうですね。映像作業において、シナリオはどうしても一抜けになつてしまうケースが多いのですが、長い作品になると状況が変わります。作業中に映像も上がつてきて、キャラクターの雰囲気やセリフがつくられていくという状況は、想像以上の影響力がありました。ああ、このキャラクターはこういう感じなのか」ということがわかつてきて、とてもおもしろい感覚でした。

——そういったキャラクターの影響力は、結末にどのように作用しましたか？

か？

岡田 長井（龍一）監督から提案された着地点は、当初の想定から変わっていません。ただ、そこに至る過程は紆余曲折がありました。キャラクターが明確に育つていったこともあって、シナリオを書く際に、「こういうことはしないだろうな」「こんなこととは、わかないな」と感じるが多くなりました。それはキャラクターの「力や愛」ともいえるかもしれませんが、結果的にできるだけ彼らにはうそをつかないような意識で、着地点をめざしました。

——それは物語を描くうえで、ハードルにはなりませんでしたか？

岡田 鉄華団は家族がいちばん大事という考え方にはブレがないので、そこに救われたところはありますね。キャラクターがどんな変化をしたとしても、いちばん大事な部分は揺らがないんです。最後までブレなかったからこそ、想定していた着地点にたどり着けたと思います。

オルガへの愛が
物語を動かす

——第2期の鉄華団は、さまざまな苦難を強いられているという印象を受けました。

岡田 鉄華団には成し遂げたい大義

名分があるわけではなく、ただ「家族にいい暮らしをさせたい」「安定した生活がしたい」という気持ちの集まりでした。第2期からは鉄華団を利用しようとするヤツらが登場してしまう。そこで「自分たちが変わらないうちに何をしていくのか？」という点で、鉄華団のめざすべきところだっただけで、彼らはかなりのむちゃをしなければ、現状を維持していくことができない。周囲の思惑によつて、頼りないと思うに今いる場所から引きずり下ろされてしまう。そんなギリギリの状況のなかで、いかに大切なものを守るのか。第2期はそういう物語だと言えます。

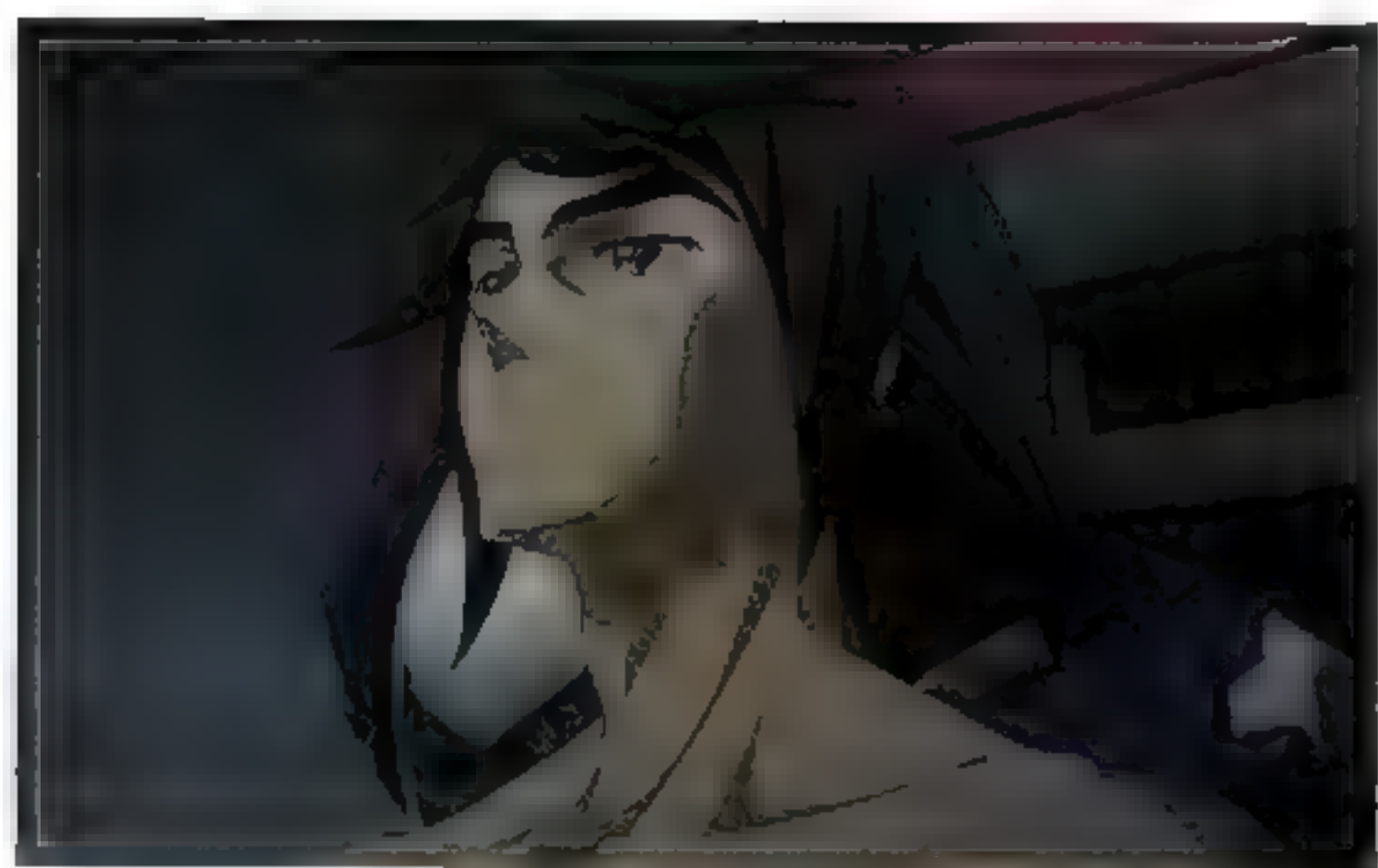
——特にオルガは、組織のリーダーとしての責任感を背負ったこともあって、厳しい決断が多かったように感じます。

岡田 第2期でオルガを強調したのは、意図というよりもキャラクターからの要請ですね。「滅びの物語」という前提があるなかで、トップに立つキャラクターのありようというのは非常に悩ましいものです。オルガは指揮官なので、自分が前に出て戦うことができない。誰よりも鉄華団を愛する彼だからこそ、そこは相応にきついはずなんです。

——オルガとしては曲げられないスタンスや、あらがえない状況に対応して

いる部分が見えるだけに、非常にシレンマですね。

岡田 さまざまな出来事や被害を受け止めて、最終的に結論を出さなければならぬリーダーの役割は、相当重く難しいものだと思います。でもシンブルに言ってしまうと、みんなオルガが好きなんです。かつこいいところだけじゃなく、自分たちの苦悩を背負い、あがいてくれることを、鉄華団のみんなが知っているんです。その「団長が好きだ」っていうシンブルかつ強い感情が、オルガだけでなく物語そのものを動かしてくれたと思っています。



——名瀬やシノの死、そしてラストとの交渉が失敗に終わったときは、本当のどん底の状況でしたね。

岡田 第45話でシノが死んだとき、オルガが「助けにいく」と言ったことは、ほころびの予兆ですね。指揮官としてありえないことですし、オルガは今まで確実死に死んだ者を助けにいくとは絶対に言いませんでした。何より生きている子が優先ですから。こういったほころびを段階的に描けるのも、4クール作品だからこそのだと思います。これが1クール作品なら、もっとわかりやすい形で描くしかないのでは。

——苦悩しつづけてきたオルガですが、終盤に活路を見いだしたときは第1期のオルガに戻ったような印象を受けました。

岡田 そうですね。監督の意思としては、「逃げ道がなくなつて減ぶという物語が描きたい」ということでしたが、つくつていく過程で、やっぱり希望は欲しい」ということになりました。その役目は、オルガじゃなくてもできたかもしれません。ただ物語のなかでラストルに交渉して、タメでも地球に行くという選択肢が出てきたとき、オルガにその役目が課せられるのは必然でした。仲間が救えるかわかった瞬間は、オルガにとつても救いだつたと思います。

——オルガを失った後、三日月はまるでオルガのように振る舞いました。

岡田 もしオルガがいなくなった場合、三日月はオルガの視点で動くということですね。ウェットな考え方ですが、オルガの居場所が三日月の居場所ですから、三日月は自分がいればオルガもいるという考え方がいいです。オルガの代わりになろう、ということではなく、鉄華団のみんながオルガを求めているとわかったとき、自然と表われた行動といえます。……「オルガがこう言っていたはず」「オルガだつたらこうしたはず」というイメージを伝えたいにすぎないんです。ですから第49話の三日月のようすは変化ではなく、オルガを失つたという状況から自然に発生したもののだと考えています。

終わるものではなく、何もかも続いていく

——ラストは非常に衝撃的な展開でしたが、実際にどのような気持ちだったのでしょうか？

岡田 結末が悲劇で終わるものといえば、史実を描いたものが多いですよ。でも、それは結果を知っているからこそ、美学を築きめるといって側面があると思うんです。実際にオリジナルで減っていく過程を描くのは、精神面にキツかったですね。途

中で何度も、「展開を変えたほうがいいんじゃないか」と話しました。けれど、過程のニュアンスは変わっても、監督の思い描く着地点は揺らがなかった。何度も監督と仕事をいっしょにしてきましたが、ここまで意思がブレないことって今までなかったんです。本当に描きたい明確な映像があるんだとわかって、だったら最後までついていくしかない。

——着地点を決めているからこそ、買かなければならない部分は曲げられないですね。

岡田 これでも当初の予定に比べると、何人かは生き残ったんですよ。でも、結局そういうことじゃないのかなと思うようになりました。生きているか、死んでいるかではなく、大事なのはこの子たちが望む道を用意することなのかなと。それは「自分かいなくなつても、家族を守る」という気持ちです。その思いだけは、必ず心に置いておこうと考えていました。

——厳しい結末でしたが、不思議とエピソードは幸せを感じました。

岡田 キャラクターの要請からは逃れられないものがあって、彼らの意にそぐわない方向性にはしたくないというのが第一にありました。そのなかで導き出されたのは、失ったものは多いけど、もうとせになる未来

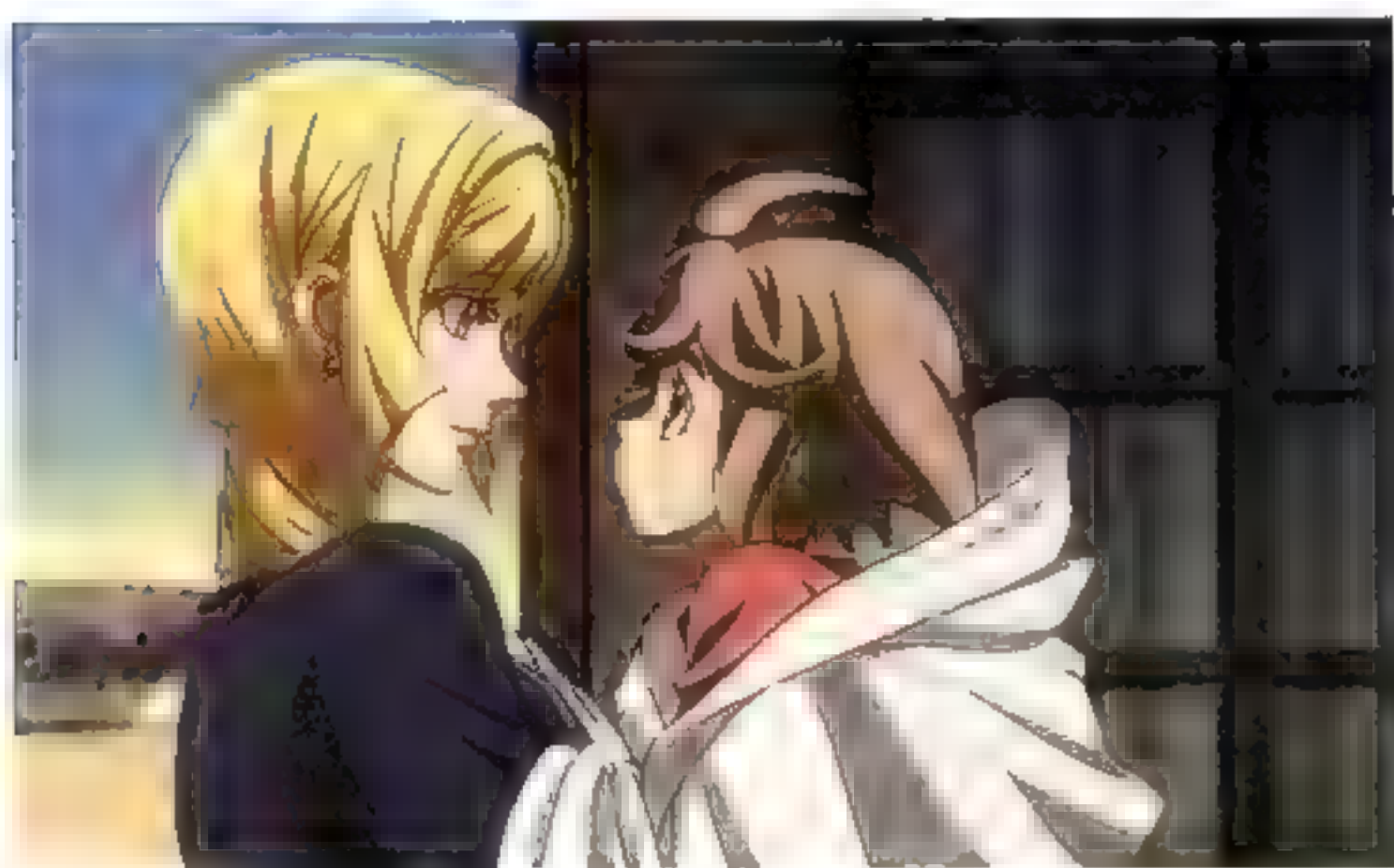
しかない」ということです。何が救いになるかは、相当考えました。そのなかでも最後にアトラとクーデリアと暁のシーンを描けたことは、自分のなかでも納得できた部分がありました。結局終わるのではなく、何もかも続いていくものなんだなつて。

——変わっていく未来を予感できることが、幸せな印象につながっているのかもしれない。

岡田 そうかもしれませんね。幸せになる可能性を感じさせるところまでは、絶対に描きたかったんです。彼らが生きてきたことに関して、ちゃんと見返りや、積み重なったものを与えたいという意識でした。ちょっとライドには、かわいそうなことをしてしまいましたけど……。でも、忘れられないこと、忘れなくていいという気持ちは尊重すべきだと思うんです。許せないものは許せない、その気持ちとどう折り合いをつけて利用するのか。ライドには、その役目を負ってもらっているという気持ちです。

——絶対に忘れてはいけないことがある、ということを印象づけてくれました。

岡田 ライドの復讐心を膨らませて、テンションを上げて描くのがアニメとしては正しい方向性なのかなと



思います。でもその道を選ぶと、結局は「鉄血のオルフェンズ」第3期の話にしかならないんです。また新たな因果が生まれて、戦いが始まり、再び犠牲を強いる物語にかなりえないんですよ。

——そこを選ばないのも、この作品らしいですね。

岡田 そもそもこの作品は、善か悪

かという物語ではないのかなと。イメージ的には善と悪がマールブル状になって、どちらも同時に存在しているという形なんです。いい加減悪い面も同じ皿の上に載っていて、突きつけられた選択によって、どちらかの面も見せるという。ラストルは、そのバランスが非常に優れている人です。マクギリスは正反対で、非常にバランスが悪い人だったというところですね。だからこそ、人間的な愛せる部分が描ければと。

——鉄華団が望んだ世界をつくるのがラストルというのは、ちよつと皮肉ですよ。

岡田 ラスタルは、鉄華団の願いをかなえる存在でもあったということです。鉄華団はマクギリスとともに戦ったからこそ、ラスタルと対立する存在になっちゃった。けれど、対立したからこそ「火星の子供たち」を政治利用しようというアイデアがラスタルに生まれた。それが結果的に、鉄華団の望んだ未来に向かっていく……。

——鉄華団がもうちよつとうまく立ち回っていたら……と感じずにはいられません。

岡田 そうですね。でも、鉄華団の必死さが人きな流れを動かしたと思っています。彼らは

間違っていたかもしれないけど、そのときそのときで運命に全力でぶつかっていた。その輝きか、確実に何かを変えた。彼らが100%望んでいた未来にはならなくとも、少しでも彼らがめざしていた未来に近づかせたかったんです。

——岡田さんにとって、「鉄血のオルフェンズ」はどんな作品になりましたか？

岡田 最終回を書き終えたときは、やたらと脱力感や寂しさがありましたね。長いシリーズだったこともあって、「ああ、もうコイツらのことを書くことができないんだ……」と思っていたんです。ただ、そんな気持ちのところにイベント（「鉄血のオルフェンズ THE LAST FLAG」）の朗読シナリオの依頼が来たこともあって、「完全に終わったと思わなくてもいいのかな？」と考えるようになりました。意識しなくても、「鉄血のオルフェンズ」のことは、ずっと考えていくことになるんだろうなと感じています。



THE DOCUMENT OF 機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 弐

ニュータイプ編
2017年6月9日 初版発行

発行者
青柳昌行

発行
株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話 0570-002-301(ナビダイヤル)

編集企画
コミック&キャラクター局 ニュータイプ編集部

企画
角清人

編集
饗場佐知 土方耕平

取材・執筆
鈴木康道 河合宏之 細川洋平 佐野達郎

監修
株式会社サンライズ

デザイン
R design studio
(山口慎治・東條由和・新冨麻衣子・木暮早苗・遠藤アキラ)

印刷・製本
大日本印刷株式会社

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに無断複製物の譲渡および配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

KADOKAWAカスタマーサポート
[電話]0570-002-301(土日祝日を除く10時～17時) [WEB]http://www.kadokawa.co.jp/ (「お問い合わせ」へお進みください)

※製造不良品につきましては上記窓口にて承ります。
※記述・収録内容を超えるご質問にはお答えできない場合があります。
※サポートは日本国内に限らせていただきます。

定価はカバーに表示してあります。

©創通・サンライズ・MBS
Printed in Japan

ISBN 978-4-04-105803-9 C0076

クレジット

表紙	作画:千葉道徳	仕上げ:袴田純子(Wish)	撮影:旭プロダクション	描き下ろし
P1	作画:戸井田珠里	仕上げ:菊地和子(Wish)	撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2017年6月号
P3	作画:千葉道徳	仕上げ:菊地和子(Wish)	撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2016年8月号
P10-11	作画:中島渚	仕上げ:菊地和子(Wish)	撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2016年11月号
P32-33	作画:戸井田珠里	仕上げ:菊地和子(Wish)	撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2017年1月号
P60-61	作画:大張正己(ST.G-INEO)	仕上げ:岡宮志帆(Wish)	特効:イノイエシン 撮影:旭プロダクション	背景:川本亜夕(KUSANAGI) 月刊ニュータイプ2017年3月号
P86-87	作画:木村智	仕上げ:藤原優実(Wish)	撮影:旭プロダクション	背景:後藤亮太(KUSANAGI) 月刊ニュータイプ2017年2月号
P92-93	作画:戸井田珠里	仕上げ:藤原優実(Wish)	撮影:旭プロダクション	ニュータイプ・ロマンス2017 SPRING
P106-107	作画:千葉道徳	仕上げ:大谷道代(Wish)	撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2017年4月号
P112-113	作画:有澤寛	仕上げ:長尾朱実(Wish)	特効:イノイエシン 撮影:旭プロダクション	背景:川本亜夕(KUSANAGI) 月刊ニュータイプ2016年10月号
P120-121	作画:戸井田珠里	仕上げ:藤原優実(Wish)	撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2016年12月号
P127	作画:有澤寛	仕上げ:岡宮志帆(Wish)	特効:イノイエシン 撮影:旭プロダクション	月刊ニュータイプ2016年11月号

THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

KADOKAWA



9784041058039

ISBN978-4-04-105803-9

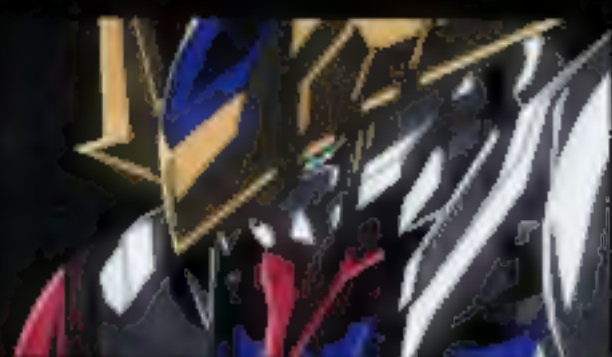
C0076 ¥2000E

定価：本体 2,000円(税別)

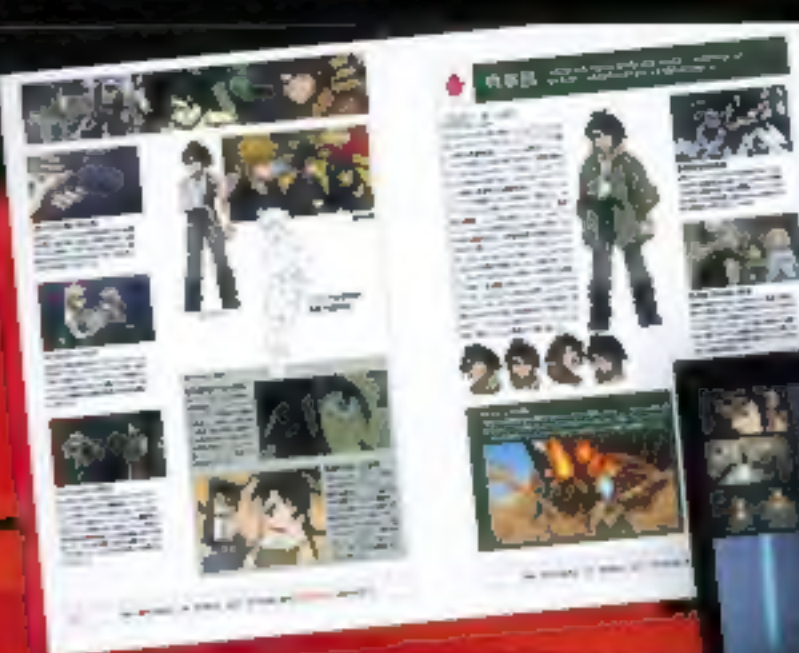
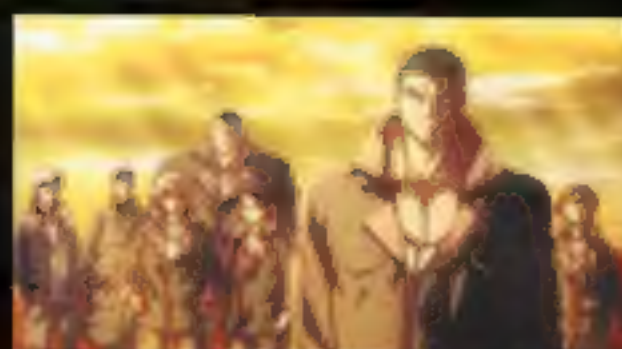
KADOKAWA



1920076020001



THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2



鉄華団の苛烈な生き様を
あますことなく
プレイバック

変革の時代を生きた
キャラクターたちを
徹底解説



好評発売中!!



ガンダムエース編

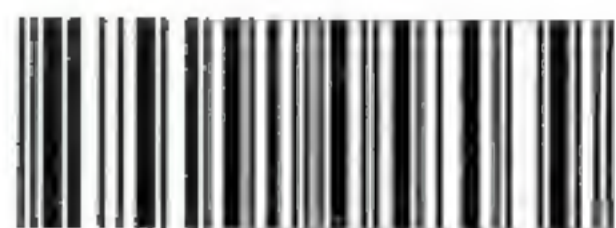
機動戦士ガンダム
鉄血のオルフェンズ
メカニカルワークス



ニュータイプ編

機動戦士ガンダム
鉄血のオルフェンズ

The Document of



9784041058039

ISBN978-4-04-105803-9

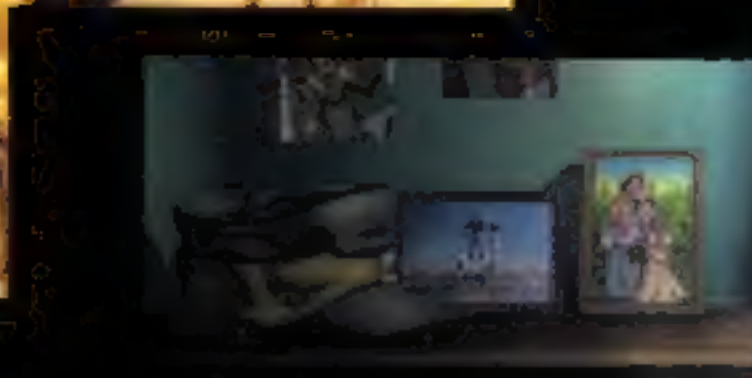
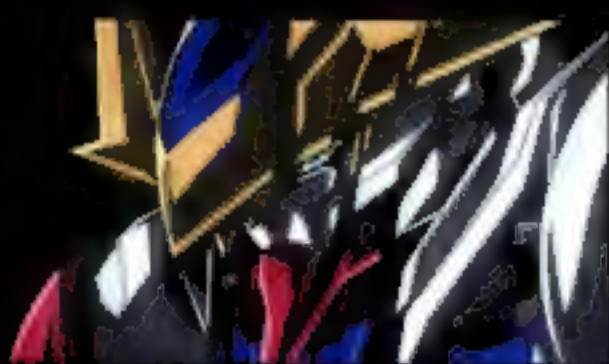
C0076 ¥2000E

定価：本体 2,000円(税別)

KADOKAWA



1920076020001



THE DOCUMENT OF MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS 2

